

男女共同参画に関する町民意識調査 結果報告書

2024年(令和6)年3月
糸田町

目次

一 調査の概要	1~7
1 調査の目的	1
2 調査の内容	1
3 調査の基本設計	1
4 報告書の見方	2
5 回答状況の概要	2
二 調査結果の概要	8~110
第1章 男女平等に関する考え方や男女共同参画について	8~48
問1 分野別にみた男女の地位の平等感	8
問2 性別役割分担意識について	30
問3 地域の役職や、まちの審議会などの委員就任依頼への対応	38
問4 地域の役職や、まちの審議会などの委員就任依頼を断る理由	40
問5 災害時の避難所運営について必要だと思うこと	43
問6 自分の性によって、負担感や生きづらさを感じる時	46
第2章 ワーク・ライフ・バランスについて	49~90
問7 女性が職業をもつことについての考え方	49
問8 男性が育児休暇・介護休暇を取得することについての考え方	58
問9 家庭内の役割分担（理想・現実）	67
第3章 人権について	91~108
問10 DV（ドメスティックバイオレンス）を受けた経験	91
問11 DVを受けたときの対処の仕方	94
問12 DVを受けたとき相談しなかった理由	98
問13 男女共同参画に関連することばの認知度	100
問14 男女共同参画社会を実現するために、今後、行政が力を入れるべきと思うこと	106
第4章 自由意見の記載内容について	109~110
問15 男女共同参画や糸田町の行政などに関する自由記載	109
三 調査結果からみえる現状と課題	111~117

※資料

男女共同参画に関する町民意識調査【調査票】

一 調査の概要

一 調査の概要

1 調査の目的

第3次糸田町男女共同参画基本計画が今年度をもって計画期間が終了することを受けて、糸田町における男女共同参画に対する糸田町町民の意識・認識について調査し、その結果を分析することにより、令和6年度を計画始期とする第4次糸田町男女共同参画基本計画の指針とする。

2 調査の内容

- 1) 男女平等に関する現状認識
- 2) ワーク・ライフ・バランスについて
- 3) 人権に関すること
- 4) その他

3 調査の基本設計

1) 調査対象及び対象者の抽出方法

糸田町に住民登録している(2023(令和5)年8月1日現在)20歳以上の住民を対象に、住民基本台帳から年齢10歳階級ごとに女性(511名)男性(489名)、合計1,000人を無作為に抽出

2) 調査方法

郵送による配布及び回収

3) 調査期間

2023(令和5)年8月18日(金)～2023(令和5)年9月22日(金)

4) 回答状況

全体的回答状況

表A

配布数	未到達数	実質配布数	有効回答数	回答率
1,000	10	990	342	34.5%

*未到達数とは、送付先住所が不在か、その他の理由で調査用紙が返却され、配布されなかった数

5) 調査機関

調査主体 糸田町 人権推進課
調査・分析委託先 田川地区人権センター

4 報告書の見方

- 1) 単数回答の集計については、設問ごとに無回答の項目を設けて、これを含めた全体の基数（標本数）を100.0%としている。回答率は小数点以下第2位を四捨五入しているため、数表・図表に示す回答率の合計は必ずしも100.0%にならない場合がある。
- 2) 複数回答を求めた設問では、項目別に、基数（標本数）に対するその項目を選んだ回答者の割合を示しており、合計が100.0%を超える場合がある。
- 3) 問の中には、特定の回答をした一部の回答者のみに対して続けて行った問が含まれる。この場合の回答者は設問回答の該当者のみである。
- 4) 図表中において「不明・無回答」とあるものは、回答の判別がつかないものや回答が示されていないものである。
- 5) 文章中の設問の選択肢について、文字数の多いものは簡素化している場合がある。
- 6) 20歳～29歳は回答者数が少ない（23名）ため、年齢層別にみた分析結果の取り扱いを考慮する必要がある。

5 回答状況の概要

1) 性別回答状況

表B

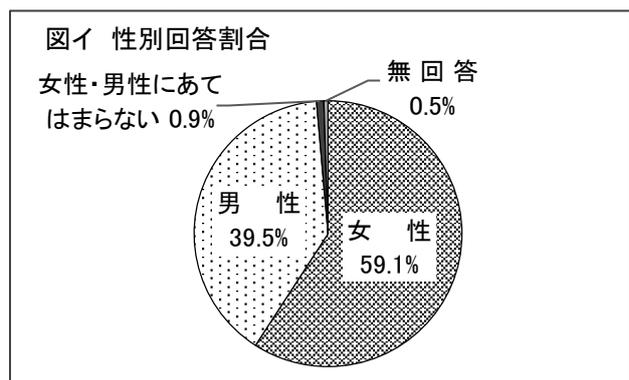
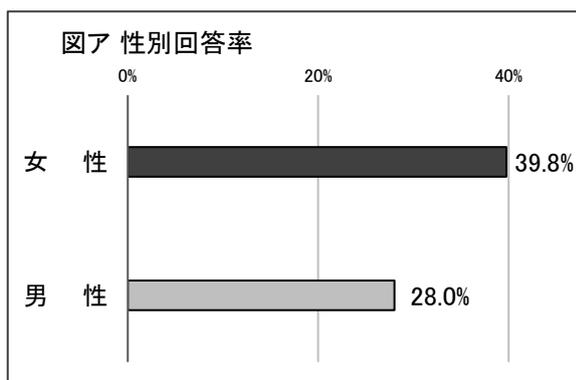
ア 性別	配布数(a)	未到達数(b)	実配布数(c)	回答数(d)	性別回答率(e)	性別回答割合(f)
女性	511	3	508	202	39.8%	59.1%
男性	489	7	482	135	28.0%	39.5%
女性・男性にあてはまらない	***	***	***	3	***	0.9%
無回答	***	***	***	2	***	0.5%
合計	1,000	10	990	342	34.5%	100.0%

※性別回答率

$e=d/c$ 性別の実配布数に占める性別の回答数の割合

※性別回答割合

$f=d(\text{性別の回答数})/342(\text{dの合計})$ 全回答数に占める性別の回答数の割合



性別回答数で、女性が男性を大幅に上回っている。このことは、女性が男女共同参画について関心が高いことを表しているといえる。

2) 年齢層別回答状況

表C

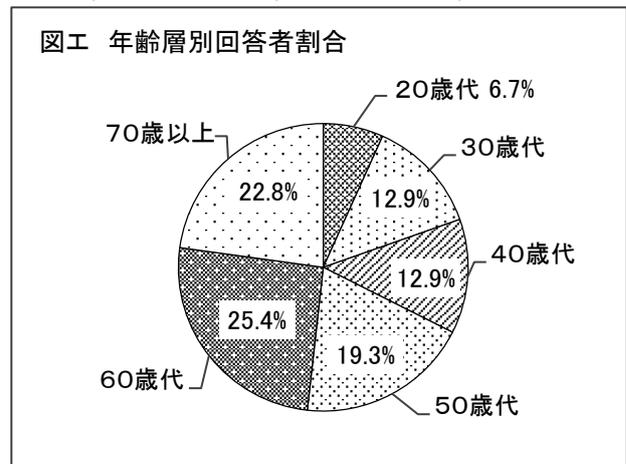
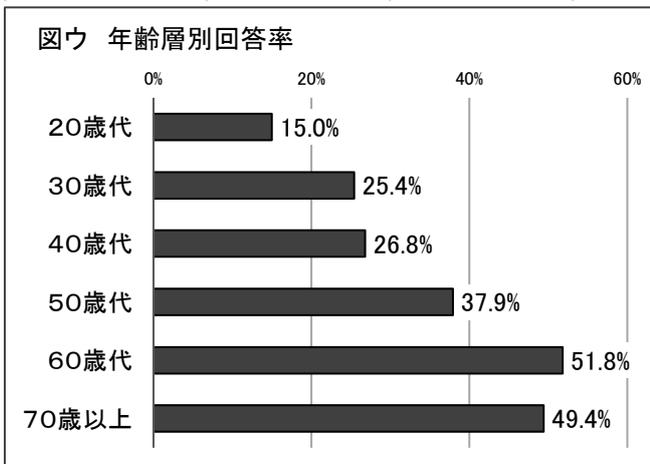
イ-1 年齢層別	配布数(a)	未到達数(b)	実配布数(c)	回答数(d)	年齢層別回答率(e)	年齢層別回答割合(f)
20歳代	154	1	153	23	15.0%	6.7%
30歳代	176	3	173	44	25.4%	12.9%
40歳代	165	1	164	44	26.8%	12.9%
50歳代	175	1	174	66	37.9%	19.3%
60歳代	170	2	168	87	51.8%	25.4%
70歳以上	160	2	158	78	49.4%	22.8%
合計	1,000	10	990	342	34.5%	100.0%

※年齢層別回答率

$e=d/c$ 年齢層別の実配布数に占める年齢層別の回答数の割合

※年齢層別回答割合

$f=d(\text{各年齢層の回答数})/342(d\text{の合計})$ 全回答数に占める年齢層別の回答数の割合



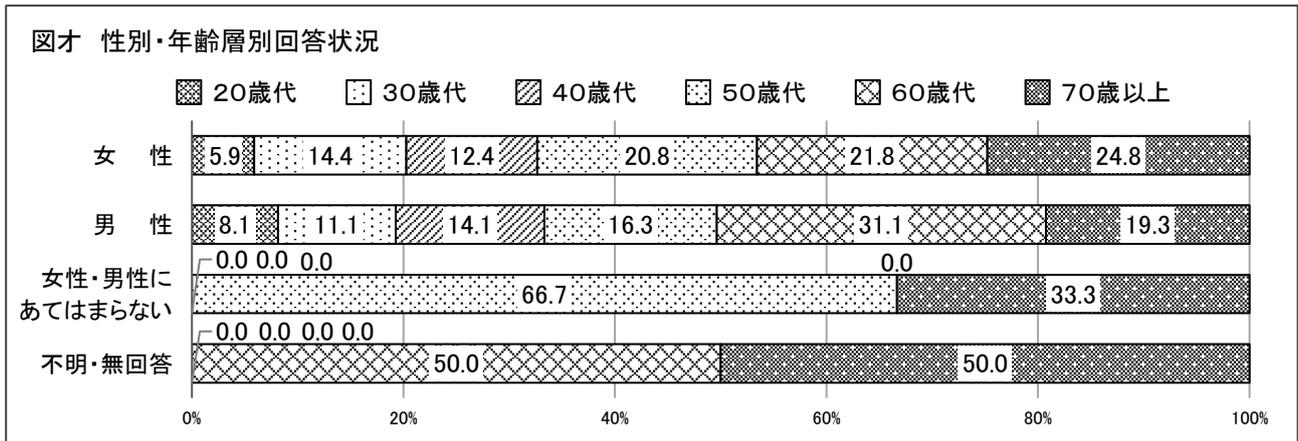
年齢別回答数では、50歳代以上が多く、逆に20歳代～40歳代が少ないことは、男女共同参画に今だけでなく今後積極的に関わってほしい年齢層が何を求めているのかを今後取組の中で丁寧に把握し、そして男女共同参画の実現が自分たちの暮らしやすさに繋がるという意識に変えていく課題がある。特に、20歳代の回答数の低さを改善する方法は、紙ベースだけでない方法も考える必要があるのではないかとと思われる。

3) 性別・年齢層別回答状況

表D

上段: 実数(人) 下段: 割合(%)

イ-2 性別・年齢層別 回答状況	年 齢							
	回答数	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	
全 体	342	23	44	44	66	87	78	
	100.0	6.7	12.9	12.9	19.3	25.4	22.8	
性	女 性	202	12	29	25	42	44	50
		100.0	5.9	14.4	12.4	20.8	21.8	24.8
別	男 性	135	11	15	19	22	42	26
		100.0	8.1	11.1	14.1	16.3	31.1	19.3
女性・男性に あてはまらない		3	0	0	2	0	1	
		100.0	0.0	0.0	0.0	66.7	0.0	33.3
不明・無回答		2	0	0	0	1	1	
		100.0	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0	

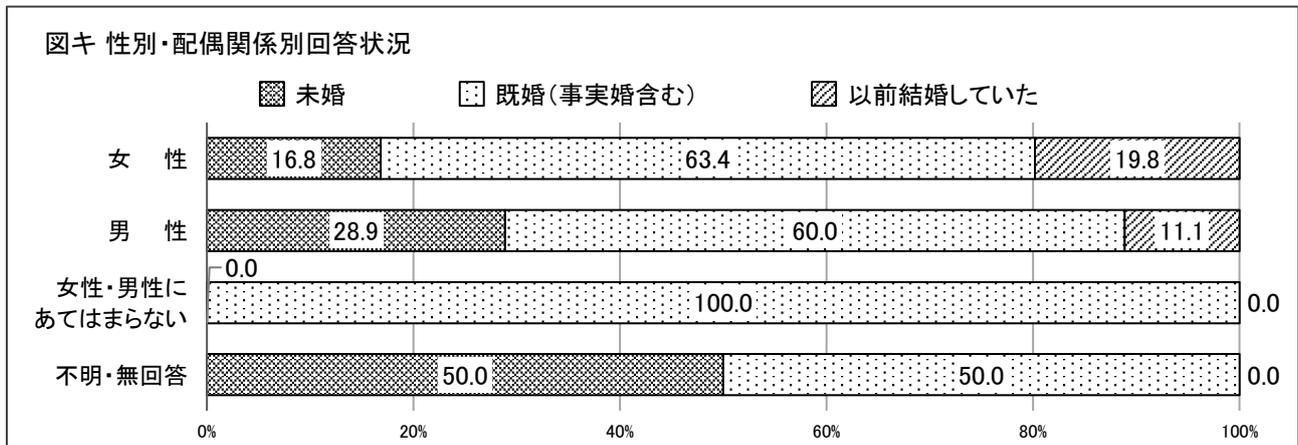
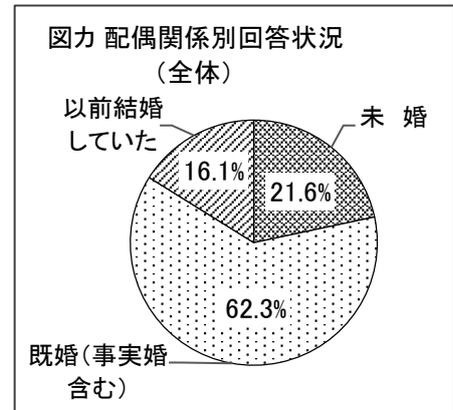


年齢層別回答率と同様に、「性別」と「年齢別」の関係を見てもやはり20歳代～40歳代が低い。今後、男女共同参画の実現について一番関係し、一番関心を持ってほしいこの世代に対して、男女共同参画の取組とはどのようなものであるか、取組を分かりやすく身近なものとして捉えられるように工夫していく必要があると思われる。

4) 性別・配偶関係別回答状況

表E 上段:実数(人) 下段:割合(%)

性別・配偶関係		配偶関係			
		回答数	未婚	既婚(事実婚含む)	以前結婚していた
全体		342	74	213	55
		100.0	21.6	62.3	16.1
性別	女性	202	34	128	40
		100.0	16.8	63.4	19.8
別	男性	135	39	81	15
		100.0	28.9	60.0	11.1
女性・男性にあてはまらない		3	0	3	0
		100.0	0.0	100.0	0.0
不明・無回答		2	1	1	0
		100.0	50.0	50.0	0.0

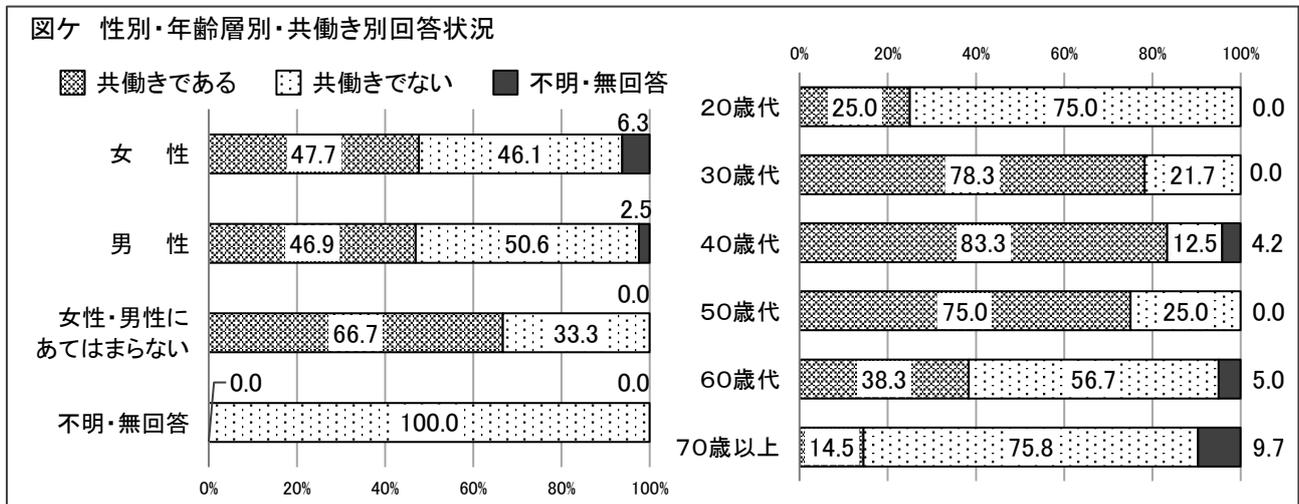
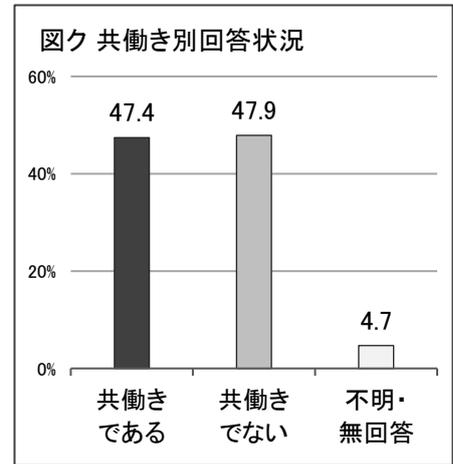


未婚、既婚（以前結婚していた方を含む）を見ると、既婚の方の回答数が多いことから結婚生活の中で職場における働き方や家庭生活における男女の在り方、また、社会生活における男女の在り方がどうなのかを分析し、その結果、男女共同参画を妨げているものは何かを明らかにする必要があると思われる。同様に、未婚の方についても職場・社会においてどうなのかを明らかにしなければ、男女共同参画の実現には繋がらないと考えられる。

5) 性別・年齢層別・共働き別回答状況

表F 上段:実数(人) 下段:割合(%)

工 性別・共働き 既婚(事実婚含む)のみ	共働き				
	回答数	共働き である	共働き でない	不明・無回答	
全 体	213	101	102	10	
	100.0	47.4	47.9	4.7	
性 別	女 性	128	61	59	8
		100.0	47.7	46.1	6.3
	男 性	81	38	41	2
		100.0	46.9	50.6	2.5
女性・男性に あてはまらない	3	2	1	0	
	100.0	66.7	33.3	0.0	
不明・無回答	1	0	1	0	
	100.0	0.0	100.0	0.0	
年 齢 層 別	20歳代	4	1	3	0
		100.0	25.0	75.0	0.0
	30歳代	23	18	5	0
		100.0	78.3	21.7	0.0
	40歳代	24	20	3	1
		100.0	83.3	12.5	4.2
	50歳代	40	30	10	0
	100.0	75.0	25.0	0.0	
60歳代	60	23	34	3	
	100.0	38.3	56.7	5.0	
70歳以上	62	9	47	6	
	100.0	14.5	75.8	9.7	



全体として、「共働きである」と「共働きでない」の割合はほぼ同じである。

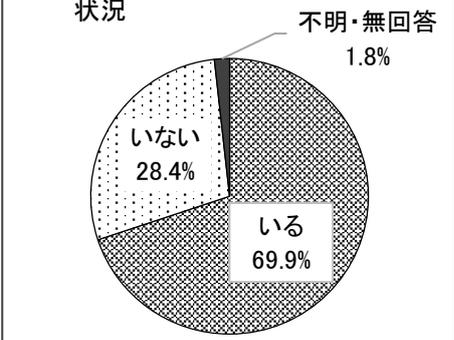
年齢層別では、30歳代～50歳代の共働きが多く、働く女性の割合が増えているのは性別固定観念が薄くなってきた表れではないかと推測できる。なお、20歳代で「共働きである」と「共働きでない」の割合が逆転しているのは、この年齢層の回答数が少ないため、この結果によって20歳代の共働きの割合が少ないという結論を出すことはできない。

6) 性別・子どもの有無別回答状況

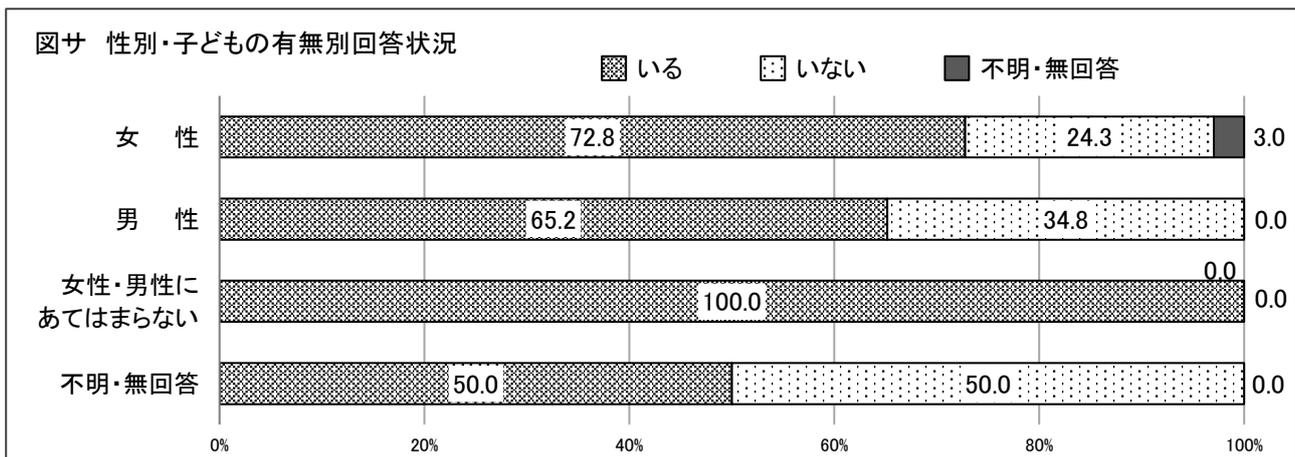
表G 上段:実数(人) 下段:割合(%)

オ 性別・子どもの有無	子どもの有無				
	回答数	いる	いない	不明・無回答	
全体	342	239	97	6	
	100.0	69.9	28.4	1.8	
性別	女性	202	147	49	6
		100.0	72.8	24.3	3.0
	男性	135	88	47	0
		100.0	65.2	34.8	0.0
	女性・男性にあてはまらない	3	3	0	0
	100.0	100.0	0.0	0.0	
不明・無回答	2	1	1	0	
	100.0	50.0	50.0	0.0	

図コ 子どもの有無別回答状況



図サ 性別・子どもの有無別回答状況



全体としては、子どもがいる家庭が多い。子育ての問題と男女共同参画の実現は不可分であることから子育ての中での男女共同参画を実現する取組を考える必要がある。また、女性・男性にあてはまらないと回答した方にもお子さんがいることから、性別を超えた子育ての取組も必要である。

*信頼区間

町がアンケート調査を行う場合、全町民(今回の場合は 20 歳以上の全町民)を対象として実施することが望ましいが、実際は、そうした場合の手間や費用を考慮し、適切な数を抽出して調査するため、アンケートの回答結果に誤差が生じることはやむを得ないことである。そこで、推定値のズレの度合いがわかるように、幅を持たせた推定方法、つまり区間推定を行なう。その幅の間隔のことを信頼区間という。

本調査は標本調査であるから、標本による測定値(本調査の結果)から母集団値を推定することができる。信頼度 95%における標本測定値(%)の信頼区間の 1/2 幅は、次の式によって得られる。

$$2\sqrt{(N - n) \cdot P(100 - P) / (N - 1) \cdot n}$$

ここで、Nは母集団数(本調査では、20 歳以上の全町民、7,033)、nは標本数(本調査では、有効回答数、342)であり、Pは測定値(%)である。個々の測定値についての計算は煩雑であるから、主要な測定値(%)について、上記の公式で本調査での信頼度 95%(同じ調査を 100 回行った場合、95 回まで同じ結果になるという精度)における信頼区間の 1/2 幅を算出すると、表 H のとおりである。

例えば、問 2 の『男は仕事、女は家庭』という考え方について、あなたはどのように思いますか。』の問いに、全体で「そう思わない」と回答したのは 50.9%である。表 H で 50.9%に最も近いのは、(50%)の欄であり、5.3 となっている。そこで、「そう思う」と答えた人は 50.3%でも、母集団(20 歳以上の糸田町民)の値は、信頼度 95%とした場合、56.2%(50.9+5.3)から 45.0%(50.3-5.3)の範囲にあると推定できる。

信頼度95%における主要な%の信頼区間の1/2幅

表H

総数	サンプル数	回答者の比率	50%	55%	60%	65%	70%	75%	80%	85%	90%	95%
				45%	40%	35%	30%	25%	20%	15%	10%	5%
7,033	342	1/2幅	5.3	5.2	5.2	5.0	4.8	4.6	4.2	3.8	3.2	2.3

【2023(令和5)年8月1日現在】

二 調査結果の概要

二 調査結果の概要

第1章 男女平等に関する考え方や男女共同参画について

問1 分野別にみた男女の地位の平等感

次の分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。(1つに○)

1) 全体的特徴【(1)家庭生活では～(6)地域活動の場では(PTAや町内会等)】

表1

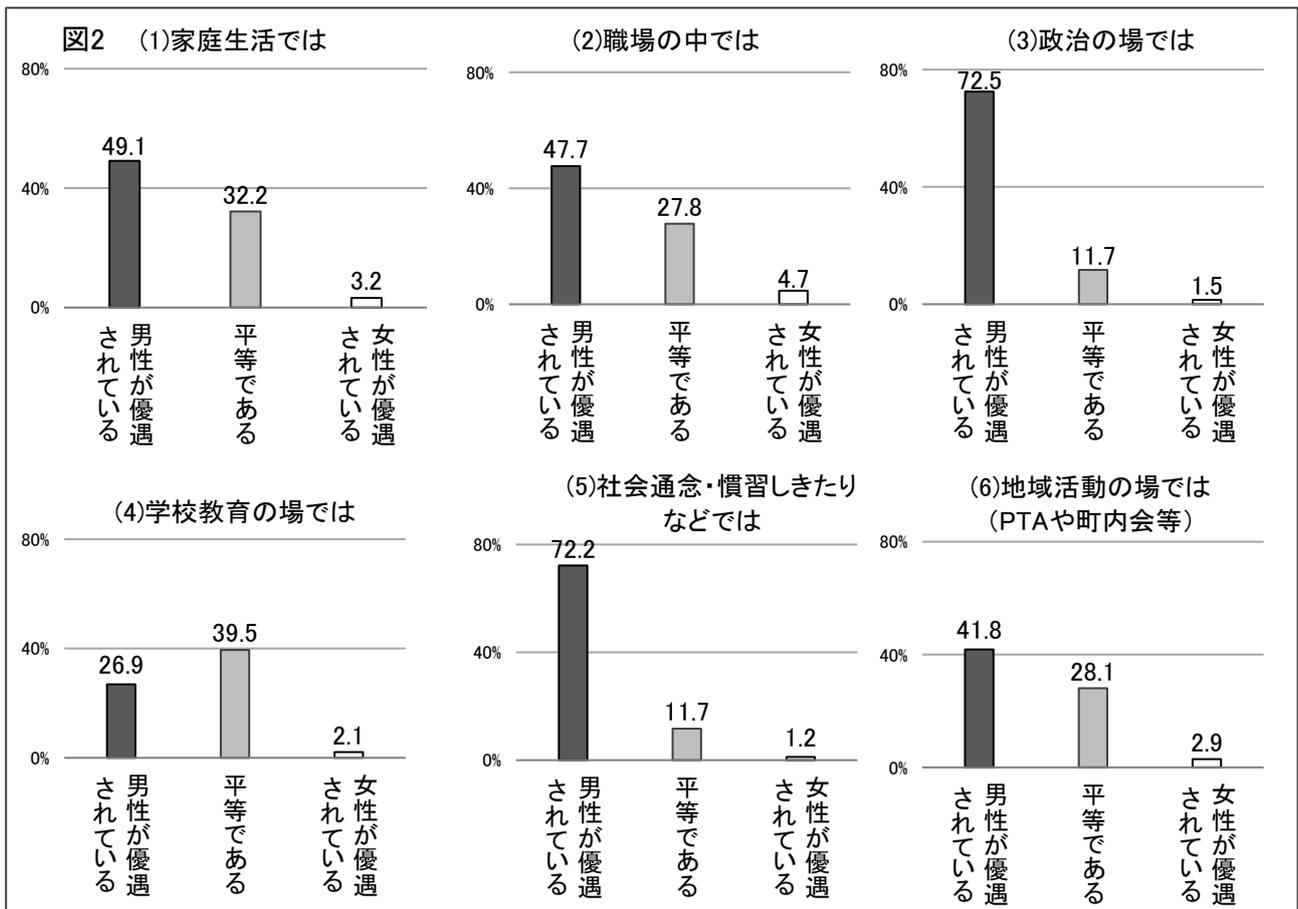
上段:(人) 下段:(%)

問1 分野別にみた男女の地位 の平等感	回答数	い男性が優遇されている			どちらかといえば男性が優遇されている			平等である			どちらかといえば女性が優遇されている			女性が優遇されている		
		い男性が優遇されている	い男性が優遇されている	い男性が優遇されている	い男性が優遇されている	い男性が優遇されている	い男性が優遇されている	い男性が優遇されている	い男性が優遇されている	い男性が優遇されている	い男性が優遇されている	い男性が優遇されている	い男性が優遇されている	い男性が優遇されている	い男性が優遇されている	
全 体	(1)家庭生活では	342	49	119	110	4	7	42	11	168	110	11	168	110	11	
		100.0	14.3	34.8	32.2	1.2	2.0	12.3	3.2	49.1	32.2	3.2	49.1	32.2	3.2	
	(2)職場の中では	342	58	105	95	12	4	48	20	163	95	16	163	95	16	
		100.0	17.0	30.7	27.8	3.5	1.2	14.0	5.8	47.7	27.8	4.7	47.7	27.8	4.7	
	(3)政治の場では	342	144	104	40	2	3	35	14	248	40	5	248	40	5	
		100.0	42.1	30.4	11.7	0.6	0.9	10.2	4.1	72.5	11.7	1.5	72.5	11.7	1.5	
(4)学校教育の場では	342	18	74	135	5	2	83	25	92	135	7	92	135	7		
	100.0	5.3	21.6	39.5	1.5	0.6	24.2	7.3	26.9	39.5	2.1	26.9	39.5	2.1		
(5)社会通念・慣習 しきたりなどでは	342	81	166	40	1	3	37	14	247	40	4	247	40	4		
	100.0	23.7	48.5	11.7	0.3	0.9	10.8	4.1	72.2	11.7	1.2	72.2	11.7	1.2		
(6)地域活動の場では (PTAや町内会等)	342	31	112	96	10	0	75	18	143	96	10	143	96	10		
	100.0	9.1	32.7	28.1	2.9	0.0	21.9	5.3	41.8	28.1	2.9	41.8	28.1	2.9		

*「男性が優遇されている」・「男性が優遇されている」と「どちらかといえば男性が優遇されている」の合計
*「女性が優遇されている」・「女性が優遇されている」と「どちらかといえば女性が優遇されている」の合計

図1 分野別にみた男女の地位の平等感(全体)





全体的には、「分野別に見た男女の地位の平等感」は「男性が優遇されている」という割合が高い。特に「政治の場」では72.5%で極めて高い。しかし、「学校教育の場」では、技術・家庭科の男女共修や男女混合名簿など男女共同参画の考えに基づく教育が早くから取り組まれてきたこともあり、「平等である」という割合が39.5%と、他の分野より高くなっている。

「社会通念、慣習、しきたりなど」では男性の方が優遇されているが72.2%で、歴史的に形成されてきた女性を排除する意識が未だに強く残っている結果ではないかと思われる。

また、各分野で「わからない」と回答した町民が10%~20%いることも留意しておかなければならない。

(1) 家庭生活では

1) 性別及び年齢層別特徴

表1-1-1

上段:(人) 下段:(%)

問1 分野別にみた男女 の地位の平等感	(1)家庭生活では								い 男 性 が 優 遇 さ れ て	平 等 で あ る	い 女 性 が 優 遇 さ れ て	
	回 答 数	い る 男 性 が 優 遇 さ れ て	い る 男 ど ち ら か が 優 遇 さ れ て い え ば	平 等 で あ る	い 女 ど ち ら か が 優 遇 さ れ て い え ば	い る 女 性 が 優 遇 さ れ て	わ か ら な い	不 明 ・ 無 回 答				
全 体	342 100.0	49 14.3	119 34.8	110 32.2	4 1.2	7 2.0	42 12.3	11 3.2	168 49.1	110 32.2	11 3.2	
性 別	女 性	202 100.0	38 18.8	69 34.2	56 27.7	1 0.5	3 1.5	27 13.4	8 3.9	107 53.0	56 27.7	4 2.0
	男 性	135 100.0	11 8.1	48 35.6	53 39.3	2 1.4	4 3.0	14 10.4	3 2.2	59 43.7	53 39.3	6 4.4
	女性・男性に あてはまらない	3 100.0	0 0.0	2 66.7	1 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 66.7	1 33.3	0 0.0
	不明・無回答	2 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0
	性別(女性)・ 年齢	20歳代	12 100.0	0 0.0	3 25.0	5 41.7	1 8.3	1 8.3	2 16.7	0 0.0	3 25.0	5 41.7
	30歳代	29 100.0	4 13.8	7 24.1	12 41.4	0 0.0	1 3.4	5 17.3	0 0.0	11 37.9	12 41.4	1 3.4
	40歳代	25 100.0	3 12.0	10 40.0	8 32.0	0 0.0	1 4.0	2 8.0	1 4.0	13 52.0	8 32.0	1 4.0
	50歳代	42 100.0	12 28.6	12 28.6	11 26.2	0 0.0	0 0.0	6 14.3	1 2.3	24 57.1	11 26.2	0 0.0
	60歳代	44 100.0	8 18.2	17 38.6	12 27.3	0 0.0	0 0.0	6 13.6	1 2.3	25 56.8	12 27.3	0 0.0
	70歳以上	50 100.0	11 22.0	20 40.0	8 16.0	0 0.0	0 0.0	6 12.0	5 10.0	31 62.0	8 16.0	0 0.0
性 別 (男 性) ・ 年 齢	20歳代	11 100.0	3 27.3	2 18.2	4 36.4	0 0.0	2 18.1	0 0.0	0 0.0	5 45.5	4 36.4	2 18.1
	30歳代	15 100.0	0 0.0	7 46.7	2 13.3	0 0.0	2 13.3	4 26.7	0 0.0	7 46.7	2 13.3	2 13.3
	40歳代	19 100.0	1 5.3	5 26.3	9 47.4	0 0.0	0 0.0	3 15.7	1 5.3	6 31.6	9 47.4	0 0.0
	50歳代	22 100.0	3 13.6	5 22.8	10 45.5	1 4.5	0 0.0	3 13.6	0 0.0	8 36.4	10 45.5	1 4.5
	60歳代	42 100.0	3 7.1	16 38.1	18 42.9	0 0.0	0 0.0	3 7.1	2 4.8	19 45.2	18 42.9	0 0.0
	70歳以上	26 100.0	1 3.8	13 50.0	10 38.6	1 3.8	0 0.0	1 3.8	0 0.0	14 53.8	10 38.6	1 3.8
あ て は ま ら な い	50歳代	2 100.0	0 0.0	2 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 100.0	0 0.0	0 0.0
	70歳以上	1 100.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0
不 明 ・ 無 回 答	60歳代	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	70歳以上	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0

*「男性が優遇されている」・「男性が優遇されている」と「どちらかといえば男性が優遇されている」の合計
*「女性が優遇されている」・「女性が優遇されている」と「どちらかといえば女性が優遇されている」の合計

図1-1-1 分野別にみた男女の地位の平等感(1) 家庭生活では(性別)

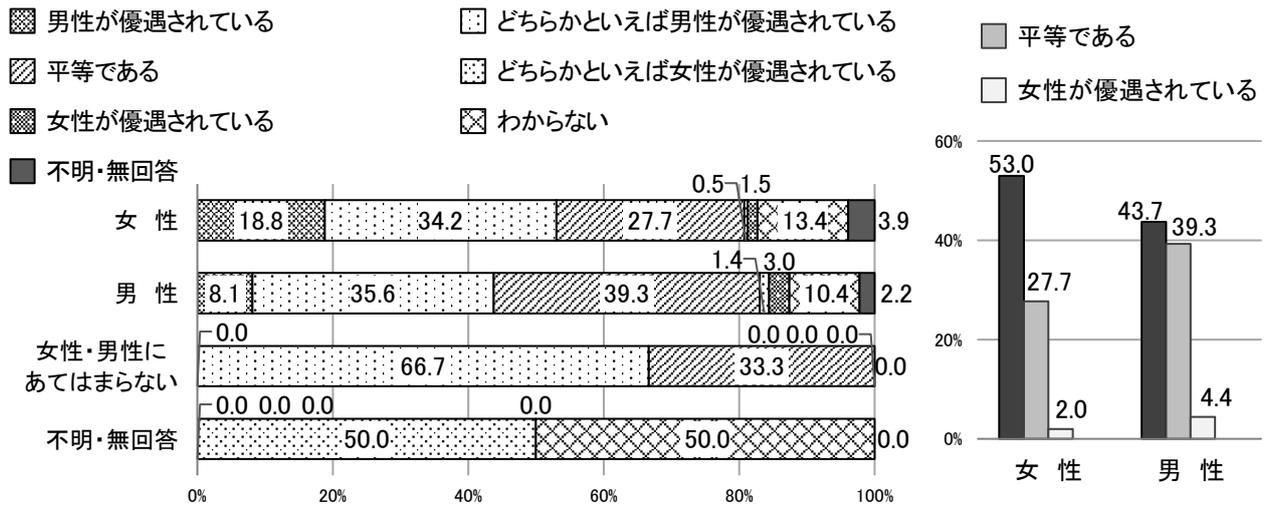
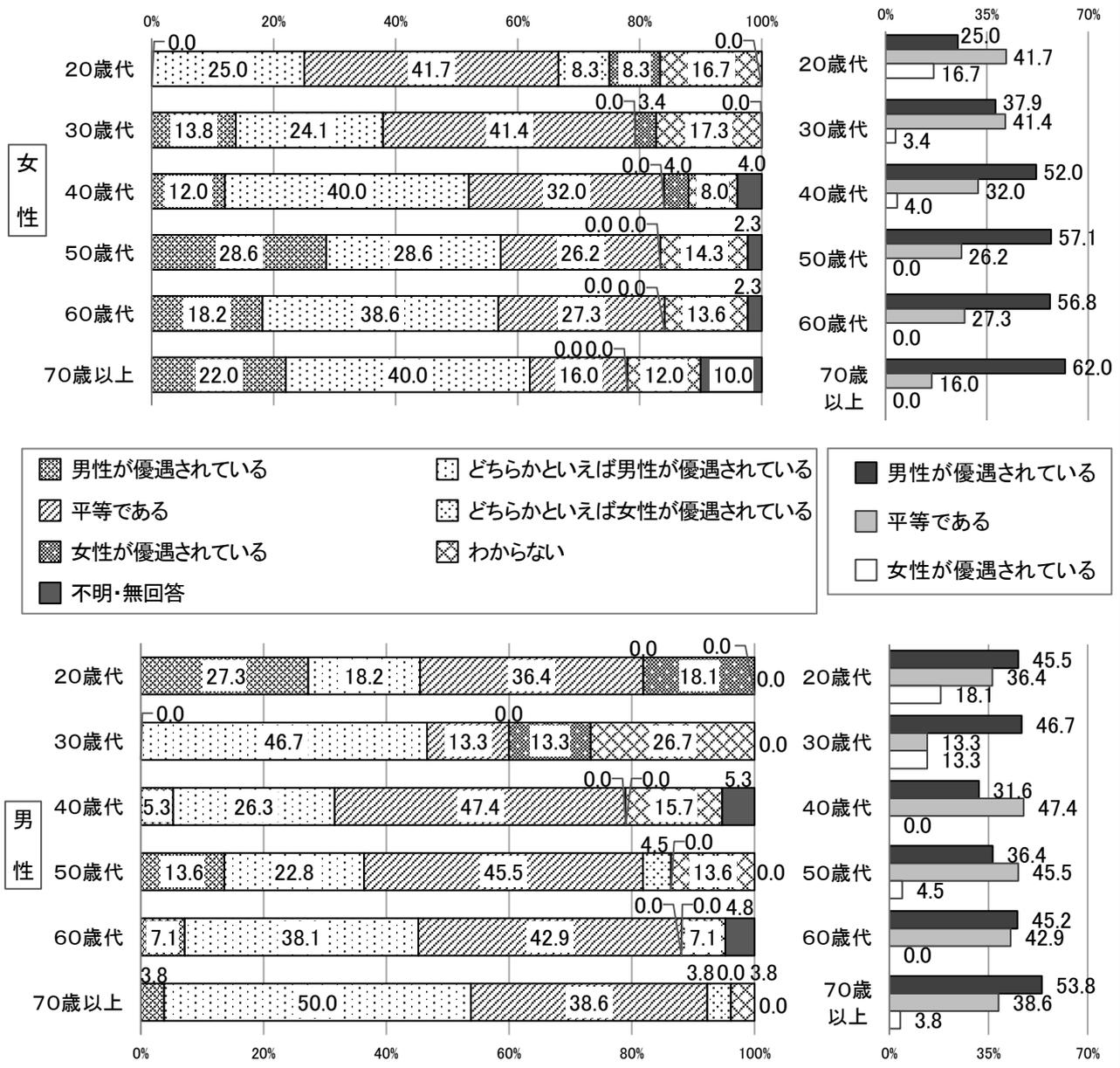


図1-1-2 分野別にみた男女の地位の平等感(1) 家庭生活では(性別×年齢層別)



「家庭生活」の分野を「性別」で見ると、「男性が優遇されている」という割合が高いが、30歳代の女性では「平等である」(41.4%)の割合が高い。40歳代の男性については「平等である」(47.4%)という考えが多いが、40歳代の女性については「男性が優遇されている」(52.0%)が多く、このことから男性と女性の意識に差があると思われる。

2) 配偶関係別特徴

表1-1-2

上段:実数(人) 下段:割合(%)

問1 分野別にみた男女 の地位の平等感	(1)家庭生活では								い 男 性 が 優 遇 さ れ て	平 等 で あ る	い 女 性 が 優 遇 さ れ て	
	回 答 数	い 男 性 が 優 遇 さ れ て	い 男 性 が 優 遇 さ れ て	ど ち ら か と い え ば 平 等 で あ る	い 女 性 が 優 遇 さ れ て	ど ち ら か と い え ば 平 等 で あ る	い 女 性 が 優 遇 さ れ て	わ か ら な い				不 明 ・ 無 回 答
全 体	342 100.0	49 14.3	119 34.8	110 32.2	4 1.2	7 2.0	42 12.3	11 3.2	168 49.1	110 32.2	11 3.2	
配 偶 関 係	未 婚	74 100.0	9 12.2	21 28.4	20 27.0	1 1.4	2 2.7	18 24.3	3 4.0	30 40.6	20 27.0	3 4.1
	既 婚 (事実婚を含む)	213 100.0	29 13.6	86 40.4	75 35.2	2 0.9	5 2.3	11 5.2	5 2.4	115 54.0	75 35.2	7 3.2
	以前結婚 していた	55 100.0	11 20.0	12 21.8	15 27.3	1 1.8	0 0.0	13 23.6	3 5.5	23 41.8	15 27.3	1 1.8
女性全体	202 100.0	38 18.8	69 34.2	56 27.7	1 0.5	3 1.5	27 13.3	8 4.0	107 52.9	56 27.7	4 2.0	
配 性 別 関 係 (女 性)	未 婚	34 100.0	4 11.8	10 29.4	8 23.6	1 2.9	0 0.0	10 29.4	1 2.9	14 41.2	8 23.6	1 2.9
	既 婚 (事実婚を含む)	128 100.0	25 19.5	49 38.3	39 30.5	0 0.0	3 2.3	7 5.5	5 3.9	74 57.8	39 30.5	3 2.3
	以前結婚 していた	40 100.0	9 22.5	10 25.0	9 22.5	0 0.0	0 0.0	10 25.0	2 5.0	19 47.5	9 22.5	0 0.0
男性全体	135 100.0	11 8.1	48 35.6	53 39.3	2 1.5	4 3.0	14 10.4	3 2.1	59 43.7	53 39.3	6 4.5	
配 性 別 関 係 (男 性)	未 婚	39 100.0	5 12.9	11 28.2	12 30.8	0 0.0	2 5.1	7 17.9	2 5.1	16 41.1	12 30.8	2 5.1
	既 婚 (事実婚を含む)	81 100.0	4 4.9	35 43.2	35 43.2	1 1.3	2 2.5	4 4.9	0 0.0	39 48.1	35 43.2	3 3.8
	以前結婚 していた	15 100.0	2 13.3	2 13.3	6 40.0	1 6.7	0 0.0	3 20.0	1 6.7	4 26.6	6 40.0	1 6.7
女性・男性に あてはまらない全体	3 100.0	0 0.0	2 66.7	1 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 66.7	1 33.3	0 0.0	
配 性 別 関 係 (事 実 婚 を 含 む)	3 100.0	0 0.0	2 66.7	1 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 66.7	1 33.3	0 0.0	
不明・無回答全体	2 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	
配 性 別 関 係	未 婚	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	既 婚 (事実婚を含む)	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0

*「男性が優遇されている」・「男性が優遇されている」と「どちらかといえば男性が優遇されている」の合計

*「女性が優遇されている」・「女性が優遇されている」と「どちらかといえば女性が優遇されている」の合計

図1-1-3 分野別にみた男女の地位の平等感(1)家庭生活では(配偶関係別)

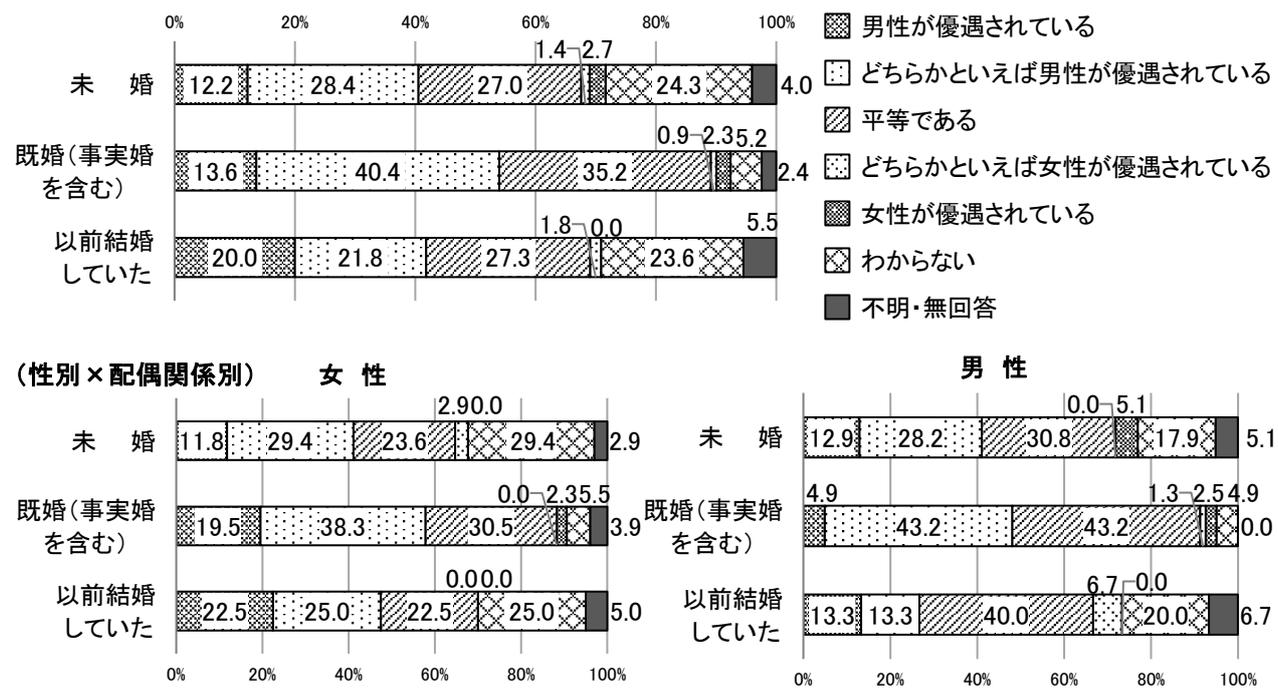
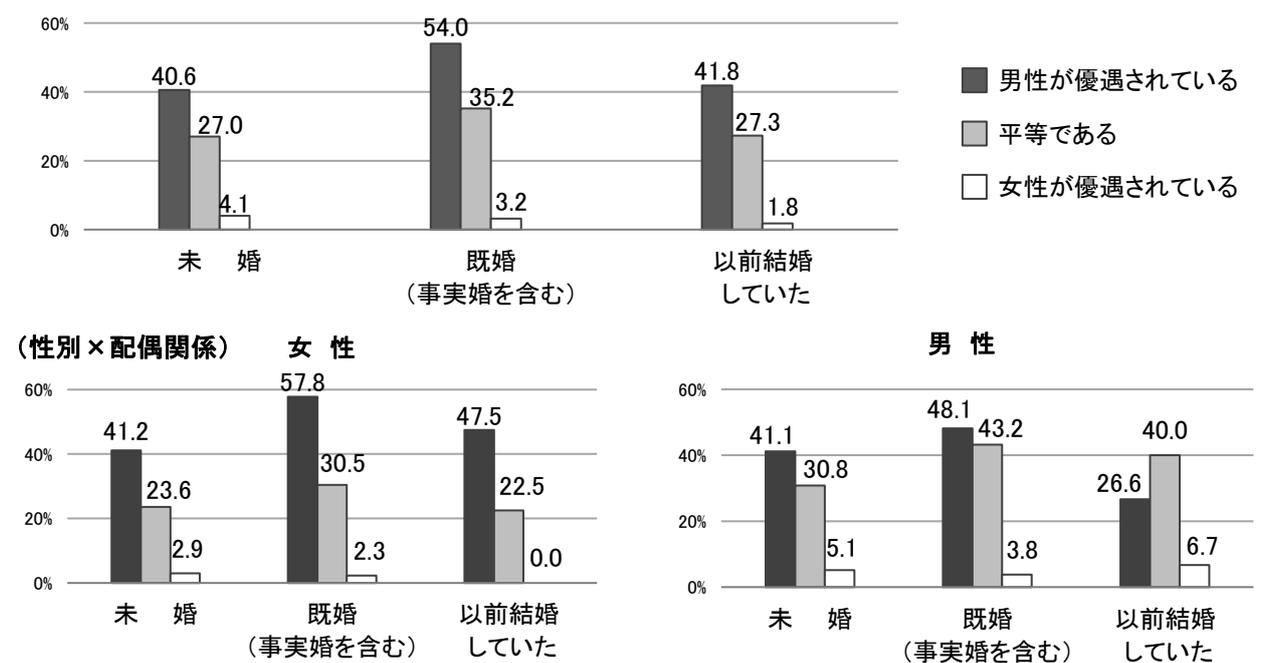


図1-1-4 分野別にみた男女の地位の平等感(1)家庭生活では(配偶関係別)



「配偶関係別」でみると、未婚は「男性が優遇されている」(40.6%)の割合が高い。未婚の場合は、育ってきた環境や現在の職場の在り方が影響していると思われる。既婚では、「男性が優遇されている」という考えが、男女ともに多い。既婚は、職場、家庭においてその傾向が強いと感じているのだと思われる。したがって、この部分の取組が必要であると思われる。

3) 共働きの有無別特徴

表1-1-3

上段:実数(人) 下段:割合(%)

問1 分野別にみた男女 の地位の平等感	(1)家庭生活では								い 男 性 が 優 遇 さ れ て	平 等 で あ る	い 女 性 が 優 遇 さ れ て	
	回 答 数	い 男 性 が 優 遇 さ れ て	い 男 性 が 優 遇 さ れ て	ど ち ら か と い え ば	平 等 で あ る	い 女 性 が 優 遇 さ れ て	ど ち ら か と い え ば	い 女 性 が 優 遇 さ れ て				わ か ら な い
全 体	213	29	86	75	2	5	11	5	115	75	7	
既婚(事実婚を含む)	100.0	13.6	40.4	35.2	0.9	2.3	5.3	2.3	54.0	35.2	3.2	
共働きの有無	共働きである	101	15	39	37	0	2	7	1	54	37	2
	共働きでない	102	13	43	34	2	3	4	3	56	34	5
	不明・無回答	10	1	4	4	0	0	0	1	5	4	0
既婚女性全体	128	25	49	39	0	3	7	5	74	39	3	
既婚女性(有性無)	100.0	19.5	38.3	30.5	0.0	2.3	5.5	3.9	57.8	30.5	2.3	
共働きの有無(女性)	共働きである	61	12	21	22	0	2	3	1	33	22	2
	共働きでない	59	12	25	14	0	1	4	3	37	14	1
	不明・無回答	8	1	3	3	0	0	0	1	4	3	0
既婚男性全体	81	4	35	35	1	2	4	0	39	35	3	
既婚男性(有性無)	100.0	4.9	43.2	43.2	1.3	2.5	4.9	0.0	48.1	43.2	3.8	
共働きの有無(男性)	共働きである	38	3	16	15	0	0	4	0	19	15	0
	共働きでない	41	1	18	19	1	2	0	0	19	19	3
	不明・無回答	2	0	1	1	0	0	0	0	1	1	0
女性・男性にあてはまらない全体	3	0	2	1	0	0	0	0	2	1	0	
女性・男性にあてはまらない(有性無)	100.0	0.0	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	66.7	33.3	0.0	
共働きの有無(共働)	共働きである	2	0	2	0	0	0	0	0	2	0	0
	共働きでない	1	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0
不明・無回答全体	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	
不明・無回答(有性無)	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	
共働きの有無(共働)	共働きでない	1	0	0	0	1	0	0	0	0	1	
	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	

*「男性が優遇されている」・「男性が優遇されている」と「どちらかといえば男性が優遇されている」の合計
*「女性が優遇されている」・「女性が優遇されている」と「どちらかといえば女性が優遇されている」の合計

図1-1-5 分野別にみた男女の地位の平等感(1)家庭生活では(共働きの有無)

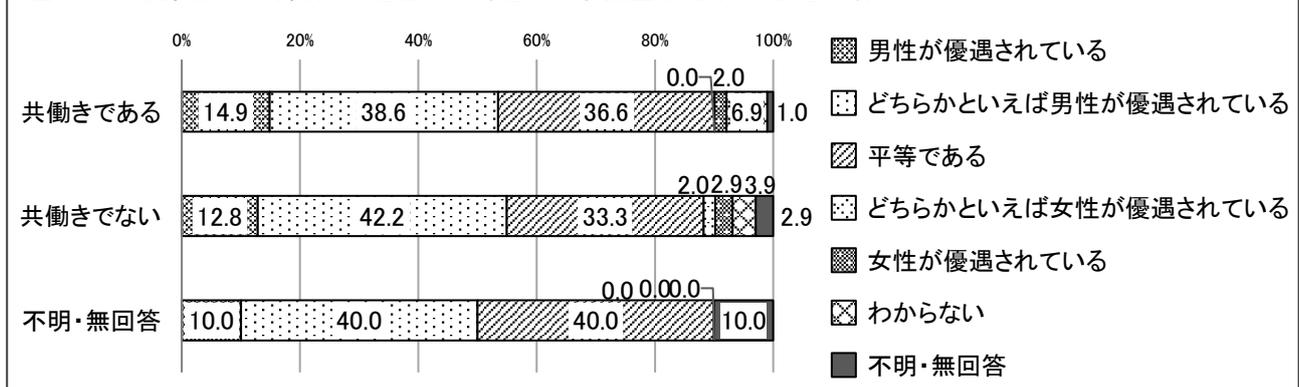


図1-1-6 分野別にみた男女の地位の平等感(1)家庭生活では
(性別×共働きの有無)

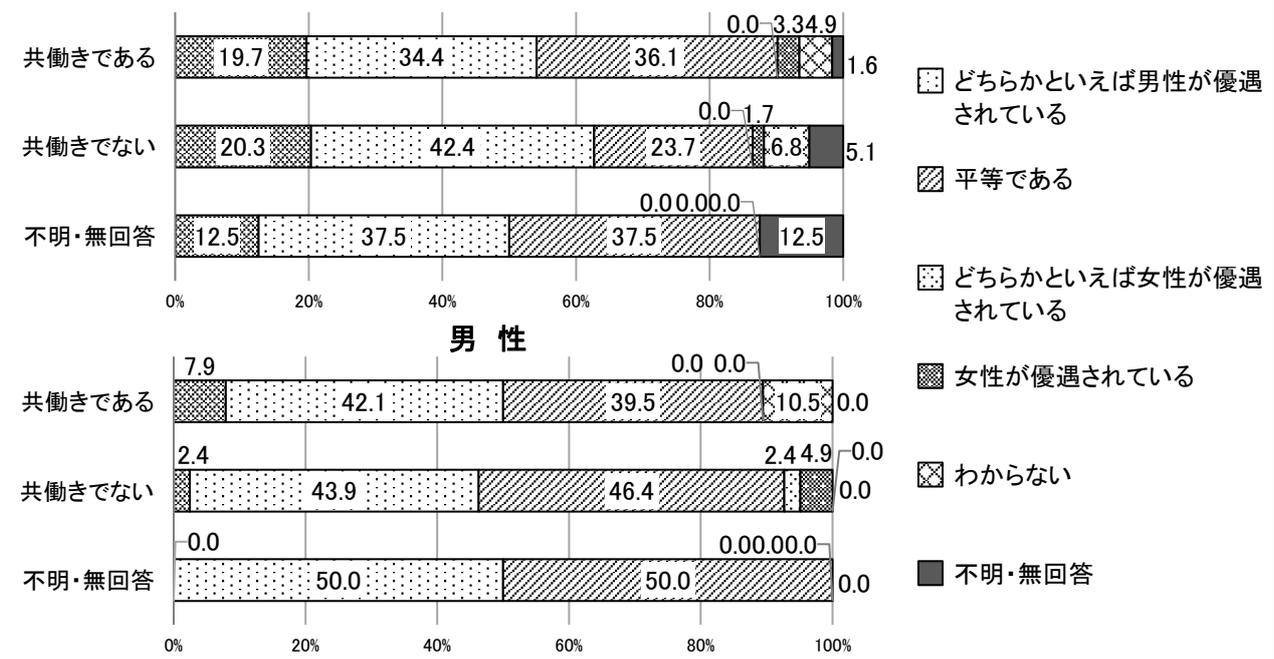
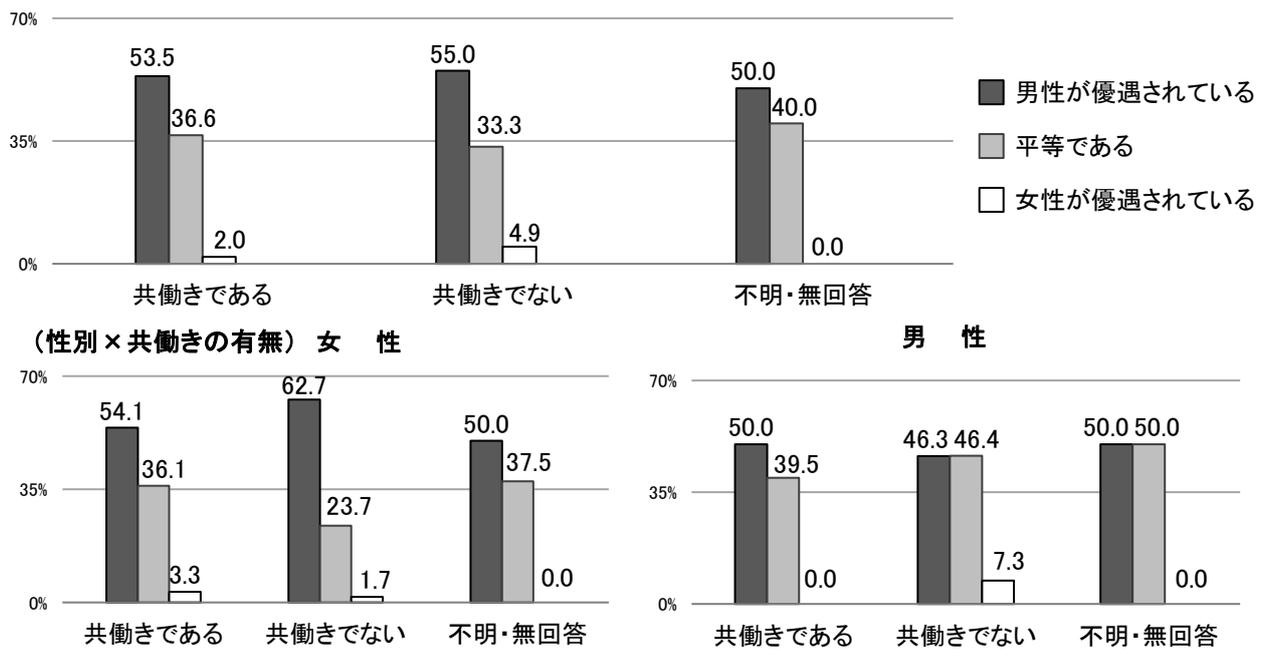


図1-1-7 分野別にみた男女の地位の平等感(1)家庭生活では(共働きの有無別)



「性別」と「共働きの有無別」の関係を見ると、女性では、共働きであるなしにかかわらず「男性が優遇されている」割合が高く、男女ともに「女性が優遇されている」割合は極めて低い。男性は、「共働きでない」は「平等である」の割合が46.4%、「優遇されている」の割合が46.3%とほぼ同じになっている。

共働きであっても、家事や育児の負担が女性にまだかなりかかっているという実態が、この男女差の数字を生み出しているのではないかと考えられる。

4) 子どもの有無別特徴

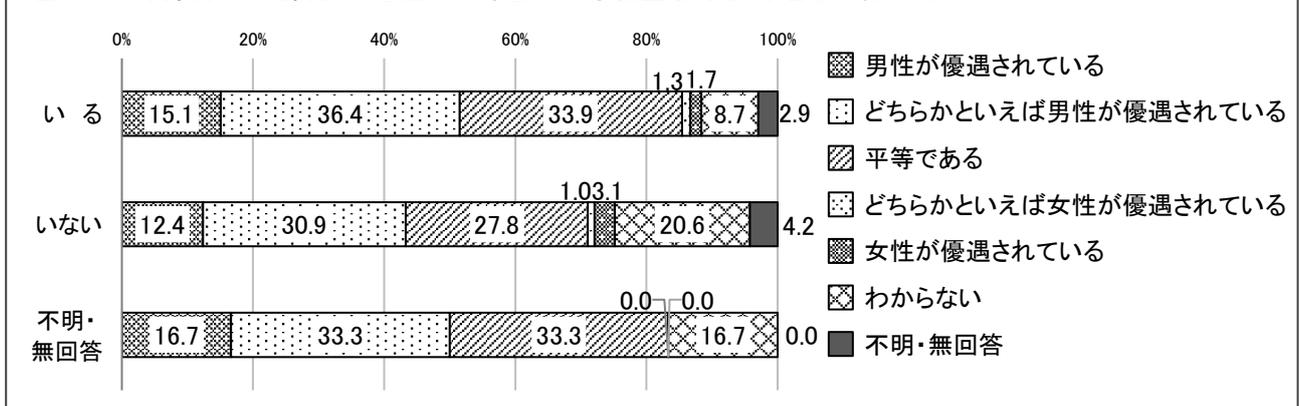
表1-1-4

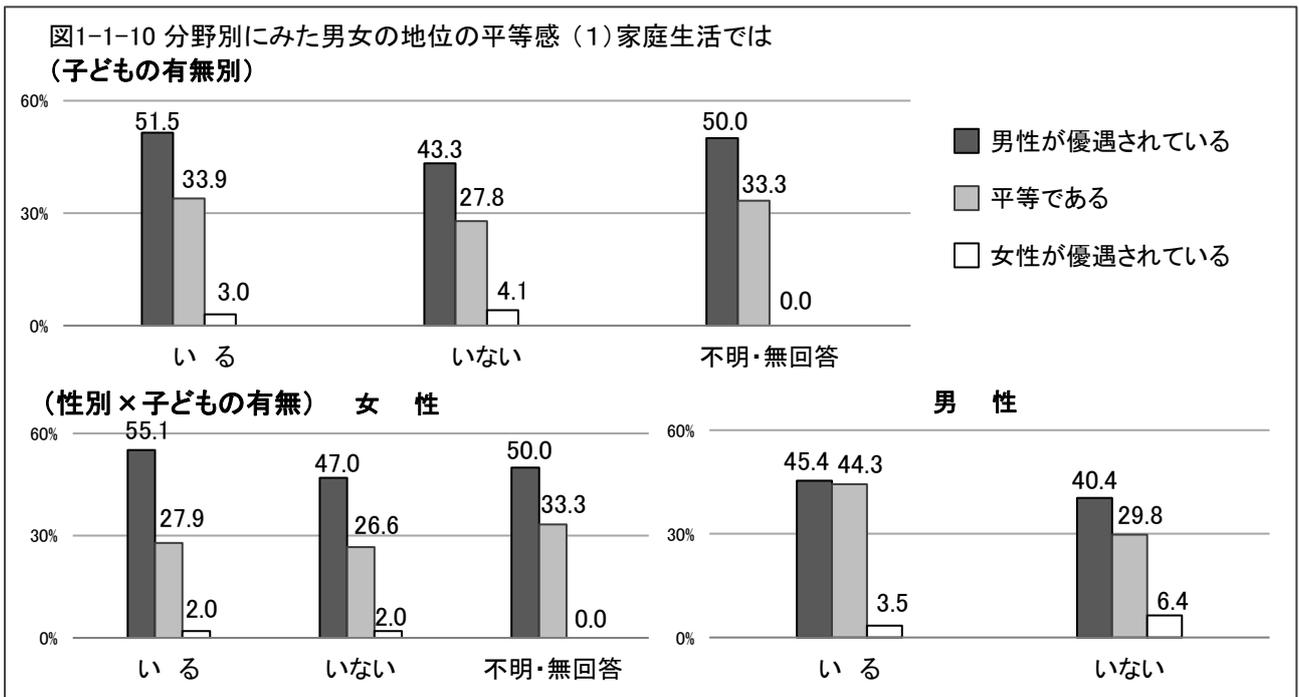
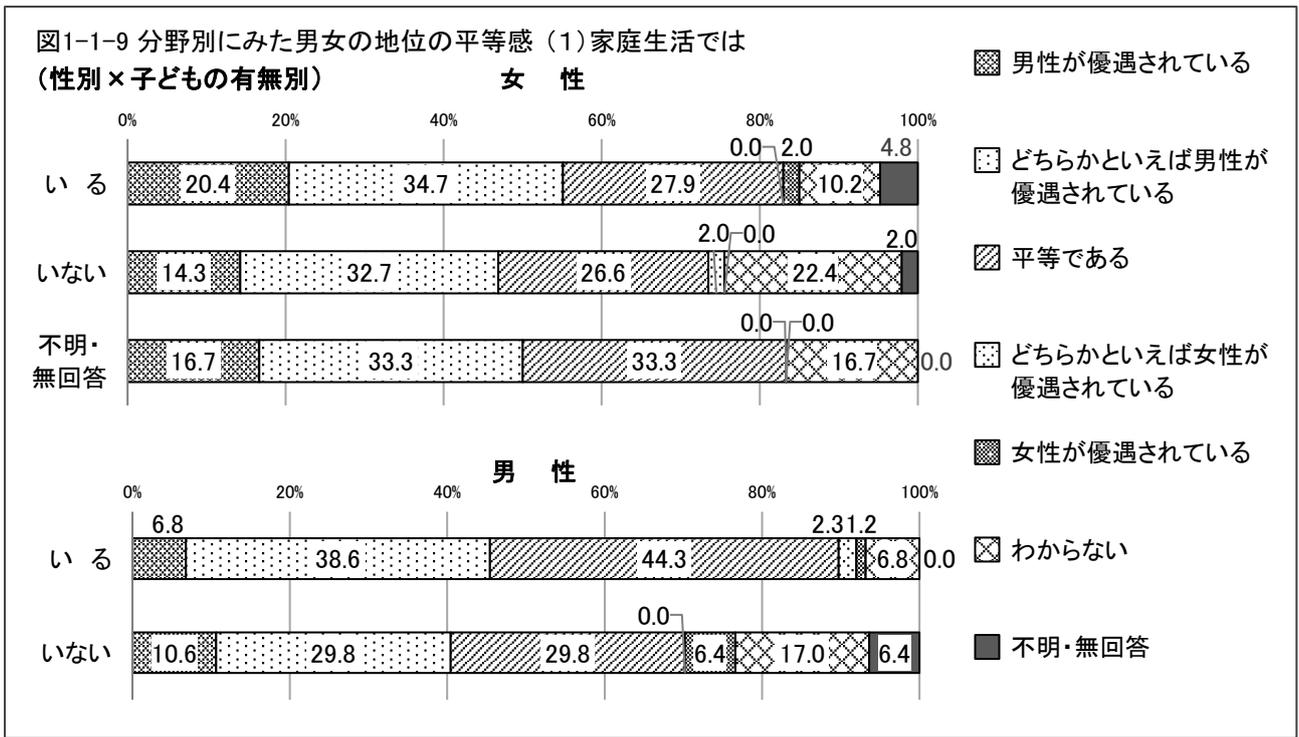
上段:実数(人) 下段:割合(%)

問1 分野別にみた男女 の地位の平等感	(1)家庭生活では								い る 男 性 が 優 遇 さ れ て	平 等 で あ る	い る 女 性 が 優 遇 さ れ て	
	回 答 数	い る 男 性 が 優 遇 さ れ て	い る 男 性 が 優 遇 さ れ て	ど ち ら か と い え ば	平 等 で あ る	い る 女 性 が 優 遇 さ れ て	ど ち ら か と い え ば	い る 女 性 が 優 遇 さ れ て				わ か ら な い
全 体	342 100.0	49 14.3	119 34.8	110 32.2	4 1.2	7 2.0	42 12.3	11 3.2	168 49.1	110 32.2	11 3.2	
子 ど も の 有 無	い る	239 100.0	36 15.1	87 36.4	81 33.9	3 1.3	4 1.7	21 8.7	7 2.9	123 51.5	81 33.9	7 3.0
	い ない	97 100.0	12 12.4	30 30.9	27 27.8	1 1.0	3 3.1	20 20.6	4 4.2	42 43.3	27 27.8	4 4.1
	不 明 ・ 無 回 答	6 100.0	1 16.7	2 33.3	2 33.3	0 0.0	0 0.0	1 16.7	0 0.0	3 50.0	2 33.3	0 0.0
女 性 全 体	202 100.0	38 18.8	69 34.2	56 27.7	1 0.5	3 1.5	27 13.3	8 4.0	107 53.0	56 27.7	4 2.0	
子 性 別 も の 有 無 女 性	い る	147 100.0	30 20.4	51 34.7	41 27.9	0 0.0	3 2.0	15 10.2	7 4.8	81 55.1	41 27.9	3 2.0
	い ない	49 100.0	7 14.3	16 32.7	13 26.6	1 2.0	0 0.0	11 22.4	1 2.0	23 47.0	13 26.6	1 2.0
	不 明 ・ 無 回 答	6 100.0	1 16.7	2 33.3	2 33.3	0 0.0	0 0.0	1 16.7	0 0.0	3 50.0	2 33.3	0 0.0
男 性 全 体	135 100.0	11 8.1	48 35.6	53 39.3	2 1.5	4 3.0	14 10.3	3 2.2	59 43.7	53 39.3	6 4.5	
子 性 別 も の 有 無 男 性	い る	88 100.0	6 6.8	34 38.6	39 44.3	2 2.3	1 1.2	6 6.8	0 0.0	40 45.4	39 44.3	3 3.5
	い ない	47 100.0	5 10.6	14 29.8	14 29.8	0 0.0	3 6.4	8 17.0	3 6.4	19 40.4	14 29.8	3 6.4
女 性 ・ 男 性 に あ て は ま ら な い 全 体	3 100.0	0 0.0	2 66.7	1 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 66.7	1 33.3	0 0.0	
の 子 性 別 も の 有 無	い る	3 100.0	0 0.0	2 66.7	1 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 66.7	1 33.3	0 0.0	
	不 明 ・ 無 回 答 全 体	2 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0
も 性 別 の 有 無 子 ど	い る	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0
	い ない	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

*「男性が優遇されている」・「男性が優遇されている」と「どちらかといえば男性が優遇されている」の合計
*「女性が優遇されている」・「女性が優遇されている」と「どちらかといえば女性が優遇されている」の合計

図1-1-8 分野別にみた男女の地位の平等感 (1)家庭生活では(子どもの有無別)





「家庭生活」を「子どもの有無別」で見た場合も、「男性が優遇されている」割合が男女ともに高く、特に女性で「子どものいる」場合は、「男性が優遇されている」が55.1%、「平等である」が27.9%、「女性が優遇されている」が2.0%となっており、このことは子育てと関係していると思われる。すなわち、まだ子育てが女性の負担によって成り立っている結果ではないかと考えられる。

(2) 職場の中では

1) 性別及び年齢層別特徴

表1-2

上段:(人) 下段:(%)

問1 分野別にみた男女 の地位の平等感	(2)職場の中では								い る 男 性 が 優 遇 さ れ て	平 等 で あ る	い る 女 性 が 優 遇 さ れ て	
	回 答 数	い る 男 性 が 優 遇 さ れ て	い る 男 ど ち ら か と い え ば	平 等 で あ る	い る 女 ど ち ら か と い え ば	い る 女 性 が 優 遇 さ れ て	わ か ら な い	不 明 ・ 無 回 答				
全 体	342 100.0	58 17.0	105 30.7	95 27.8	12 3.5	4 1.2	48 14.0	20 5.8	163 47.7	95 27.8	16 4.7	
性 別	女 性	202 100.0	37 18.3	63 31.2	52 25.7	6 3.0	1 0.5	32 15.8	11 5.5	100 49.5	52 25.7	7 3.5
	男 性	135 100.0	21 15.6	40 29.6	41 30.4	6 4.4	3 2.2	15 11.1	9 6.7	61 45.2	41 30.4	9 6.6
	女性・男性に あてはまらない	3 100.0	0 0.0	2 66.7	1 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 66.7	1 33.3	0 0.0
	不明・無回答	2 100.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0
	性別(女性)・ 年齢	20歳代	12 100.0	1 8.3	1 8.3	6 50.0	1 8.3	0 0.0	3 25.0	0 0.0	2 16.6	6 50.0
	30歳代	29 100.0	7 24.1	8 27.6	10 34.5	1 3.4	0 0.0	3 10.4	0 0.0	15 51.7	10 34.5	1 3.4
	40歳代	25 100.0	3 12.0	11 44.0	5 20.0	2 8.0	0 0.0	3 12.0	1 4.0	14 56.0	5 20.0	2 8.0
	50歳代	42 100.0	8 19.0	14 33.3	12 28.6	1 2.4	1 2.4	6 14.3	0 0.0	22 52.3	12 28.6	2 4.8
	60歳代	44 100.0	7 15.9	14 31.8	12 27.3	1 2.3	0 0.0	8 18.2	2 4.5	21 47.7	12 27.3	1 2.3
	70歳以上	50 100.0	11 22.0	15 30.0	7 14.0	0 0.0	0 0.0	9 18.0	8 16.0	26 52.0	7 14.0	0 0.0
性 別 (男性) ・ 年齢	20歳代	11 100.0	1 9.1	1 9.1	7 63.6	1 9.1	1 9.1	0 0.0	0 0.0	2 18.2	7 63.6	2 18.2
	30歳代	15 100.0	1 6.7	2 13.3	6 40.0	1 6.7	1 6.7	4 26.6	0 0.0	3 20.0	6 40.0	2 13.4
	40歳代	19 100.0	3 15.7	5 26.3	7 36.8	1 5.3	1 5.3	1 5.3	1 5.3	8 42.0	7 36.8	2 10.6
	50歳代	22 100.0	5 22.7	6 27.3	6 27.3	1 4.5	0 0.0	2 9.1	2 9.1	11 50.0	6 27.3	1 4.5
	60歳代	42 100.0	7 16.7	13 31.0	13 31.0	1 2.3	0 0.0	5 11.9	3 7.1	20 47.7	13 31.0	1 2.3
	70歳以上	26 100.0	4 15.5	13 50.0	2 7.7	1 3.8	0 0.0	3 11.5	3 11.5	17 65.5	2 7.7	1 3.8
あ て は ま ら な い	50歳代	2 100.0	0 0.0	1 50.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	1 50.0	0 0.0
	70歳以上	1 100.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0
無 回 答 ・ 不 明	60歳代	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	70歳以上	1 100.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0

*「男性が優遇されている」・「男性が優遇されている」と「どちらかといえば男性が優遇されている」の合計
*「女性が優遇されている」・「女性が優遇されている」と「どちらかといえば女性が優遇されている」の合計

図1-2-1 分野別にみた男女の地位の平等感 (2)職場の中では(性別)

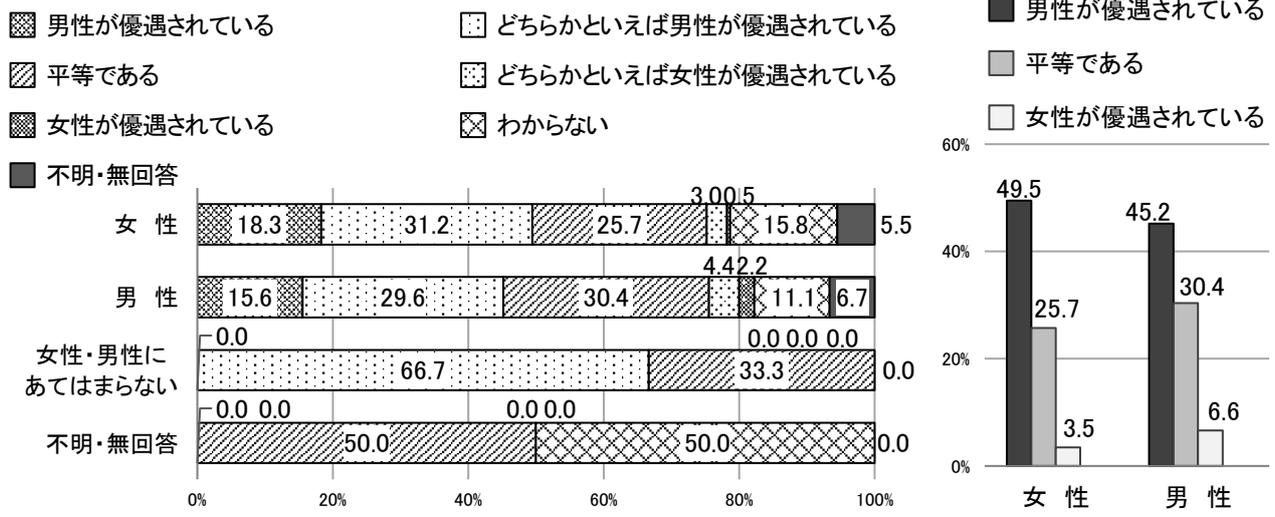
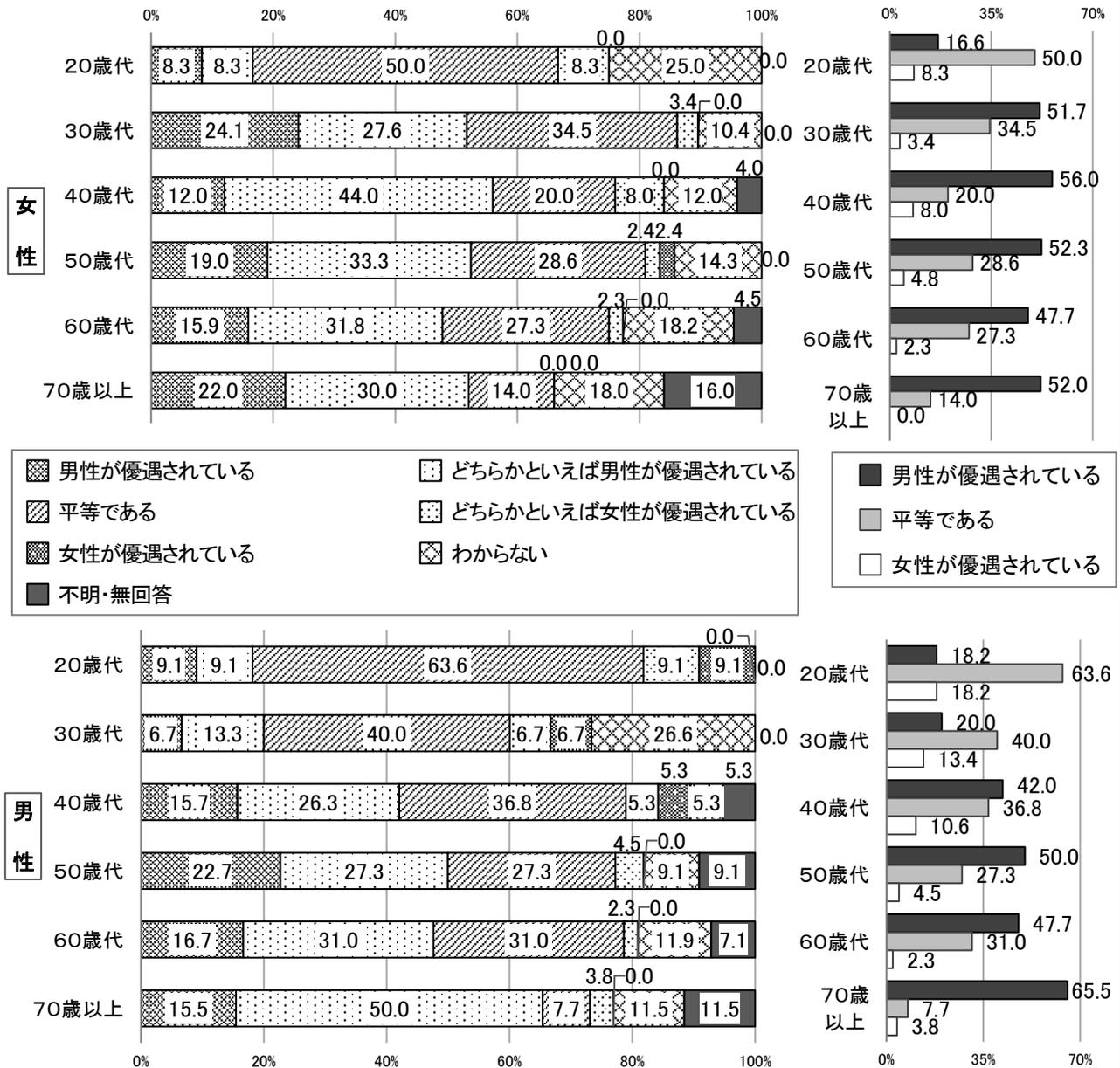


図1-2-2 分野別にみた男女の地位の平等感(2)職場の中では(性別×年齢層別)



「職場の中では」に関して性別で考えると、女性は20代を除いて全ての年代で「男性が優遇されている」の割合が高い。回答数は少ないが、20代女性（6名・50%）・20代男性（7名・63.6%）・30代男性（6名・40%）は「平等である」という割合が高い。

職場の中で男性優遇と感じるのはなぜなのか、その要因を把握する必要がある。

(3) 政治の場では

1) 性別及び年齢層別特徴

表1-3

上段:(人) 下段:(%)

問1 分野別にみた男女 の地位の平等感	(3)政治の場では								い男 性が 優遇 されて	平 等 で ある	い女 性が 優遇 されて	
	回 答 数	い男 性が 優 遇 さ れ て	い男 ど ち が ら 優 か と い え ば	平 等 で ある	い女 ど ち が ら 優 か と い え ば	い女 ど ち が ら 優 遇 さ れ て	わ か ら な い	不 明 ・ 無 回 答				
全 体	342 100.0	144 42.1	104 30.4	40 11.7	2 0.6	3 0.9	35 10.2	14 4.1	248 72.5	40 11.7	5 1.5	
性 別	女 性	202 100.0	96 47.5	62 30.7	15 7.4	2 1.0	1 0.5	17 8.4	9 4.5	158 78.2	15 7.4	3 1.5
	男 性	135 100.0	47 34.8	40 29.6	25 18.5	0 0.0	1 0.7	17 12.6	5 3.8	87 64.4	25 18.5	1 0.7
	女性・男性に あてはまらない	3 100.0	1 33.3	2 66.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3 100.0	0 0.0	0 0.0
	不明・無回答	2 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0
	性別 (女性) ・ 年齢	20歳代	12 100.0	2 16.7	8 66.6	2 16.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	10 83.3	2 16.7
	30歳代	29 100.0	15 51.7	10 34.5	1 3.4	0 0.0	0 10.4	3 0.0	0 0.0	25 86.2	1 3.4	0 0.0
	40歳代	25 100.0	11 44.0	9 36.0	1 4.0	0 0.0	0 8.0	2 8.0	2 8.0	20 80.0	1 4.0	0 0.0
	50歳代	42 100.0	24 57.1	10 23.8	2 4.8	0 0.0	1 2.4	4 9.5	1 2.4	34 80.9	2 4.8	1 2.4
	60歳代	44 100.0	21 47.7	13 29.5	5 11.4	2 4.5	0 6.9	3 0.0	0 0.0	34 77.2	5 11.4	2 4.5
	70歳以上	50 100.0	23 46.0	12 24.0	4 8.0	0 0.0	0 10.0	5 12.0	6 12.0	35 70.0	4 8.0	0 0.0
性 別 (男性) ・ 年齢	20歳代	11 100.0	4 36.3	2 18.2	3 27.3	0 0.0	0 18.2	2 0.0	0 0.0	6 54.5	3 27.3	0 0.0
	30歳代	15 100.0	4 26.7	2 13.3	3 20.0	0 0.0	1 6.7	5 33.3	0 0.0	6 40.0	3 20.0	1 6.7
	40歳代	19 100.0	6 31.6	6 31.6	5 26.2	0 0.0	0 0.0	1 5.3	1 5.3	12 63.2	5 26.2	0 0.0
	50歳代	22 100.0	8 36.4	9 40.9	3 13.6	0 0.0	0 0.0	2 9.1	0 0.0	17 77.3	3 13.6	0 0.0
	60歳代	42 100.0	13 31.0	12 28.6	9 21.4	0 0.0	0 0.0	6 14.2	2 4.8	25 59.6	9 21.4	0 0.0
	70歳以上	26 100.0	12 46.2	9 34.6	2 7.7	0 0.0	0 0.0	1 3.8	2 7.7	21 80.8	2 7.7	0 0.0
あ て は ま ら な い	50歳代	2 100.0	1 50.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 100.0	0 0.0	0 0.0
	70歳以上	1 100.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0
無 回 答 ・	60歳代	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0
	70歳以上	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 100.0	1 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

*「男性が優遇されている」・「男性が優遇されている」と「どちらかといえば男性が優遇されている」の合計

*「女性が優遇されている」・「女性が優遇されている」と「どちらかといえば女性が優遇されている」の合計

図1-3-1分野別にみた男女の地位の平等感(3)政治の場では(性別)

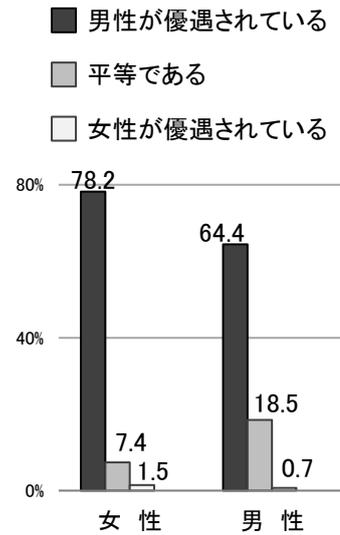
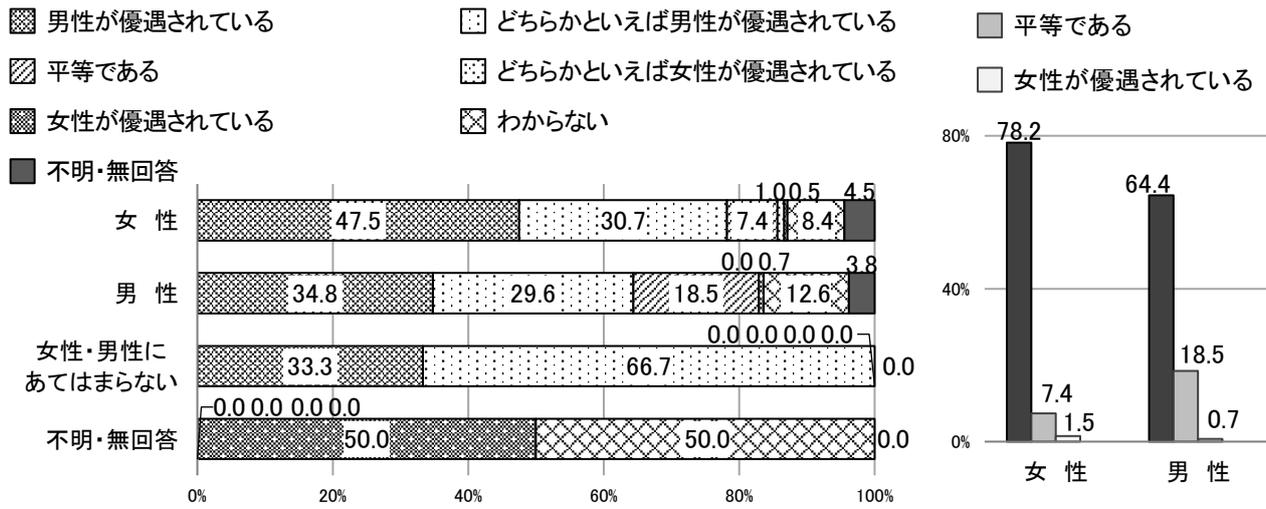
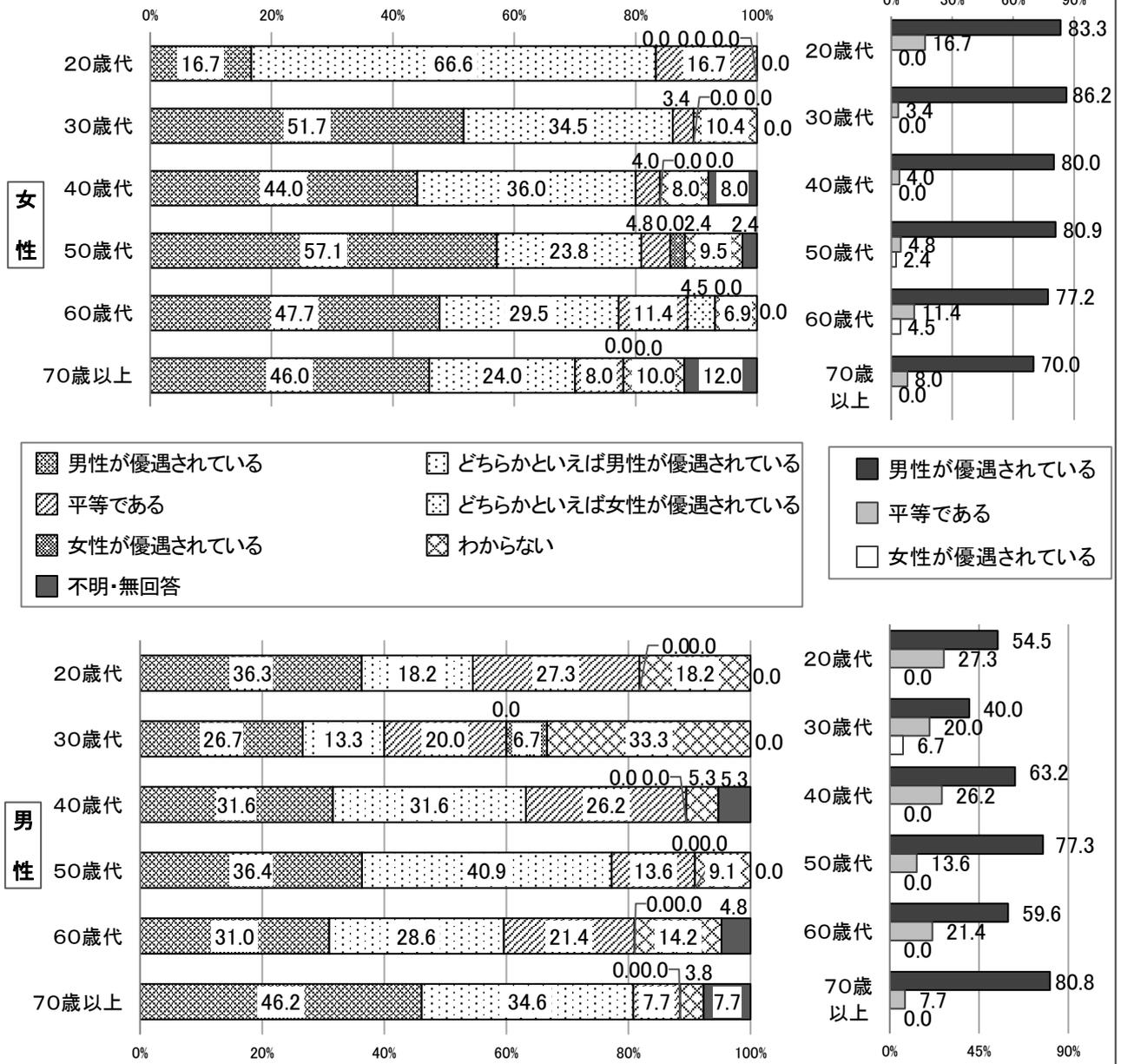


図1-3-2 分野別にみた男女の地位の平等感(3)政治の場では(性別×年齢層別)



「政治の場」において、全体として「男性が優遇されている」(72.5%)という割合は、他の項目と比べるとはるかに高い。また、性別では女性が「男性が優遇されている」と感じている割合は78.2%、男性は64.4%である。

女性が政治の場に進出する機会がなかったこと、現在もその機会が少ないこと、そのことから生じる経験不足や自信のなさも原因のひとつであると考えられる。また、特定の仕事について「男性でないとできない」「女性に向いている」など型にはまった固定的なイメージ(ステレオタイプ)もその要因になっていると思われる。

(4) 学校教育の場では
1) 性別及び年齢層別特徴

表1-4

上段:(人) 下段:(%)

問1 分野別にみた男女 の地位の平等感	(4)学校教育の場では								い 男 性 が 優 遇 さ れ て	平 等 で あ る	い 女 性 が 優 遇 さ れ て	
	回 答 数	い る 男 性 が 優 遇 さ れ て	い る 男 ど ち ら か と い え ば	平 等 で あ る	い 女 ど ち ら か と い え ば	い る 女 性 が 優 遇 さ れ て	わ か ら な い	不 明 ・ 無 回 答				
全 体	342 100.0	18 5.3	74 21.6	135 39.5	5 1.5	2 0.6	83 24.2	25 7.3	92 26.9	135 39.5	7 2.1	
性 別	女 性	202 100.0	12 5.9	42 20.8	80 39.6	3 1.5	0 0.0	51 25.3	14 6.9	54 26.7	80 39.6	3 1.5
	男 性	135 100.0	6 4.4	31 23.0	53 39.3	2 1.5	2 1.5	30 22.2	11 8.1	37 27.4	53 39.3	4 3.0
	女性・男性に あてはまらない	3 100.0	0 0.0	1 33.3	1 33.3	0 0.0	0 0.0	1 33.3	0 0.0	1 33.3	1 33.3	0 0.0
	不明・無回答	2 100.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0
	性別(女性)・ 年齢	20歳代	12 100.0	0 0.0	0 0.0	10 83.4	1 8.3	0 0.0	1 8.3	0 0.0	0 0.0	10 83.4
	30歳代	29 100.0	4 13.8	5 17.2	11 37.9	0 0.0	0 0.0	8 27.6	1 3.5	9 31.0	11 37.9	0 0.0
	40歳代	25 100.0	1 4.0	8 32.0	12 48.0	1 4.0	0 0.0	1 4.0	2 8.0	9 36.0	12 48.0	1 4.0
	50歳代	42 100.0	3 7.1	11 26.2	16 38.1	0 0.0	0 0.0	11 26.2	1 2.4	14 33.3	16 38.1	0 0.0
	60歳代	44 100.0	0 0.0	8 18.2	15 34.1	1 2.3	0 0.0	18 40.9	2 4.5	8 18.2	15 34.1	1 2.3
	70歳以上	50 100.0	4 8.0	10 20.0	16 32.0	0 0.0	0 0.0	12 24.0	8 16.0	14 28.0	16 32.0	0 0.0
性 別 (男 性) ・ 年 齢	20歳代	11 100.0	1 9.1	1 9.1	5 45.5	1 9.1	0 0.0	3 27.2	0 0.0	2 18.2	5 45.5	1 9.1
	30歳代	15 100.0	0 0.0	2 13.3	4 26.7	0 0.0	1 6.7	8 53.3	0 0.0	2 13.3	4 26.7	1 6.7
	40歳代	19 100.0	0 0.0	4 21.1	10 52.6	1 5.3	0 0.0	3 15.8	1 5.3	4 21.1	10 52.6	1 5.3
	50歳代	22 100.0	3 13.6	2 9.1	12 54.5	0 0.0	0 0.0	4 18.2	1 4.6	5 22.7	12 54.5	0 0.0
	60歳代	42 100.0	1 2.4	15 35.7	12 28.6	0 0.0	0 0.0	10 23.8	4 9.5	16 38.1	12 28.6	0 0.0
	70歳以上	26 100.0	1 3.8	7 26.9	10 38.5	0 0.0	1 3.8	2 7.7	5 19.3	8 30.8	10 38.5	1 3.8
あ て は ま ら な い	50歳代	2 100.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 50.0	1 50.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0
	70歳以上	1 100.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0
無 回 答 ・ 不 明	60歳代	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 100.0	1 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	70歳以上	1 100.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0

*「男性が優遇されている」・「男性が優遇されている」と「どちらかといえば男性が優遇されている」の合計
*「女性が優遇されている」・「女性が優遇されている」と「どちらかといえば女性が優遇されている」の合計

図1-4-1 分野別にみた男女の地位の平等感(4)学校教育の場では(性別)

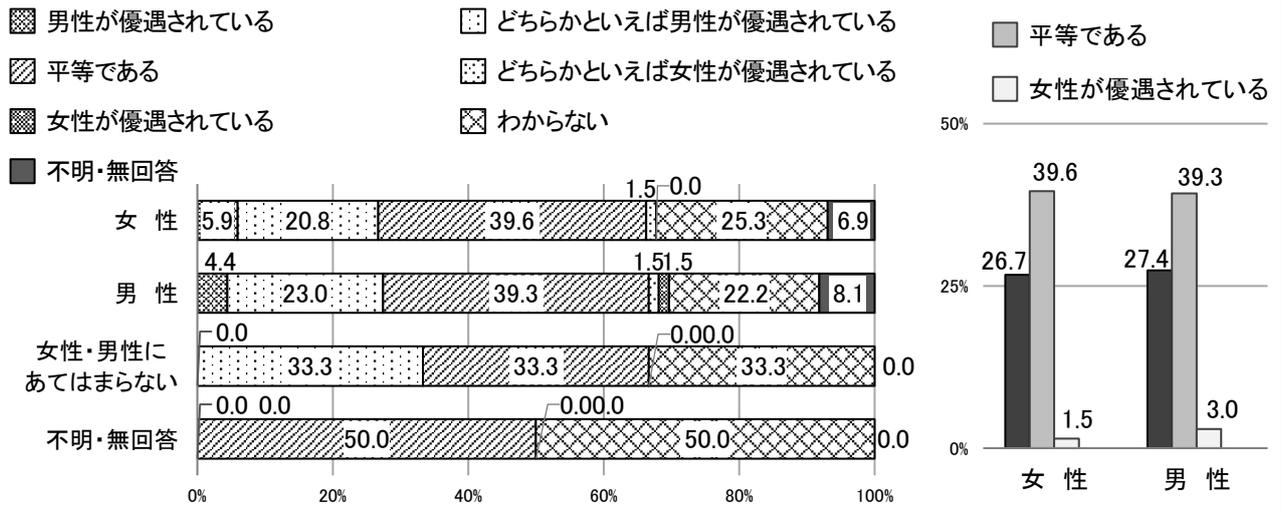
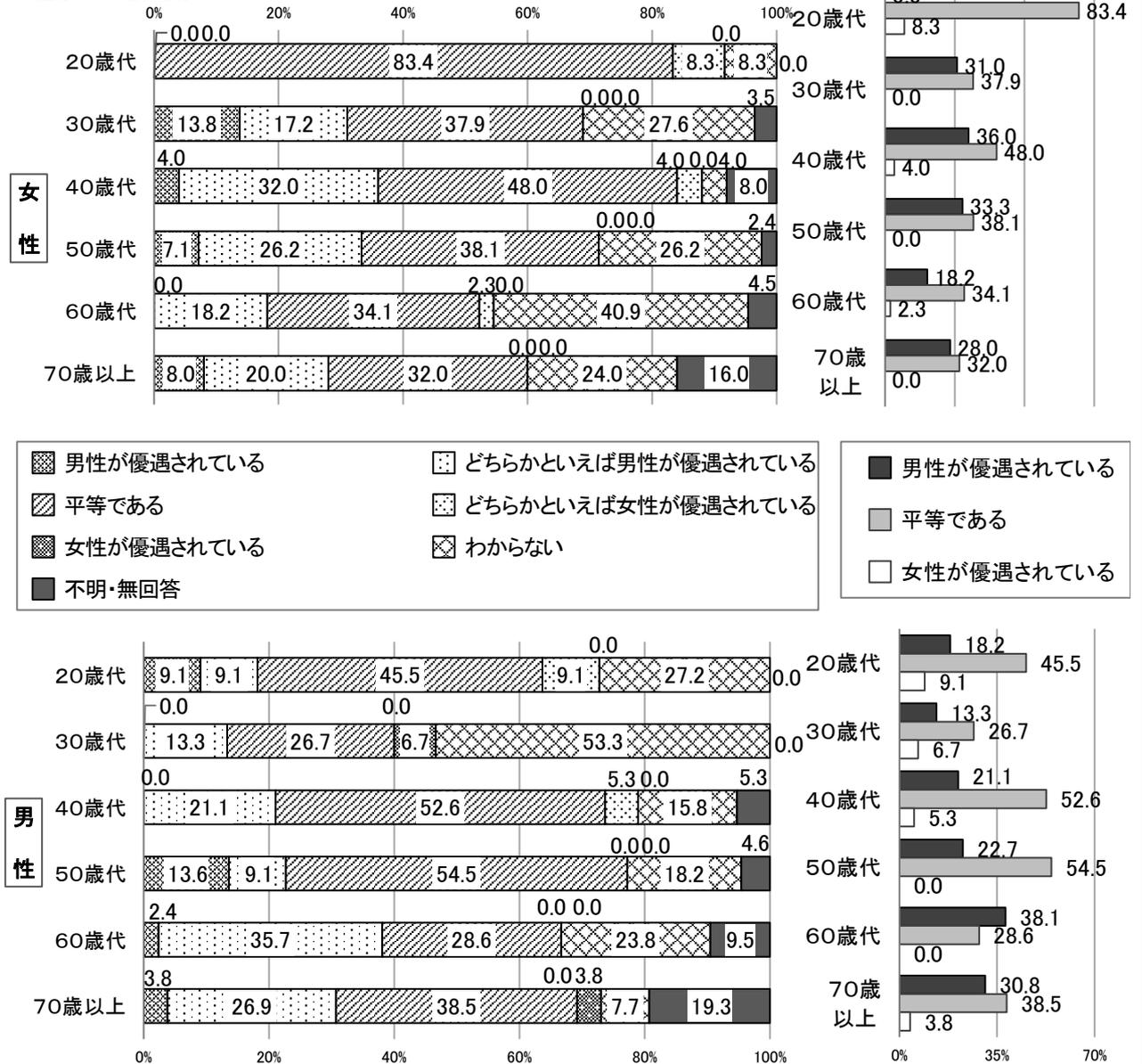


図1-4-2 分野別にみた男女の地位の平等感(4)学校教育の場では(性別×年齢層別)



「学校教育の場」では、いずれの年代においても男女ともに「平等である」という割合が高い。
 これは、学校教育が以前から男女は平等であるという考えのもとに教科内容（男性も家庭科を学ぶ）や出席名簿を男女混合にするなど、学校生活全般にわたり具体的に取り組んできた成果が表れているのではないかとと思われる。

(5) 社会通念・慣習・しきたりなどでは

1) 性別及び年齢層別特徴

表1-5

上段:(人) 下段:(%)

問1 分野別にみた男女 の地位の平等感	(5)社会通念・慣習しきたりなどでは								い男 性が優 遇され て	平 等 で あ る	い女 性が優 遇され て	
	回 答 数	い男 性が 優 遇 さ れ て	い男 ど ち が ら 優 か と い え ば	平 等 で あ る	い女 ど ち が ら 優 か と い え ば	い女 性 が 優 遇 さ れ て	わ か ら な い	不 明 ・ 無 回 答				
全 体	342 100.0	81 23.7	166 48.5	40 11.7	1 0.3	3 0.9	37 10.8	14 4.1	247 72.2	40 11.7	4 1.2	
性 別	女 性	202 100.0	56 27.7	102 50.5	15 7.4	0 0.0	1 0.5	19 9.4	9 4.5	158 78.2	15 7.4	1 0.5
	男 性	135 100.0	24 17.8	62 45.9	24 17.8	1 0.7	2 1.5	17 12.6	5 3.7	86 63.7	24 17.8	3 2.2
	女性・男性に あてはまらない	3 100.0	1 33.3	2 66.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3 100.0	0 0.0	0 0.0
	不明・無回答	2 100.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0
	性別(女性)・ 年齢	20歳代	12 100.0	0 0.0	8 66.7	1 8.3	0 0.0	1 8.3	2 16.7	0 0.0	8 66.7	1 8.3
	30歳代	29 100.0	10 34.5	14 48.3	1 3.4	0 0.0	0 0.0	4 13.8	0 0.0	24 82.8	1 3.4	0 0.0
	40歳代	25 100.0	6 24.0	15 60.0	1 4.0	0 0.0	0 0.0	2 8.0	1 4.0	21 84.0	1 4.0	0 0.0
	50歳代	42 100.0	16 38.1	18 42.9	4 9.5	0 0.0	0 0.0	3 7.1	1 2.4	34 81.0	4 9.5	0 0.0
	60歳代	44 100.0	10 22.7	28 63.6	2 4.6	0 0.0	0 0.0	4 9.1	0 0.0	38 86.3	2 4.6	0 0.0
	70歳以上	50 100.0	14 28.0	19 38.0	6 12.0	0 0.0	0 0.0	4 8.0	7 14.0	33 66.0	6 12.0	0 0.0
性 別 (男性) ・ 年齢	20歳代	11 100.0	1 9.1	3 27.3	3 27.3	0 0.0	1 9.1	2 18.1	1 9.1	4 36.4	3 27.3	1 9.1
	30歳代	15 100.0	3 20.0	3 20.0	1 6.7	1 6.7	1 6.7	6 40.0	0 0.0	6 40.0	1 6.7	2 13.4
	40歳代	19 100.0	5 26.3	7 36.8	6 31.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 5.3	12 63.1	6 31.6	0 0.0
	50歳代	22 100.0	6 27.3	10 45.4	2 9.1	0 0.0	0 0.0	4 18.2	0 0.0	16 72.7	2 9.1	0 0.0
	60歳代	42 100.0	6 14.3	24 57.1	8 19.0	0 0.0	0 0.0	2 4.8	2 4.8	30 71.4	8 19.0	0 0.0
	70歳以上	26 100.0	3 11.5	15 57.7	4 15.4	0 0.0	0 0.0	3 11.5	1 3.9	18 69.2	4 15.4	0 0.0
あ て は ま ら な い	50歳代	2 100.0	1 50.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 100.0	0 0.0	0 0.0
	70歳以上	1 100.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0
無 回 答 ・	60歳代	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	70歳以上	1 100.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0

*「男性が優遇されている」・「男性が優遇されている」と「どちらかといえば男性が優遇されている」の合計

*「女性が優遇されている」・「女性が優遇されている」と「どちらかといえば女性が優遇されている」の合計

図1-5-1 分野別にみた男女の地位の平等感(5)社会通念・慣習しきたりなどでは(性別)

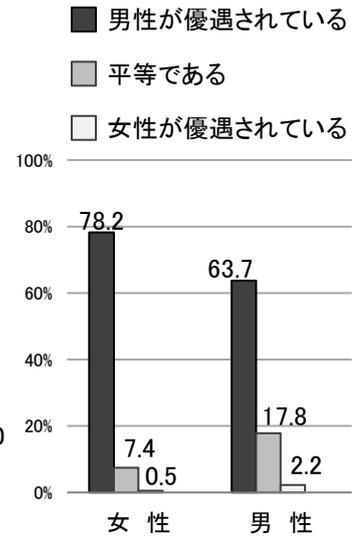
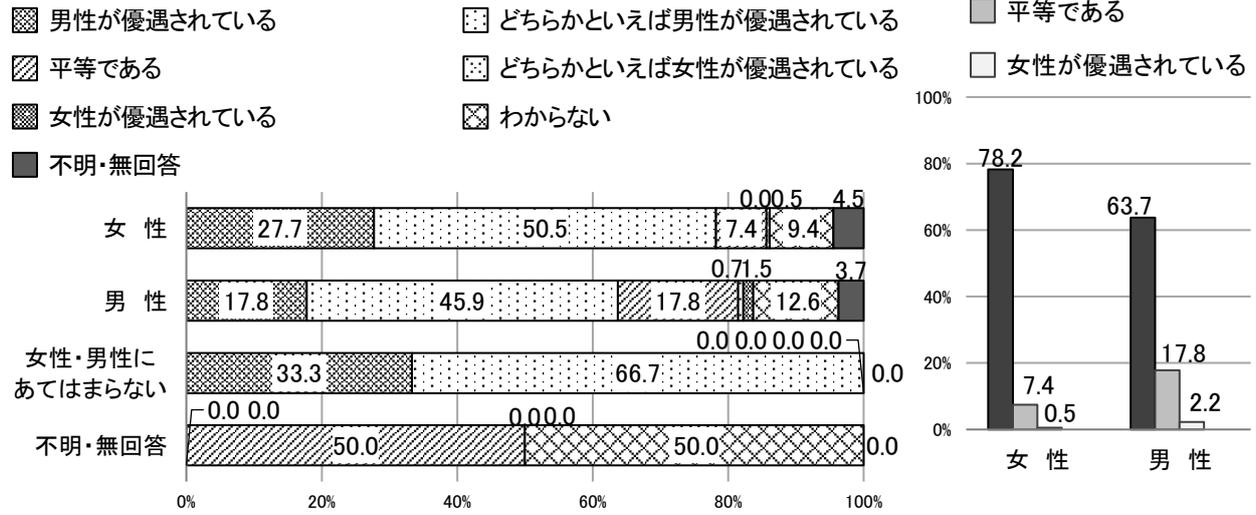
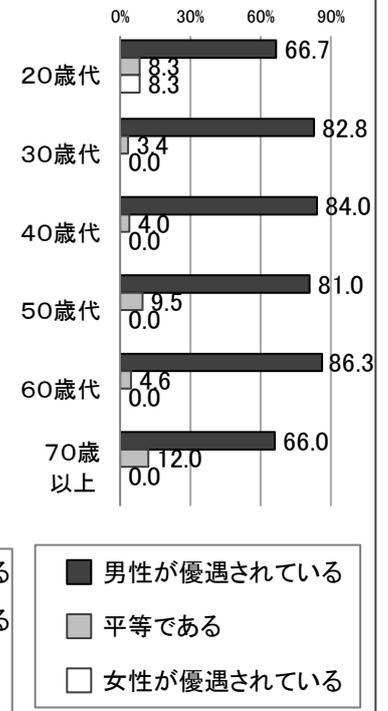
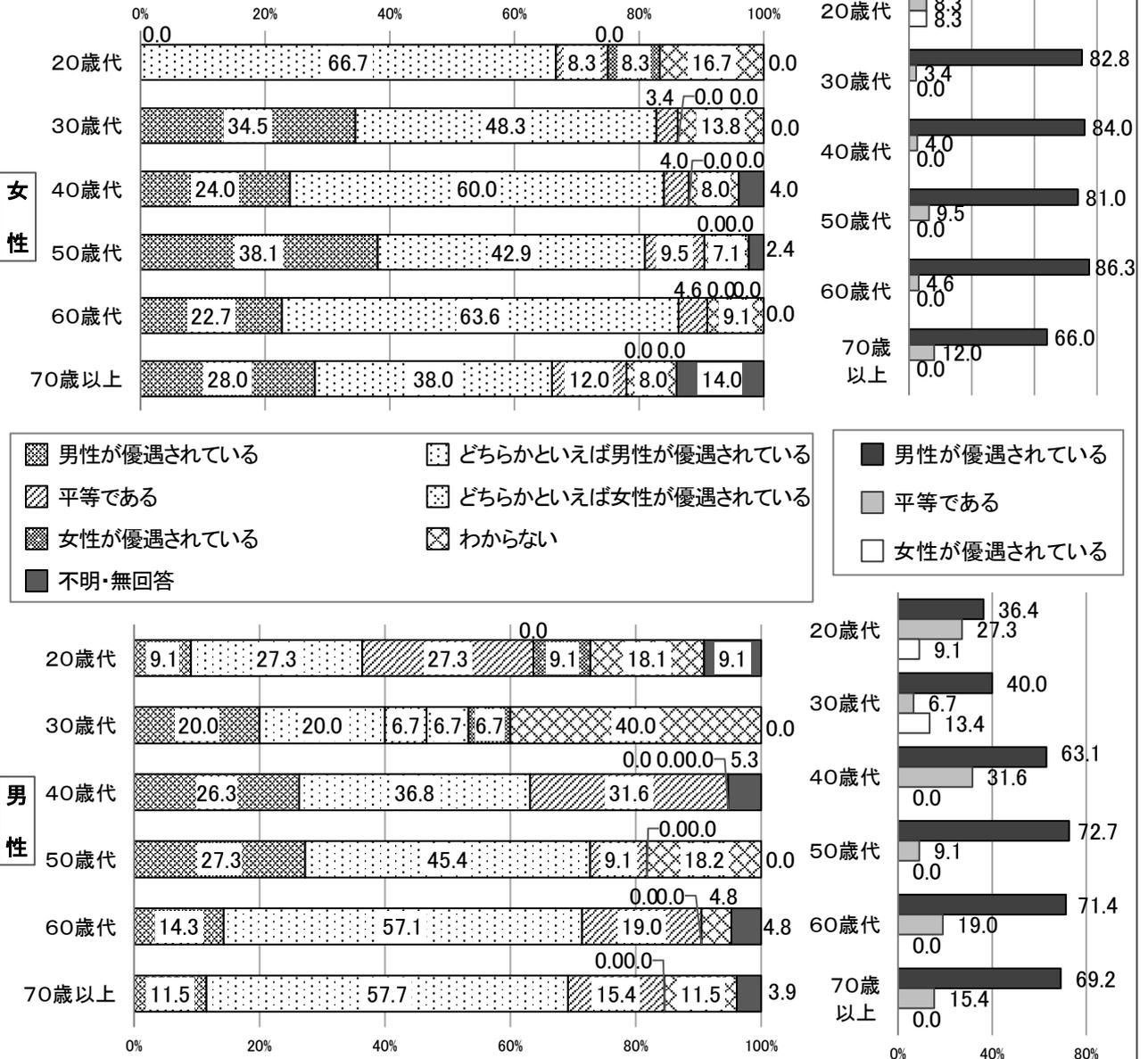


図1-5-2 分野別にみた男女の地位の平等感(5)社会通念・慣習しきたりなどでは(性別×年齢層別)



「社会通念・慣習しきたり」では、性別・年代ともに「男性が優遇されている」という割合が高い。

祭における女性の立場（神輿を担がせない、山車に乗せないなど）、あるいは地域の活動において、接待を女性にだけ任せて来た部分が多いことなど具体的に変えていく必要がある。

(6) 地域活動の場では（PTA や町内会等）

1) 性別及び年齢層別特徴

表1-6

上段：(人) 下段：(%)

問1 分野別にみた男女 の地位の平等感	(6)地域活動の場では(PTAや町内会等)								い男 性が優 遇され て	平 等 で あ る	い女 性が優 遇され て	
	回 答 数	い男 性が 優 遇 され て	い男 ど ち が ら 優 か と い え ば	平 等 で あ る	い女 ど ち が ら 優 か と い え ば	い女 性が 優 遇 され て	わ か ら な い	不 明 ・ 無 回 答				
全 体	342 100.0	31 9.1	112 32.7	96 28.1	10 2.9	0 0.0	75 21.9	18 5.3	143 41.8	96 28.1	10 2.9	
性 別	女 性	202 100.0	18 8.9	76 37.6	49 24.3	4 2.0	0 0.0	44 21.8	11 5.4	94 46.5	49 24.3	4 2.0
	男 性	135 100.0	13 9.6	35 25.9	46 34.1	5 3.7	0 0.0	30 22.2	6 4.5	48 35.5	46 34.1	5 3.7
	女性・男性に あてはまらない	3 100.0	0 0.0	1 33.3	1 33.3	0 0.0	0 0.0	1 33.3	0 0.0	1 33.3	1 33.3	0 0.0
	不明・無回答	2 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0
	性別（女性）・ 年齢											
20歳代	12 100.0	0 0.0	2 16.7	6 50.0	0 0.0	0 0.0	4 33.3	0 0.0	2 16.7	6 50.0	0 0.0	
30歳代	29 100.0	5 17.3	8 27.6	7 24.1	0 0.0	0 0.0	9 31.0	0 0.0	13 44.9	7 24.1	0 0.0	
40歳代	25 100.0	2 8.0	10 40.0	4 16.0	3 12.0	0 0.0	4 16.0	2 8.0	12 48.0	4 16.0	3 12.0	
50歳代	42 100.0	6 14.3	19 45.2	7 16.7	0 0.0	0 0.0	9 21.4	1 2.4	25 59.5	7 16.7	0 0.0	
60歳代	44 100.0	0 0.0	20 45.4	15 34.1	1 2.3	0 0.0	8 18.2	0 0.0	20 45.4	15 34.1	1 2.3	
70歳以上	50 100.0	5 10.0	17 34.0	10 20.0	0 0.0	0 0.0	10 20.0	8 16.0	22 44.0	10 20.0	0 0.0	
性 別 （ 男 性 ） ・ 年 齢	20歳代	11 100.0	1 9.1	0 0.0	5 45.5	1 9.1	0 0.0	3 27.2	1 9.1	1 9.1	5 45.5	1 9.1
	30歳代	15 100.0	0 0.0	1 6.7	5 33.3	1 6.7	0 0.0	8 53.3	0 0.0	1 6.7	5 33.3	1 6.7
	40歳代	19 100.0	2 10.5	3 15.8	10 52.6	1 5.3	0 0.0	2 10.5	1 5.3	5 26.3	10 52.6	1 5.3
	50歳代	22 100.0	4 18.2	8 36.4	4 18.2	0 0.0	0 0.0	6 27.2	0 0.0	12 54.6	4 18.2	0 0.0
	60歳代	42 100.0	3 7.1	15 35.7	14 33.3	1 2.4	0 0.0	7 16.7	2 4.8	18 42.8	14 33.3	1 2.4
	70歳以上	26 100.0	3 11.5	8 30.8	8 30.8	1 3.8	0 0.0	4 15.4	2 7.7	11 42.3	8 30.8	1 3.8
	あてはま らない											
50歳代	2 100.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	
70歳以上	1 100.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	
無 回 答 ・ 不 明	60歳代	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	70歳以上	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0

*「男性が優遇されている」・「男性が優遇されている」と「どちらかといえば男性が優遇されている」の合計

*「女性が優遇されている」・「女性が優遇されている」と「どちらかといえば女性が優遇されている」の合計

図1-6-1 分野別にみた男女の地位の平等感 (6)地域活動の場では (PTAや町内会等)(性別)

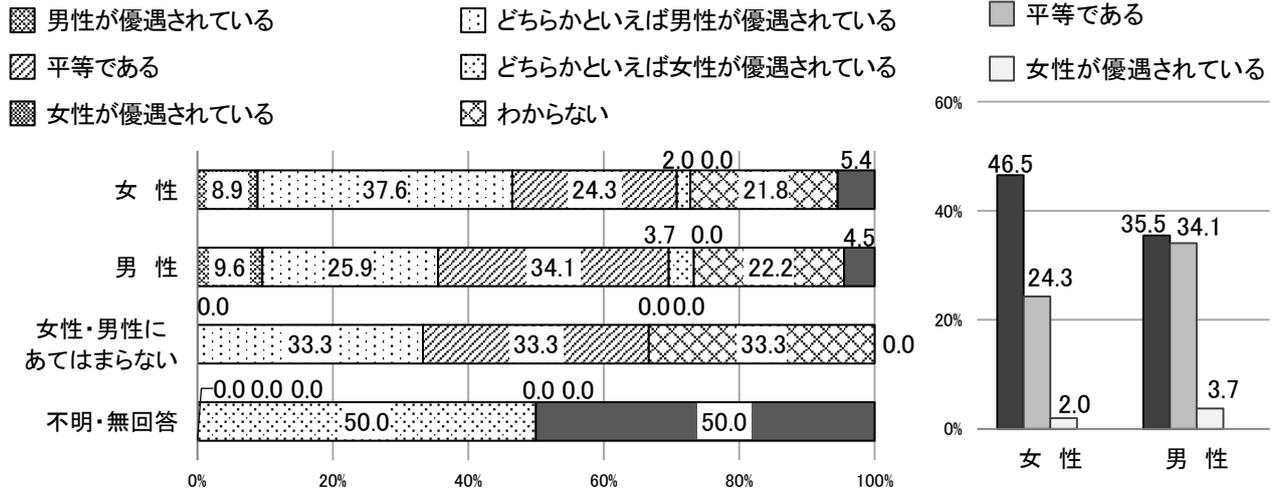
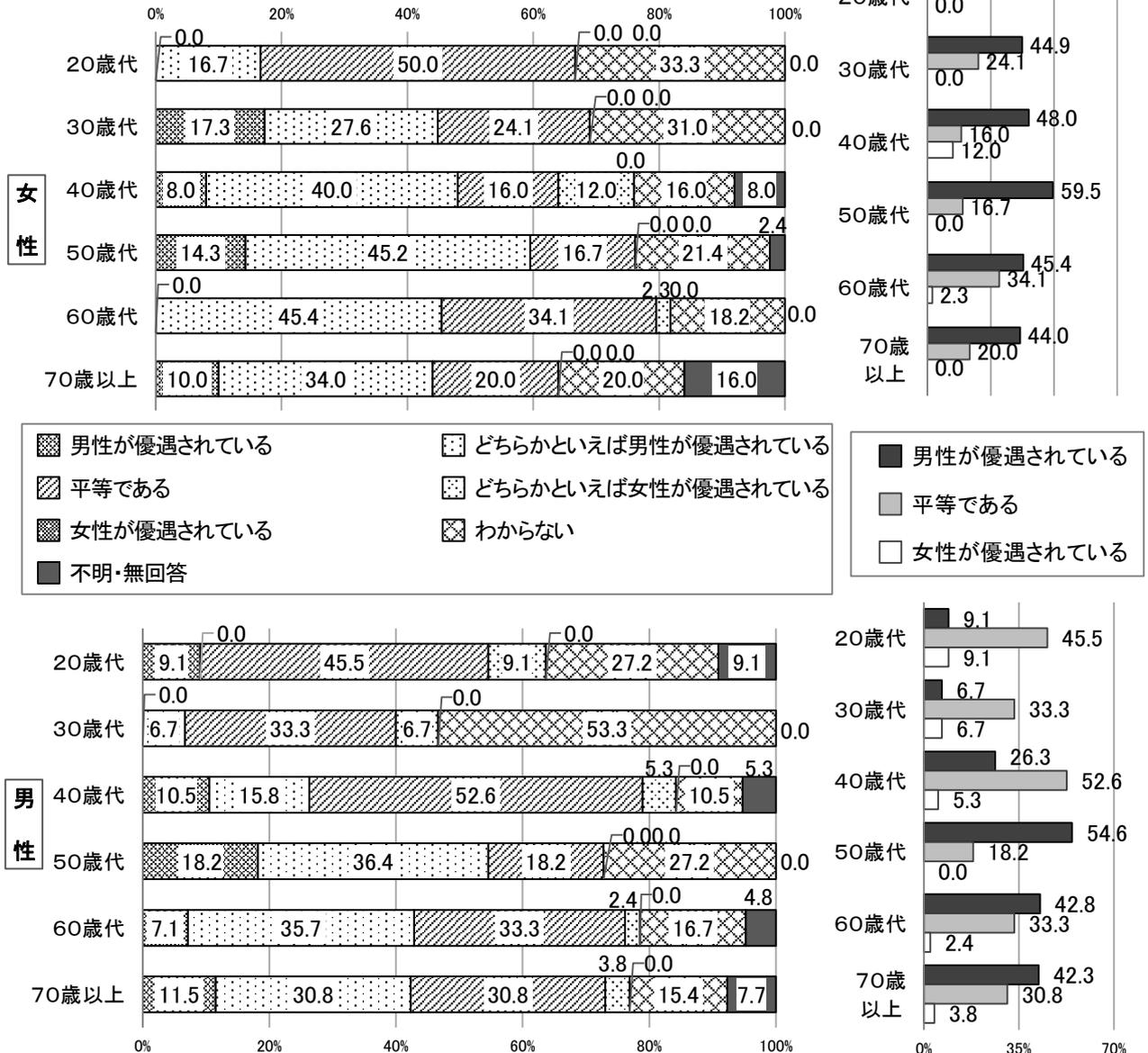


図1-6-2 分野別にみた男女の地位の平等感 (6)地域活動の場では (PTAや町内会等)(性別×年齢層別)



「地域活動の場では(P T Aや町内会等)」において、性別では女性は「男性が優遇されている」(46.5%)が「平等である」(24.3%)を上回っているが、男性は「男性が優遇されている」(35.5%)と「平等である」(34.1%)はほぼ同じ割合である。性別と年代別の関係でみると、回答数は少ないが20歳代~40歳代の男性と20歳代の女性は「平等である」という考えが上回っているが、全体的に「男性が優遇されている」という割合が高い。

これは、そのような活動の場に出るのは男性であるという意識がまだ強いことと、女性の参加機会が少ないことに加え、家庭内においても女性が役職に就くことを依頼された場合に、家族から反対される、あるいは家族の協力が得られないなどの理由が考えられるのではないかと思われる。

問2 性別役割分担意識について

「男は仕事、女は家庭」という考え方について、あなたはどのように思いますか。(○は1つ)

1) 全体、性別及び年齢層別特徴

表2-1

上段:実数(人) 下段:割合(%)

問2 「男は仕事、女は家庭」という性別 役割分担意識について		回答数	そう 思う	そ ど ち ら か と い え ば	そ ど ち ら か と い え ば	そ う 思 わ な い	不 明 ・ 無 回 答	そ う 思 う	そ う 思 わ な い
全 体		342	8	80	70	174	10	88	244
		100.0	2.3	23.4	20.5	50.9	2.9	25.7	71.4
性 別	女 性	202	2	41	42	112	5	43	154
		100.0	1.0	20.3	20.8	55.4	2.5	21.3	76.2
	男 性	135	5	38	27	60	5	43	87
		100.0	3.7	28.1	20.0	44.4	3.8	31.8	64.4
	女性・男性に あてはまらない	3	0	1	0	2	0	1	2
	100.0	0.0	33.3	0.0	66.7	0.0	33.3	66.7	
	不明・無回答	2	1	0	1	0	0	1	1
		100.0	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	50.0	50.0
性 別 (女 性) ・ 年 齢	20歳代	12	0	2	1	9	0	2	10
		100.0	0.0	16.7	8.3	75.0	0.0	16.7	83.3
	30歳代	29	0	4	4	21	0	4	25
		100.0	0.0	13.8	13.8	72.4	0.0	13.8	86.2
	40歳代	25	1	3	8	13	0	4	21
		100.0	4.0	12.0	32.0	52.0	0.0	16.0	84.0
	50歳代	42	1	11	6	24	0	12	30
	100.0	2.4	26.2	14.3	57.1	0.0	28.6	71.4	
60歳代	44	0	10	14	18	2	10	32	
	100.0	0.0	22.7	31.8	40.9	4.6	22.7	72.7	
70歳以上	50	0	11	9	27	3	11	36	
	100.0	0.0	22.0	18.0	54.0	6.0	22.0	72.0	
性 別 (男 性) ・ 年 齢	20歳代	11	1	4	1	5	0	5	6
		100.0	9.1	36.4	9.1	45.4	0.0	45.5	54.5
	30歳代	15	1	2	5	7	0	3	12
		100.0	6.7	13.3	33.3	46.7	0.0	20.0	80.0
	40歳代	19	0	6	6	6	1	6	12
		100.0	0.0	31.6	31.6	31.6	5.2	31.6	63.2
	50歳代	22	1	7	6	8	0	8	14
	100.0	4.5	31.8	27.3	36.4	0.0	36.3	63.7	
60歳代	42	1	7	8	22	4	8	30	
	100.0	2.4	16.7	19.0	52.4	9.5	19.1	71.4	
70歳以上	26	1	12	1	12	0	13	13	
	100.0	3.8	46.2	3.8	46.2	0.0	50.0	50.0	
女 性 ・ 男 性 に あ て は ま ら な い に あ る	50歳代	2	0	0	0	2	0	0	2
		100.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0
70歳以上	1	0	1	0	0	0	1	0	
	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	
不 明 ・ 無 回 答	60歳代	1	1	0	0	0	0	1	0
		100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
70歳以上	1	0	0	1	0	0	0	1	
	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0	

*「そう思う」・「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計 *「そう思わない」・「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」の合計

図2-1 「男は仕事、女は家庭」という性別役割分担意識(全体)

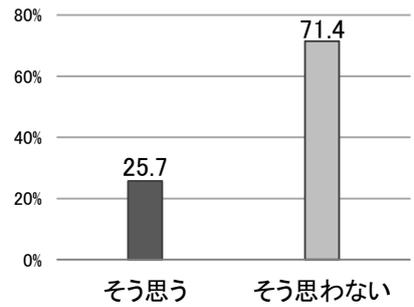
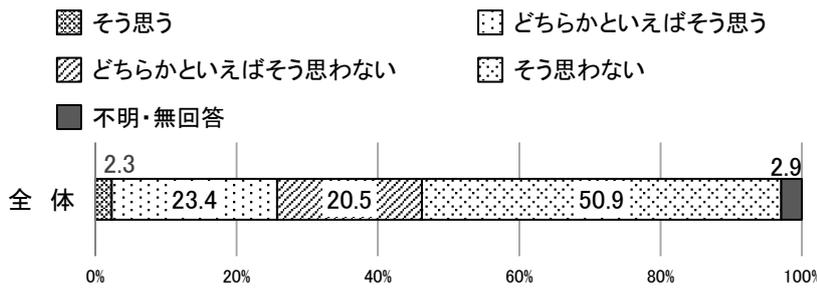
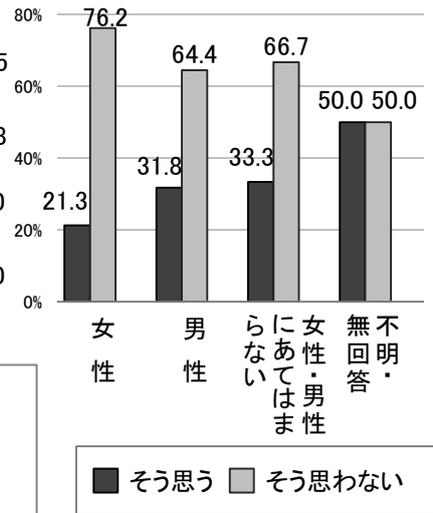
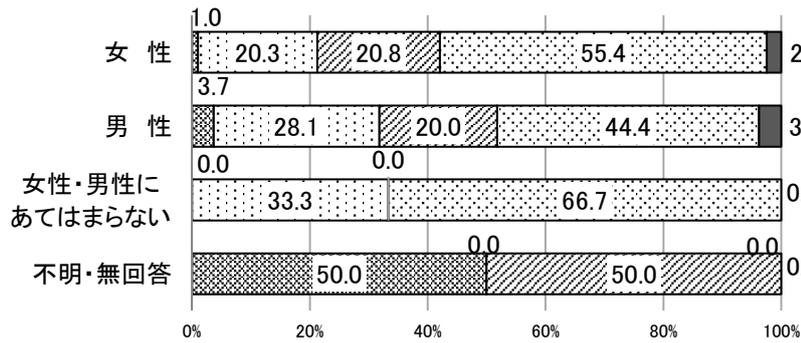
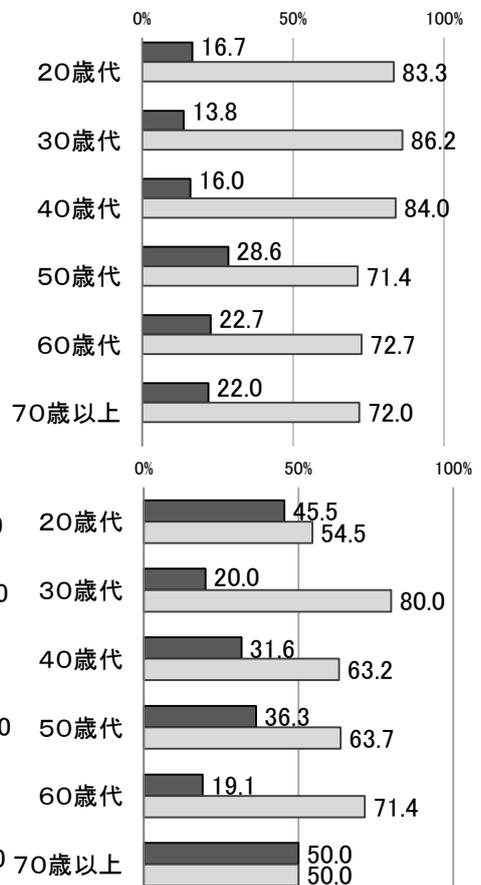
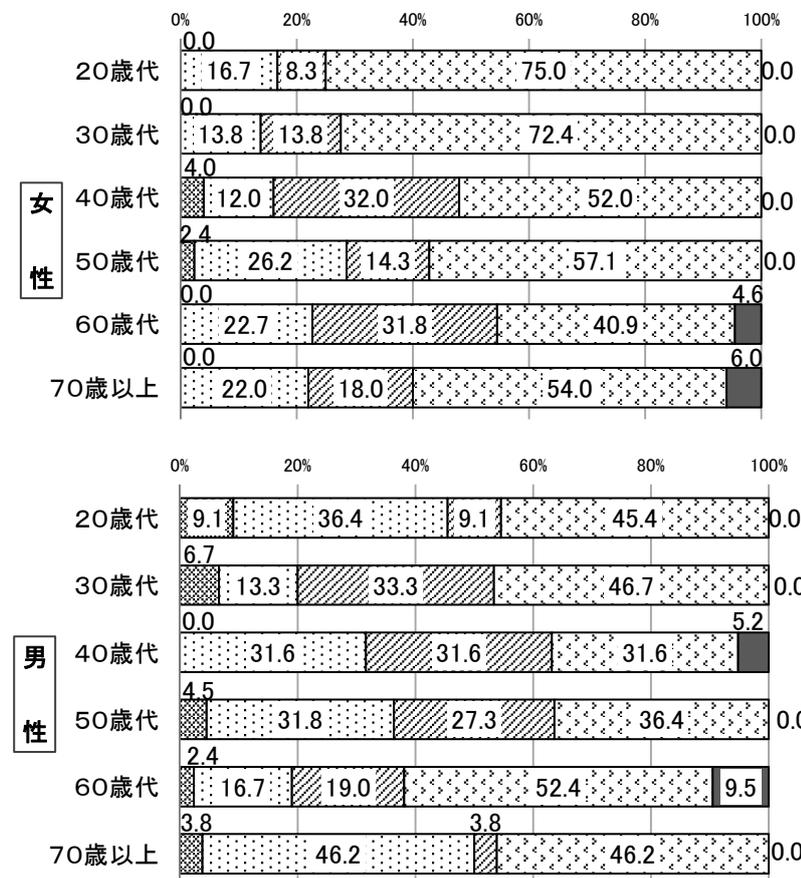


図2-2 「男は仕事、女は家庭」という性別役割分担意識(性別)



(性別×年齢層別)



『男は仕事、女は家庭』という性別役割分担意識については、全体では性別やどの年代でも「そう
 思わない」という割合が高い。

ただし、このような結果であっても、現実には問1の回答結果に見られるように日常生活で性別役割
 分担意識はまだ残っており、意識して改善する努力なしにはいつまでも理想と現実のギャップは縮まら
 ないと思われる。

2) 配偶関係の特徴

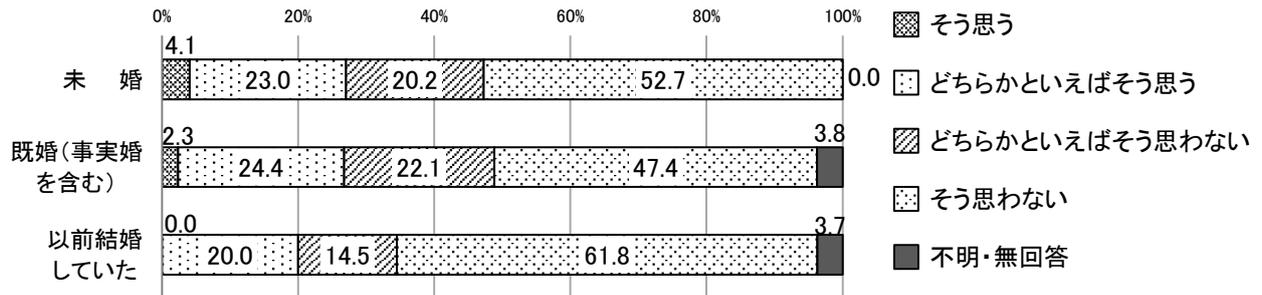
表2-2

上段: 実数(人) 下段: 割合(%)

問2 「男は仕事、女は 家庭」という性別役割 分担意識について		回 答 数	そ う 思 う	そ ど ち ら か と い え ば	そ ど ち ら か と い え ば	そ う 思 わ な い	不 明 ・ 無 回 答	そ う 思 う	そ う 思 わ な い
全 体		342 100.0	8 2.3	80 23.4	70 20.5	174 50.9	10 2.9	88 25.7	244 71.3
配 偶 関 係	未 婚	74 100.0	3 4.1	17 23.0	15 20.2	39 52.7	0 0.0	20 27.1	54 72.9
	既 婚 (事実婚を含む)	213 100.0	5 2.3	52 24.4	47 22.1	101 47.4	8 3.8	57 26.7	148 69.5
	以前結婚 していた	55 100.0	0 0.0	11 20.0	8 14.5	34 61.8	2 3.7	11 20.0	42 76.3
女性全体		202 100.0	2 1.0	41 20.3	42 20.8	112 55.4	5 2.5	43 21.3	154 76.2
配 偶 関 係 (女 性)	未 婚	34 100.0	1 2.9	5 14.7	5 14.7	23 67.7	0 0.0	6 17.6	28 82.4
	既 婚 (事実婚を含む)	128 100.0	1 0.8	27 21.1	30 23.4	65 50.8	5 3.9	28 21.9	95 74.2
	以前結婚 していた	40 100.0	0 0.0	9 22.5	7 17.5	24 60.0	0 0.0	9 22.5	31 77.5
男性全体		135 100.0	5 3.7	38 28.1	27 20.0	60 44.5	5 3.7	43 31.8	87 64.5
配 偶 関 係 (男 性)	未 婚	39 100.0	1 2.6	12 30.8	10 25.6	16 41.0	0 0.0	13 33.4	26 66.6
	既 婚 (事実婚を含む)	81 100.0	4 4.9	24 29.6	16 19.8	34 42.0	3 3.7	28 34.5	50 61.8
	以前結婚 していた	15 100.0	0 0.0	2 13.3	1 6.7	10 66.7	2 13.3	2 13.3	11 73.4
女性・男性に あてはまらない全体		3 100.0	0 0.0	1 33.3	0 0.0	2 66.7	0 0.0	1 33.3	2 66.7
配 偶 関 係 別	既 婚 (事実婚を含む)	3 100.0	0 0.0	1 33.3	0 0.0	2 66.7	0 0.0	1 33.3	2 66.7
不明・無回答		2 100.0	1 50.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	1 50.0
無 回 答 ・ 不 明	未 婚	1 100.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0
	既 婚 (事実婚を含む)	1 100.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0

*「そう思う」・「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計 *「そう思わない」・「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」の合計

問2-3 「男は仕事、女は家庭」という性別役割分担意識(配偶関係別)



(性別×配偶関係別)

女性

男性

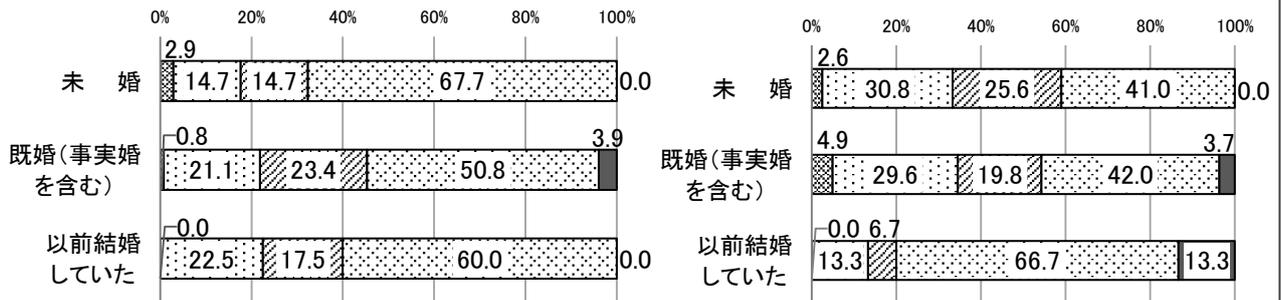
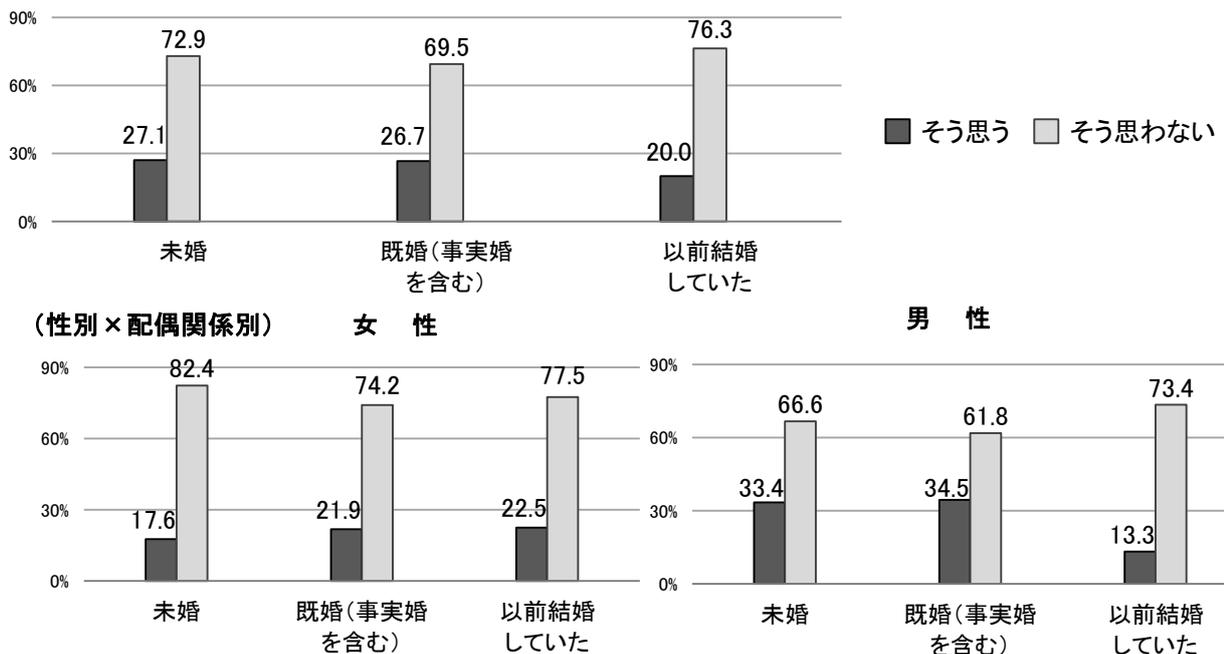


図2-4 「男は仕事、女は家庭」という性別役割分担意識(配偶関係別)



『男は仕事、女は家庭』という性別役割分担意識を「配偶関係」で見ると、未婚・既婚ともに「そう思わない」の割合が高い。また、「性別」と「配偶関係別」に関しても、女性と男性の数値の差はあるものの「そう思わない」の割合が高い。

3) 共働きの有無の特徴

表2-3

上段:実数(人) 下段:割合(%)

問2 「男は仕事、女は家庭」という性別役割分担意識について		回答数	そう思う	どちらかといえば	どちらかといえば	そう思わない	不明・無回答	そう思う	そう思わない
全体		213	5	52	47	101	8	57	148
既婚(事実婚含む)		100.0	2.3	24.4	22.1	47.4	3.8	26.7	69.5
共働きの有無	共働きである	101	3	29	19	49	1	32	68
	共働きでない	102	2	23	25	45	7	25	70
	不明・無回答	10	0	0	3	7	0	0	10
		100.0	0.0	0.0	30.0	70.0	0.0	0.0	100.0
既婚女性全体		128	1	27	30	65	5	28	95
		100.0	0.8	21.1	23.4	50.8	3.9	21.9	74.2
共働きの有無(女性)	共働きである	61	1	17	10	32	1	18	42
	共働きでない	59	0	10	17	28	4	10	45
	不明・無回答	8	0	0	3	5	0	0	8
		100.0	0.0	0.0	37.5	62.5	0.0	0.0	100.0
既婚男性全体		81	4	24	16	34	3	28	50
		100.0	4.9	29.6	19.8	42.0	3.7	34.5	61.8
共働きの有無(男性)	共働きである	38	2	12	9	15	0	14	24
	共働きでない	41	2	12	7	17	3	14	24
	不明・無回答	2	0	0	0	2	0	0	2
		100.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0
女性・男性に あてはまらない全体		3	0	1	0	2	0	1	2
		100.0	0.0	33.3	0.0	66.7	0.0	33.3	66.7
共働きの有無(性別別)	共働きである	2	0	0	0	2	0	0	2
	共働きでない	1	0	1	0	0	0	1	0
		100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
不明・無回答		1	0	0	1	0	0	0	1
		100.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0
共働きの有無	共働きでない	1	0	0	1	0	0	0	1
		100.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0

*「そう思う」・「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計 *「そう思わない」・「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」の合計

図2-5 「男は仕事、女は家庭」という性別役割分担意識(共働きの有無別)

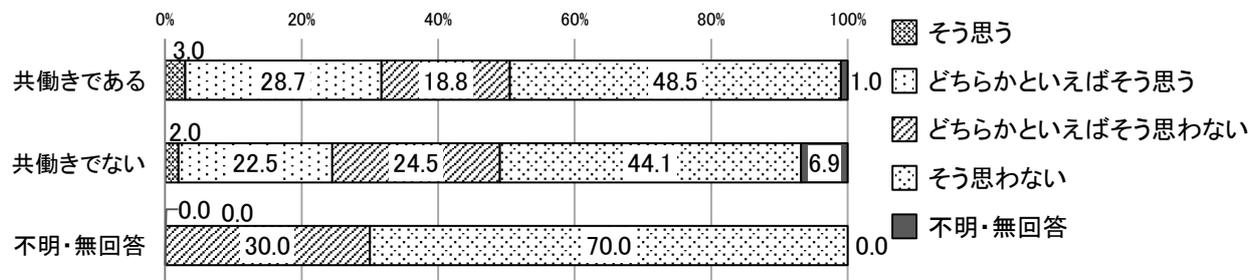


図2-6 「男は仕事、女は家庭」という性別役割分担意識(性別 × 共働きの有無別)

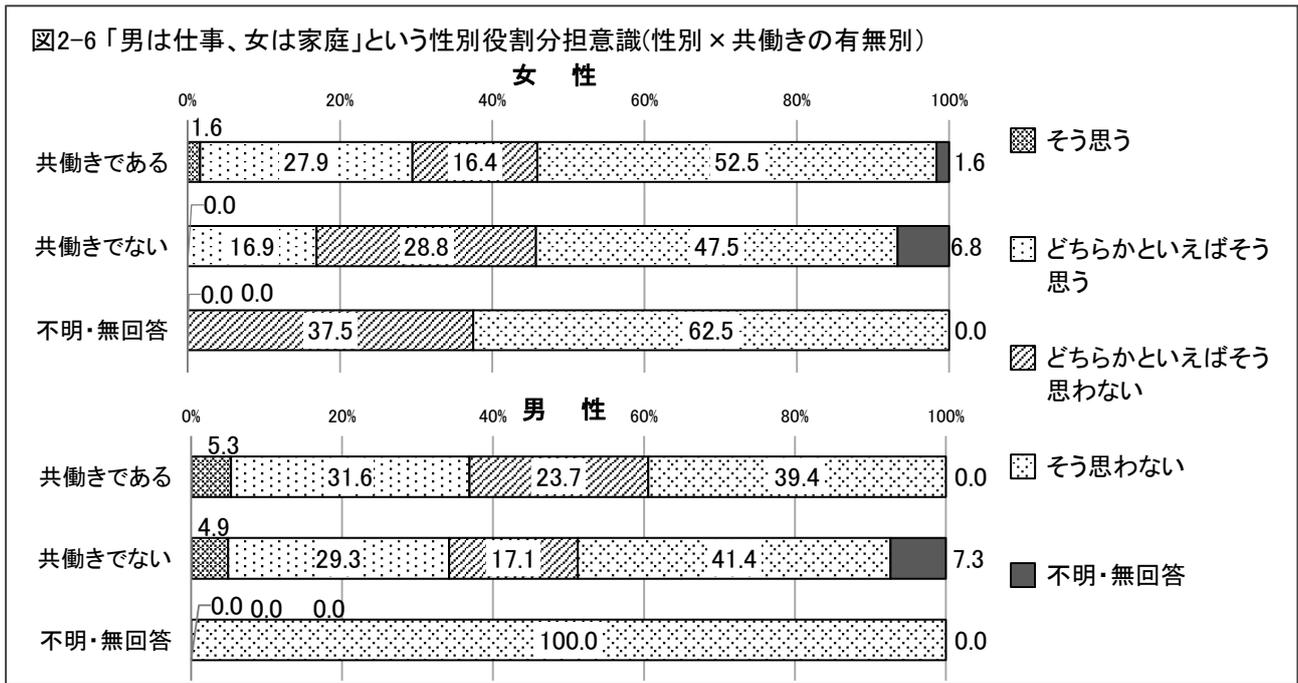
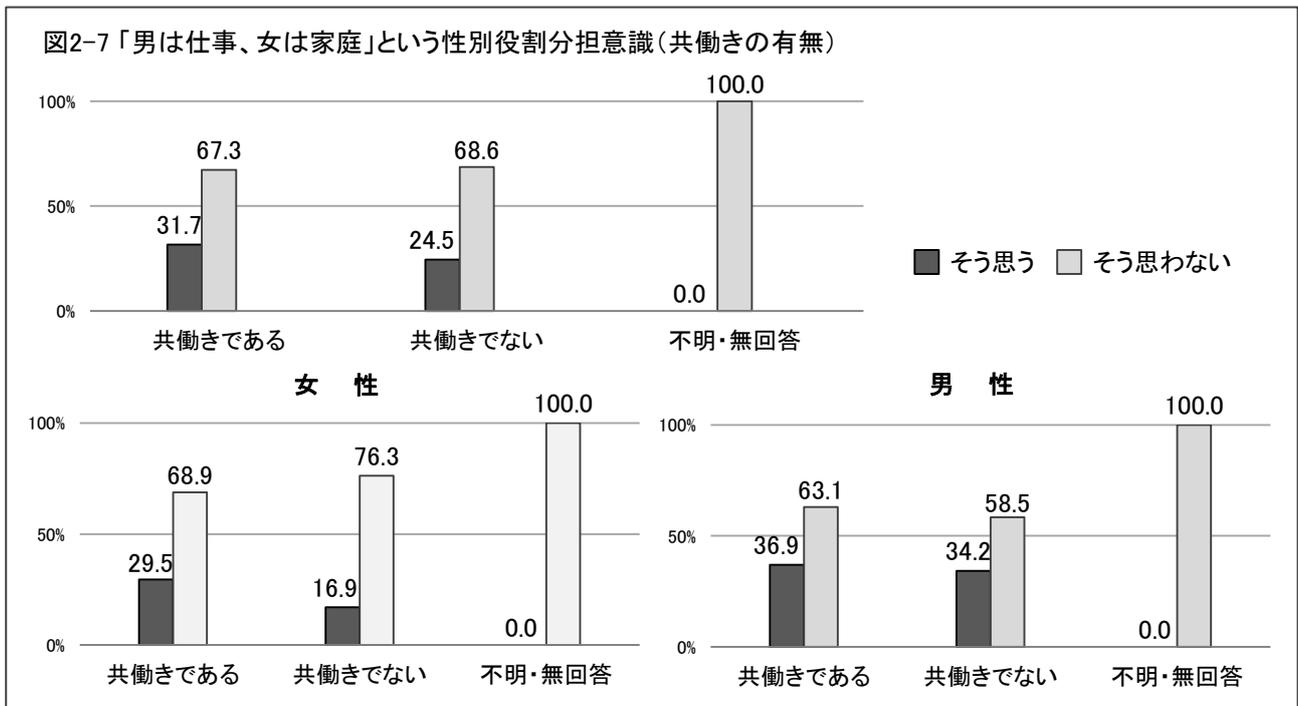


図2-7 「男は仕事、女は家庭」という性別役割分担意識(共働きの有無)



「共働きの有無別」を見ても、男女ともに「男は仕事、女は家庭」という性別役割分担意識を「そう思わない」と回答した割合が高い。しかし、現実の生活場面では必ずしもそうっておらず、現実のものとしていく取り組みが必要であると思われる。

4) 子どもの有無の特徴

表2-4

上段:実数(人) 下段:割合(%)

問2 「男は仕事、女は 家庭」という性別役割 分担意識について		回答 数	そう 思う	そう どちら かとい えば	そう どちら かわか ない えば	そう 思わ ない	不 明・ 無 回 答	そう 思う	そう 思わ ない
全 体		342 100.0	8 2.3	80 23.4	70 20.5	174 50.9	10 2.9	88 25.7	244 71.4
子 ど も の 有 無	い る	239 100.0	5 2.1	58 24.3	50 20.9	118 49.4	8 3.3	63 26.4	168 70.3
		97 100.0	3 3.1	22 22.7	19 19.6	51 52.6	2 2.0	25 25.8	70 72.2
	不明・無回答	6 100.0	0 0.0	0 0.0	1 16.7	5 83.3	0 0.0	0 0.0	6 100.0
女性全体		202 100.0	2 1.0	41 20.3	42 20.8	112 55.4	5 2.5	43 21.3	154 76.2
子 性 別 も の 有 無 (女 性)	い る	147 100.0	1 0.7	32 21.8	33 22.4	77 52.4	4 2.7	33 22.5	110 74.8
		49 100.0	1 2.0	9 18.4	8 16.3	30 61.3	1 2.0	10 20.4	38 77.6
	不明・無回答	6 100.0	0 0.0	0 0.0	1 16.7	5 83.3	0 0.0	0 0.0	6 100.0
男性全体		135 100.0	5 3.7	38 28.1	27 20.0	60 44.4	5 3.7	43 31.8	87 64.4
子 性 別 も の 有 無 (男 性)	い る	88 100.0	4 4.5	25 28.4	16 18.2	39 44.3	4 4.5	29 32.9	55 62.5
		47 100.0	1 2.1	13 27.7	11 23.4	21 44.7	1 2.1	14 29.8	32 68.1
	不明・無回答	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
女性・男性に あてはまらない全体		3 100.0	0 0.0	1 33.3	0 0.0	2 66.7	0 0.0	1 33.3	2 66.7
子 性 別 も の 有 無 (子 性 別 無 も)	い る	3 100.0	0 0.0	1 33.3	0 0.0	2 66.7	0 0.0	1 33.3	2 66.7
		不明・無回答	2 100.0	1 50.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0
も 性 別 の 有 無 ・ 子 ど も	い ない	1 100.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0
		1 100.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0

*「そう思う」・「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計 *「そう思わない」・「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」の合計

図2-8 「男は仕事、女は家庭」という性別役割分担意識(子どもの有無別)

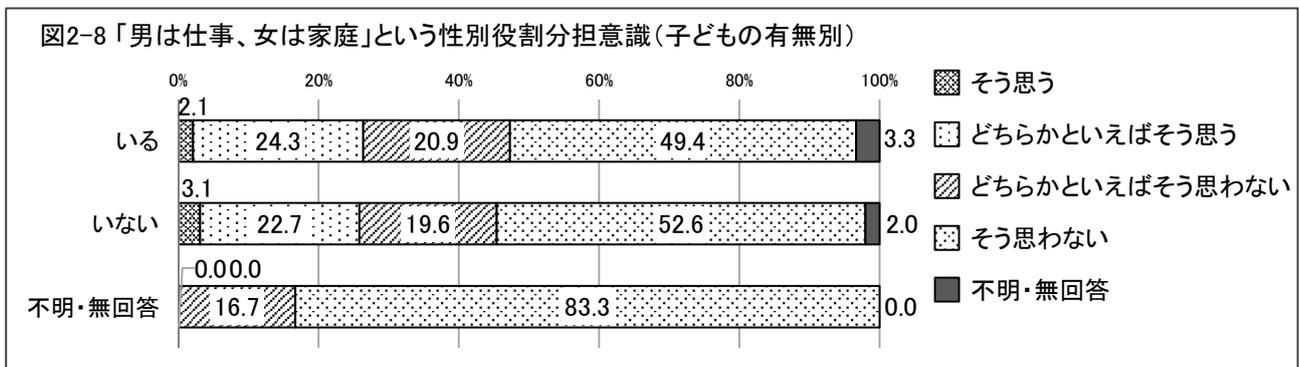


図2-9 「男は仕事、女は家庭」という性別役割分担意識(性別×子どもの有無別)

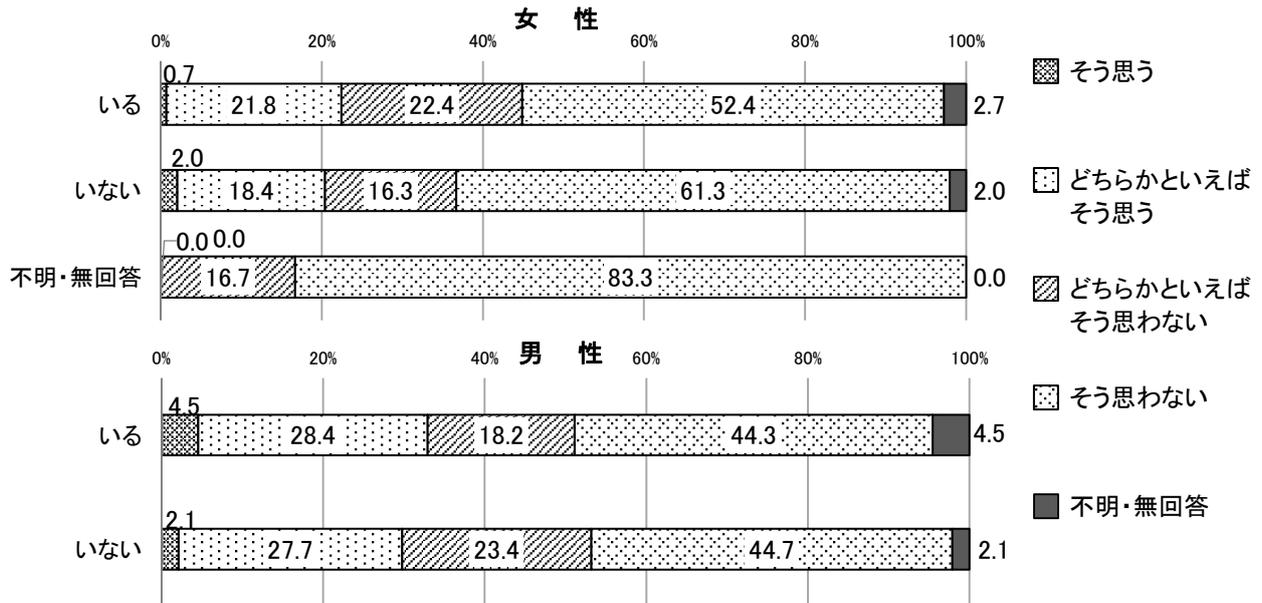
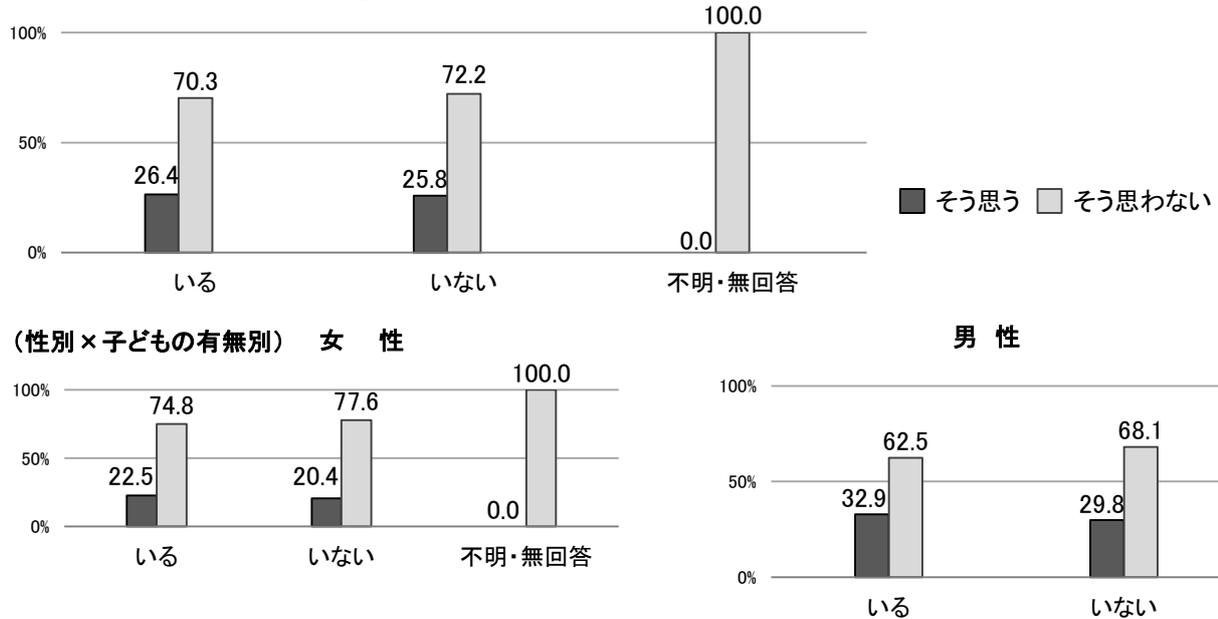


図2-10 「男は仕事、女は家庭」という性別役割分担意識(子どもの有無別)



「子どもの有無別」でも「男は仕事、女は家庭」という性別役割分担意識を「そう思わない」と回答した割合が高い。しかし、子どものいる家庭においてもまだ役割分担意識は解消されていない。これからは、意識を行動に移すためにどうすべきかを考える必要があると思われる。

問3 地域の役職や、まちの審議会などの委員就任依頼への対応

自治会（区長・組長）、PTA 会長など地域の役職や、まちの審議会や委員会の委員について、あなたが就任を依頼されたら引き受けますか。（○は1つ）

1) 全体、性別及び年齢層別特徴

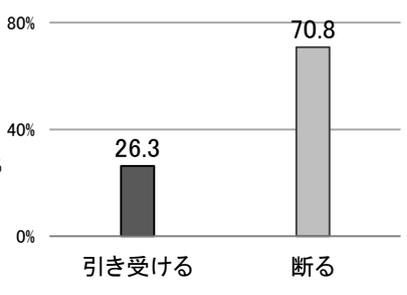
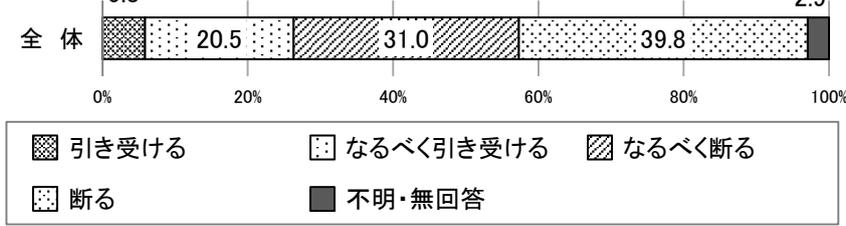
表3

上段:実数(人) 下段:割合(%)

問3 地域の役職や、まち の審議会などの委員 就任依頼への対応		回答 数	引き 受ける	引 きる 受 け る	な る べ く 断 る	断 る	不 明 ・ 無 回 答	引き 受ける	断 る
全 体		342	20	70	106	136	10	90	242
		100.0	5.8	20.5	31.0	39.8	2.9	26.3	70.8
性 別	女 性	202	7	36	63	90	6	43	153
		100.0	3.5	17.8	31.2	44.6	2.9	21.3	75.8
	男 性	135	12	34	41	44	4	46	85
		100.0	8.9	25.2	30.4	32.6	2.9	34.1	63.0
	女性・男性に あてはまらない	3	1	0	1	1	0	1	2
	100.0	33.3	0.0	33.3	33.3	0.0	33.3	66.6	
性 別 （ 女 性 ） ・ 年 齢	20歳代	12	0	3	3	6	0	3	9
		100.0	0.0	25.0	25.0	50.0	0.0	25.0	75.0
	30歳代	29	1	4	4	19	1	5	23
		100.0	3.4	13.8	13.8	65.6	3.4	17.2	79.4
	40歳代	25	0	5	6	13	1	5	19
		100.0	0.0	20.0	24.0	52.0	4.0	20.0	76.0
	50歳代	42	3	5	18	16	0	8	34
	100.0	7.1	11.9	42.9	38.1	0.0	19.0	81.0	
性 別 （ 男 性 ） ・ 年 齢	60歳代	44	2	11	15	15	1	13	30
		100.0	4.5	25.0	34.1	34.1	2.3	29.5	68.2
	70歳以上	50	1	8	17	21	3	9	38
		100.0	2.0	16.0	34.0	42.0	6.0	18.0	76.0
	10～20歳代	11	2	3	1	5	0	5	6
		100.0	18.2	27.3	9.1	45.4	0.0	45.5	54.5
性 別 （ 男 性 ） ・ 年 齢	30歳代	15	1	2	6	6	0	3	12
		100.0	6.7	13.3	40.0	40.0	0.0	20.0	80.0
	40歳代	19	2	4	6	6	1	6	12
		100.0	10.5	21.1	31.6	31.6	5.2	31.6	63.2
	50歳代	22	2	5	7	8	0	7	15
		100.0	9.1	22.7	31.8	36.4	0.0	31.8	68.2
あ て は ま ら な い	60歳代	42	3	14	13	9	3	17	22
		100.0	7.1	33.3	31.0	21.4	7.2	40.4	52.4
無 回 答 ・ 不 明	70歳以上	26	2	6	8	10	0	8	18
		100.0	7.7	23.1	30.8	38.4	0.0	30.8	69.2
あ て は ま ら な い	50歳代	2	0	0	1	1	0	0	2
		100.0	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	100.0
あ て は ま ら な い	70歳以上	1	1	0	0	0	0	1	0
		100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
無 回 答 ・ 不 明	60歳代	1	0	0	0	1	0	0	1
		100.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0
無 回 答 ・ 不 明	70歳以上	1	0	0	1	0	0	0	1
		100.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0

*「引き受ける」・「引き受ける」と「なるべく引き受ける」の合計 *「断る」・「断る」と「なるべく断る」の合計

図3-1 地域の役職や、まちの審議会などの委員就任依頼への対応
(全体)



(年齢層別)

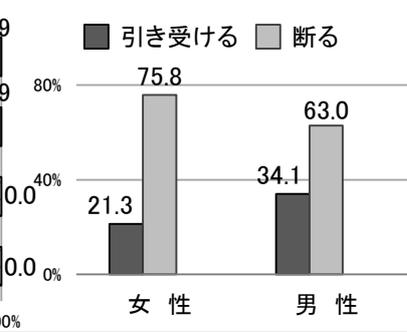
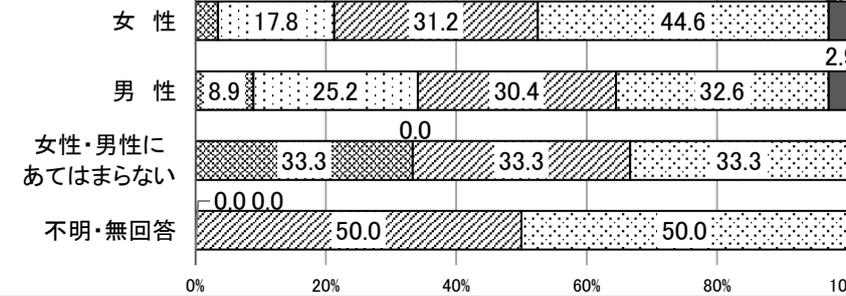
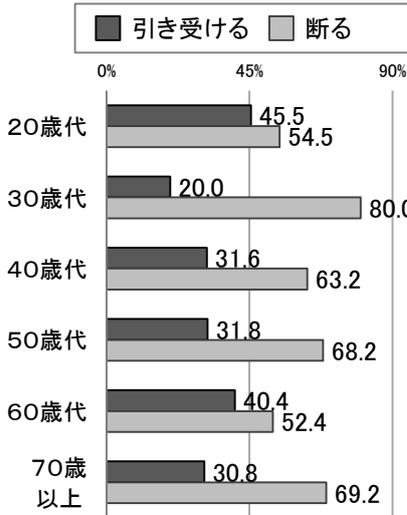
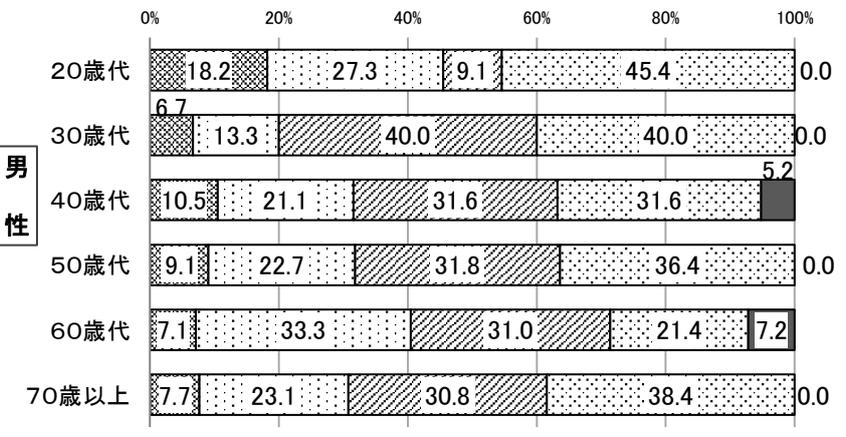
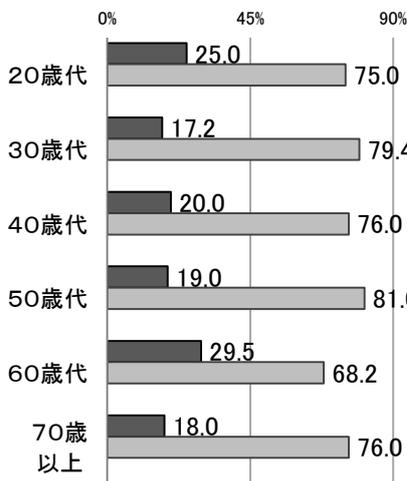
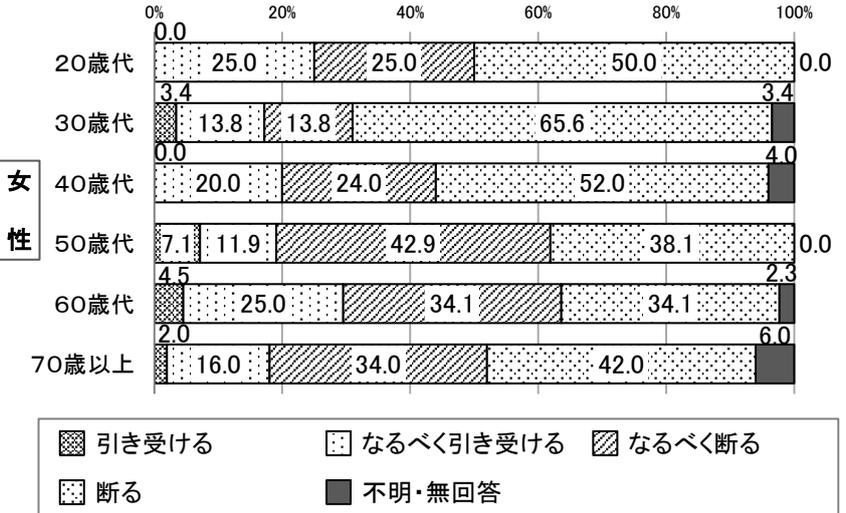


図3-2 地域の役職や、まちの審議会などの委員就任依頼への対応
(性別×年齢層別)



「地域の役職や、町の審議会などの委員就任依頼への対応」については、「断る」割合は全体で70.8%・女性は75.8%・男性は63.0%で、どの年代も「断る」割合は高い。

問4 地域の役職や、まちの審議会などの委員就任依頼を断る理由

その理由は何ですか。(1つに○)

1) 全体、性別及び年齢層別特徴

表4

上段:実数(人) 下段:割合(%)

問4 地域の役職や、まちの審議会などの委員就任依頼を断る理由		回答数	が家族らの協力ができない・理解	かいこ女から社会をが通快役念があわつるなく	に家事や育児、か介護	から仕事に支障がでる	経験職がなくないくか知識や	に周りの見る目が気	その他	不明・無回答
全 体 「なるべく断る」 「断る」の回答者のみ		242	8	8	29	56	89	5	37	10
		100.0	3.3	3.3	12.0	23.1	36.8	2.1	15.3	4.1
性別	女性	153	5	5	27	25	58	3	26	4
		100.0	3.3	3.3	17.6	16.3	37.9	2.0	17.0	2.6
	男性	85	2	3	2	31	29	1	11	6
		100.0	2.4	3.5	2.4	36.5	34.1	1.2	12.9	7.1
	女性・男性にあてはまらない	2	1	0	0	0	1	0	0	0
	100.0	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	
	不明・無回答	2	0	0	0	0	1	1	0	0
		100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0
性別(女性)・年齢	20歳代	9	1	0	2	0	2	1	3	0
		100.0	11.1	0.0	22.2	0.0	22.2	11.1	33.3	0.0
	30歳代	23	0	1	8	3	9	0	2	0
		100.0	0.0	4.3	34.8	13.0	39.1	0.0	8.7	0.0
	40歳代	19	0	0	6	6	5	1	1	0
		100.0	0.0	0.0	31.6	31.6	26.3	5.3	5.3	0.0
50歳代	34	2	0	6	8	14	1	3	0	
	100.0	5.9	0.0	17.6	23.5	41.2	2.9	8.8	0.0	
60歳代	30	2	0	2	6	11	0	6	3	
	100.0	6.7	0.0	6.7	20.0	36.7	0.0	20.0	10.0	
70歳以上	38	0	4	3	2	17	0	11	1	
	100.0	0.0	10.5	7.9	5.3	44.7	0.0	28.9	2.6	
性別(男性)・年齢	20歳代	6	0	0	0	2	1	0	3	0
		100.0	0.0	0.0	0.0	33.3	16.7	0.0	50.0	0.0
	30歳代	12	0	0	0	10	2	0	0	0
		100.0	0.0	0.0	0.0	83.3	16.7	0.0	0.0	0.0
	40歳代	12	0	0	0	6	5	0	0	1
		100.0	0.0	0.0	0.0	50.0	41.7	0.0	0.0	8.3
50歳代	15	1	0	1	5	4	0	4	0	
	100.0	6.7	0.0	6.7	33.3	26.7	0.0	26.7	0.0	
60歳代	22	1	0	1	6	10	0	1	3	
	100.0	4.5	0.0	4.5	27.3	45.5	0.0	4.5	13.6	
70歳以上	18	0	3	0	2	7	1	3	2	
	100.0	0.0	16.7	0.0	11.1	38.9	5.6	16.7	11.1	
無回答	50歳代	2	1	0	0	0	1	0	0	0
		100.0	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0
	60歳代	1	0	0	0	0	1	0	0	
		100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	
	70歳以上	1	0	0	0	0	1	0	0	
		100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	

図4-1 地域の役職や、まちの審議会などの委員就任依頼を断る理由(全体)

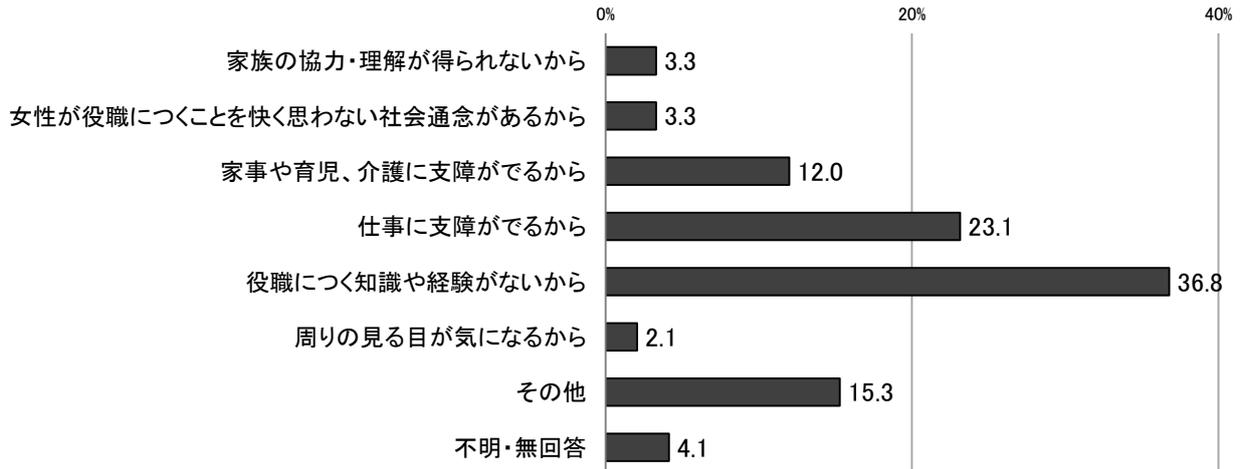
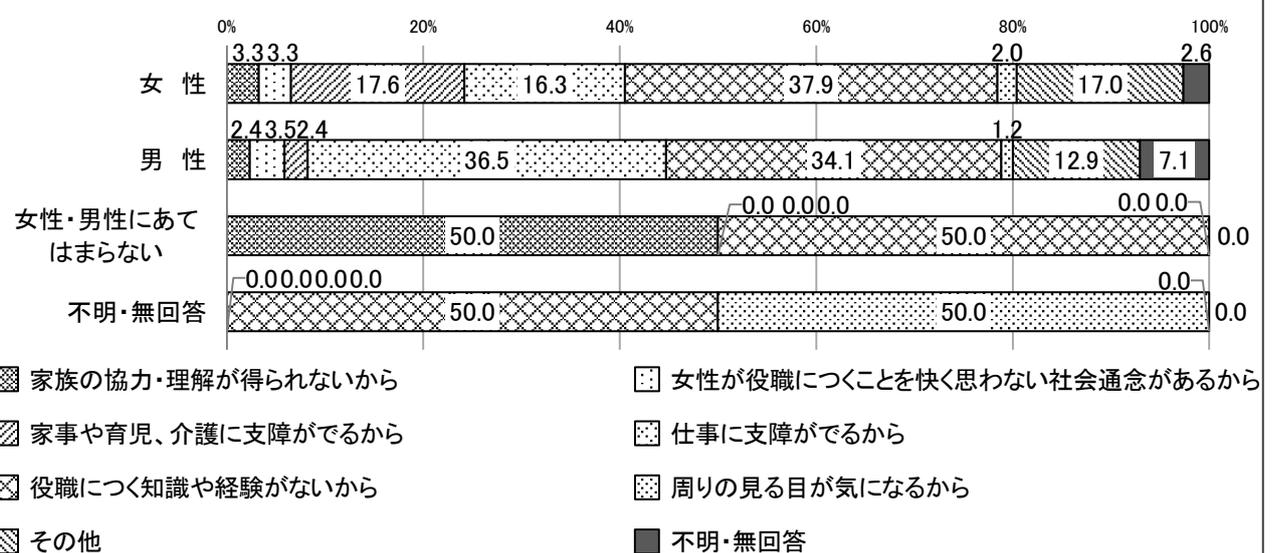


図4-2 地域の役職や、まちの審議会などの委員就任依頼を断る理由(性別)



「地域の役職やまちの審議会などの委員就任依頼を断る理由」としては、「家事や育児、介護に支障が出るから」(12.0%)、「仕事に支障が出るから」(23.1%)、「役職につく知識や経験がないから」(36.8%)の割合が高い。

性別では、女性は「役職につく知識や経験がないから」が37.9%と最も多く、次に「家事や育児、介護に支障がでるから」が17.6%となっている。男性は「仕事に支障がでるから」が36.5%と最も多く、次いで「役職につく知識や経験がないから」が34.1%となっている。

地域の役職やまちの審議会に接する機会が少ないこと、また引き受ける条件が整っていないこと(周りの人の協力、家庭内での協力、職場での条件整備がない)によって、依頼を受けた場合、本人に過重な負担がかかってくることなどから、引き受けられないと判断すると思われる。

図4-4 地域の役職や、まちの審議会などの委員就任依頼を断る理由
(性別×年齢層)

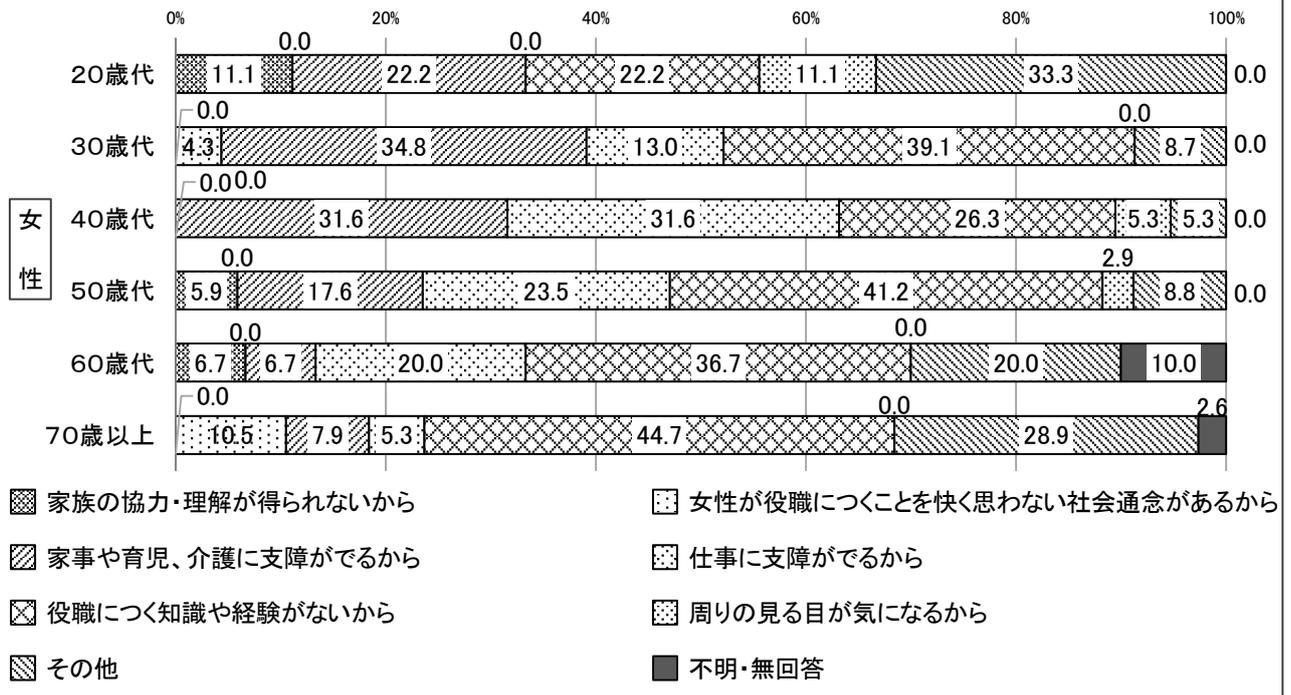
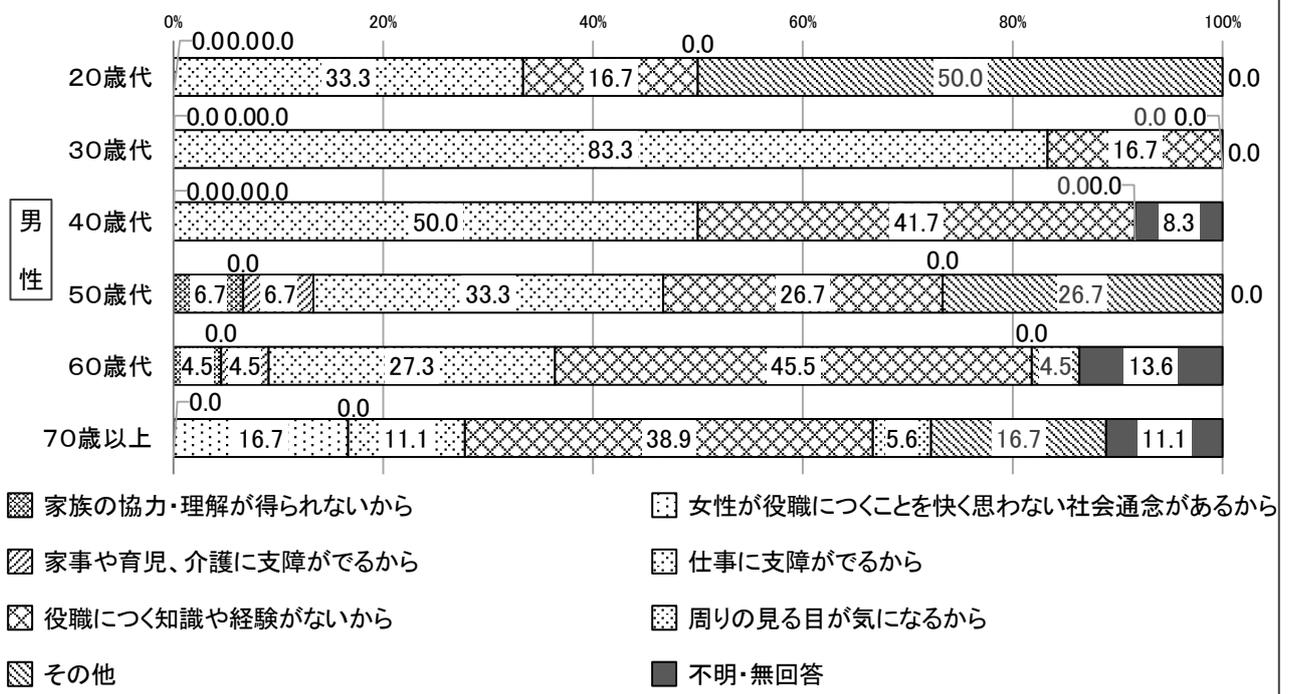


図4-5 地域の役職や、まちの審議会などの委員就任依頼を断る理由
(性別×年齢層)



「性別」と「年齢層」の関係においても結果は同じ傾向を表している。

問5 災害時の避難所運営について必要だと思うこと

地域の防災についてお聞きします。災害時の避難所運営について、あなたはどのようなことが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

1) 全体、性別及び年齢層別特徴

表5

上段:実数(人) 下段:割合(%)

問5 災害時の避難所運営 について必要だと思うこと		回答 数	安全 の保 障 シ ー ヤ	それ ぞ れ の 物 資 の 必 要 に 給 い	避 難 所 の 防 犯 対 策	そ の 他	不 明 ・ 無 回 答
全 体		342 100.0	246 71.9	235 68.7	134 39.2	25 7.3	10 2.9
性 別	女 性	202 100.0	154 76.2	132 65.3	89 44.1	14 6.9	5 2.5
	男 性	135 100.0	89 65.9	99 73.3	43 31.9	11 8.1	5 3.7
	女性・男性に あてはまらない	3 100.0	2 66.7	3 100.0	2 66.7	0 0.0	0 0.0
	不明・無回答	2 100.0	1 50.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	性別 (女性) ・ 年 齢	20歳代	12 100.0	8 66.7	11 91.7	5 41.7	0 0.0
	30歳代	29 100.0	25 86.2	21 72.4	14 48.3	4 13.8	0 0.0
	40歳代	25 100.0	17 68.0	16 64.0	12 48.0	1 4.0	1 4.0
	50歳代	42 100.0	32 76.2	27 64.3	16 38.1	2 4.8	0 0.0
	60歳代	44 100.0	34 77.3	27 61.4	17 38.6	4 9.1	1 2.3
	70歳以上	50 100.0	38 76.0	30 60.0	25 50.0	3 6.0	3 6.0
性 別 (男 性) ・ 年 齢	20歳代	11 100.0	7 63.6	8 72.7	6 54.5	0 0.0	0 0.0
	30歳代	15 100.0	11 73.3	12 80.0	4 26.7	0 0.0	0 0.0
	40歳代	19 100.0	13 68.4	15 78.9	7 36.8	3 15.8	1 5.3
	50歳代	22 100.0	14 63.6	14 63.6	7 31.8	5 22.7	0 0.0
	60歳代	42 100.0	32 76.2	33 78.6	12 28.6	1 2.4	3 7.1
	70歳以上	26 100.0	12 46.2	17 65.4	7 26.9	2 7.7	1 3.8
女 性 ・ 男 性 に あ て は ま ら な い	50歳代	2 100.0	1 50.0	2 100.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0
	70歳以上	1 100.0	1 100.0	1 100.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0
無 回 答 ・ 不 明	60歳代	1 100.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	70歳以上	1 100.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

図5-1 災害時の避難所運営について必要だと思うこと(全体)

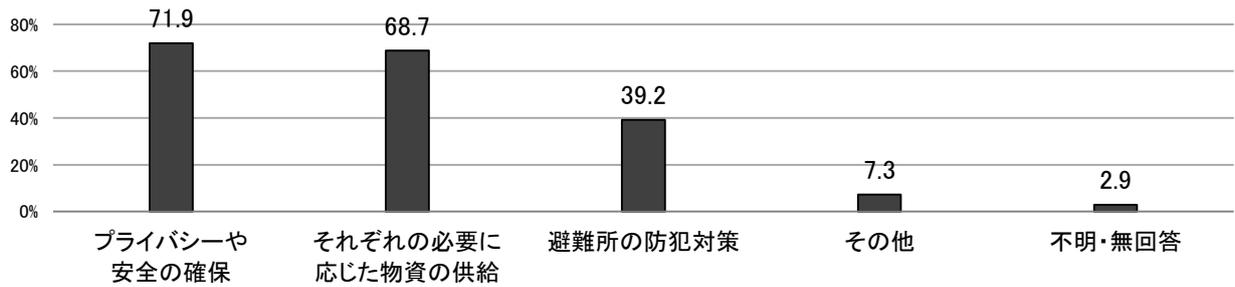


図5-2 災害時の避難所運営について必要だと思うこと(性別)

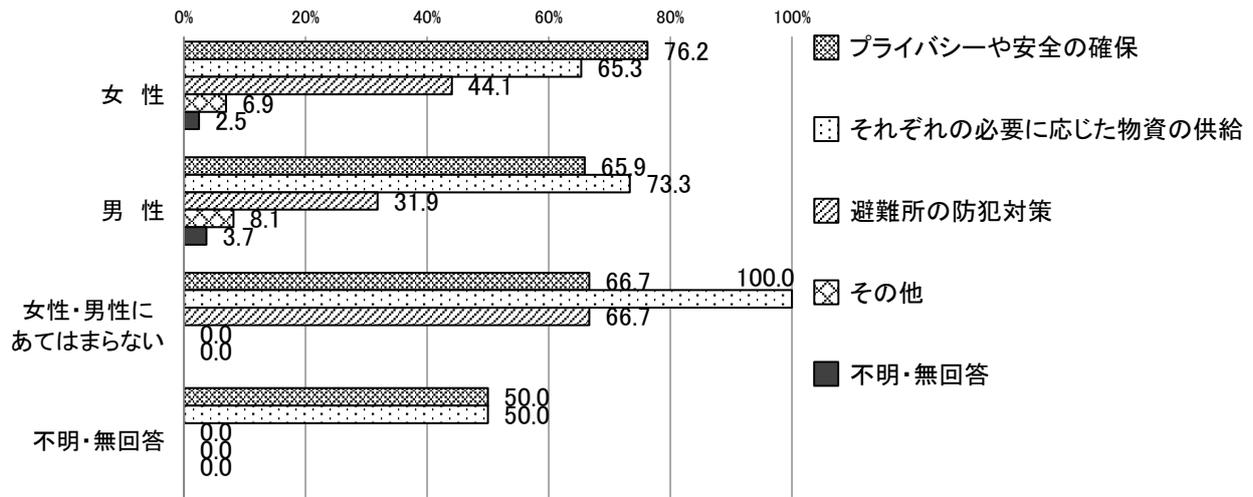
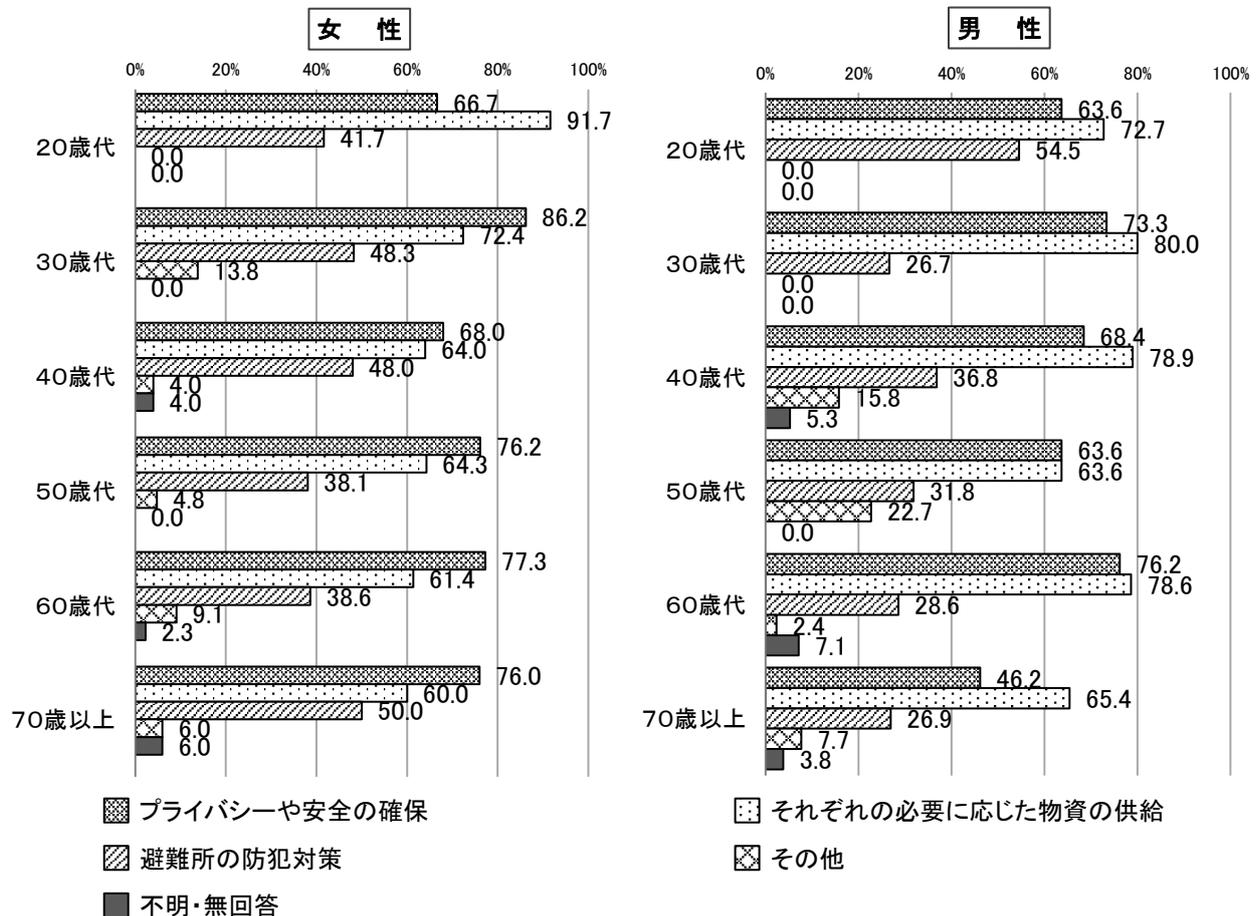


図5-3 災害時の避難所運営について必要だと思うこと(性別×年齢層別)



「災害時の避難所運営について必要だと思うこと」については、全体では「プライバシーや安全の確保」(71.9%)が最も多く、次に「それぞれの必要に応じた物資の供給」(68.7%)となっている。

性別では、女性は「プライバシーや安全の確保」(76.2%)、男性は「それぞれの必要に応じた物資の供給」(73.3%)の割合が高い。

「プライバシーや安全の確保」については、避難所で家族ごとの仕切りを作る、入り口にはできればカーテンなどを付けるなど工夫が必要であると思われる。「それぞれの必要に応じた物資の供給」については、避難所に来た方のニーズを記録する係を置く(避難が数日、あるいは長期にわたる場合には、定期的に個別のニーズを聞き、記録する)などの措置が必要である。東日本大震災の時やウクライナ避難民の方の支援の際には、生理用品の不足などが言われた。また、見た目で生理用品と分からないように入れ物を工夫するなどの配慮も必要である。

もう一つ大事なことは、実際災害が起きた時に、迅速に行動できるよう普段の避難訓練を実施することである。

問6 自分の性によって、負担感や生きづらさを感じるとき

あなたの性によって、負担感や生きづらさを感じるとしたらそれはどんなときですか。
(〇はいくつでも)

1) 全体、性別及び年齢層別特徴

表6

上段:実数(人) 下段:割合(%)

問6 自分の性によって、 負担感や生きづらさ を感じる時	回答 数	「男 だか ら、 女だ から」 のく せに と言 われ る	自 由に 選べ ない こと が	自 分の やり たい 仕事 が	大 介 護を 両立 する 負担 が	仕 事と 家事 ・育 児・ が	と 仕 事 が でき ない 前、	仕 事 の 責任 が 大き い	の あ ら る 役 職 に 決 定 し ない	責 任 の あ る 仕 事 を 任 務 せ ない	当 家 事 や 育 児 が でき ない	感 じ た こ と は な い	負 担 感 や 生き づら さを	そ の 他	不 明 ・ 無 回 答						
																実数(人)	割合(%)				
全 体	342	72	48	125	51	8	72	79	12	34	100.0	21.1	14.0	36.5	14.9	2.3	21.1	23.1	3.5	9.9	
性 別	女 性	202	40	26	97	15	5	64	48	5	16	100.0	19.8	12.9	48.0	7.4	2.5	31.7	23.8	2.5	7.9
	男 性	135	32	19	27	35	3	7	30	7	18	100.0	23.7	14.1	20.0	25.9	2.2	5.2	22.2	5.2	13.3
	女性・男性に あてはまらない	3	0	1	1	1	0	1	1	0	0	100.0	0.0	33.3	33.3	33.3	0.0	33.3	33.3	0.0	0.0
	不明・無回答	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	不明・無回答	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
性 別 (女 性) ・ 年 齢	20歳代	12	4	1	6	0	0	2	5	0	1	100.0	33.3	8.3	50.0	0.0	0.0	16.7	16.7	0.0	8.3
	30歳代	29	7	5	20	3	2	13	5	0	0	100.0	24.1	17.2	69.0	10.3	6.9	44.8	17.2	0.0	0.0
	40歳代	25	6	5	13	2	2	10	4	1	2	100.0	24.0	20.0	52.0	8.0	8.0	40.0	16.0	4.0	8.0
	50歳代	42	14	8	21	5	1	16	7	1	1	100.0	33.3	19.0	50.0	11.9	2.4	38.1	16.7	2.4	2.4
	60歳代	44	4	2	21	3	0	12	11	1	5	100.0	9.1	4.5	47.7	6.8	0.0	27.3	25.0	2.3	11.4
	70歳以上	50	5	5	16	2	0	11	19	2	7	100.0	10.0	10.0	32.0	4.0	0.0	22.0	38.0	4.0	14.0
性 別 (男 性) ・ 年 齢	20歳代	11	2	3	0	0	1	0	3	0	3	100.0	18.2	27.3	0.0	0.0	9.1	0.0	27.3	0.0	27.3
	30歳代	15	4	1	1	3	0	0	4	0	2	100.0	26.7	6.7	6.7	20.0	0.0	0.0	26.7	0.0	13.3
	40歳代	19	4	3	6	5	0	1	3	1	2	100.0	21.1	15.8	31.6	26.3	0.0	5.3	15.8	5.3	10.5
	50歳代	22	7	5	4	9	0	2	5	1	0	100.0	31.8	22.7	18.2	40.9	0.0	9.1	22.7	4.5	0.0
	60歳代	42	10	3	12	11	2	3	7	4	6	100.0	23.8	7.1	28.6	26.2	4.8	7.1	16.7	9.5	14.3
	70歳以上	26	5	4	4	7	0	1	8	1	5	100.0	19.2	15.4	15.4	26.9	0.0	3.8	30.8	3.8	19.2
性 別 (女 性・ 男 性) に あ ら な い	50歳代	2	0	1	1	1	0	1	0	0	0	100.0	0.0	50.0	50.0	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0
	70歳以上	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
不 明 ・ 無 回 答	60歳代	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	70歳以上	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

図6-1 自分の性によって、負担感や生きづらさを感じる時(全体)

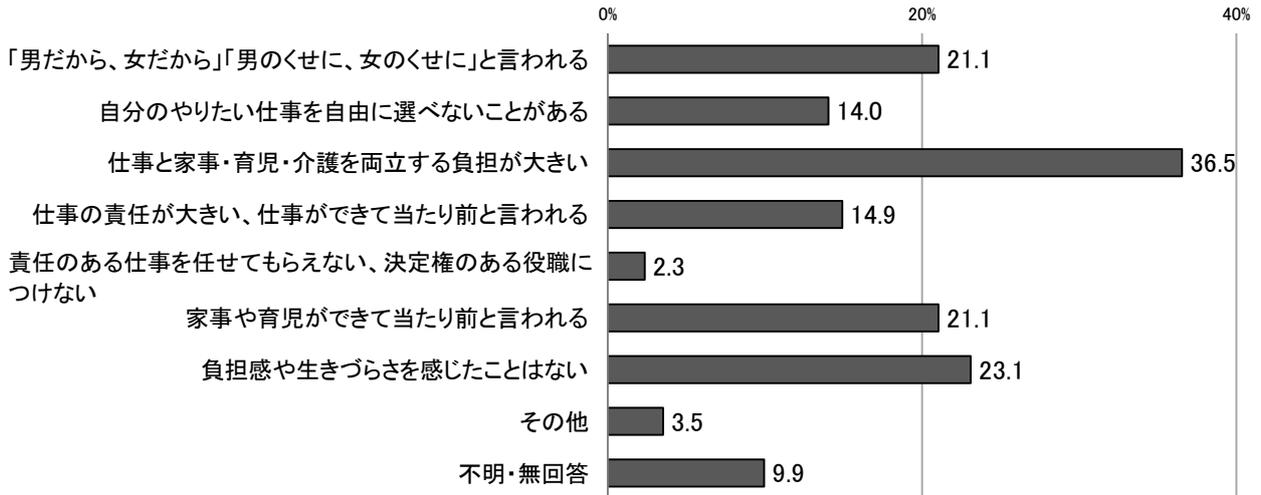
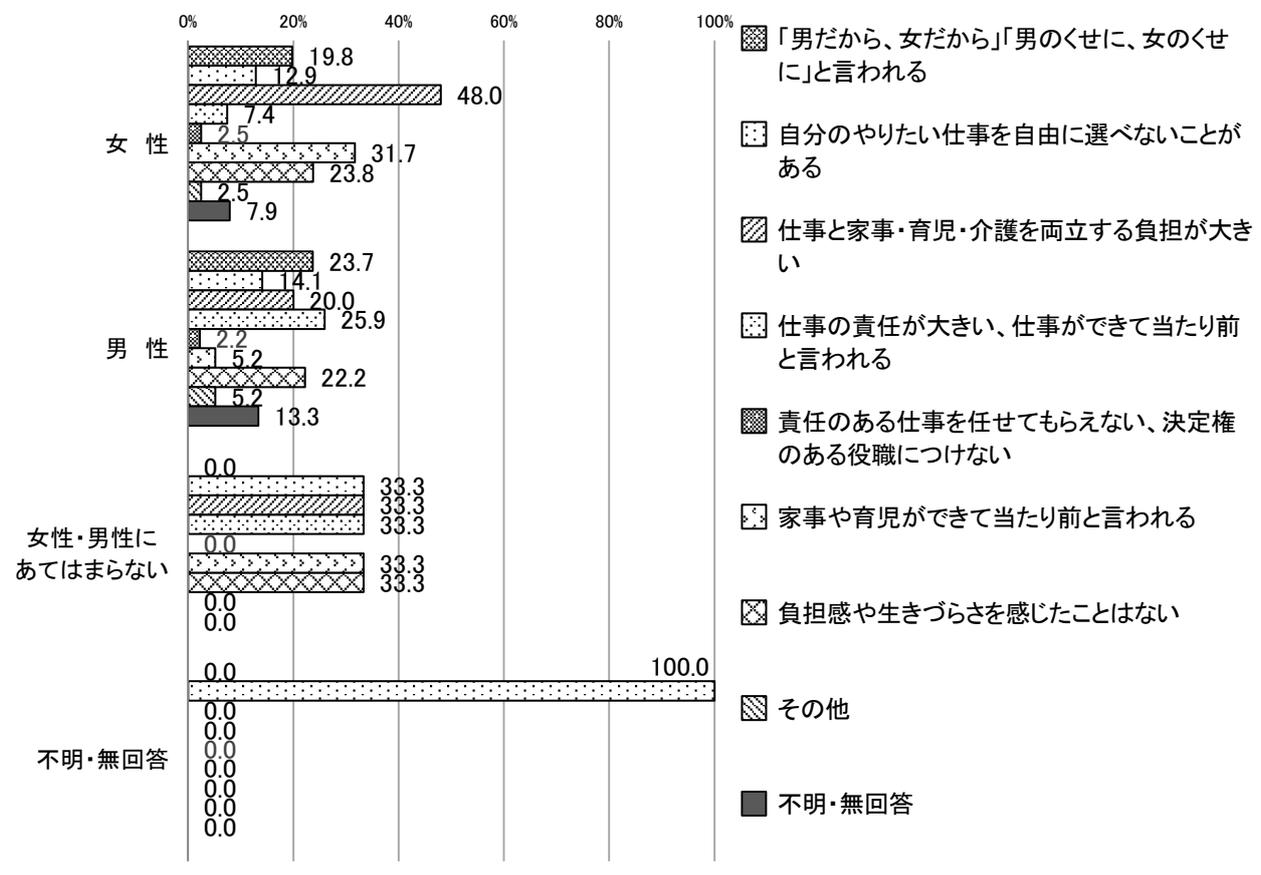


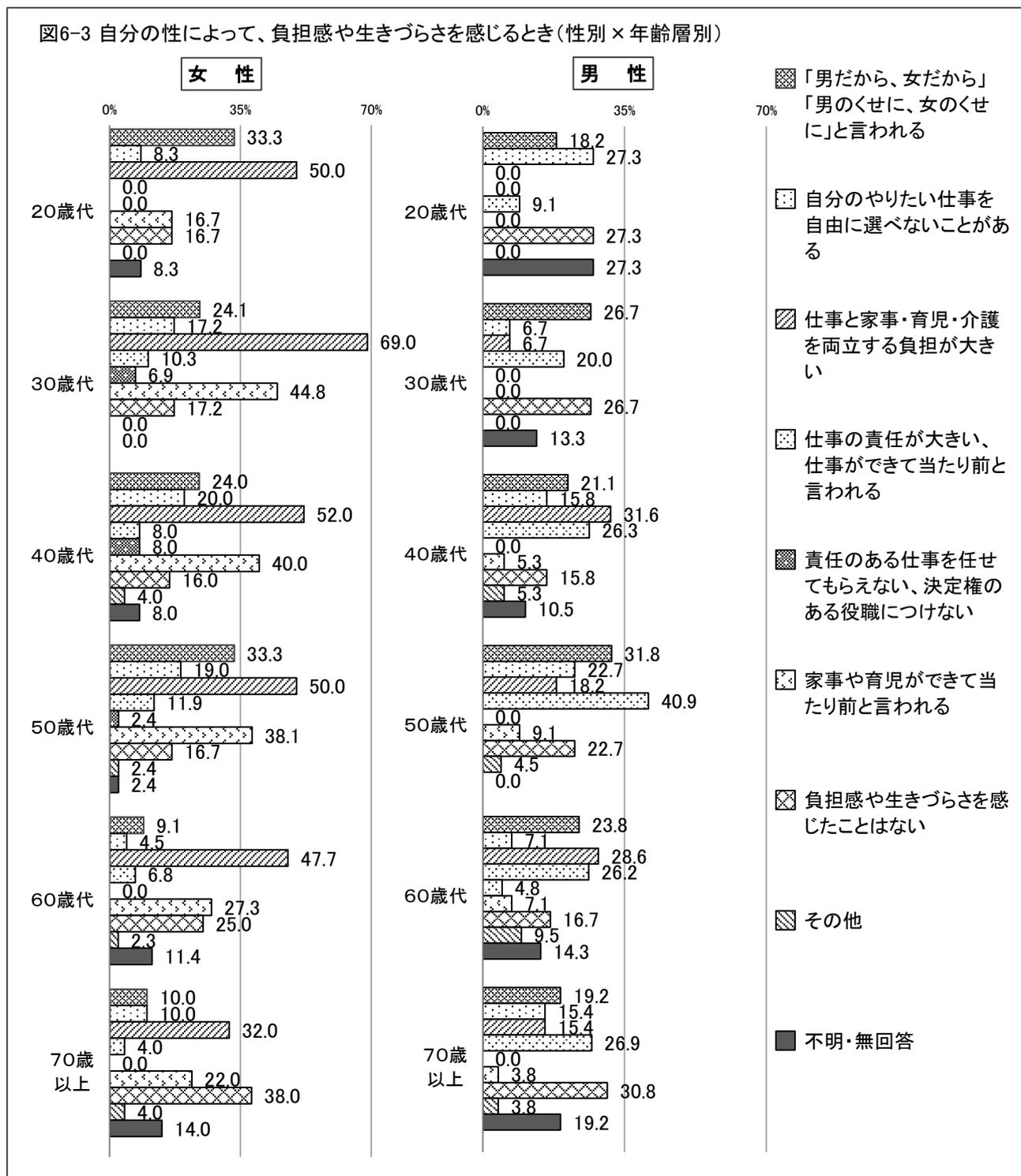
図6-2 自分の性によって、負担感や生きづらさを感じる時(性別)



「自分の性によって、負担感や生きづらさを感じる時」について、性別では女性は「仕事と家事・育児・介護を両立する負担が大きい」が48.0%で最も多く、次に「家事や育児ができる当たり前と言われる」が31.7%である。男性は「仕事の責任が大きい、仕事ができる当たり前と言われる」が25.9%、次に「『男だから、女だから』『男のくせに、女のくせに』と言われる」で23.7%である。男女問わず、社会的意識としてこうあるべきだというものが未だ残っているからだと思われる。

また、男女ともに「負担感や生きづらさを感じたことはない」は約20%である。

図6-3 自分の性によって、負担感や生きづらさを感じる時(性別×年齢層別)



「自分の性によって、負担感や生きづらさを感じる時」について、「性別」と「年齢層別」の関係を見ると、女性はどの年代も「仕事と家事・育児・介護を両立する負担が大きい」が最も多く、特に30歳代～50歳代の女性は、「家事や育児ができて当たり前と言われる」が次に高い割合を占めている。

男女共同参画社会基本法（1999年施行）や女性活躍推進法（2016年施行）が施行されてはいるものの、法律が目指している社会と現実の間にはかなりの差があり、負担や生きづらさを感じている。

第2章 ワーク・ライフ・バランスについて

問7 女性が職業をもつことについての考え方

一般的に女性が職業をもつことについて、あなたの考えに最も近いものはどれですか。

(○は1つ)

1) 全体、性別及び年齢層別特徴

表7-1

上段:実数(人) 下段:割合(%)

問7 女性が職業をもつこと についての考え方	回答 数	方 女 性 が 良 い	も 結 婚 す る ま で は 職 業 を	良 い 、 ど も が で き る ま で	子 ど も が で き る ま で	方 が 良 い の 職 業 を も つ	ら す る ま で の 職 業 を も つ	を 辞 め た ら な い	子 ど も が で き る ま で の 職 業 を も つ	結 婚 し た ら な い	わ か ら な い	そ の 他	不 明 ・ 無 回 答
全 体	342	2	7	9	65	174	52	22	11				
	100.0	0.6	2.0	2.6	19.0	50.9	15.2	6.4	3.2				
性 別	女 性	202	0	2	5	46	107	26	11	5			
		100.0	0.0	1.0	2.5	22.8	53.0	12.9	5.4	2.5			
	男 性	135	2	5	4	18	64	25	11	6			
		100.0	1.5	3.7	3.0	13.3	47.4	18.5	8.1	4.4			
	女性・男性に あてはまらない	3	0	0	0	0	3	0	0	0			
	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0				
不明・無回答	2	0	0	0	1	0	1	0	0				
	100.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0				
性 別 (女 性) ・ 年 齢	20歳代	12	0	0	0	3	6	0	3	0			
		100.0	0.0	0.0	0.0	25.0	50.0	0.0	25.0	0.0			
	30歳代	29	0	0	0	5	18	5	1	0			
		100.0	0.0	0.0	0.0	17.2	62.1	17.2	3.4	0.0			
	40歳代	25	0	0	0	5	14	4	2	0			
		100.0	0.0	0.0	0.0	20.0	56.0	16.0	8.0	0.0			
	50歳代	42	0	0	0	12	21	6	3	0			
	100.0	0.0	0.0	0.0	28.6	50.0	14.3	7.1	0.0				
60歳代	44	0	0	2	8	26	6	1	1				
	100.0	0.0	0.0	4.5	18.2	59.1	13.6	2.3	2.3				
70歳以上	50	0	2	3	13	22	5	1	4				
	100.0	0.0	4.0	6.0	26.0	44.0	10.0	2.0	8.0				
性 別 (男 性) ・ 年 齢	20歳代	11	0	0	0	1	2	7	0	1			
		100.0	0.0	0.0	0.0	9.1	18.2	63.6	0.0	9.1			
	30歳代	15	0	0	1	0	9	3	2	0			
		100.0	0.0	0.0	6.7	0.0	60.0	20.0	13.3	0.0			
	40歳代	19	0	2	0	3	8	3	2	1			
		100.0	0.0	10.5	0.0	15.8	42.1	15.8	10.5	5.3			
	50歳代	22	1	0	0	3	9	6	3	0			
	100.0	4.5	0.0	0.0	13.6	40.9	27.3	13.6	0.0				
60歳代	42	1	1	1	5	23	5	3	3				
	100.0	2.4	2.4	2.4	11.9	54.8	11.9	7.1	7.1				
70歳以上	26	0	2	2	6	13	1	1	1				
	100.0	0.0	7.7	7.7	23.1	50.0	3.8	3.8	3.8				
女 性 ・ 男 性 に あ ら な い	50歳代	2	0	0	0	0	2	0	0	0			
		100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0			
	70歳以上	1	0	0	0	0	1	0	0	0			
	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0				
不 明 ・ 無 回 答	60歳代	1	0	0	0	0	0	1	0	0			
		100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0			
	70歳以上	1	0	0	0	1	0	0	0	0			
	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0				

図7-1 女性が職業をもつことについての考え方(全体)

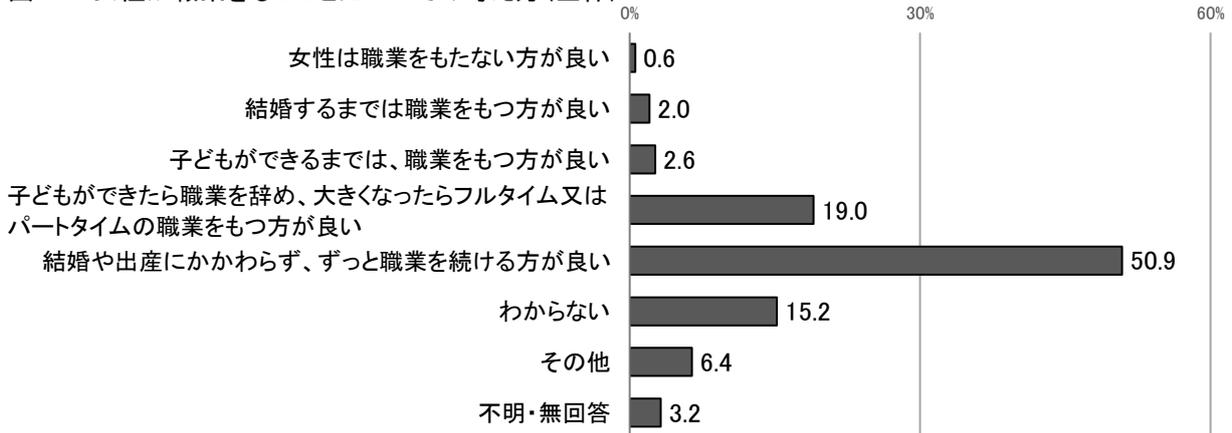
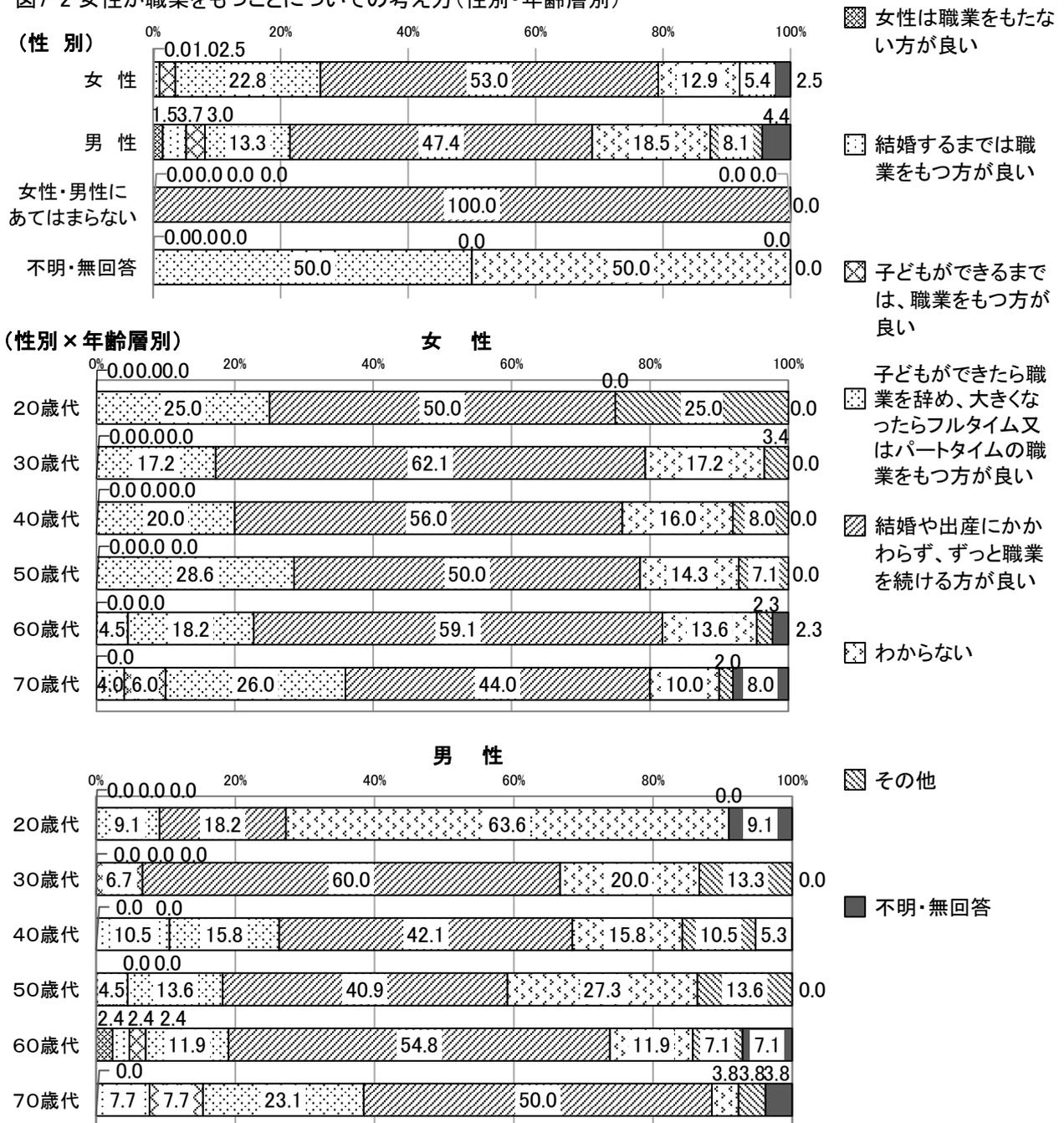


図7-2 女性が職業をもつことについての考え方(性別・年齢層別)



「女性が職業をもつことについての考え方」は、全体では「結婚や出産にかかわらず、ずっと職業を続ける方が良い」が50.9%で最も高くなっている。次が「子どもができたなら職業を辞め、大きくなったらフルタイム又はパートタイムの職業をもつ方が良い」で19.0%である。また、「結婚するまでは職業をもつ方が良い」は2.0%、「子どもができるまでは、職業をもつ方が良い」は2.6%で、男女雇用機会均等法が施行される以前言われていた「女性が働くのは結婚・出産まで」という意識は低くなっていると思われる。

性別では、女性の方が男性よりも「結婚や出産にかかわらず、ずっと職業を続ける方が良い」女性53.0%男性47.4%の割合が高くなっている。また、「性別」と「年齢層別」の関係では、どの年代においても「結婚や出産に関わらず、ずっと職業を続ける方が良い」という回答が多い。

このことは、男女共同参画の在り方について肯定的見方が多くなってきたことの表れであると思われる。

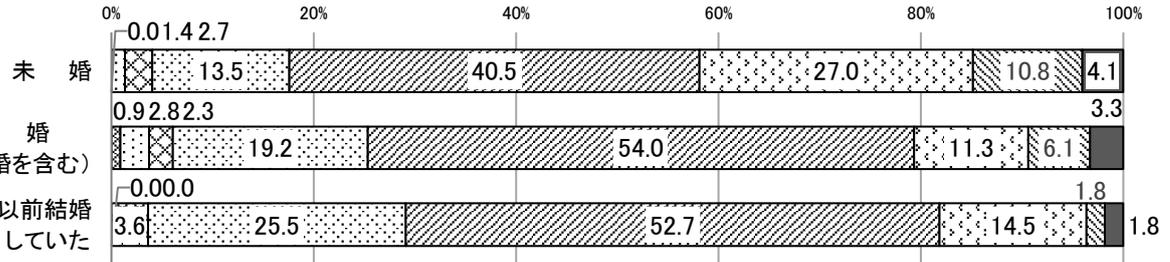
2) 配偶関係別特徴

表7-2

上段:実数(人) 下段:割合(%)

問7 女性が職業をもつこと についての考え方		回答数	女性が 良い職業 をもたない	結婚 するま では職 業を	子ども も職業 がで きる 方	子ども ができた ら職業 を辞め たい	子ども ができた らフル タイム 又はパ ート タイム の職業 をもつ 方が良 い	結婚 するま では職 業を 続け たい	わ か ら な い	そ の 他	不 明 ・ 無 回 答
全 体		342	2	7	9	65	174	52	22	11	
		100.0	0.6	2.0	2.6	19.0	50.9	15.2	6.4	3.2	
配 偶 関 係	未 婚	74	0	1	2	10	30	20	8	3	
		100.0	0.0	1.4	2.7	13.5	40.5	27.0	10.8	4.1	
	既 婚 (事実婚を含む)	213	2	6	5	41	115	24	13	7	
		100.0	0.9	2.8	2.3	19.2	54.0	11.3	6.1	3.3	
以前結婚 していた	55	0	0	2	14	29	8	1	1		
	100.0	0.0	0.0	3.6	25.5	52.7	14.5	1.8	1.8		
女性全体		202	0	2	5	46	107	26	11	5	
		100.0	0.0	1.0	2.5	22.8	53.0	12.9	5.4	2.5	
配 偶 関 係 (女 性)	未 婚	34	0	0	0	5	17	7	5	0	
		100.0	0.0	0.0	0.0	14.7	50.0	20.6	14.7	0.0	
	既 婚 (事実婚を含む)	128	0	2	3	29	70	13	6	5	
		100.0	0.0	1.6	2.3	22.7	54.7	10.2	4.7	3.9	
以前結婚 していた	40	0	0	2	12	20	6	0	0		
	100.0	0.0	0.0	5.0	30.0	50.0	15.0	0.0	0.0		
男性全体		135	2	5	4	18	64	25	11	6	
		100.0	1.5	3.7	3.0	13.3	47.4	18.5	8.1	4.4	
配 偶 関 係 (男 性)	未 婚	39	0	1	2	5	13	12	3	3	
		100.0	0.0	2.6	5.1	12.8	33.3	30.8	7.7	7.7	
	既 婚 (事実婚を含む)	81	2	4	2	11	42	11	7	2	
		100.0	2.5	4.9	2.5	13.6	51.9	13.6	8.6	2.5	
以前結婚 していた	15	0	0	0	2	9	2	1	1		
	100.0	0.0	0.0	0.0	13.3	60.0	13.3	6.7	6.7		
女性・男性に あてはまらない全体		3	0	0	0	0	3	0	0	0	
		100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	
係 配 偶 関 係	既 婚 (事実婚を含む)	3	0	0	0	0	3	0	0	0	
		100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	
不明・無回答		2	0	0	0	1	0	1	0	0	
		100.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	
配 偶 関 係	未 婚	1	0	0	0	0	0	1	0	0	
		100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	
	既 婚 (事実婚を含む)	1	0	0	0	1	0	0	0	0	
		100.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	

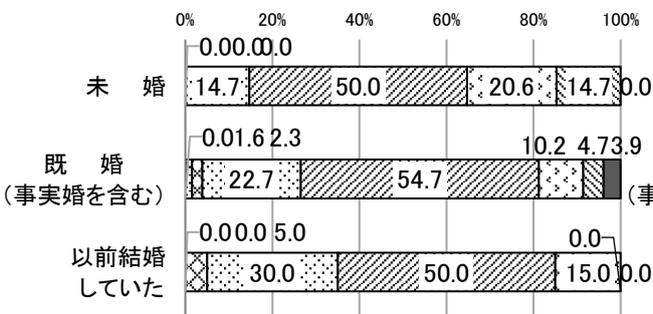
図7-3 女性が職業をもつことについての考え方(配偶関係別)



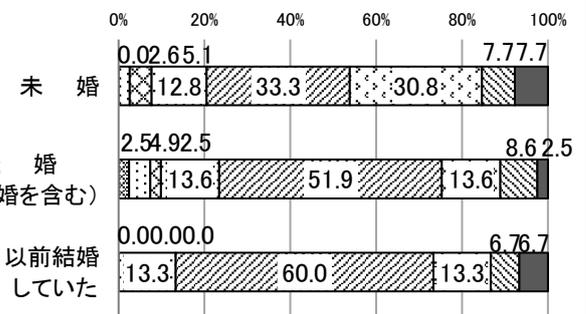
- 女性に職業をもたない方がよい
- 子どもができるまでは、職業をもつ方がよい
- 結婚するまでは職業をもつ方がよい
- 子どもができたなら職業を辞め、大きくなったらフルタイム又はパートタイムの職業をもつ方がよい
- 結婚や出産にかかわらず、ずっと職業を続ける方がよい
- わからない
- その他
- 不明・無回答

(性別×配偶関係別)

女性



男性



「性別」と「配偶関係別」で見ても、未婚の男性を除いて「結婚や出産にかかわらず、ずっと職業を続ける方がよい」の割合は50%以上で、未婚の男性は「わからない」(30.8%)の割合が高く、これからの啓発課題の一つと考えることが必要だと思われる。

3) 共働きの有無別特徴

表7-3

上段:実数(人) 下段:割合(%)

問7 女性が職業をもつこと についての考え方		回答数	女性が 良い 職業を もたない	結婚する までは 職業を	子どもが できる までは	子どもが できる までは、 職業を もつ方 が良い	子どもが できたら 職業を 辞め、 大きくな ったら フルタイ ム又は パート タイムの 職業を もつ方 が良い	子どもが できたら 職業を 続ける 方が 良い	結婚や 出産に かかわ らず、 ずっと 職業を 続ける 方が 良い	わから ない	その他	不明・ 無回 答
全体		213	2	6	5	41	115	24	13	7		
既婚(事実婚含む)		100.0	0.9	2.8	2.3	19.2	54.0	11.3	6.1	3.3		
共働きの有無	共働きである	101	2	1	2	18	53	14	11	0		
	共働きでない	102	0	4	3	21	56	10	2	6		
	不明・無回答	10	0	1	0	2	6	0	0	1		
		100.0	0.0	3.9	2.9	20.6	54.9	9.8	2.0	5.9		
		100.0	0.0	10.0	0.0	20.0	60.0	0.0	0.0	10.0		
既婚女性全体		128	0	2	3	29	70	13	6	5		
		100.0	0.0	1.6	2.3	22.7	54.7	10.2	4.7	3.9		
共働きの有無(女性)	共働きである	61	0	0	2	13	34	6	6	0		
	共働きでない	59	0	2	1	14	31	7	0	4		
	不明・無回答	8	0	0	0	2	5	0	0	1		
		100.0	0.0	3.4	1.7	23.7	52.5	11.9	0.0	6.8		
		100.0	0.0	0.0	0.0	25.0	62.5	0.0	0.0	12.5		
既婚男性全体		81	2	4	2	11	42	11	7	2		
		38.0	2.0	1.0	0.0	5.0	17.0	8.0	5.0	0.0		
共働きの有無(男性)	共働きである	38	2	1	0	5	17	8	5	0		
	共働きでない	41	0	2	2	6	24	3	2	2		
	不明・無回答	2	0	1	0	0	1	0	0	0		
		100.0	0.0	4.9	4.9	14.6	58.5	7.3	4.9	4.9		
		100.0	0.0	50.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0		
女性・男性に あてはまらない全体		3	0	0	0	0	3	0	0	0		
		100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0		
共働きの有無(性別不明)	共働きである	2	0	0	0	0	2	0	0	0		
	共働きでない	1	0	0	0	0	1	0	0	0		
		100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0		
不明・無回答		1	0	0	0	1	0	0	0	0		
		100.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
共働きの有無(性別不明)	共働きでない	1	0	0	0	1	0	0	0	0		
		100.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		

図7-4 女性が職業をもつことについての考え方(共働きの有無別)

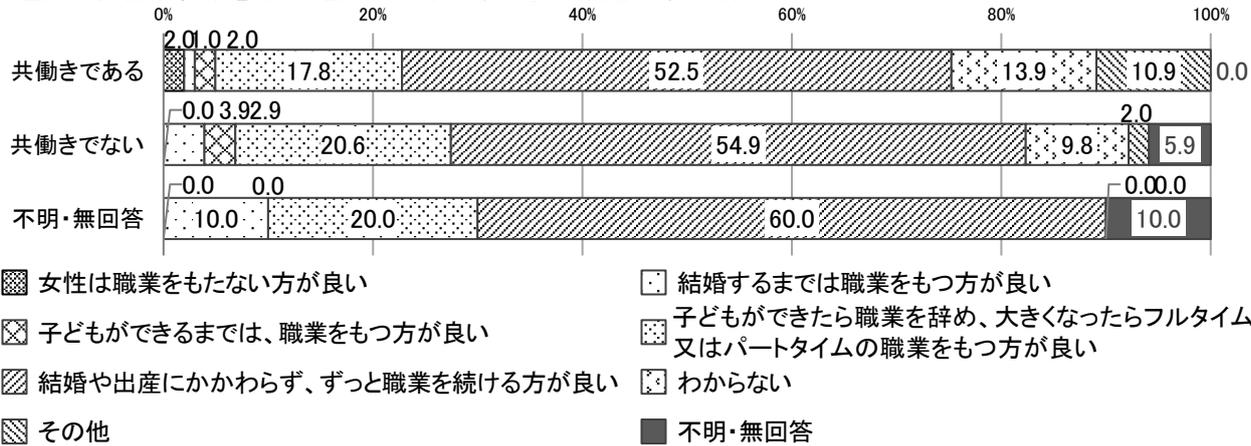
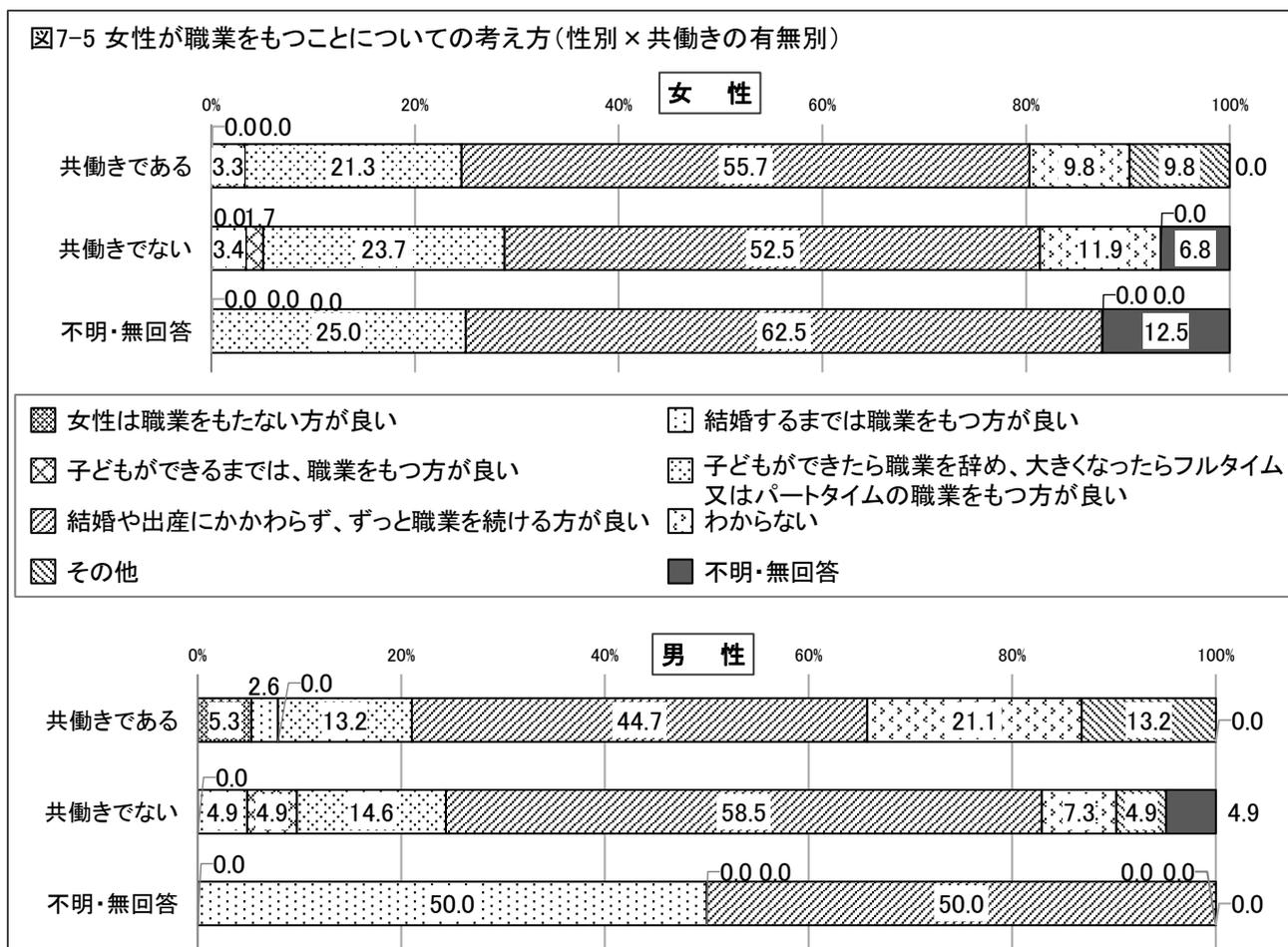


図7-5 女性が職業をもつことについての考え方(性別×共働きの有無別)



「共働きである」「共働きでない」に関わらず、全体として「結婚や出産にかかわらず、女性がずっと職業を持つ方がよい」は50%以上である。

「性別」と「共働きの有無別」の関係は、「男性」で「共働きである」(44.7%)を除いて「結婚や出産にかかわらず、女性がずっと職業を持つ方がよい」は50%以上になっている。

ただし、「子どもができたら職業を辞め、大きくなったらフルタイム又はパートタイムの職業を持つ方がよい」を「性別」と「共働きの有無別」双方で考えた場合、女性が2割弱、男性が1割と一定の割合を占めている。

子育て中は女性が家庭でという考えが男女ともにあり、女性が一時職場を離れ、その後戻るという「M字型曲線」の傾向がまだ残っている。

4) 子どもの有無別特徴

表7-4

上段:実数(人) 下段:割合(%)

問7 女性が職業をもつこと についての考え方		回答数	女性が 良い 職業を もたない	結婚する までは 職業を	子どもが できる までは	子どもが 職業を もつ 方が																	
																					割合		
全 体		342	2	7	9	65	174	52	22	11	100.0	0.6	2.0	2.6	19.0	50.9	15.2	6.4	3.2				
子 ど も の 有 無	いる	239	1	6	7	49	130	28	12	6	100.0	0.4	2.5	2.9	20.5	54.4	11.7	5.0	2.5				
	いない	97	1	1	2	14	41	23	10	5	100.0	1.0	1.0	2.1	14.4	42.3	23.7	10.3	5.2				
	不明・無回答	6	0	0	0	2	3	1	0	0	100.0	0.0	0.0	0.0	33.3	50.0	16.7	0.0	0.0				
女性全体		202	0	2	5	46	107	26	11	5	100.0	0.0	1.0	2.5	22.8	53.0	12.9	5.4	2.5				
子 性 ど も の 女 性 無	いる	147	0	2	5	35	80	16	5	4	100.0	0.0	1.4	3.4	23.8	54.4	10.9	3.4	2.7				
	いない	49	0	0	0	9	24	9	6	1	100.0	0.0	0.0	0.0	18.4	49.0	18.4	12.2	2.0				
	不明・無回答	6	0	0	0	2	3	1	0	0	100.0	0.0	0.0	0.0	33.3	50.0	16.7	0.0	0.0				
男性全体		135	2	5	4	18	64	25	11	6	100.0	1.5	3.7	3.0	13.3	47.4	18.5	8.1	4.4				
の 性 性 有 無	いる	88	1	4	2	13	47	12	7	2	100.0	1.1	4.5	2.3	14.8	53.4	13.6	8.0	2.3				
	いない	47	1	1	2	5	17	13	4	4	100.0	2.1	2.1	4.3	10.6	36.2	27.7	8.5	8.5				
女性・男性に あてはまらない全体		3	0	0	0	0	3	0	0	0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0				
有 も 子 無 の ど	いる	3	0	0	0	0	3	0	0	0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0				
	不明・無回答	2	0	0	0	1	0	1	0	0	100.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0				
無 子 ど も の 有	いる	1	0	0	0	1	0	0	0	0	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0				
	いない	1	0	0	0	0	0	1	0	0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0				

図7-6 女性が職業をもつことについての考え方(子どもの有無別)

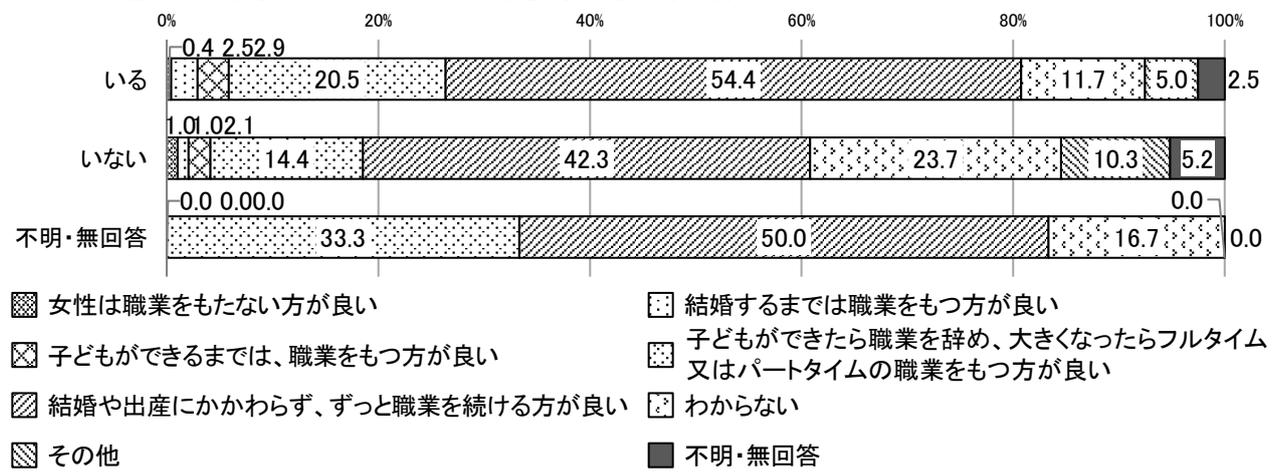
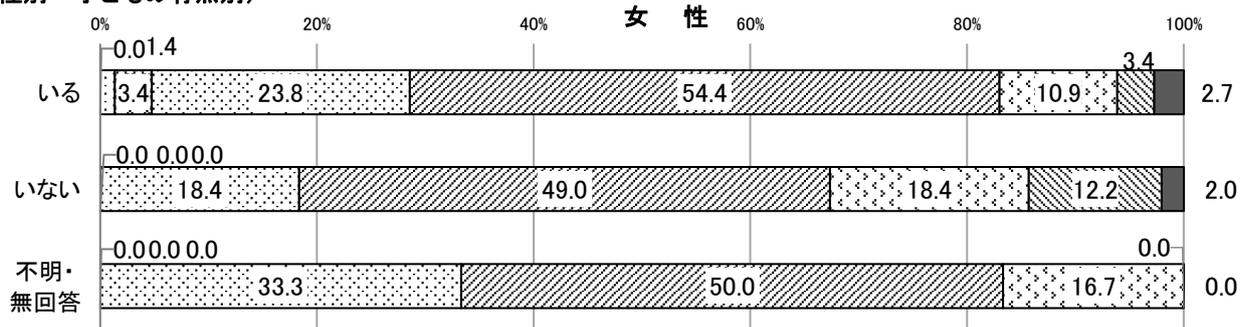
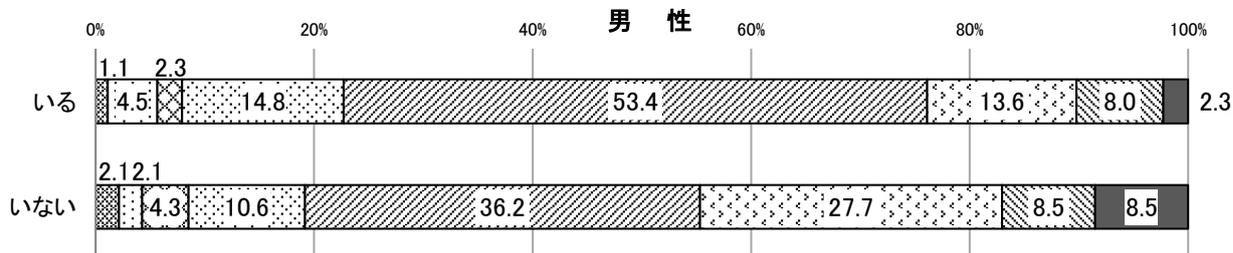


図7-7 女性が職業をもつことについての考え方(子どもの有無別)

(性別×子どもの有無別)



- 女性に職業をもたない方がよい
- 結婚するまでは職業をもつ方がよい
- 子どもができるまでは、職業をもつ方がよい
- 子どもができたら職業を辞め、大きくなったらフルタイム又はパートタイムの職業をもつ方がよい
- 結婚や出産にかかわらず、ずっと職業を続ける方がよい
- わからない
- その他
- 不明・無回答



「結婚や出産にかかわらず、ずっと女性が職業を持ち続ける方がよい」の割合は、「子どもがいる」(54.4%)、「子どもがいない」(42.3%)にかかわらず高い数値を示している。この点でも男女共同参画の考え方は広まってきたと思われるが、「子どもができたら職業を辞めて、大きくなったらフルタイム又はパートタイムの職業をもつ方がよい」という意見は、「女性」で「子どもがいる」で割合が23.8%となっている。子育て中の男女共同参画の生活の在り方が、まだ「子育ては、女性に」という事から抜け切れていないように思われる。

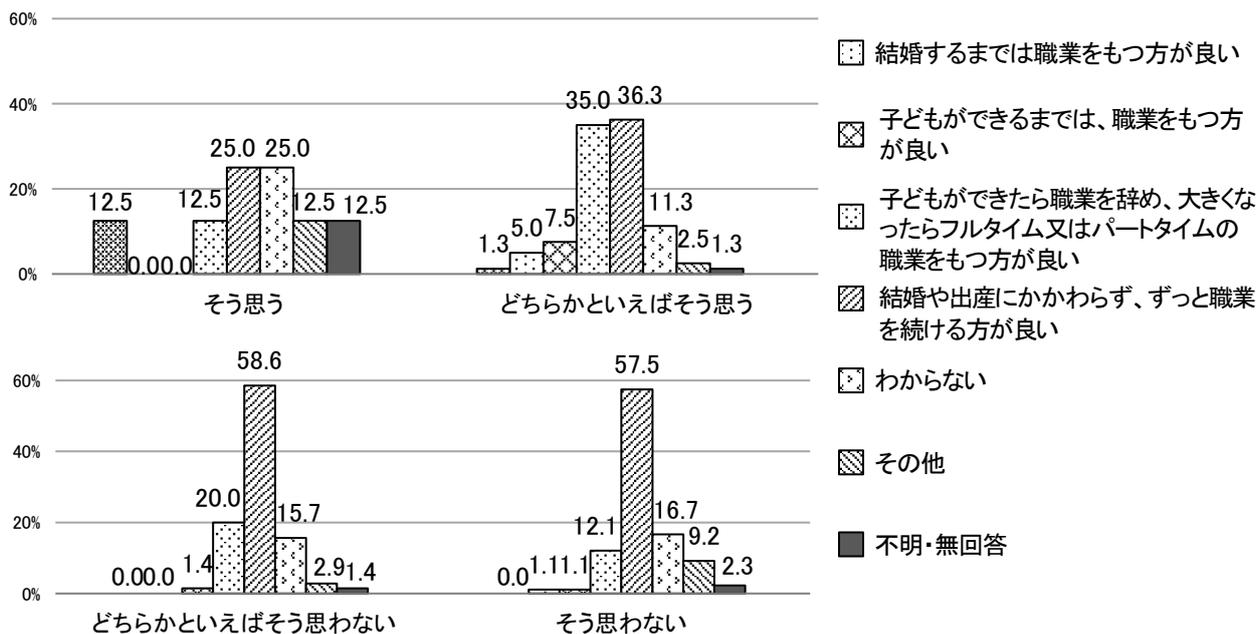
5) 問2 性別役割分担意識別 と 問7 女性が職業をもつことについての考え方

表7-5

上段:実数(人) 下段:割合(%)

問7 女性が職業をもつこと についての考え方	回答数	女性が 良い職業を もたない	結婚する までは職業を もたない	子どもが できるまでは 職業をもつ 方が	子どもが 大きくなると 職業を辞め、 パートタイム の仕事をもつ 方が	子どもが 大きくなると 職業を辞め、 ずっと職業を 続ける方が	わからない	その他	不明・ 無回答	
										全体
全体	342	2	7	9	65	174	52	22	11	
		100.0	0.6	2.0	2.6	19.0	50.9	15.2	6.4	3.2
問2 性別 役割 分担 意識	そう思う	8	1	0	0	1	2	2	1	1
			100.0	12.5	0.0	0.0	12.5	25.0	25.0	12.5
	どちらかといえば そう思う	80	1	4	6	28	29	9	2	1
			100.0	1.3	5.0	7.5	35.0	36.3	11.3	2.5
	どちらかといえば そう思わない	70	0	0	1	14	41	11	2	1
			100.0	0.0	0.0	1.4	20.0	58.6	15.7	2.9
そう思わない	174	0	2	2	21	100	29	16	4	
		100.0	0.0	1.1	1.1	12.1	57.5	16.7	9.2	2.3
不明・無回答	10	0	1	0	1	2	1	1	4	
		100.0	0.0	10.0	0.0	10.0	20.0	10.0	10.0	40.0

図7-8 問2性別役割分担意識別 と 問7女性が職業をもつことについての考え方



「問2『男は仕事、女は家庭』という性別役割分担別」と「問7 女性が職業をもつことについての考え方」の関係を見ると、「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」は女性が職業を持つことに対して肯定的意見が多い。ただし、ここでも「子どもができたなら、一時期大きくなるまでは家庭にいた方がいいのではないか」という意見が一定の割合を占めていることは、克服しなければならないことであると思われる。

問8 男性が育児休暇・介護休暇を取得することについての考え方

男性が育児休暇・介護休暇を取得することについて、あなたの考えを教えてください。
(○は1つ)

1) 全体、性別及び年齢層別特徴

表8-1

上段:(人) 下段:(%)

問8 男性が育児休暇・ 介護休暇を取得する ことについての考え方	回答 数	べき性	べき男ど	き男ど	思べき男	わ	そ	不	べき男	思べき男	
		だも と取 得 す る	性 だも と取 得 す る え ば	性 ち は ら か い と す い え ば	性 ち は ら か い と す い え ば	性 で は 取 得 す る	か ら な い	他	明 ・ 無 回 答	性 だも と取 得 す る	性 で は 取 得 す る
全 体	342 100.0	171 50.0	98 28.7	8 2.3	9 2.6	33 9.6	16 4.7	7 2.1	269 78.7	17 4.9	
性 別	女 性	202 100.0	106 52.5	56 27.7	4 2.0	2 1.0	18 8.9	12 5.9	4 2.0	162 80.2	6 3.0
	男 性	135 100.0	62 45.9	41 30.4	4 3.0	7 5.2	14 10.4	4 3.0	3 2.1	103 76.3	11 8.2
	女性・男性に あてはまらない	3 100.0	3 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3 100.0	0 0.0
	不明・無回答	2 100.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0
	性別 (女性) ・ 年齢	20歳代	12 100.0	7 58.4	3 25.0	0 0.0	0 0.0	1 8.3	1 8.3	0 0.0	10 83.4
	30歳代	29 100.0	16 55.2	9 31.0	0 0.0	0 0.0	1 3.4	3 10.4	0 0.0	25 86.2	0 0.0
	40歳代	25 100.0	13 52.0	7 28.0	0 0.0	0 0.0	1 4.0	3 12.0	1 4.0	20 80.0	0 0.0
	50歳代	42 100.0	24 57.1	8 19.0	1 2.4	1 2.4	6 14.3	2 4.8	0 0.0	32 76.2	2 4.8
	60歳代	44 100.0	23 52.3	12 27.3	2 4.5	0 0.0	4 9.1	2 4.5	1 2.3	35 79.5	2 4.5
	70歳以上	50 100.0	23 46.0	17 34.0	1 2.0	1 2.0	5 10.0	1 2.0	2 4.0	40 80.0	2 4.0
性 別 (男性) ・ 年齢	20歳代	11 100.0	5 45.4	4 36.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 9.1	1 9.1	9 81.8	0 0.0
	30歳代	15 100.0	6 40.0	5 33.3	2 13.3	1 6.7	1 6.7	0 0.0	0 0.0	11 73.3	3 20.0
	40歳代	19 100.0	9 47.4	5 26.3	0 0.0	2 10.5	2 10.5	1 5.3	0 0.0	14 73.7	2 10.5
	50歳代	22 100.0	10 45.5	5 22.7	0 0.0	2 9.1	4 18.2	1 4.5	0 0.0	15 68.2	2 9.1
	60歳代	42 100.0	23 54.8	11 26.2	2 4.8	2 4.8	3 7.1	0 0.0	1 2.3	34 81.0	4 9.5
	70歳以上	26 100.0	9 34.6	11 42.3	0 0.0	0 0.0	4 15.5	1 3.8	1 3.8	20 76.9	0 0.0
女性・男性に あ	50歳代	2 100.0	2 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 100.0	0 0.0
	70歳以上	1 100.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0
無 回 答 ・ 不 明	60歳代	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	70歳以上	1 100.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0

*「男性も取得するべきだと思う」・「男性も取得するべきだと思う」と「どちらかといえば男性も取得するべきだと思う」の合計

*「男性は取得するべきではないと思う」・「男性は取得するべきではないと思う」と「どちらかといえば男性は取得するべきではないと思う」の合計

図8-1 男性が育児休暇・介護休暇を取得することについて考え方(全体)

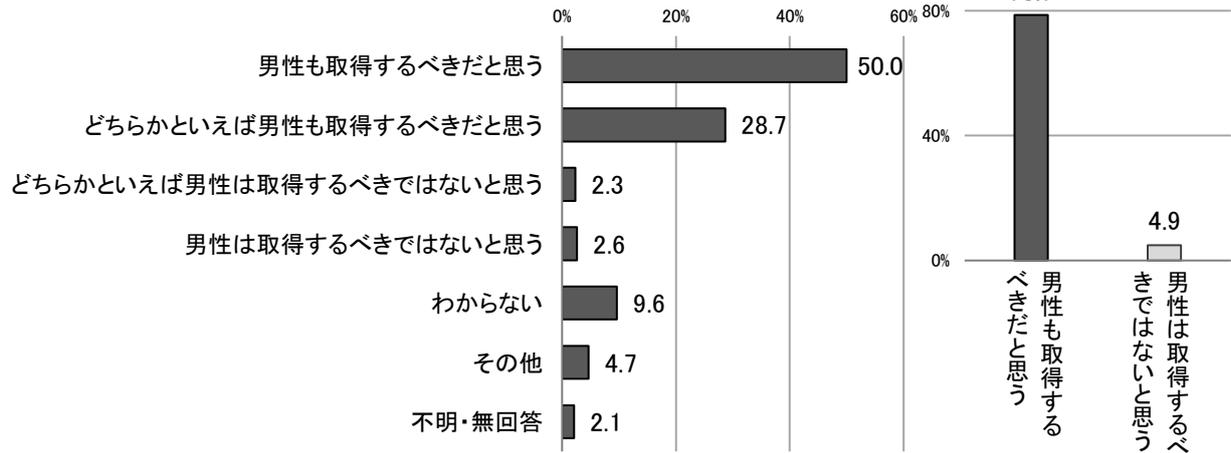


図8-2 男性が育児休暇・介護休暇を取得することについて考え方(性別)

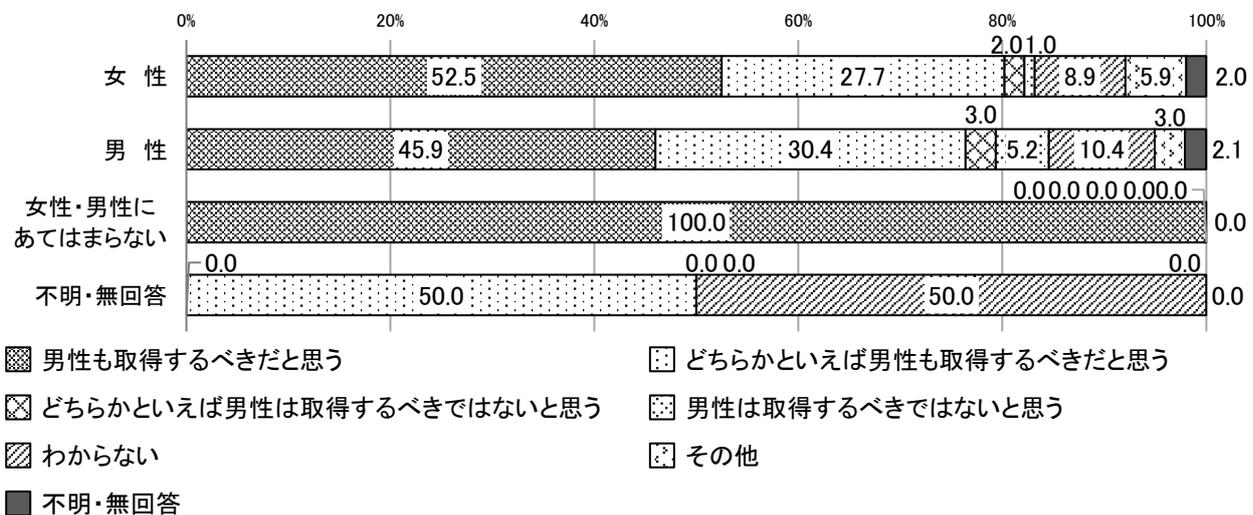
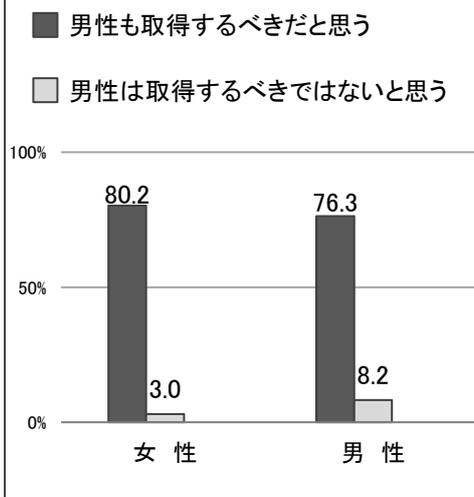


図8-3 性別



「男性が育児休暇・介護休暇を取得することについての考え方は、全体としては「男性も取得すべきだと思う」「どちらかといえば男性も取得すべきだと思う」を合計すると 78.7%と高い割合を示している。また、「女性」「男性」を問わず「男性も育児休暇、介護休暇を取るべきだと思う」割合も高い。

育児や介護は女性がという考え方は変わりつつあると思われる。

図8-4 男性が育児休暇・介護休暇を取得することについて考え方
(性別×年齢層別)

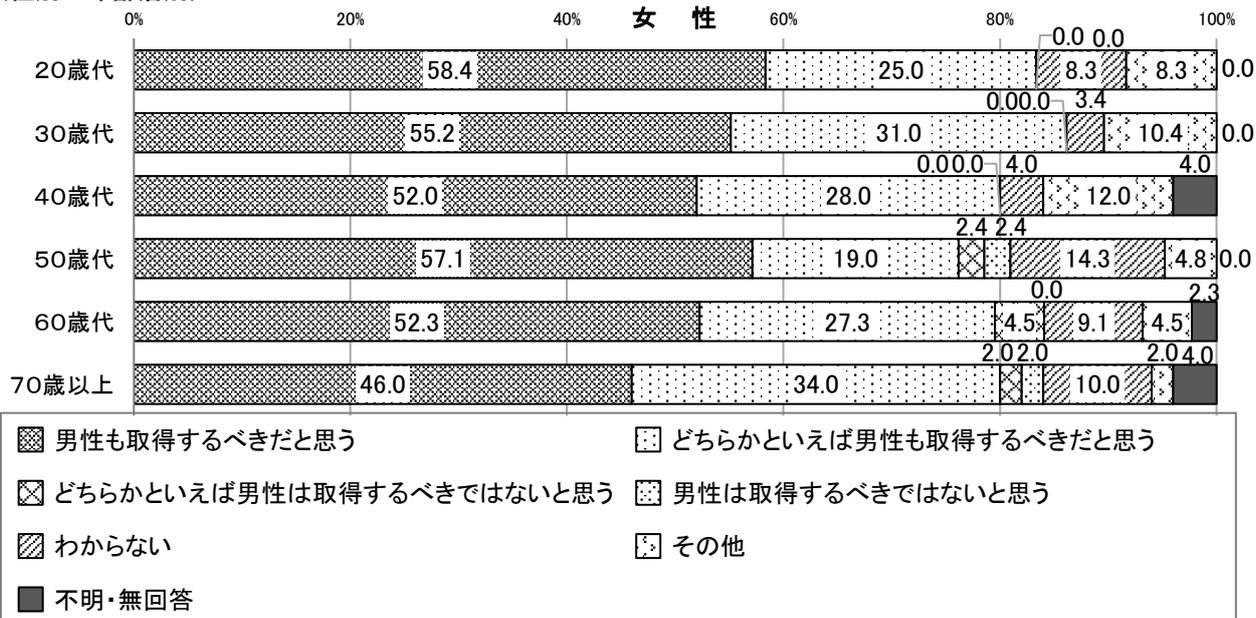
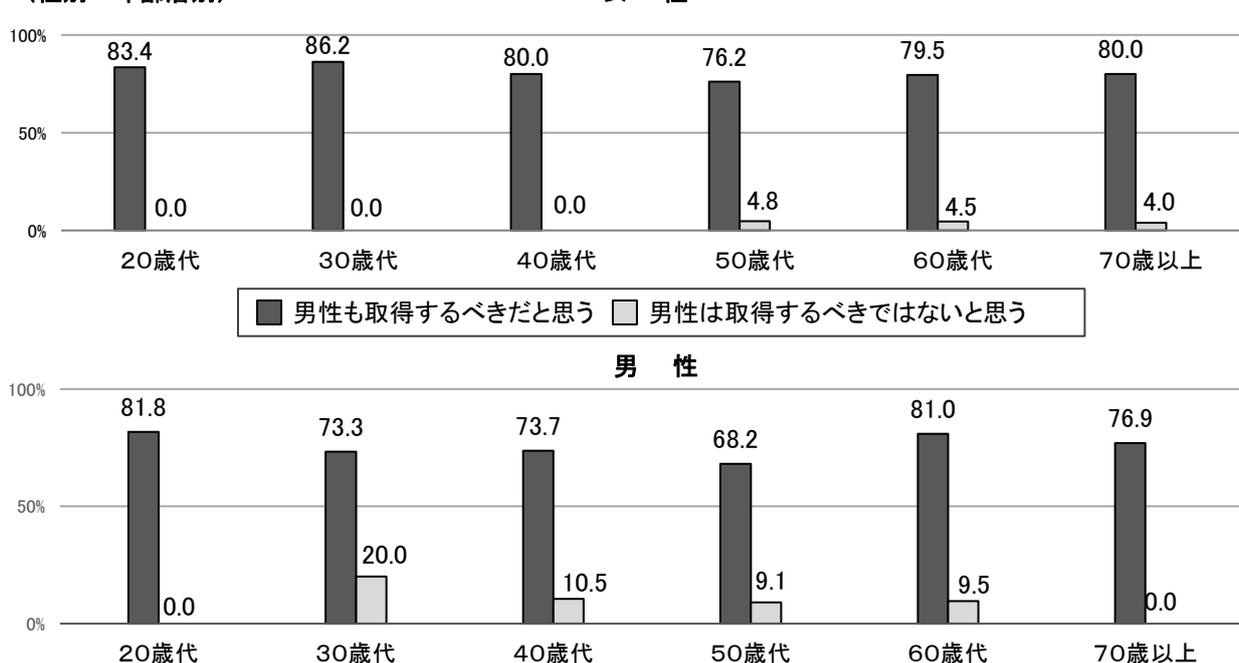


図8-5 男性が育児休暇・介護休暇を取得することについて考え方
(性別×年齢層別)



「男性が育児休暇、介護休暇を取るべきだと思う」という割合は、「性別」と「年齢層別」の関係を見ても高くなっている。

このことから「女性」「男性」がともに育児や介護にかかわるのが望ましい在り方であるという考えが広まってきていると思われる。

2) 配偶関係別特徴

表8-2

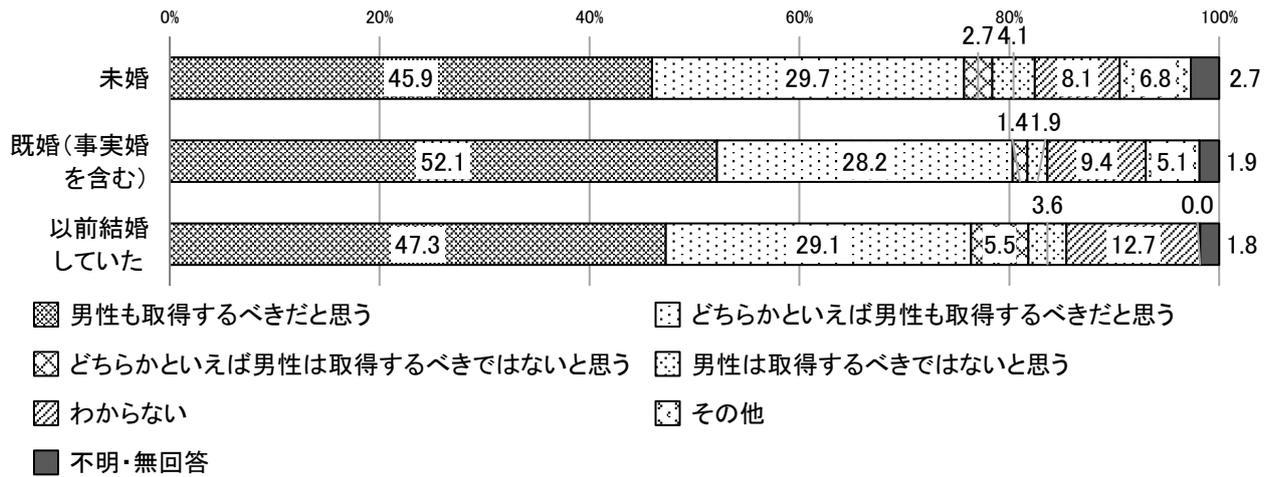
上段:(人) 下段:(%)

問8 男性が育児休暇・ 介護休暇を取得する ことについての考え方		回答数	べき男性 だも と取 得 す る	べき男性 だも と取 得 す る え ば	ど ち ら か と い え ば	ど ち ら か と い え ば	思 う べ き 性 性 は 取 得 す る	わ か ら な い	そ の 他	不 明 ・ 無 回 答	べき男性 だも と取 得 す る	思 う べ き 性 性 は 取 得 す る
全 体		342	171	98	8	9	33	16	7	269	17	
		100.0	50.0	28.7	2.3	2.6	9.6	4.7	2.1	78.7	4.9	
配 偶 関 係	未 婚	74	34	22	2	3	6	5	2	56	5	
		100.0	45.9	29.7	2.7	4.1	8.1	6.8	2.7	75.6	6.8	
	既 婚 (事実婚を含む)	213	111	60	3	4	20	11	4	171	7	
	以前結婚 していた	55	26	16	3	2	7	0	1	42	5	
		100.0	47.3	29.1	5.5	3.6	12.7	0.0	1.8	76.4	9.1	
女性全体		202	106	56	4	2	18	12	4	162	6	
		100.0	52.5	27.7	2.0	1.0	8.9	5.9	2.0	80.2	3.0	
配 偶 関 係 (女 性)	未 婚	34	19	8	1	0	2	3	1	27	1	
		100.0	55.9	23.5	2.9	0.0	5.9	8.9	2.9	79.4	2.9	
	既 婚 (事実婚を含む)	128	65	39	2	1	9	9	3	104	3	
	以前結婚 していた	40	22	9	1	1	7	0	0	31	2	
		100.0	55.0	22.5	2.5	2.5	17.5	0.0	0.0	77.5	5.0	
男性全体		135	62	41	4	7	14	4	3	103	11	
		100.0	45.9	30.4	3.0	5.2	10.4	3.0	2.1	76.3	8.2	
配 偶 関 係 (男 性)	未 婚	39	15	14	1	3	3	2	1	29	4	
		100.0	38.4	35.9	2.6	7.7	7.7	5.1	2.6	74.3	10.3	
	既 婚 (事実婚を含む)	81	43	20	1	3	11	2	1	63	4	
	以前結婚 していた	15	4	7	2	1	0	0	1	11	3	
		100.0	26.7	46.6	13.3	6.7	0.0	0.0	6.7	73.3	20.0	
女性・男性に あてはまらない全体		3	3	0	0	0	0	0	0	3	0	
		100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	
係 配 偶 関 係 ・ 不 明 ・ 無 回 答	既 婚 (事実婚を含む)	3	3	0	0	0	0	0	0	3	0	
		100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	
不明・無回答		2	0	1	0	0	1	0	0	1	0	
		100.0	0.0	50.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	50.0	0.0	
配 偶 関 係	未 婚	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	
		100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	既 婚 (事実婚を含む)	1	0	1	0	0	0	0	0	1	0	
		100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	

*「男性も取得するべきだと思う」・「男性も取得するべきだと思う」と「どちらかといえば男性も取得するべきだと思う」の合計

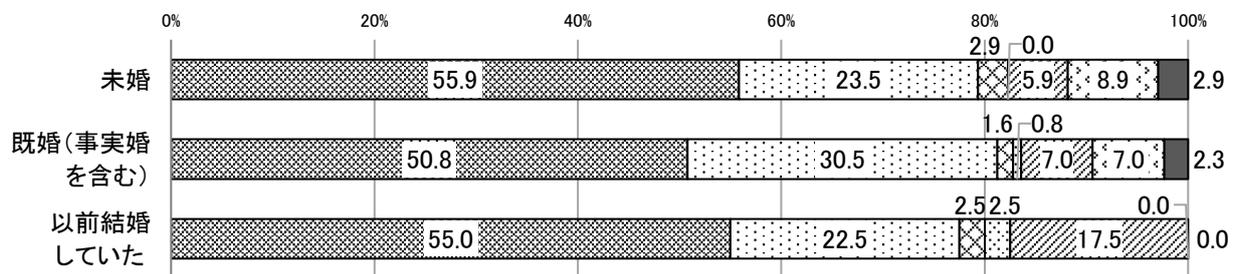
*「男性は取得するべきではないと思う」・「男性は取得するべきではないと思う」と「どちらかといえば男性は取得するべきではないと思う」の合計

図8-4 男性が育児休暇・介護休暇を取得することについて考え方(配偶関係)



(性別×配偶関係)

女性



(性別×配偶関係)

男性

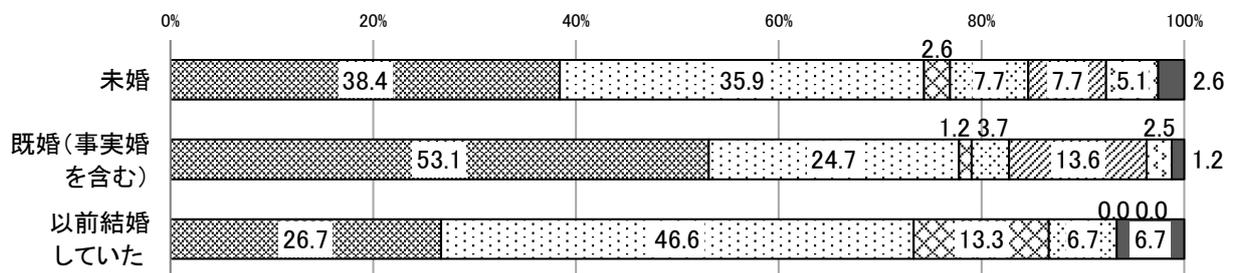
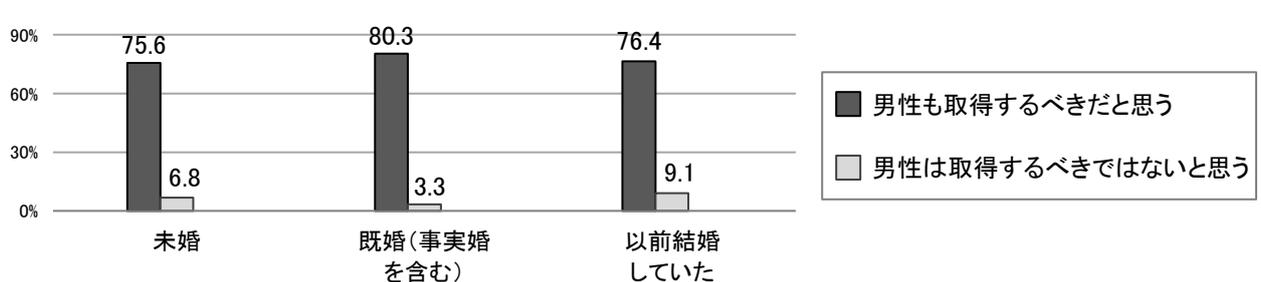
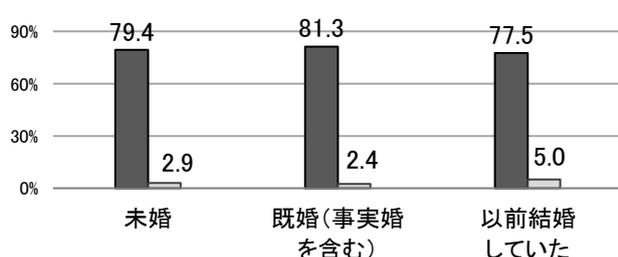


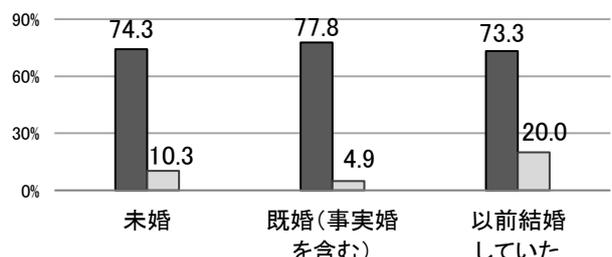
図8-7 男性が育児休暇・介護休暇を取得することについて考え方(配偶関係別)



(性別×配偶関係別) 女性



男性



「性別」と「配偶関係別」の関係でも「男性が育児休暇・介護休暇を取得すべきだと思う」割合は高い。

現実に男性が育児休暇・介護休暇を取得しているかどうかは別にしても、男女共同参画の考え方は広まっていると思われる。

3) 共働きの有無別特徴

表8-3

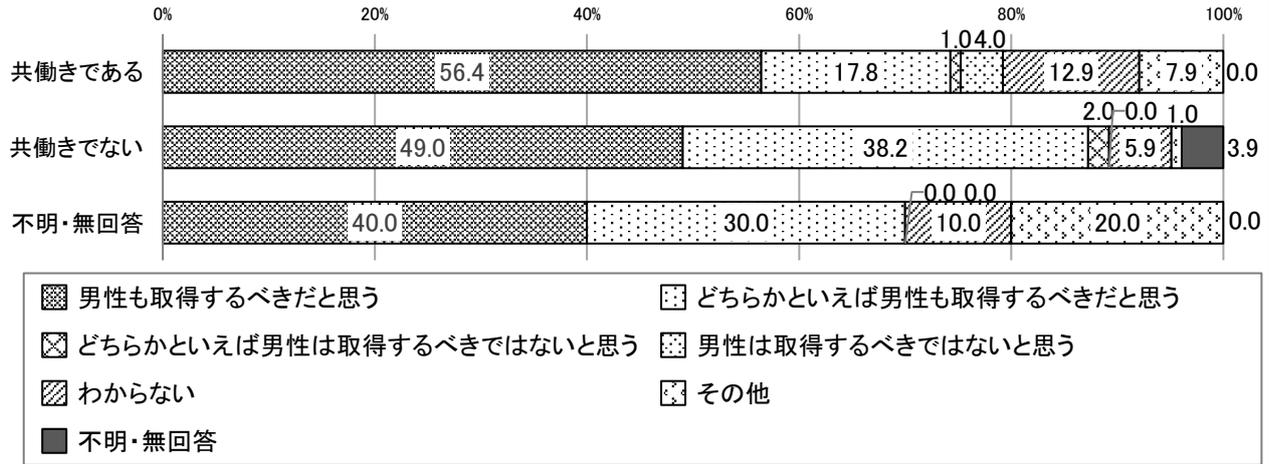
上段:(人) 下段:(%)

問8 男性が育児休暇・ 介護休暇を取得する ことについての考え方		回答数	男性も取得するべきだと思う	男性も取得するべきだと思う	どちらか一方は取得するべきだと思う	どちらか一方は取得するべきではないと思う	わからない	その他	不明・無回答	男性も取得するべきだと思う	男性も取得するべきではないと思う
全体		213	111	60	3	4	20	11	4	171	7
既婚(事実婚含む)		100.0	52.1	28.2	1.4	1.9	9.4	5.1	1.9	80.3	3.3
共働きの有無	共働きである	101	57	18	1	4	13	8	0	75	5
	共働きでない	102	50	39	2	0	6	1	4	89	2
	不明・無回答	10	4	3	0	0	1	2	0	7	0
		100.0	49.0	38.2	2.0	0.0	5.9	1.0	3.9	87.2	2.0
		100.0	40.0	30.0	0.0	0.0	10.0	20.0	0.0	70.0	0.0
既婚女性全体		128	65	39	2	1	9	9	3	104	3
		100.0	50.8	30.5	1.6	0.8	7.0	7.0	2.3	81.3	2.4
性別別 (女性有無)	共働きである	61	32	14	1	1	6	7	0	46	2
	共働きでない	59	30	22	1	0	3	0	3	52	1
	不明・無回答	8	3	3	0	0	0	2	0	6	0
		100.0	50.8	37.3	1.7	0.0	5.1	0.0	5.1	88.1	1.7
		100.0	37.5	37.5	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	75.0	0.0
既婚男性全体		81	43	20	1	3	11	2	1	63	4
		100.0	53.1	24.7	1.2	3.7	13.6	2.5	1.2	77.8	4.9
性別別 (男性有無)	共働きである	38	23	4	0	3	7	1	0	27	3
	共働きでない	41	19	16	1	0	3	1	1	35	1
	不明・無回答	2	1	0	0	0	1	0	0	1	0
		100.0	46.4	39.0	2.4	0.0	7.4	2.4	2.4	85.4	2.4
		100.0	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	50.0	0.0
女性・男性に あてはまらない全体		3	3	0	0	0	0	0	0	3	0
		100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
共働きの有無	共働きである	2	2	0	0	0	0	0	0	2	0
	共働きでない	1	1	0	0	0	0	0	0	1	0
		100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
不明・無回答		1	0	1	0	0	0	0	0	1	0
		100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
共働きの有無別	共働きでない	1	0	1	0	0	0	0	0	1	0
		100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0

*「男性も取得するべきだと思う」・「男性も取得するべきだと思う」と「どちらかといえば男性も取得するべきだと思う」の合計

*「男性は取得するべきではないと思う」・「男性は取得するべきではないと思う」と「どちらかといえば男性は取得するべきではないと思う」の合計

図8-8 男性が育児休暇・介護休暇を取得することについて考え方
(共働きの有無別)



(性別×共働きの有無別)

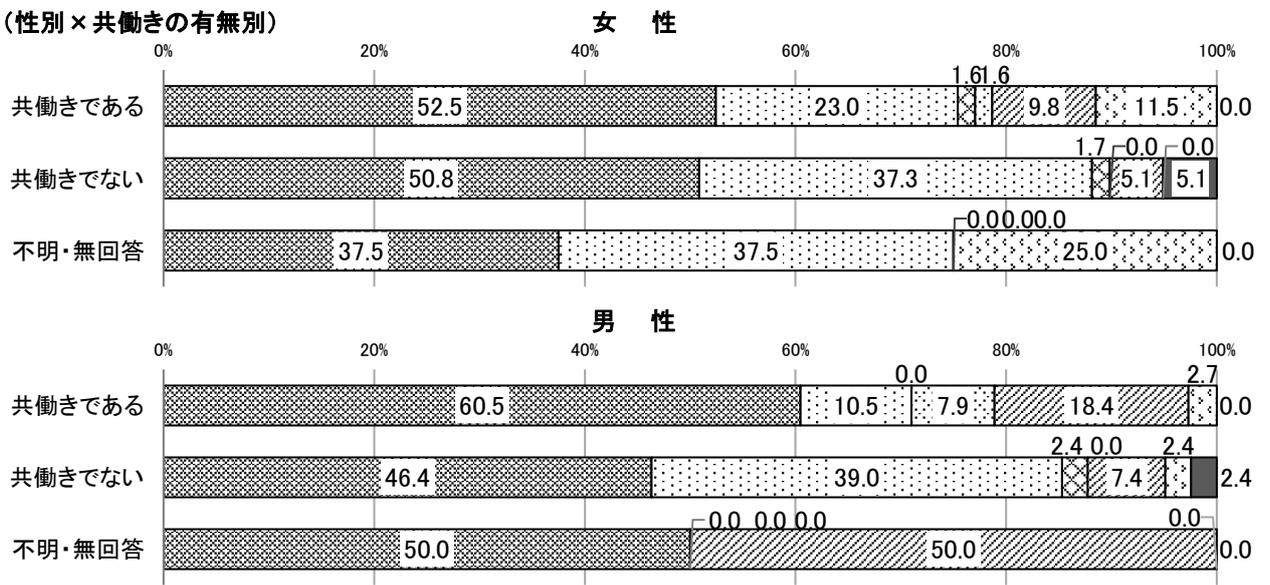
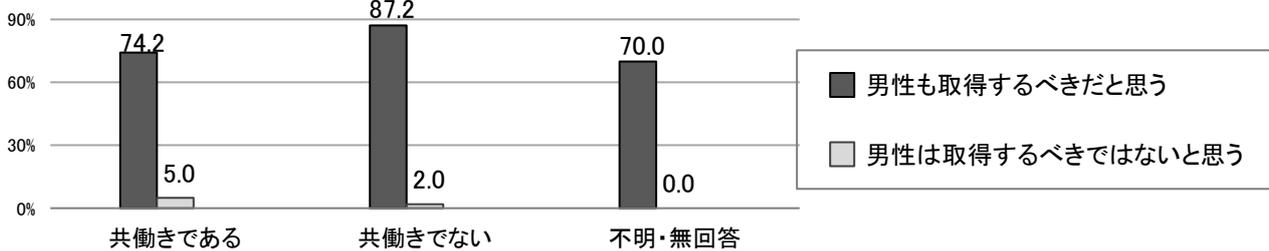
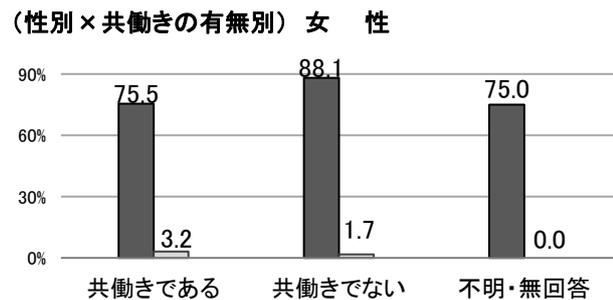


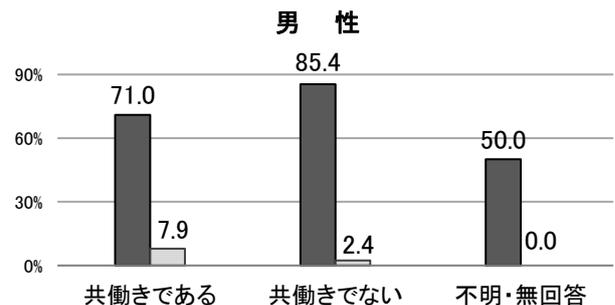
図8-9 男性が育児休暇・介護休暇を取得することについて考え方
(共働きの有無別)



(性別×共働きの有無別) 女性



男性



「共働きの有無別」では、「男性も取得するべきだと思う」と回答した割合は「共働きである」が56.4%、「共働きでない」が49.0%、「どちらかといえば男性も取得するべきだと思う」は「共働きである」が17.8%、「共働きでない」が38.2%、双方合わせて「男性も取得するべきだと思う」は高い割合を示している。「性別」と「共働きの有無別」の関係においても同じことが言える。

ここでも、男女共同参画に対する肯定的意見の広がりが見られる。

4) 子どもの有無別特徴

表8-4

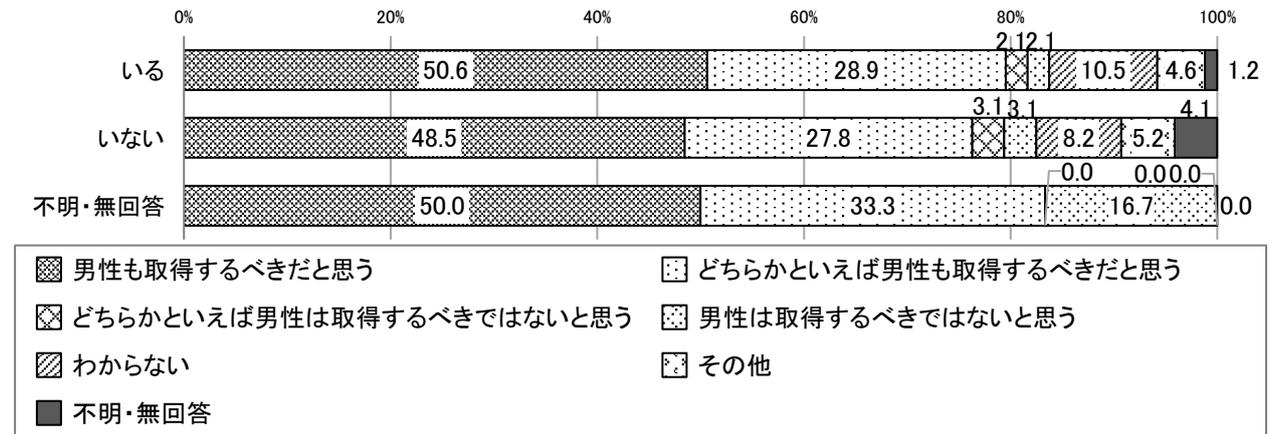
上段:(人) 下段:(%)

問8 男性が育児休暇・ 介護休暇を取得する ことについての考え方		回答 数	べ男 き性 だも と取 得す る	べ男 き性 だも と取 得す る	ど ち ら か と す い え ば	ど ち ら か と す い え ば	思 う べ 男 性 で は 取 得 す る	わ か ら な い	そ の 他	不 明 ・ 無 回 答	べ男 き性 だも と取 得す る	思 う べ 男 性 で は 取 得 す る
全 体		342	171	98	8	9	33	16	7	269	17	
		100.0	50.0	28.7	2.3	2.6	9.6	4.7	2.1	78.7	4.9	
子 ど も の 有 無	い る	239	121	69	5	5	25	11	3	190	10	
		100.0	50.6	28.9	2.1	2.1	10.5	4.6	1.2	79.5	4.2	
	い な い	97	47	27	3	3	8	5	4	74	6	
		100.0	48.5	27.8	3.1	3.1	8.2	5.2	4.1	76.3	6.2	
不 明 ・ 無 回 答		6	3	2	0	1	0	0	0	5	1	
		100.0	50.0	33.3	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0	83.3	16.7	
女 性 全 体		202	106	56	4	2	18	12	4	162	6	
		100.0	52.5	27.7	2.0	1.0	8.9	5.9	2.0	80.2	3.0	
子 性 ど 別 も (女 有 性 無)	い る	147	77	41	2	1	15	9	2	118	3	
		100.0	52.4	27.8	1.4	0.7	10.2	6.1	1.4	80.2	2.1	
	い な い	49	26	13	2	0	3	3	2	39	2	
		100.0	53.1	26.5	4.1	0.0	6.1	6.1	4.1	79.6	4.1	
不 明 ・ 無 回 答		6	3	2	0	1	0	0	0	5	1	
		100.0	50.0	33.3	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0	83.3	16.7	
男 性 全 体		135	62	41	4	7	14	4	3	103	11	
		100.0	45.9	30.4	3.0	5.2	10.4	3.0	2.1	76.3	8.2	
も 性 別 有 ・ 無 子 ど	い る	88	41	27	3	4	10	2	1	68	7	
		100.0	46.6	30.7	3.4	4.5	11.4	2.3	1.1	77.3	7.9	
	い な い	47	21	14	1	3	4	2	2	35	4	
		100.0	44.7	29.8	2.1	6.3	8.5	4.3	4.3	74.5	8.4	
女 性 ・ 男 性 に あ て は ま ら な い 全 体		3	3	0	0	0	0	0	0	3	0	
		100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	
の 子 性 有 ど 別 無 も ・	い る	3	3	0	0	0	0	0	0	3	0	
		100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	
不 明 ・ 無 回 答		2	0	1	0	0	1	0	0	1	0	
		100.0	0.0	50.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	50.0	0.0	
も 性 別 有 ・ 無 子 ど	い る	1	0	1	0	0	0	0	0	1	0	
		100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	
	い な い	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	
		100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	

*「男性も取得するべきだと思う」・「男性も取得するべきだと思う」と「どちらかといえば男性も取得するべきだと思う」の合計

*「男性は取得するべきではないと思う」・「男性は取得するべきではないと思う」と「どちらかといえば男性は取得するべきではないと思う」の合計

図8-10 男性が育児休暇・介護休暇を取得することについて考え方
(子どもの有無別)



(性別×子どもの有無)

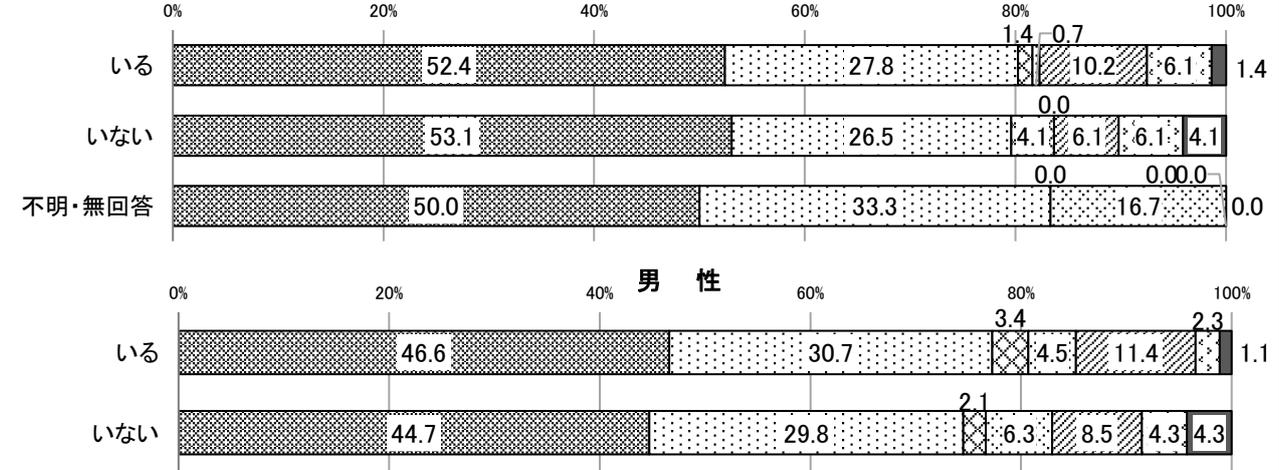
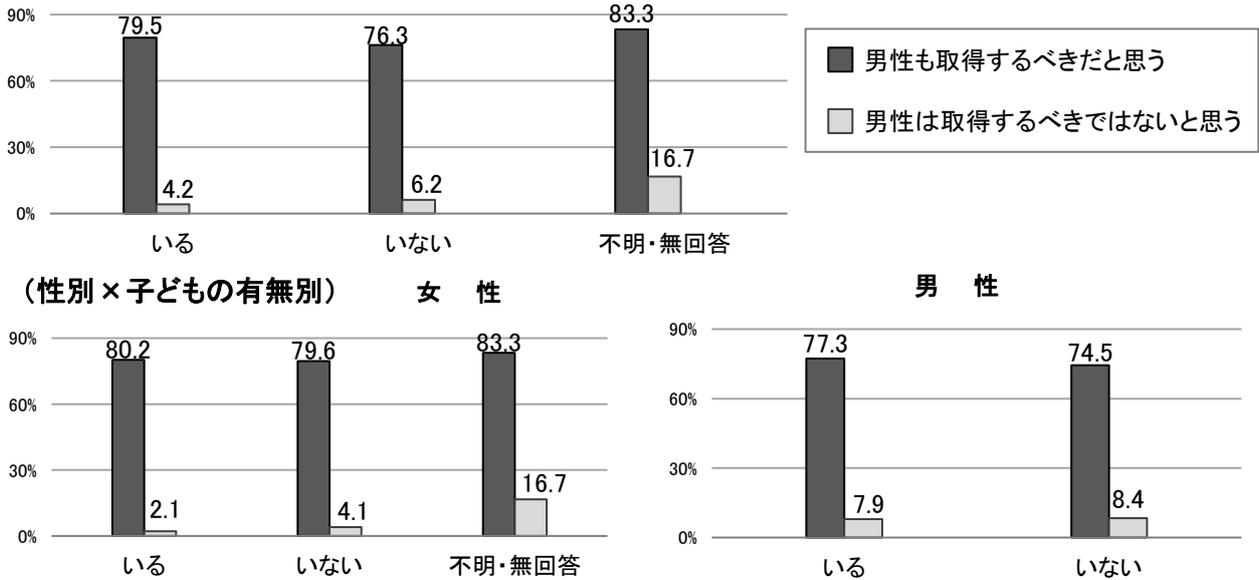


図8-11 男性が育児休暇・介護休暇を取得することについて考え方
(子どもの有無別)



「子どもの有無別」においても、「男性も育児休暇、介護休暇を取得すべきだと思う」意見が多い。ここでも肯定的結果が見られる。

問9 家庭内の役割分担（理想・現実）

家庭での仕事について、理想と現実を教えてください。1 ページ目で、「1 未婚」を選択した方は理想のみ回答、「2 既婚（事実婚含む）」、「3 以前結婚していた」を選択した方は理想と現実を回答してください。（1つの項目につき、○は1つ）

1) 全体の特徴（未婚・・・理想、既婚・以前結婚していた・・・理想・現実）

①未婚

表9-1

上段:実数(人) 下段:割合(%)

問9 家庭内の役割分担		回答数	主に夫が行う	主に妻が行う	(夫と妻) 共同で行う	家族全員で行う	その他	わからない	不明・無回答
1 未婚 (理想)									
(1)食事のしたく(全体)		74 100.0	0 0.0	18 24.3	32 43.2	15 20.3	3 4.1	2 2.7	4 5.4
性別	女性	34 100.0	0 0.0	10 29.4	16 47.1	8 23.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	男性	39 100.0	0 0.0	8 20.5	16 41.0	7 17.9	3 7.7	1 2.6	4 10.3
(2)食事の片づけ、 食器洗い(全体)		74 100.0	1 1.4	8 10.8	32 43.2	23 31.1	3 4.1	1 1.4	6 8.1
性別	女性	34 100.0	1 2.9	4 11.8	14 41.2	14 41.2	0 0.0	0 0.0	1 2.9
	男性	39 100.0	0 0.0	4 10.3	18 46.2	9 23.1	3 7.7	1 2.6	4 10.3
(3)掃 掃(全体)		74 100.0	1 1.4	6 8.1	29 39.2	29 39.2	1 1.4	2 2.7	6 8.1
性別	女性	34 100.0	0 0.0	4 11.8	11 32.4	17 50.0	1 2.9	0 0.0	1 2.9
	男性	39 100.0	1 2.6	2 5.1	18 46.2	12 30.8	0 0.0	2 5.1	4 10.3
(4)洗 濯(全体)		74 100.0	1 1.4	18 24.3	30 40.5	17 23.0	1 1.4	1 1.4	6 8.1
性別	女性	34 100.0	1 2.9	8 23.5	15 44.1	9 26.5	0 0.0	0 0.0	1 2.9
	男性	39 100.0	0 0.0	10 25.6	15 38.5	8 20.5	1 2.6	1 2.6	4 10.3
(5)子育て(全体)		74 100.0	0 0.0	5 6.8	42 56.8	17 23.0	0 0.0	4 5.4	6 8.1
性別	女性	34 100.0	0 0.0	3 8.8	20 58.8	9 26.5	0 0.0	1 2.9	1 2.9
	男性	39 100.0	0 0.0	2 5.1	22 56.4	8 20.5	0 0.0	3 7.7	4 10.3
(6)看護・介護(全体)		74 100.0	1 1.4	4 5.4	32 43.2	27 36.5	2 2.7	3 4.1	5 6.8
性別	女性	34 100.0	0 0.0	2 5.9	14 41.2	14 41.2	1 2.9	2 5.9	1 2.9
	男性	39 100.0	1 2.6	2 5.1	18 46.2	13 33.3	1 2.6	1 2.6	3 7.7
(7)家計の管理(全体)		74 100.0	1 1.4	12 16.2	43 58.1	7 9.5	1 1.4	4 5.4	6 8.1
性別	女性	34 100.0	0 0.0	6 17.6	23 67.6	3 8.8	0 0.0	1 2.9	1 2.9
	男性	39 100.0	1 2.6	6 15.4	20 51.3	4 10.3	1 2.6	3 7.7	4 10.3

※各項目とも無回答の1名は表作成上の都合のため入っていません。

②既婚・以前結婚していた

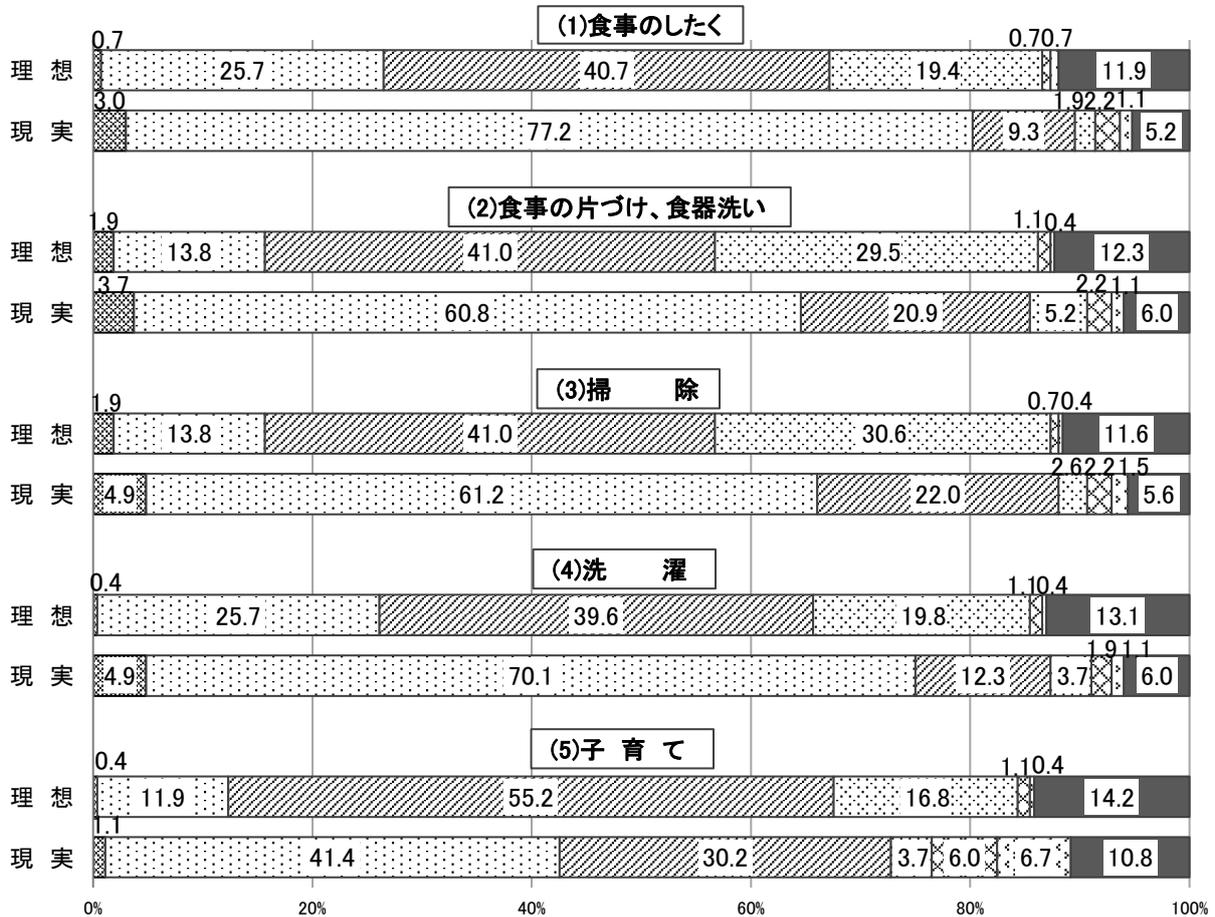
表9-2

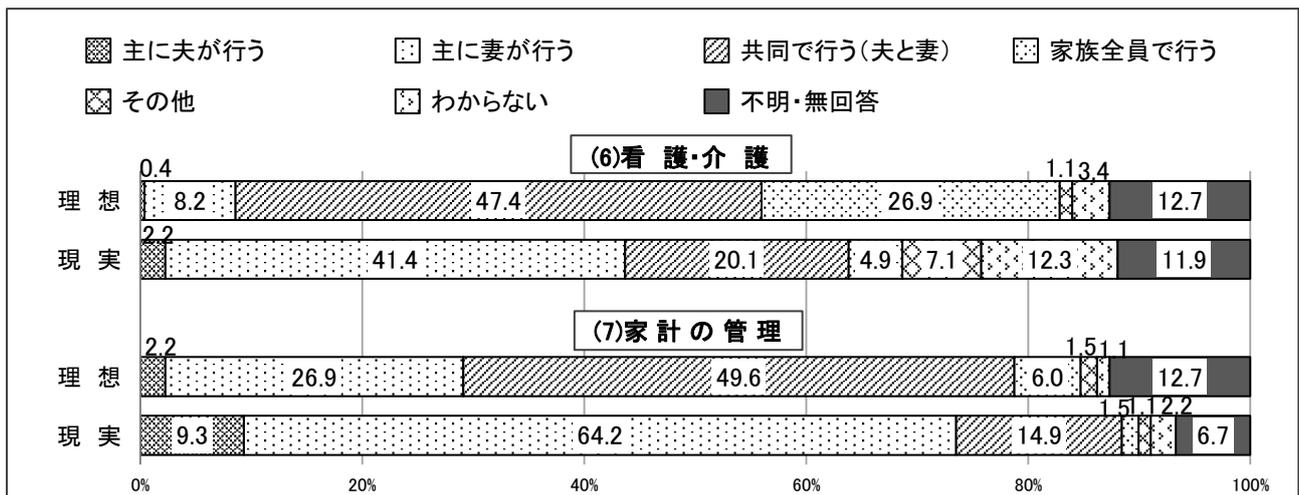
上段:実数(人) 下段:割合(%)

問9 家庭内の役割 分担 2既婚(事実婚含む) 3以前結婚して いた (理想・現実)	回答 数	主に夫が 行う		主に妻が 行う		共同で 行う (夫と妻)		家族 全員で 行う		その 他		わか らな い		不 明・ 無 回 答	
		理想	現実	理想	現実	理想	現実	理想	現実	理想	現実	理想	現実	理想	現実
(1)食事のしたく	268	2	8	69	207	109	25	52	5	2	6	2	3	32	14
	100.0	0.7	3.0	25.7	77.2	40.7	9.3	19.4	1.9	0.7	2.2	0.7	1.1	11.9	5.2
(2)食事の片づけ、食器洗い	268	5	10	37	163	110	56	79	14	3	6	1	3	33	16
	100.0	1.9	3.7	13.8	60.8	41.0	20.9	29.5	5.2	1.1	2.2	0.4	1.1	12.3	6.0
(3)掃除	268	5	13	37	164	110	59	82	7	2	6	1	4	31	15
	100.0	1.9	4.9	13.8	61.2	41.0	22.0	30.6	2.6	0.7	2.2	0.4	1.5	11.6	5.6
(4)洗濯	268	1	13	69	188	106	33	53	10	3	5	1	3	35	16
	100.0	0.4	4.9	25.7	70.1	39.6	12.3	19.8	3.7	1.1	1.9	0.4	1.1	13.1	6.0
(5)子育て	268	1	3	32	111	148	81	45	10	3	16	1	18	38	29
	100.0	0.4	1.1	11.9	41.4	55.2	30.2	16.8	3.7	1.1	6.0	0.4	6.7	14.2	10.8
(6)看護・介護	268	1	6	22	111	127	54	72	13	3	19	9	33	34	32
	100.0	0.4	2.2	8.2	41.4	47.4	20.1	26.9	4.9	1.1	7.1	3.4	12.3	12.7	11.9
(7)家計の管理	268	6	25	72	172	133	40	16	4	4	3	3	6	34	18
	100.0	2.2	9.3	26.9	64.2	49.6	14.9	6.0	1.5	1.5	1.1	1.1	2.2	12.7	6.7

図9-1 家庭内の役割分担(全体) 2既婚(事実婚含む)、3以前結婚していた
(理想・現実)

主に夫が行う
 主に妻が行う
 共同で行う(夫と妻)
 家族全員で行う
 その他
 わからない
 不明・無回答





「家庭内の役割分担（理想・現実）」について、「未婚」の意見は育ってきた家庭環境や自分の周囲の状況を見て判断していると思われるが、「共同で行う（夫と妻）」は、「食事のしたく」（全体 43.2%、女性 47.1%、男性 41.0%）、「食事の片づけ、食器洗い」（全体 43.2%、女性 41.2%、男性 46.2%）、「掃除」（全体 39.2%、女性 32.4%、男性 46.2%）、「洗濯」（全体 40.5%、女性 44.1%、男性 38.5%）、「子育て」（全体 56.8%、女性 58.8%、男性 56.4%）、「看護、介護」（全体 43.2%、女性 41.2%、男性 46.2%）、「家計の管理」（全体 58.1%、女性 67.6%、男性 51.3%）と、すべての項目で高い数値となっている。家庭内の役割分担は、「共同で行う（夫と妻）」「家族全員で行う」ということが「未婚」の理想であると考えられる。

「既婚」は全体として、理想と現実の格差が大きい。「理想」としては「共同で行う（夫と妻）」の数値が最も多く、「食事の支度」が 40.7%、「食器の片づけ、食器洗い」が 41.0%、「掃除」が 41.0%、「洗濯」が 39.6%、「看護、介護」が 47.4%、「家計の管理」が 49.6%であるが、現実には「主に妻が行う」で、「食事の支度」が 77.2%、「食器の片づけ、食器洗い」が 60.8%、「掃除」が 61.2%、「洗濯」が 70.1%、「家計の管理」が 64.2%と非常に高い。

なお、「未婚」の「共同で行う（夫と妻）」の数値について、男性が女性よりも高くなっている項目は、「家族全員で行う」での女性の数値が高くなっていることから生じていると思われる。

現実の生活では、男女共同参画の実現にはまだまだ遠いことを結果が示しているように思われる。ただ、「子育て」については理想（共同で行う：55.2%）と現実（主に妻が行う 41.4%）には格差はあるものの、現実では「共同で行う（夫と妻）」（30.2%）実態があるという結果が出ている。

(1) 食事のしたく

1) 性別及び年齢層別特徴

表9-3

上段:実数(人) 下段:割合(%)

問9 家庭内の役割 分担 2既婚(事実婚含む)、 3以前結婚していた (理想・現実)		(1)食事のしたく														
		回 答 数	主 に 夫 が 行 う		主 に 妻 が 行 う		(夫と妻) 共 同 で 行 う		家 族 全 員 で 行 う		そ の 他		わ か ら な い		不 明 ・ 無 回 答	
			理 想	現 実	理 想	現 実	理 想	現 実	理 想	現 実	理 想	現 実	理 想	現 実	理 想	現 実
全 体 (2既婚 3以前結婚していた)		268	2	8	69	207	109	25	52	5	2	6	2	3	32	14
		100.0	0.7	3.0	25.7	77.2	40.7	9.3	19.4	1.9	0.7	2.2	0.7	1.1	11.9	5.2
性 別	女 性	168	2	1	31	136	74	13	34	2	0	4	1	3	26	9
		100.0	1.2	0.6	18.5	81.0	44.0	7.7	20.2	1.2	0.0	2.4	0.6	1.8	15.5	5.4
	男 性	96	0	7	38	68	33	11	16	3	2	2	1	0	6	5
		100.0	0.0	7.3	39.6	70.8	34.4	11.5	16.7	3.1	2.1	2.1	1.0	0.0	6.3	5.2
	女性・男性に あてはまらない	3	0	0	0	3	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0
	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0	33.3	0.0	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	不明・無回答	1	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	
		100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
性 別 (女 性) ・ 年 齢	20歳代	3	0	0	1	2	0	0	2	0	0	1	0	0	0	0
		100.0	0.0	0.0	33.3	66.7	0.0	0.0	66.7	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0
	30歳代	18	0	0	3	14	10	3	3	1	0	0	0	0	2	0
		100.0	0.0	0.0	16.7	77.8	55.6	16.7	16.7	5.6	0.0	0.0	0.0	0.0	11.1	0.0
	40歳代	21	1	0	3	17	11	2	6	1	0	0	0	0	0	1
		100.0	4.8	0.0	14.3	81.0	52.4	9.5	28.6	4.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	50歳代	35	0	1	8	32	14	1	9	0	0	1	0	0	4	0
	100.0	0.0	2.9	22.9	91.4	40.0	2.9	25.7	0.0	0.0	2.9	0.0	0.0	11.4	0.0	
60歳代	42	0	0	7	33	21	5	7	0	0	0	0	0	7	4	
	100.0	0.0	0.0	16.7	78.6	50.0	11.9	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	9.5	
70歳以上	49	1	0	9	38	18	2	7	0	0	2	1	3	13	4	
	100.0	2.0	0.0	18.4	77.6	36.7	4.1	14.3	0.0	0.0	4.1	2.0	6.1	26.5	8.2	
性 別 (男 性) ・ 年 齢	20歳代	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		100.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	30歳代	8	0	0	2	6	6	2	0	0	0	0	0	0	0	0
		100.0	0.0	0.0	25.0	75.0	75.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	40歳代	11	0	1	3	10	4	0	2	0	1	0	1	0	0	0
		100.0	0.0	9.1	27.3	90.9	36.4	0.0	18.2	0.0	9.1	0.0	9.1	0.0	0.0	0.0
	50歳代	16	0	0	7	12	4	2	4	1	0	1	0	0	0	0
	100.0	0.0	0.0	43.8	75.0	25.0	12.5	25.0	6.3	6.3	6.3	0.0	0.0	0.0	0.0	
60歳代	36	0	4	14	23	11	4	7	1	0	1	0	0	4	3	
	100.0	0.0	11.1	38.9	63.9	30.6	11.1	19.4	2.8	0.0	2.8	0.0	0.0	11.1	8.3	
70歳以上	24	0	1	11	17	8	3	3	1	0	0	0	0	2	2	
	100.0	0.0	4.2	45.8	70.8	33.3	12.5	12.5	4.2	0.0	0.0	0.0	0.0	8.3	8.3	
女 性 ・ 男 性 に あ て は ま ら な い	50歳代	2	0	0	0	2	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0
		100.0	0.0	0.0	0.0	100.0	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
70歳以上	1	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	
	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
不 明 ・ 無 回 答	70歳以上	1	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	
		100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	

図9-2 (1)食事のしたく 2 既婚(事実婚含む)、3 以前結婚していた
(理想・現実)

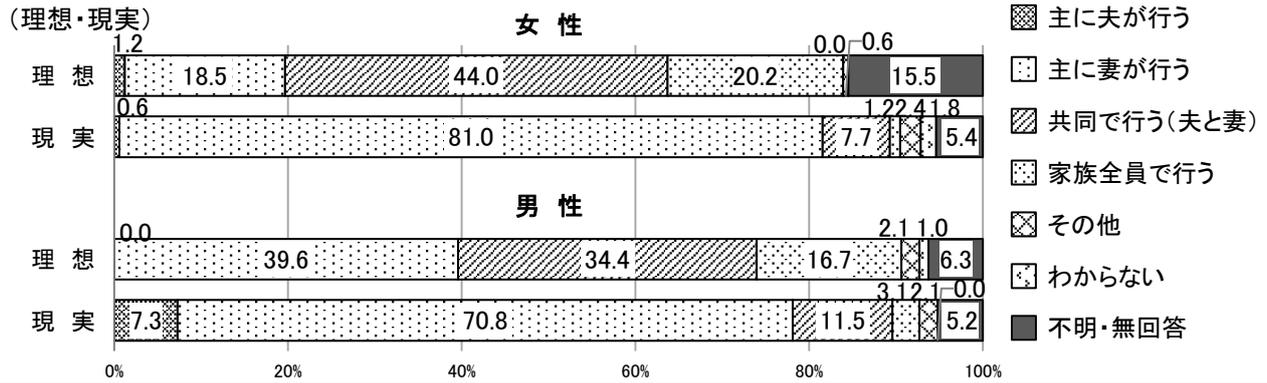
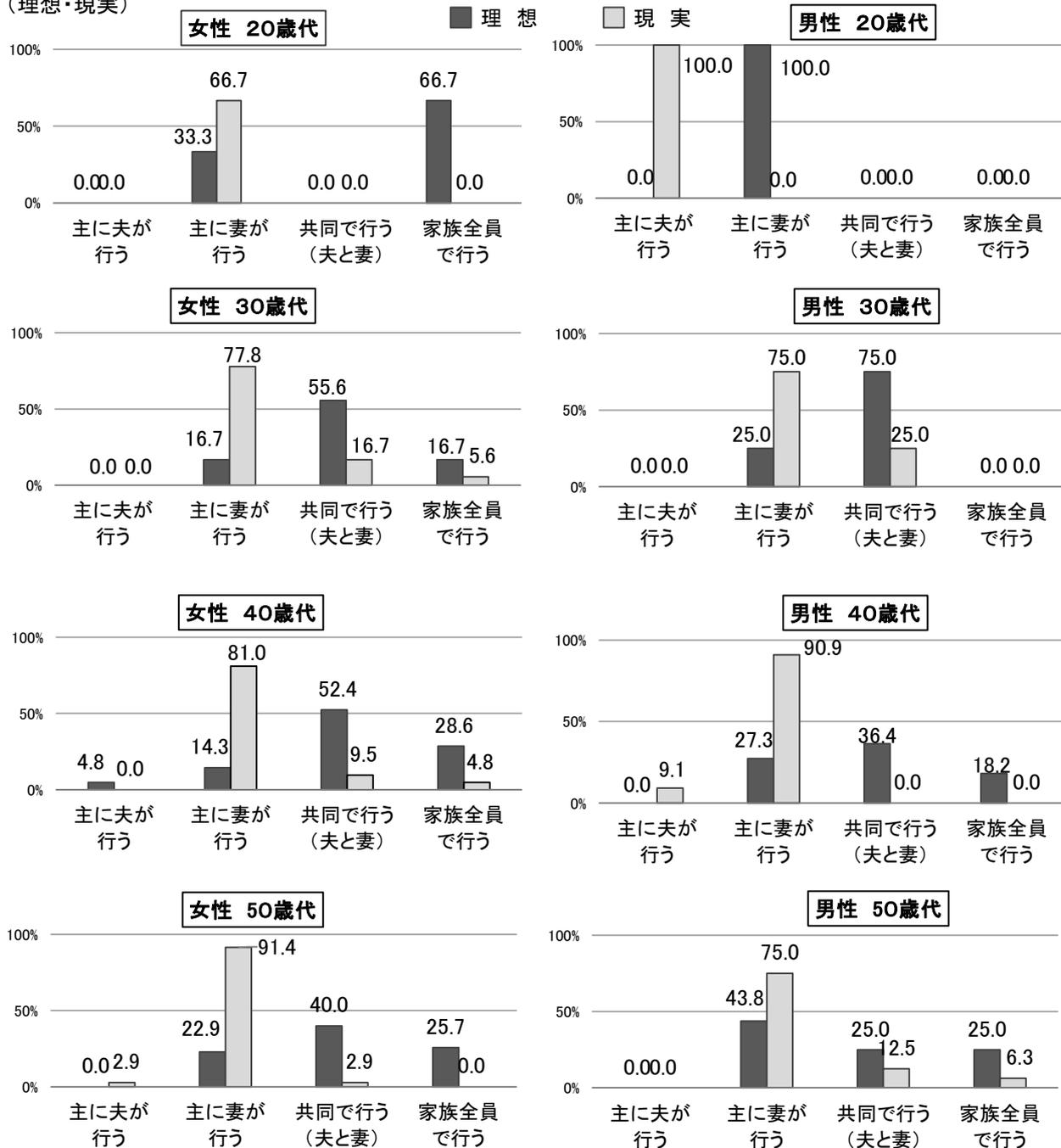
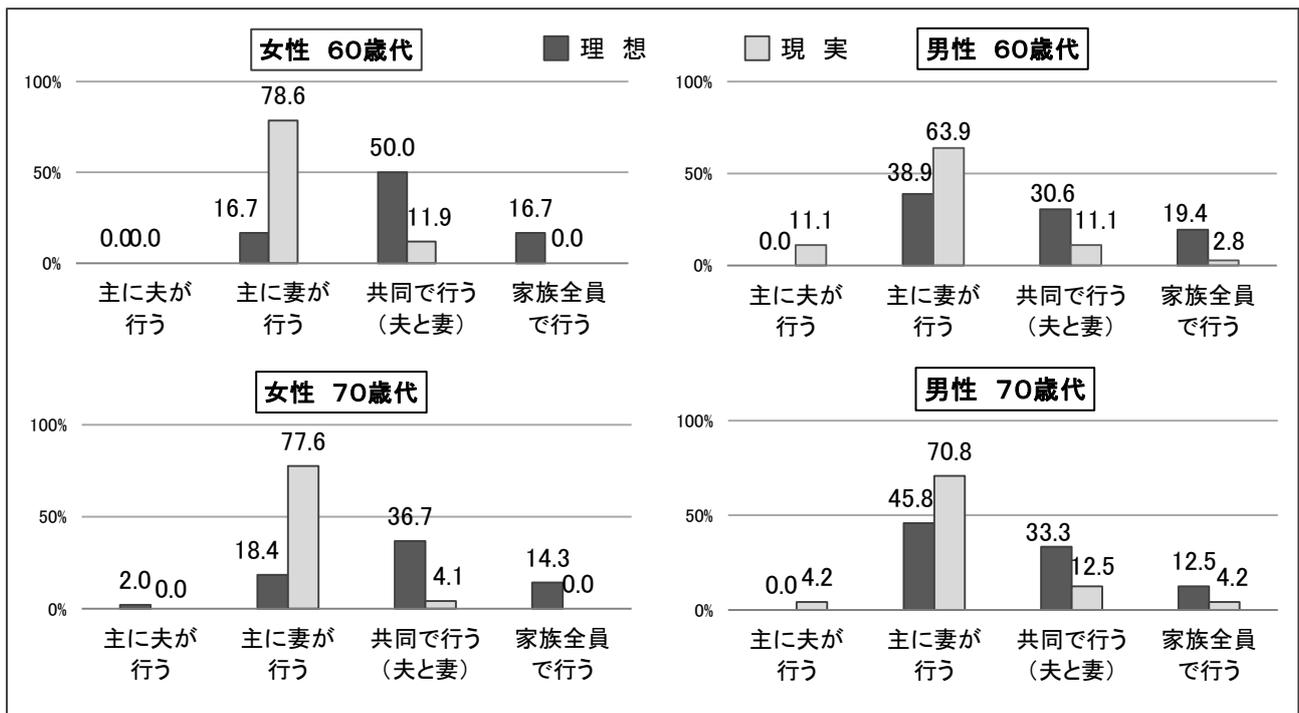


図9-3 (1)食事のしたく 2 既婚(事実婚含む)、3 以前結婚していた
(理想・現実)





「家庭内の役割分担（理想・現実）」について項目別に見ると、「食事のしたく」は、「理想」では女性は20歳代を除くすべての年齢層で「共同で行う（夫と妻）」の割合が最も高いが、「現実」では「主に妻が行う」割合が非常に高い。男性では、30歳代（全体数8人と少ないが）の理想は「共同で行う（夫と妻）」の割合が75.0%と30歳代の女性の理想より高いのに対して、40歳代・50歳代の男性では「共同で行う（夫と妻）」の割合は、同年代の女性より低い。60歳代・70歳以上でも、同じ傾向が見られる。

また、既婚の場合「母子」「父子」家庭を含むこの結果は、「母子」家庭では妻（「父子」家庭では夫）がするという事になるので、割合の数値を押し上げているのではないかとすることも考えられる。

食事のしたくはどのようにして分担できるのか、女性・男性・家族がお互いに話し合い、納得してできる場所を探るのが望ましいのではないだろうか。家庭によって、何を分担するのかは違ってきて当たり前だと思われる。

(2) 食事の片づけ、食器洗い

1) 性別及び年齢層別特徴

表9-4

上段:実数(人) 下段:割合(%)

問9 家庭内の役割 分担 2既婚(事実婚含む)、 3以前結婚していた (理想・現実)		(2)食事の片づけ、食器洗い														
		回答 数	主に夫が 行う		主に妻が 行う		(夫と妻 共同で 行う)		家族全 員で行 う		その他		わから ない		不明・ 無回 答	
			理想	現実	理想	現実	理想	現実	理想	現実	理想	現実	理想	現実	理想	現実
全 体 (2既婚 3以前結婚していた)		268	5	10	37	163	110	56	79	14	3	6	1	3	33	16
		100.0	1.9	3.7	13.8	60.8	41.0	20.9	29.5	5.2	1.1	2.2	0.4	1.1	12.3	6.0
性 別	女 性	168	1	1	17	122	67	22	54	7	1	3	1	3	27	10
		100.0	0.6	0.6	10.1	72.6	39.9	13.1	32.1	4.2	0.6	1.8	0.6	1.8	16.1	6.0
	男 性	96	4	9	20	40	40	32	24	6	2	3	0	0	6	6
		100.0	4.2	9.4	20.8	41.7	41.7	33.3	25.0	6.3	2.1	3.1	0.0	0.0	6.3	6.3
	女性・男性に あてはまらない	3	0	0	0	1	2	1	1	1	0	0	0	0	0	0
	100.0	0.0	0.0	0.0	33.3	66.7	33.3	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	不明・無回答	1	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	
		100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
性別 (女性) ・ 年齢	20歳代	3	0	0	0	3	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0
		100.0	0.0	0.0	0.0	100.0	33.3	0.0	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	30歳代	18	0	0	1	13	10	4	5	1	0	0	0	0	2	0
		100.0	0.0	0.0	5.6	72.2	55.6	22.2	27.8	5.6	0.0	0.0	0.0	0.0	11.1	0.0
	40歳代	21	1	0	2	12	7	5	11	3	0	0	0	0	0	1
		100.0	4.8	0.0	9.5	57.1	33.3	23.8	52.4	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.8
	50歳代	35	0	0	2	28	16	5	13	1	0	1	0	0	4	0
	100.0	0.0	0.0	5.7	80.0	45.7	14.3	37.1	2.9	0.0	2.9	0.0	0.0	11.4	0.0	
60歳代	42	0	0	2	33	21	3	11	2	0	0	0	0	8	4	
	100.0	0.0	0.0	4.8	78.6	50.0	7.1	26.2	4.8	0.0	0.0	0.0	0.0	19.0	9.5	
70歳以上	49	0	1	10	33	12	5	12	0	1	2	1	3	13	5	
	100.0	0.0	2.0	20.4	67.3	24.5	10.2	24.5	0.0	2.0	4.1	2.0	6.1	26.5	10.2	
性別 (男性) ・ 年齢	20歳代	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		100.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	30歳代	8	1	1	2	1	5	6	0	0	0	0	0	0	0	0
		100.0	12.5	12.5	25.0	12.5	62.5	75.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	40歳代	11	1	1	2	5	3	4	4	1	1	0	0	0	0	0
		100.0	9.1	9.1	18.2	45.5	27.3	36.4	36.4	9.1	9.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	50歳代	16	1	0	3	11	7	2	5	2	0	1	0	0	0	0
	100.0	6.3	0.0	18.8	68.8	43.8	12.5	31.3	12.5	0.0	6.3	0.0	0.0	0.0	0.0	
60歳代	36	0	5	6	10	15	14	11	2	1	2	0	0	3	3	
	100.0	0.0	13.9	16.7	27.8	41.7	38.9	30.6	5.6	2.8	5.6	0.0	0.0	8.3	8.3	
70歳以上	24	1	1	6	13	10	6	4	1	0	0	0	0	3	3	
	100.0	4.2	4.2	25.0	54.2	41.7	25.0	16.7	4.2	0.0	0.0	0.0	0.0	12.5	12.5	
女性・男性に あてはまらない	50歳代	2	0	0	0	1	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0
		100.0	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	70歳以上	1	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	
		100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
無 回 答	70歳以上	1	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	
		100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	

図9-4 (2)食事の片づけ、食器洗い 2 既婚(事実婚含む)、3 以前結婚していた
(理想・現実)

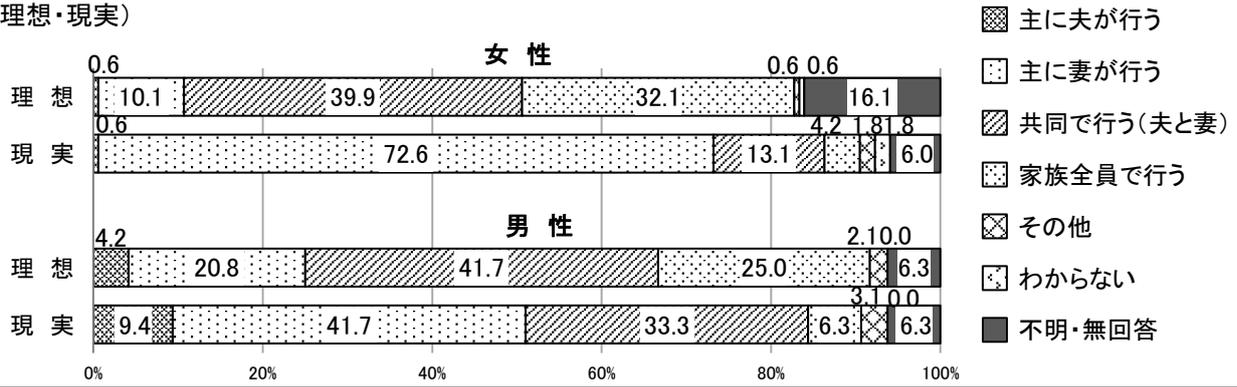
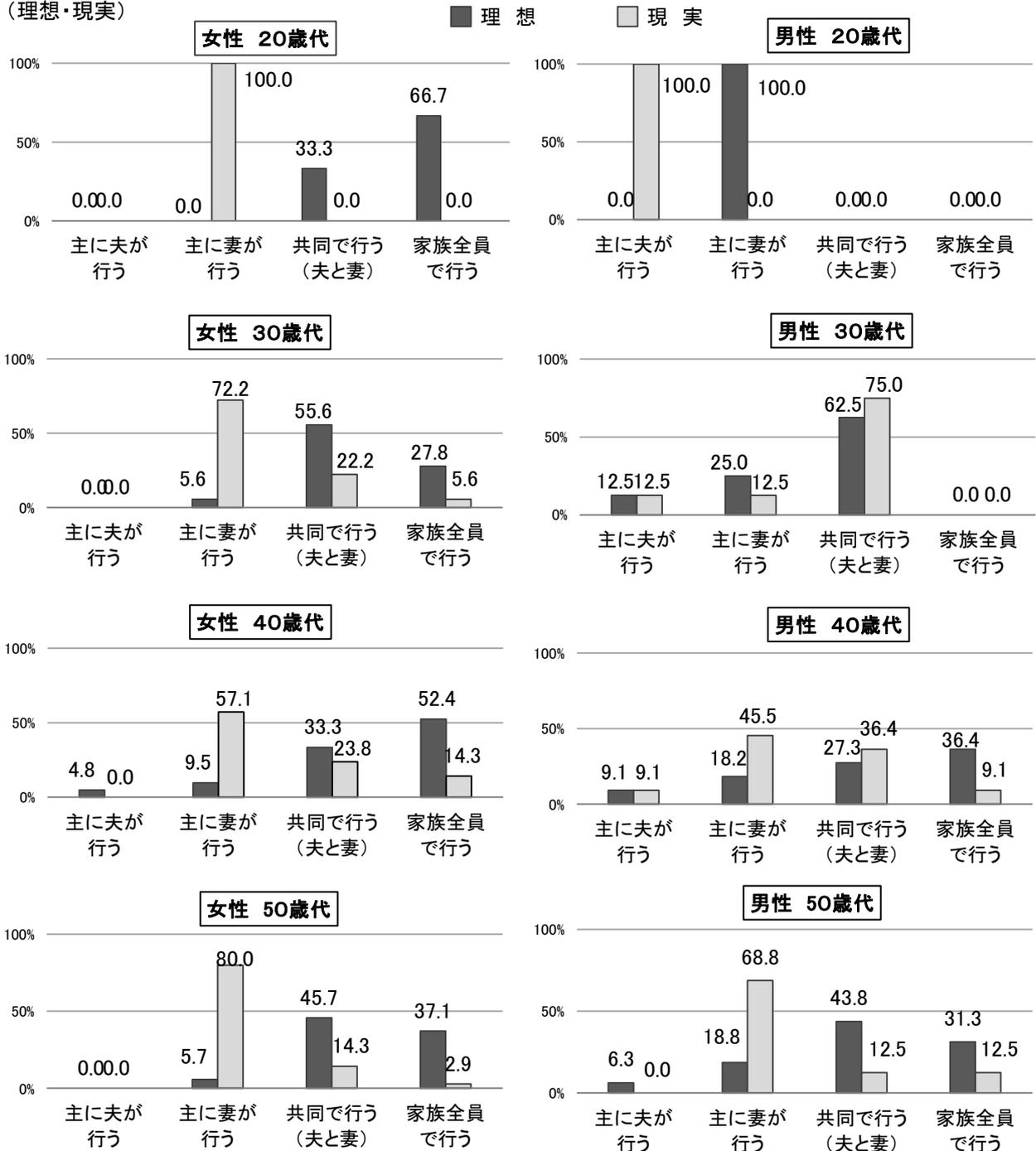
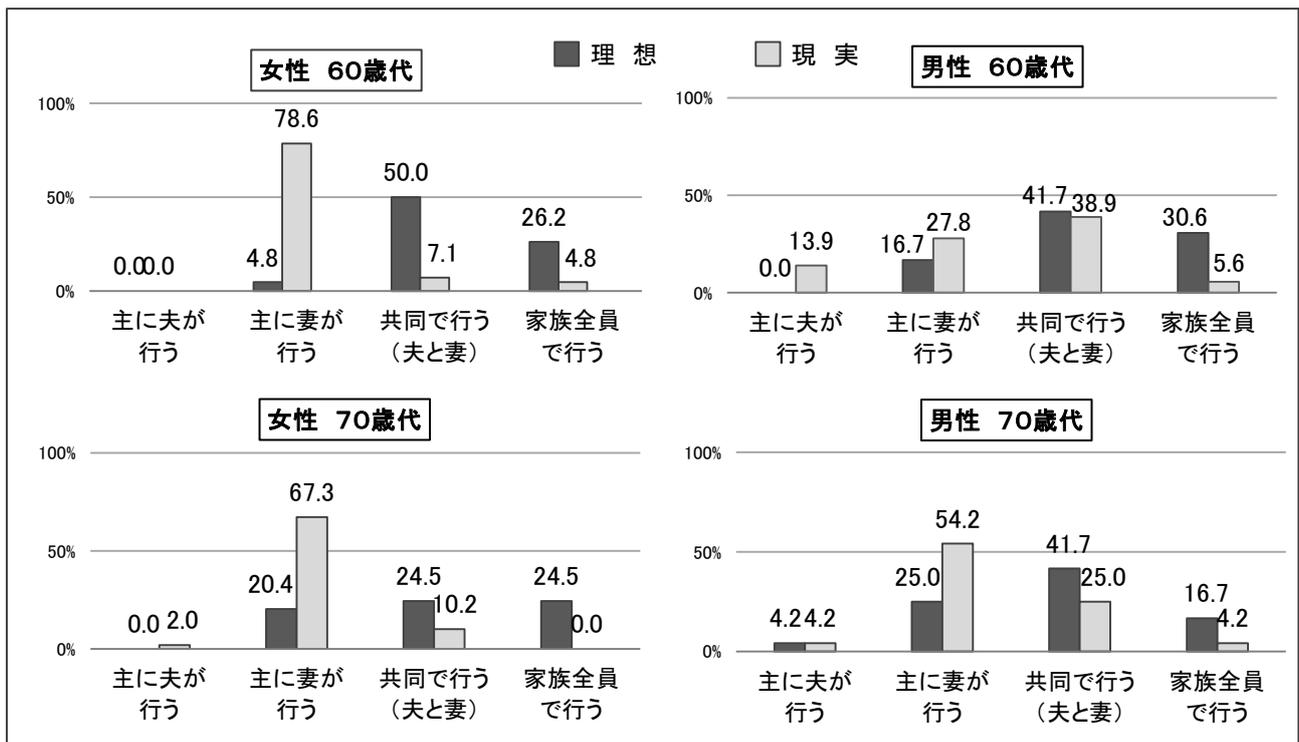


図9-5 (2)食事の片づけ、食器洗い 2既婚(事実婚含む)、3以前結婚していた
(理想・現実)





「食事の片づけ、食器洗い」については、「理想」では男性に関して「共同で行う（夫と妻）」は、30歳代が62.5%と高く、40歳代は27.3%と低くなっている。50歳代では女性と男性の割合はほぼ同じで、60歳代・70歳代男性の割合も低くはない。しかし、「現実」はどの世代でも「主に妻が行う」が多く、女性に負担がかかっていることは一目瞭然である。なお、理想として40歳代～60歳代で「家族全員で行う」という割合が一定あることは、「家族で共同して」という考えが広まっているように思われる。

「現実」で「共同で行う（夫と妻）」について、女性（13.1%）と男性（33.3%）では認識にずれが生じている。これは「手伝っている」のか「シェアしている」のかの違いから生じている結果ではないかと思われる。

(3) 掃除

1) 性別及び年齢層別特徴

表9-5

上段:実数(人) 下段:割合(%)

問9 家庭内の役割 分担 2既婚(事実婚含む)、 3以前結婚していた (理想・現実)		(3)掃除														
		回答 数	主に夫が 行う		主に妻が 行う		(夫と妻 共同で 行う)		家族全 員で行 う		その他		わから ない		不明・ 無回 答	
			理想	現実	理想	現実	理想	現実	理想	現実	理想	現実	理想	現実	理想	現実
全 体 (2既婚 3以前結婚していた)		268	5	13	37	164	110	59	82	7	2	6	1	4	31	15
		100.0	1.9	4.9	13.8	61.2	41.0	22.0	30.6	2.6	0.7	2.2	0.4	1.5	11.6	5.6
性 別	女 性	168	2	4	18	122	63	25	59	2	0	2	1	4	25	9
		100.0	1.2	2.4	10.7	72.6	37.5	14.9	35.1	1.2	0.0	1.2	0.6	2.4	14.9	5.4
	男 性	96	3	9	19	40	44	32	22	5	2	4	0	0	6	6
		100.0	3.1	9.4	19.8	41.7	45.8	33.3	22.9	5.2	2.1	4.2	0.0	0.0	6.3	6.3
	女性・男性に あてはまらない	3	0	0	0	2	2	1	1	0	0	0	0	0	0	0
	100.0	0.0	0.0	0.0	66.7	66.7	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	不明・無回答	1	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0
		100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
性 別 (女 性) ・ 年 齢	20歳代	3	0	0	0	2	2	1	1	0	0	0	0	0	0	0
		100.0	0.0	0.0	0.0	66.7	66.7	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	30歳代	18	0	0	2	12	9	5	5	1	0	0	0	0	2	0
		100.0	0.0	0.0	11.1	66.7	50.0	27.8	27.8	5.6	0.0	0.0	0.0	0.0	11.1	0.0
	40歳代	21	1	0	2	18	5	1	13	1	0	0	0	0	0	1
		100.0	4.8	0.0	9.5	85.7	23.8	4.8	61.9	4.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.8
50歳代	35	0	2	3	29	15	4	13	0	0	0	0	0	4	0	
	100.0	0.0	5.7	8.6	82.9	42.9	11.4	37.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	11.4	0.0	
60歳代	42	0	1	4	30	19	6	12	0	0	0	0	1	7	4	
	100.0	0.0	2.4	9.5	71.4	45.2	14.3	28.6	0.0	0.0	0.0	0.0	2.4	16.7	9.5	
70歳以上	49	1	1	7	31	13	8	15	0	0	2	1	3	12	4	
	100.0	2.0	2.0	14.3	63.3	26.5	16.3	30.6	0.0	0.0	4.1	2.0	6.1	24.5	8.2	
性 別 (男 性) ・ 年 齢	20歳代	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		100.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	30歳代	8	0	0	3	3	5	3	0	1	0	1	0	0	0	0
		100.0	0.0	0.0	37.5	37.5	62.5	37.5	0.0	12.5	0.0	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0
	40歳代	11	0	2	1	8	6	1	2	0	2	0	0	0	0	0
		100.0	0.0	18.2	9.1	72.7	54.5	9.1	18.2	0.0	18.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
50歳代	16	1	0	5	11	6	3	4	1	0	1	0	0	0	0	
	100.0	6.3	0.0	31.3	68.8	37.5	18.8	25.0	6.3	0.0	6.3	0.0	0.0	0.0	0.0	
60歳代	36	1	5	5	11	16	14	11	1	0	2	0	0	3	3	
	100.0	2.8	13.9	13.9	30.6	44.4	38.9	30.6	2.8	0.0	5.6	0.0	0.0	8.3	8.3	
70歳以上	24	1	1	4	7	11	11	5	2	0	0	0	0	3	3	
	100.0	4.2	4.2	16.7	29.2	45.8	45.8	20.8	8.3	0.0	0.0	0.0	0.0	12.5	12.5	
性 別 不 明 ・ 無 回 答	50歳代	2	0	0	0	2	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0
		100.0	0.0	0.0	0.0	100.0	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	70歳以上	1	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0
		100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

図9-6 (3)掃除 2 既婚(事実婚含む)、3 以前結婚していた
(理想・現実)

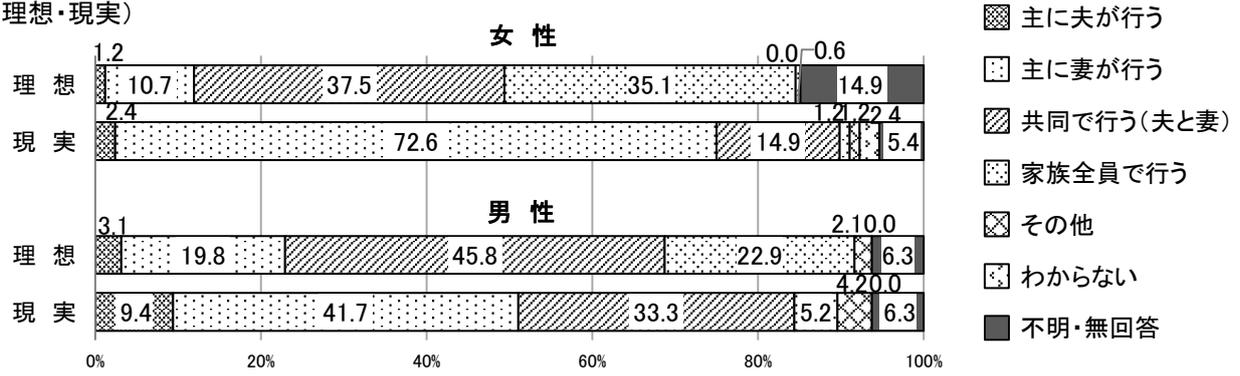
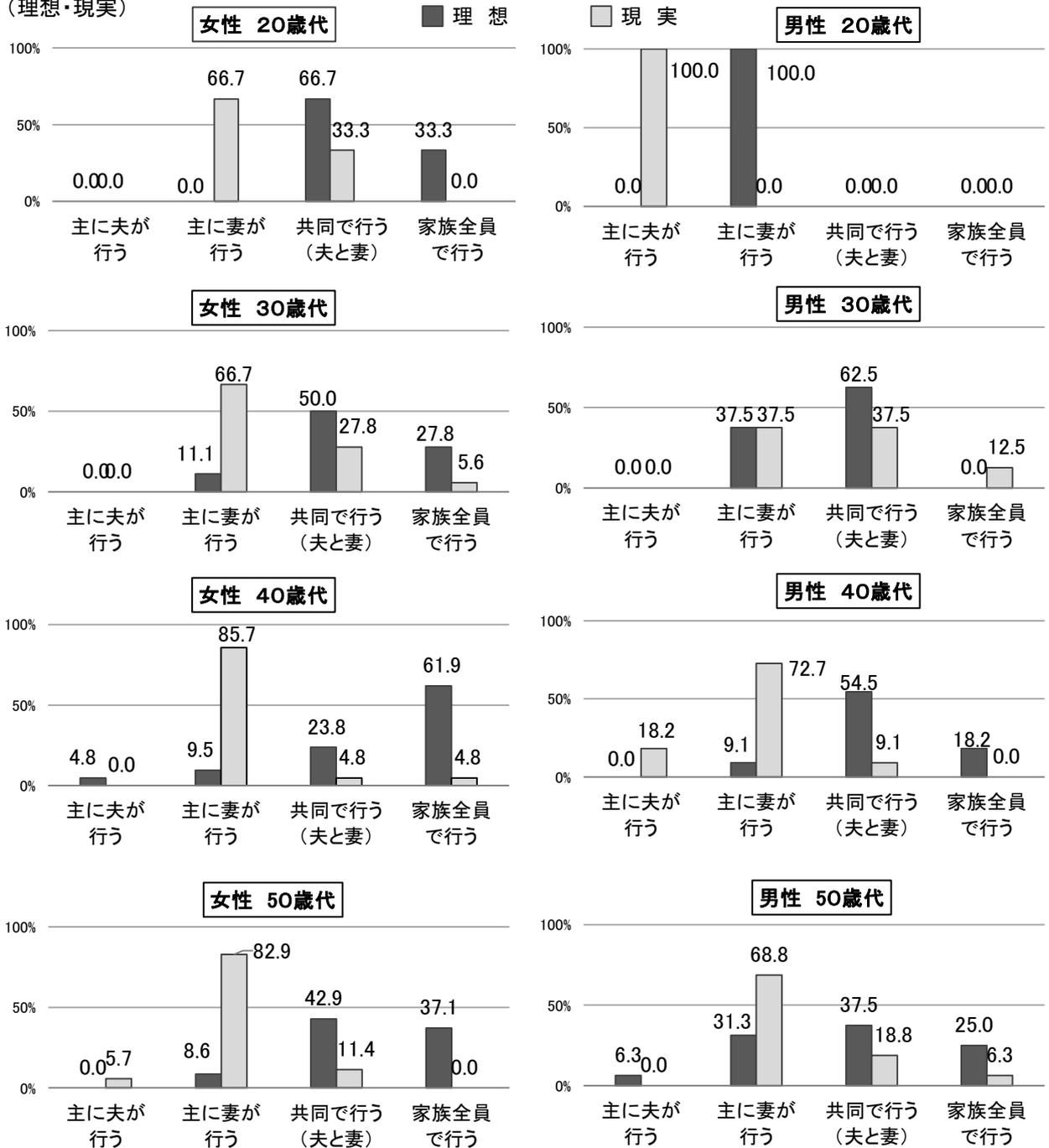
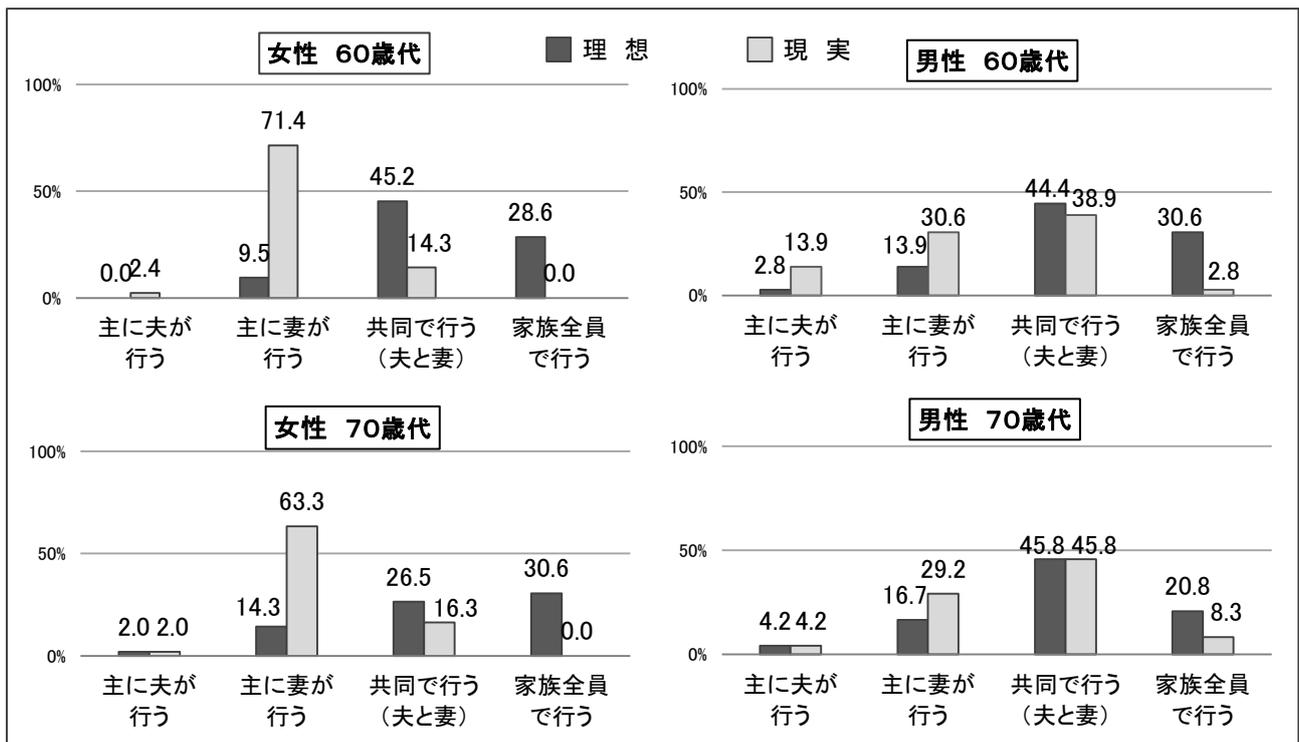


図9-7 (3)掃除 2既婚(事実婚含む)、3以前結婚していた
(理想・現実)





「掃除」については、「理想」としては各年齢層で「共同で行う（夫と妻）」という考えが女性（37.5%）、男性（45.8%）共にかなりの割合を占めている。40歳代では女性の「共同で行う（夫と妻）」の割合は低く、男性の方が「共同で行う（夫と妻）」の割合が高いが、40歳代の女性は「家族全員で行う」（61.9%）という考えが多く、家庭内で全員ができる範囲で受け持つべきだという考えがかなりあるように思われる。

ただ「現実」はどうなのかと見ると、性別に関係なくどの年代も「主に妻が行う」割合が高いが、男性の60歳代と男性の70歳代では、「共同で行う（夫と妻）」が「理想」と「現実」でほぼ同じ割合になっている。これは、退職後の家庭生活の在り方が影響しているのではないかと思う。

「現実」で、「共同で行う（夫と妻）」に関して、「食事の片づけ、食器洗い」と同様に女性（14.9%）と男性（33.3%）では認識にずれが生じている。

(4) 洗濯

1) 性別及び年齢層別特徴

表9-6

上段:実数(人) 下段:割合(%)

問9 家庭内の役割 分担 2既婚(事実婚含む)、 3以前結婚していた (理想・現実)		(4) 洗濯														
		回答 数	主に夫が 行う		主に妻が 行う		(夫と妻 共同で 行う)		家族全 員で 行う		その他		わから ない		不明・ 無回 答	
			理想	現実	理想	現実	理想	現実	理想	現実	理想	現実	理想	現実	理想	現実
全 体 (2既婚 3以前結婚していた)		268	1	13	69	188	106	33	53	10	3	5	1	3	35	16
		100.0	0.4	4.9	25.7	70.1	39.6	12.3	19.8	3.7	1.1	1.9	0.4	1.1	13.1	6.0
性 別	女 性	168	1	5	36	132	65	12	37	5	0	1	1	3	28	10
		100.0	0.6	3.0	21.4	78.6	38.7	7.1	22.0	3.0	0.0	0.6	0.6	1.8	16.7	6.0
	男 性	96	0	8	32	54	39	20	15	4	3	4	0	0	7	6
		100.0	0.0	8.3	33.3	56.3	40.6	20.8	15.6	4.2	3.1	4.2	0.0	0.0	7.3	6.3
	女性・男性に あてはまらない	3	0	0	0	1	2	1	1	1	0	0	0	0	0	0
	100.0	0.0	0.0	0.0	33.3	66.7	33.3	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	不明・無回答	1	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		100.0	0.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
性別 (女性) ・ 年齢	20歳代	3	0	0	1	3	1	0	1	0	0	0	0	0	0	
		100.0	0.0	0.0	33.3	100.0	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	30歳代	18	0	0	3	16	11	2	2	0	0	0	0	0	2	
		100.0	0.0	0.0	16.7	88.9	61.1	11.1	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	11.1	
	40歳代	21	1	0	4	15	7	4	9	1	0	0	0	0	0	
		100.0	4.8	0.0	19.0	71.4	33.3	19.0	42.9	4.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	50歳代	35	0	2	8	28	12	2	11	3	0	0	0	0	4	
	100.0	0.0	5.7	22.9	80.0	34.3	5.7	31.4	8.6	0.0	0.0	0.0	0.0	11.4		
60歳代	42	0	0	9	36	19	2	7	0	0	0	0	0	7		
	100.0	0.0	0.0	21.4	85.7	45.2	4.8	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7		
70歳以上	49	0	3	11	34	15	2	7	1	0	1	1	3	15		
	100.0	0.0	6.1	22.4	69.4	30.6	4.1	14.3	2.0	0.0	2.0	2.0	6.1	30.6		
性別 (男性) ・ 年齢	20歳代	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
		100.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	30歳代	8	0	2	2	3	6	3	0	0	0	0	0	0		
		100.0	0.0	25.0	25.0	37.5	75.0	37.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	40歳代	11	0	1	3	8	5	2	1	0	2	0	0	0		
		100.0	0.0	9.1	27.3	72.7	45.5	18.2	9.1	0.0	18.2	0.0	0.0	0.0		
	50歳代	16	0	0	4	10	7	3	4	1	1	2	0	0		
	100.0	0.0	0.0	25.0	62.5	43.8	18.8	25.0	6.3	6.3	12.5	0.0	0.0			
60歳代	36	0	4	11	17	14	8	7	2	0	2	0	0			
	100.0	0.0	11.1	30.6	47.2	38.9	22.2	19.4	5.6	0.0	5.6	0.0	0.0			
70歳以上	24	0	0	11	16	7	4	3	1	0	0	0	0			
	100.0	0.0	0.0	45.8	66.7	29.2	16.7	12.5	4.2	0.0	0.0	0.0	0.0			
女性・男性に あ て は ま ら な い	50歳代	2	0	0	0	1	1	0	1	1	0	0	0	0		
		100.0	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
70歳以上	1	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0			
	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0			
無 回 答	70歳以上	1	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0			
		100.0	0.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0			

図9-8 (4)洗濯 2 既婚(事実婚含む)、3 以前結婚していた
(理想・現実)

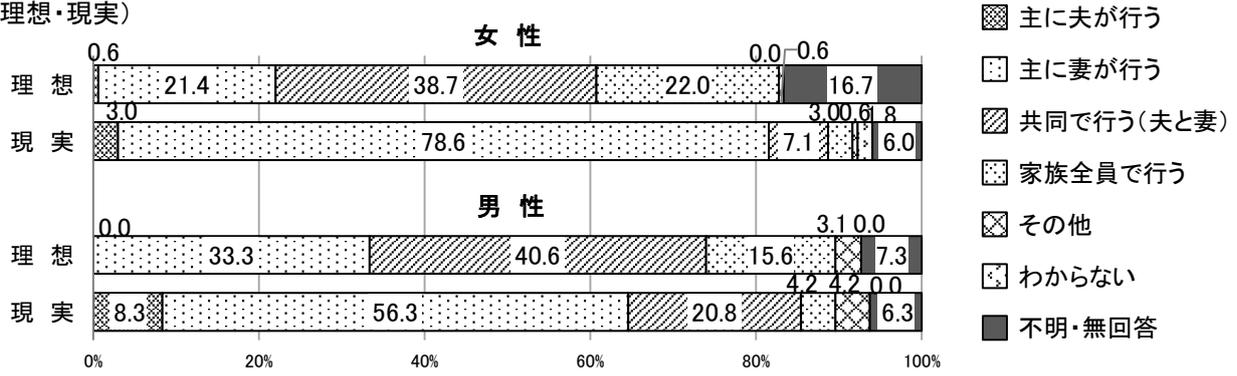
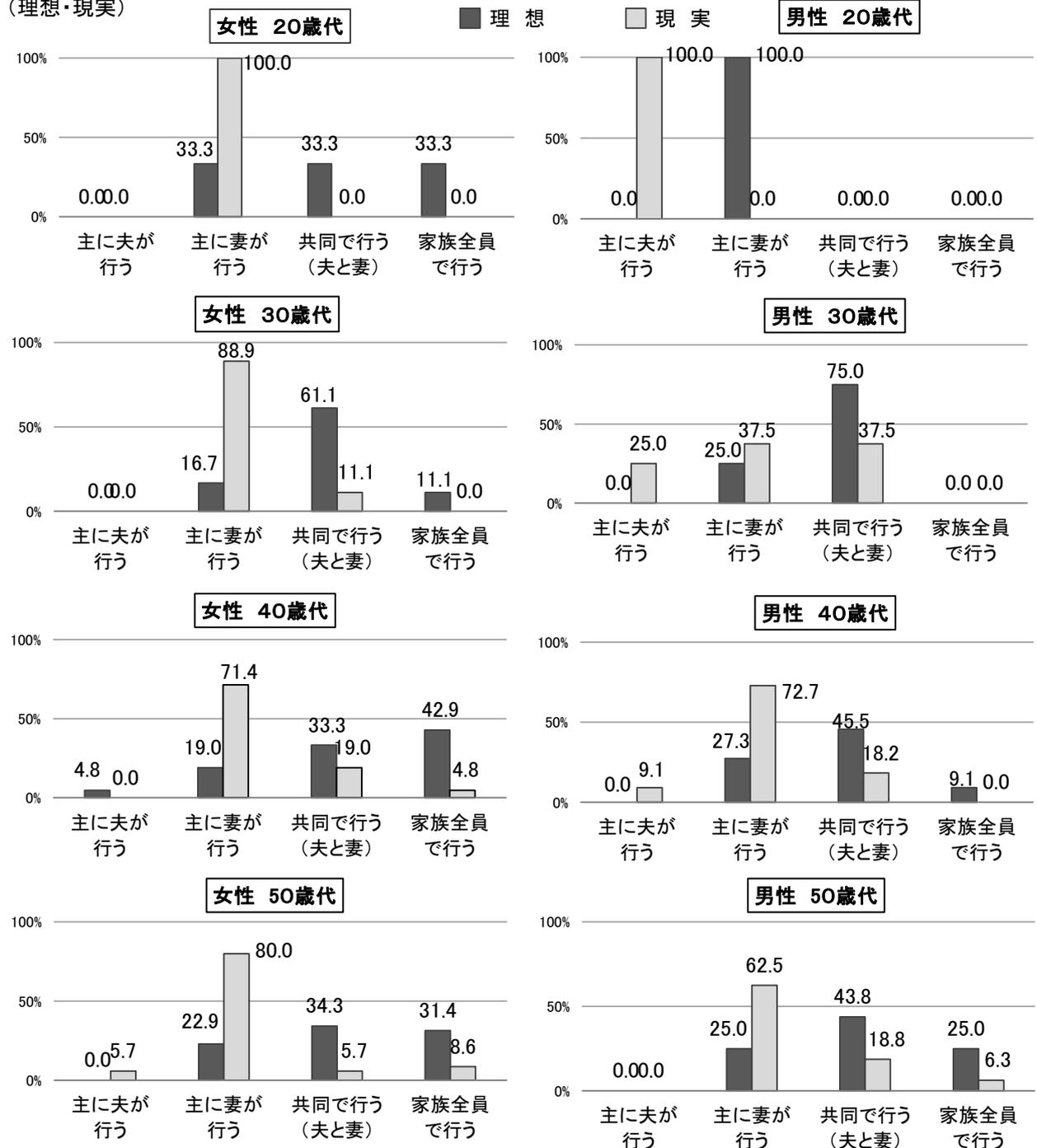
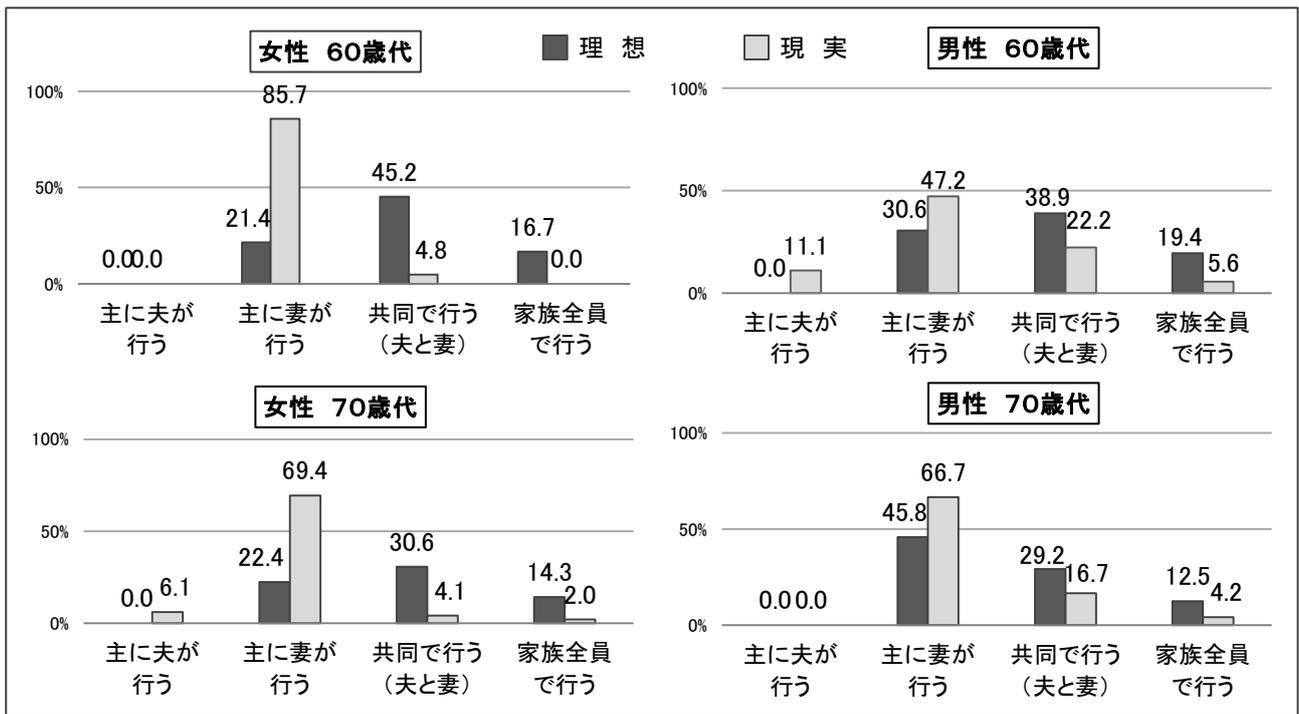


図9-9 (4)洗濯 2 既婚(事実婚含む)、3 以前結婚していた
(理想・現実)





「洗濯」については、各年代での「理想」と「現実」のギャップが見られる。「現実」には「主に妻が行う」の割合が高いという結果になっている。ただ、「掃除」の項目と同じように女性の40歳代で「家族全員で行う」割合が42.9%であるのは、「洗濯」も家庭生活の一部として出来る範囲は全員でしてほしいという思いが表れていると思われる。

「現実」では、「共同で行う(夫と妻)」に関して「食事の片づけ、食器洗い」「掃除」と同様に、女性(7.1%)と男性(20.8%)との認識にずれが生じている。

(5) 子育て

1) 性別及び年齢層別特徴

表9-7

上段:実数(人) 下段:割合(%)

問9 家庭内の役割 分担 2既婚(事実婚含む)、 3以前結婚していた (理想・現実)		(5)子育て														
		回答 数	主に夫が 行う		主に妻が 行う		(夫と妻 共同で 行う)		家族全 員で行 う		その他		わから ない		不明・ 無回 答	
			理想	現実	理想	現実	理想	現実	理想	現実	理想	現実	理想	現実	理想	現実
全 体 (2既婚 3以前結婚していた)		268	1	3	32	111	148	81	45	10	3	16	1	18	38	29
		100.0	0.4	1.1	11.9	41.4	55.2	30.2	16.8	3.7	1.1	6.0	0.4	6.7	14.2	10.8
性 別	女 性	168	1	1	14	82	92	45	30	5	1	4	1	12	29	19
		100.0	0.6	0.6	8.3	48.8	54.8	26.8	17.9	3.0	0.6	2.4	0.6	7.1	17.3	11.3
	男 性	96	0	2	17	27	54	36	15	5	2	11	0	6	8	9
		100.0	0.0	2.1	17.7	28.1	56.3	37.5	15.6	5.2	2.1	11.5	0.0	6.3	8.3	9.4
	女性・男性に あてはまらない	3	0	0	0	1	2	0	0	0	0	1	0	0	1	1
100.0	0.0	0.0	0.0	33.3	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	33.3	33.3	
不明・無回答	1	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
100.0	0.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
性別 (女性) ・ 年齢	20歳代	3	0	0	0	1	3	2	0	0	0	0	0	0	0	0
		100.0	0.0	0.0	0.0	33.3	100.0	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	30歳代	18	0	0	1	12	12	2	2	1	1	1	0	1	2	1
		100.0	0.0	0.0	5.6	66.7	66.7	11.1	11.1	5.6	5.6	5.6	0.0	5.6	11.1	5.6
	40歳代	21	1	0	1	12	10	7	9	1	0	0	0	0	0	1
		100.0	4.8	0.0	4.8	57.1	47.6	33.3	42.9	4.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.8
	50歳代	35	0	0	3	19	20	10	7	1	0	2	0	3	5	0
100.0		0.0	0.0	8.6	54.3	57.1	28.6	20.0	2.9	0.0	5.7	0.0	8.6	14.3	0.0	
60歳代	42	0	1	1	20	29	12	5	1	0	0	0	2	7	6	
	100.0	0.0	2.4	2.4	47.6	69.0	28.6	11.9	2.4	0.0	0.0	0.0	4.8	16.7	14.3	
70歳以上	49	0	0	8	18	18	12	7	1	0	1	1	6	15	11	
	100.0	0.0	0.0	16.3	36.7	36.7	24.5	14.3	2.0	0.0	2.0	2.0	12.2	30.6	22.4	
性別 (男性) ・ 年齢	20歳代	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		100.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	30歳代	8	0	0	1	2	6	4	1	0	0	0	0	2	0	0
		100.0	0.0	0.0	12.5	25.0	75.0	50.0	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0
	40歳代	11	0	0	2	2	7	6	2	0	0	2	0	1	0	0
		100.0	0.0	0.0	18.2	18.2	63.6	54.5	18.2	0.0	0.0	18.2	0.0	9.1	0.0	0.0
	50歳代	16	0	0	2	5	9	6	4	0	1	4	0	1	0	0
100.0		0.0	0.0	12.5	31.3	56.3	37.5	25.0	0.0	6.3	25.0	0.0	6.3	0.0	0.0	
60歳代	36	0	1	5	6	21	14	5	4	1	5	0	1	4	5	
	100.0	0.0	2.8	13.9	16.7	58.3	38.9	13.9	11.1	2.8	13.9	0.0	2.8	11.1	13.9	
70歳以上	24	0	0	6	12	11	6	3	1	0	0	0	1	4	4	
	100.0	0.0	0.0	25.0	50.0	45.8	25.0	12.5	4.2	0.0	0.0	0.0	4.2	16.7	16.7	
女性・男性に あてはまらない	2	0	0	0	1	2	0	0	0	0	1	0	0	0	0	
	100.0	0.0	0.0	0.0	50.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
不明・ 無回 答	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	
	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	100.0	
不明・ 無回 答	1	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	100.0	0.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	

図9-10 (5)子育て 2 既婚(事実婚含む)、3 以前結婚していた(理想・現実)

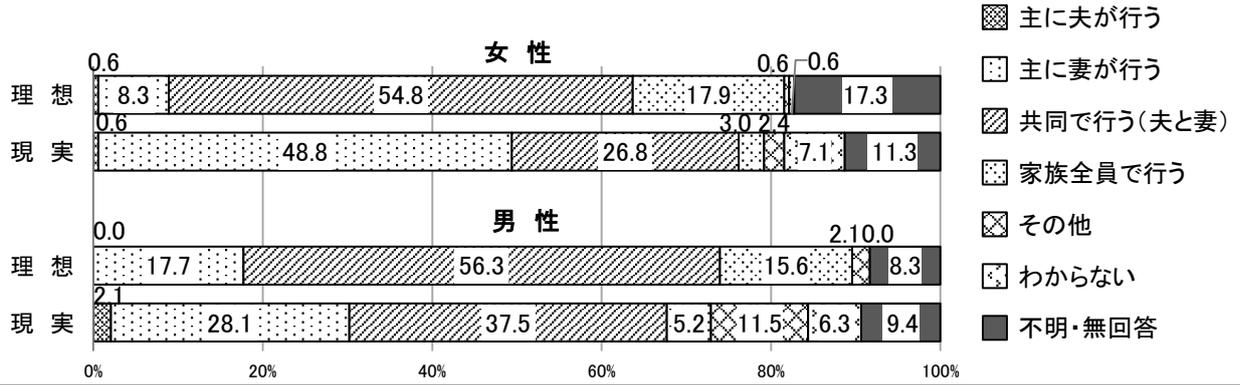
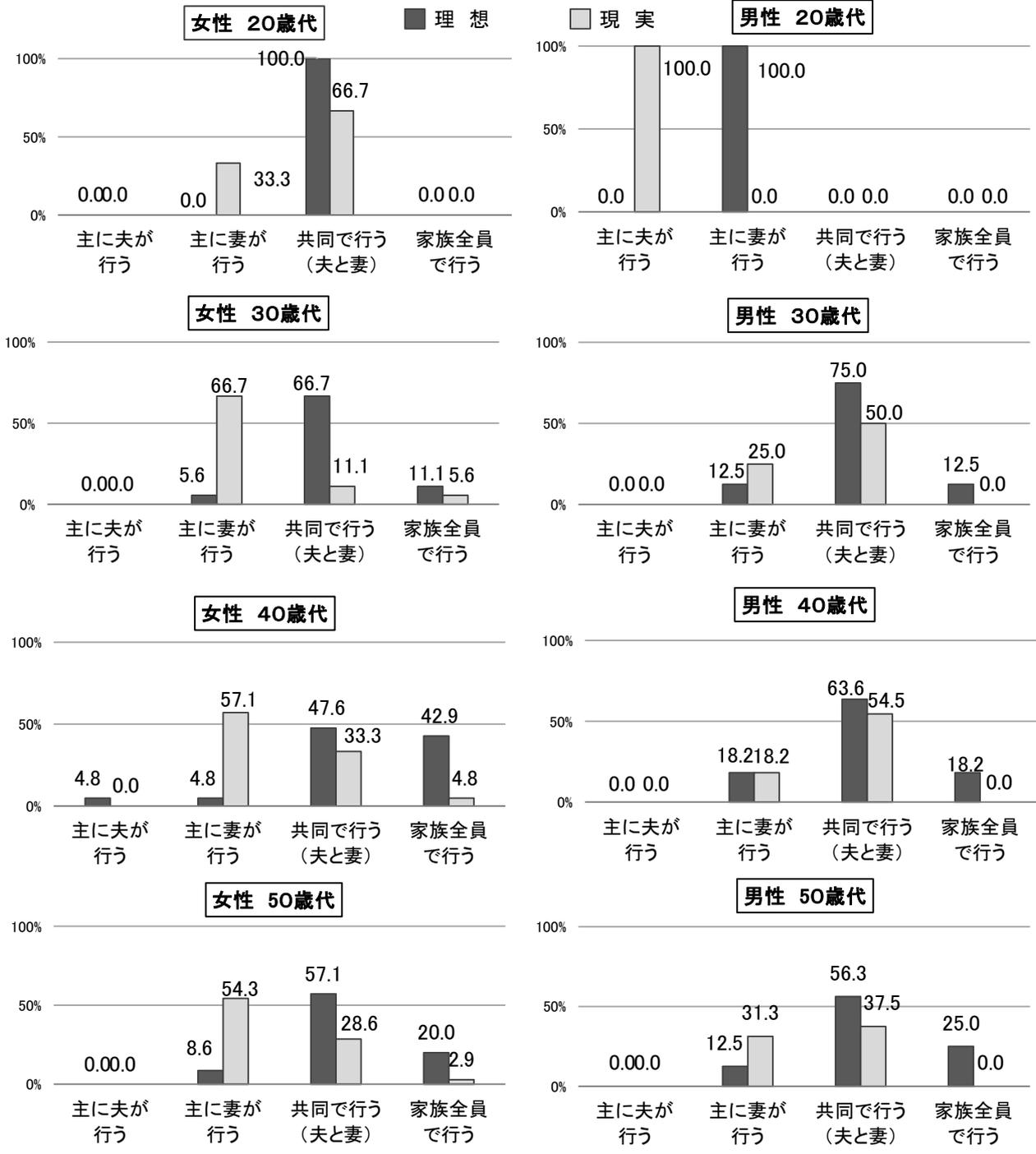
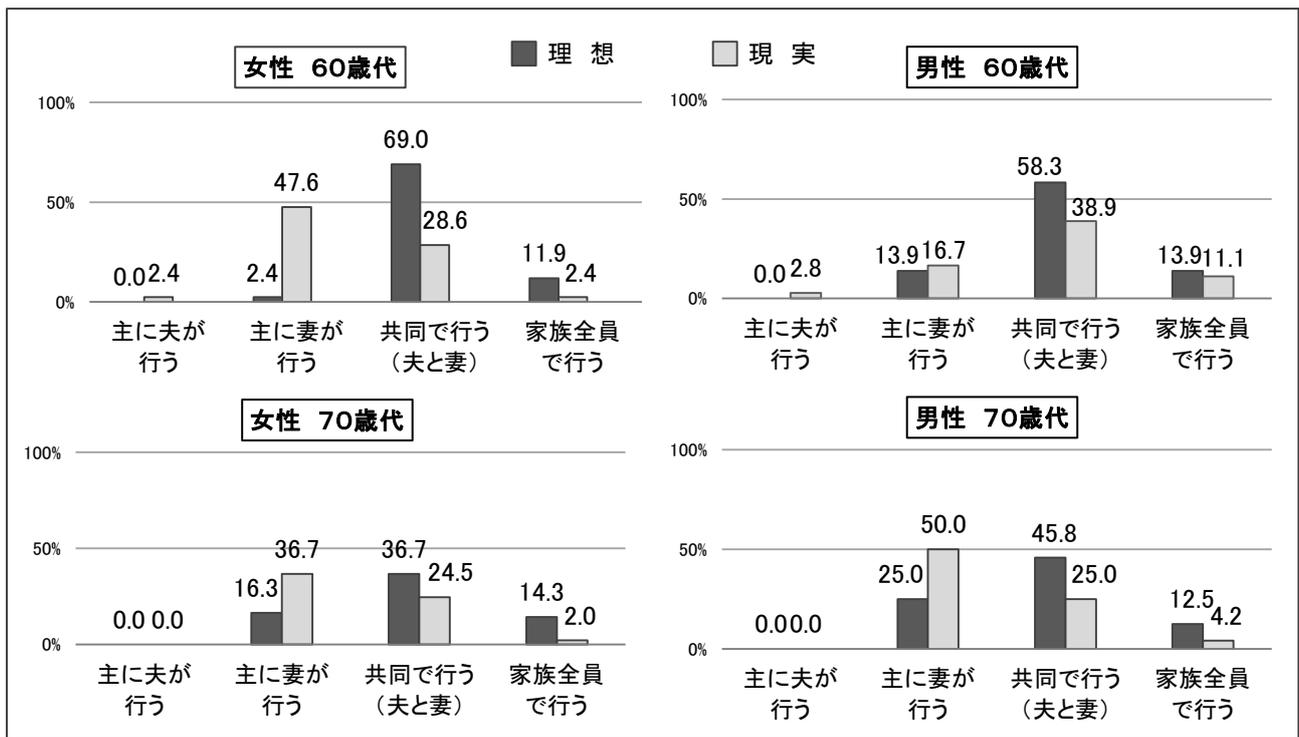


図9-11 (5)子育て 2 既婚(事実婚含む)、3 以前結婚していた(理想・現実)





「子育て」も、「理想」では「共同で行う（夫と妻）」という考えが性別に関係なく各年齢層で多いものの、「現実」には「主に妻が行う」割合が高く、負担は依然女性に多くかかっていることが表れているように思われる。男性の育児休暇取得との関連においても考える必要があると思う。

男性の40歳代・50歳代では、「理想」と「現実」の差は他に比べそれほど大きくない。これは、子どもたちがある程度成長している中での「子育て」から生じている結果ではないかと思う。

(6) 看護・介護

1) 性別及び年齢層別特徴

表9-8

上段:実数(人) 下段:割合(%)

問9 家庭内の役割 分担 2既婚(事実婚含む)、 3以前結婚していた (理想・現実)		(6)看護・介護														
		回答 数	主に夫が 行う		主に妻が 行う		(夫と妻 共同で 行う)		家族全 員で 行う		その他		わから ない		不明・ 無回 答	
			理想	現実	理想	現実	理想	現実	理想	現実	理想	現実	理想	現実	理想	現実
全 体 (2既婚 3以前結婚していた)		268	1	6	22	111	127	54	72	13	3	19	9	33	34	32
		100.0	0.4	2.2	8.2	41.4	47.4	20.1	26.9	4.9	1.1	7.1	3.4	12.3	12.7	11.9
性 別	女 性	168	1	1	6	82	76	26	49	6	1	7	8	25	27	21
		100.0	0.6	0.6	3.6	48.8	45.2	15.5	29.2	3.6	0.6	4.2	4.8	14.9	16.1	12.5
	男 性	96	0	5	16	28	49	27	21	6	2	11	1	8	7	11
		100.0	0.0	5.2	16.7	29.2	51.0	28.1	21.9	6.3	2.1	11.5	1.0	8.3	7.3	11.5
	女性・男性に あてはまらない	3	0	0	0	1	1	0	2	1	0	1	0	0	0	0
	100.0	0.0	0.0	0.0	33.3	33.3	0.0	66.7	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	
	不明・無回答	1	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	
		100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
性別 (女性) ・ 年齢	20歳代	3	0	0	0	1	1	0	1	0	0	0	1	2	0	0
		100.0	0.0	0.0	0.0	33.3	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	33.3	66.7	0.0	0.0
	30歳代	18	0	0	1	8	12	4	2	1	0	1	1	3	2	1
		100.0	0.0	0.0	5.6	44.4	66.7	22.2	11.1	5.6	0.0	5.6	5.6	16.7	11.1	5.6
	40歳代	21	1	0	0	9	9	3	9	0	0	1	2	5	0	3
		100.0	4.8	0.0	0.0	42.9	42.9	14.3	42.9	0.0	0.0	4.8	9.5	23.8	0.0	14.3
50歳代	35	0	0	0	22	17	5	13	2	0	2	0	4	5	0	
	100.0	0.0	0.0	0.0	62.9	48.6	14.3	37.1	5.7	0.0	5.7	0.0	11.4	14.3	0.0	
60歳代	42	0	1	0	22	24	8	10	1	0	0	1	4	7	6	
	100.0	0.0	2.4	0.0	52.4	57.1	19.0	23.8	2.4	0.0	0.0	2.4	9.5	16.7	14.3	
70歳以上	49	0	0	5	20	13	6	14	2	1	3	3	7	13	11	
	100.0	0.0	0.0	10.2	40.8	26.5	12.2	28.6	4.1	2.0	6.1	6.1	14.3	26.5	22.4	
性別 (男性) ・ 年齢	20歳代	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		100.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	30歳代	8	0	0	0	2	6	1	1	0	0	0	1	4	0	1
		100.0	0.0	0.0	0.0	25.0	75.0	12.5	12.5	0.0	0.0	0.0	12.5	50.0	0.0	12.5
	40歳代	11	0	1	1	2	7	3	2	0	1	4	0	1	0	0
		100.0	0.0	9.1	9.1	18.2	63.6	27.3	18.2	0.0	9.1	36.4	0.0	9.1	0.0	0.0
50歳代	16	0	0	4	6	7	4	4	1	1	4	0	1	0	0	
	100.0	0.0	0.0	25.0	37.5	43.8	25.0	25.0	6.3	6.3	25.0	0.0	6.3	0.0	0.0	
60歳代	36	0	2	5	9	18	13	9	2	0	3	0	1	4	6	
	100.0	0.0	5.6	13.9	25.0	50.0	36.1	25.0	5.6	0.0	8.3	0.0	2.8	11.1	16.7	
70歳以上	24	0	1	5	9	11	6	5	3	0	0	0	1	3	4	
	100.0	0.0	4.2	20.8	37.5	45.8	25.0	20.8	12.5	0.0	0.0	0.0	4.2	12.5	16.7	
女性・男性に あ て は ま ら な い	50歳代	2	0	0	0	1	1	0	1	0	0	1	0	0	0	0
		100.0	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0
70歳以上	1	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	
	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
無 回 答	70歳以上	1	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	
		100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	

図9-12 (6) 看護・介護 2 既婚(事実婚含む)、3 以前結婚していた
(理想・現実)

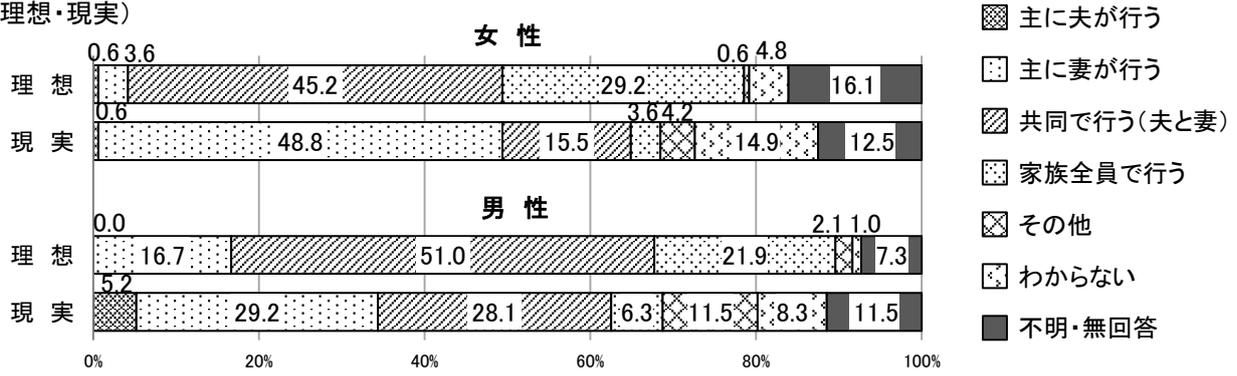
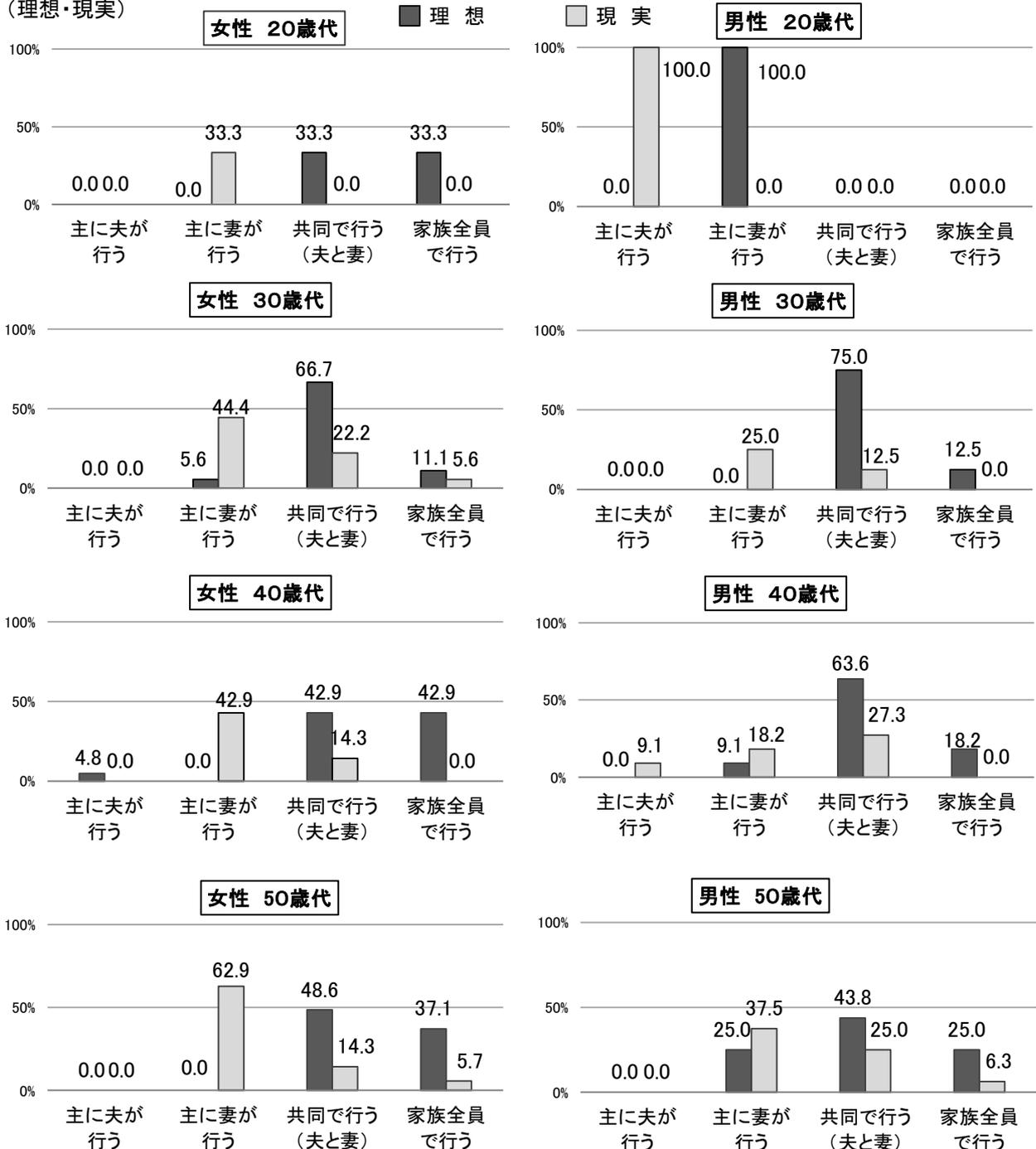
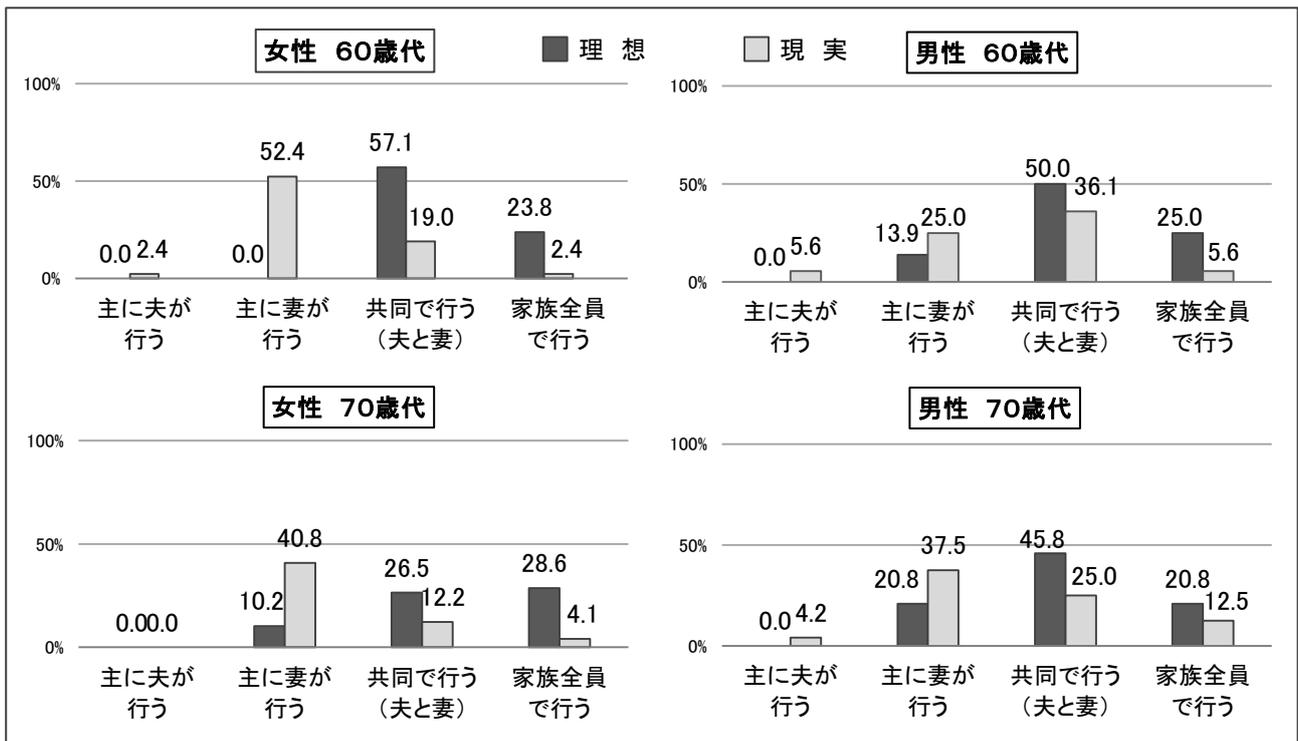


図9-13 (6) 看護・介護 2 既婚(事実婚含む)、3 以前結婚していた
(理想・現実)





「看護・介護」についても、「理想」は女性と男性が「共同で行う」という考えが高いが、「現実」では「主に妻が行う」という実態である。

看護・介護も家庭内での分担をどうするのか、職場での支援体制をどう作るのかという課題があるように思われる。また、男性の育児休暇取得と同様に、男性の介護休暇取得との関連についても考える必要があると思う。

(7) 家計の管理

1) 性別及び年齢層別特徴

表9-9

上段:実数(人) 下段:割合(%)

問9 家庭内の役割 分担 2既婚(事実婚含む)、 3以前結婚していた (理想・現実)		(7)家計の管理														
		回答 数	主に夫が 行う		主に妻が 行う		(夫と妻 共同で 行う)		家族全 員で 行う		その他		わから ない		不明・ 無回 答	
			理想	現実	理想	現実	理想	現実	理想	現実	理想	現実	理想	現実	理想	現実
全 体 (2既婚 3以前結婚していた)		268	6	25	72	172	133	40	16	4	4	3	3	6	34	18
		100.0	2.2	9.3	26.9	64.2	49.6	14.9	6.0	1.5	1.5	1.1	1.1	2.2	12.7	6.7
性 別	女 性	168	3	10	40	116	81	20	13	3	1	1	2	6	28	12
		100.0	1.8	6.0	23.8	69.0	48.2	11.9	7.7	1.8	0.6	0.6	1.2	3.6	16.7	7.1
	男 性	96	3	15	31	54	49	18	3	1	3	2	1	0	6	6
		100.0	3.1	15.6	32.3	56.3	51.0	18.8	3.1	1.0	3.1	2.1	1.0	0.0	6.3	6.3
	女性・男性に あてはまらない	3	0	0	1	2	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	100.0	0.0	0.0	33.3	66.7	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	不明・無回答	1	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	
		100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
性別 (女性) ・ 年齢	20歳代	3	1	1	0	0	2	2	0	0	0	0	0	0	0	
		100.0	33.3	33.3	0.0	0.0	66.7	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	30歳代	18	0	3	5	12	10	2	1	0	0	0	0	1	2	
		100.0	0.0	16.7	27.8	66.7	55.6	11.1	5.6	0.0	0.0	0.0	0.0	5.6	11.1	
	40歳代	21	1	0	6	17	10	2	4	1	0	0	0	0	1	
		100.0	4.8	0.0	28.6	81.0	47.6	9.5	19.0	4.8	0.0	0.0	0.0	0.0	4.8	
	50歳代	35	1	2	11	26	14	4	4	1	1	1	0	1	4	
	100.0	2.9	5.7	31.4	74.3	40.0	11.4	11.4	2.9	2.9	2.9	0.0	2.9	11.4		
60歳代	42	0	2	6	28	28	8	1	0	0	0	0	0	7		
	100.0	0.0	4.8	14.3	66.7	66.7	19.0	2.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7		
70歳以上	49	0	2	12	33	17	2	3	1	0	0	2	4	15		
	100.0	0.0	4.1	24.5	67.3	34.7	4.1	6.1	2.0	0.0	0.0	4.1	8.2	30.6		
性別 (男性) ・ 年齢	20歳代	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		100.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	30歳代	8	0	1	1	7	7	0	0	0	0	0	0	0	0	
		100.0	0.0	12.5	12.5	87.5	87.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	40歳代	11	0	2	3	7	5	2	1	0	2	0	0	0	0	
		100.0	0.0	18.2	27.3	63.6	45.5	18.2	9.1	0.0	18.2	0.0	0.0	0.0	0.0	
	50歳代	16	0	2	7	12	7	1	1	0	1	1	0	0	0	
	100.0	0.0	12.5	43.8	75.0	43.8	6.3	6.3	0.0	6.3	6.3	0.0	0.0	0.0		
60歳代	36	2	7	12	15	18	10	0	0	0	1	1	0	3		
	100.0	5.6	19.4	33.3	41.7	50.0	27.8	0.0	0.0	0.0	2.8	2.8	0.0	8.3		
70歳以上	24	1	2	7	13	12	5	1	1	0	0	0	0	3		
	100.0	4.2	8.3	29.2	54.2	50.0	20.8	4.2	4.2	0.0	0.0	0.0	0.0	12.5		
女性・男性に あ て は ま ら な い	50歳代	2	0	0	1	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	
		100.0	0.0	0.0	50.0	100.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
70歳以上	1	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0		
	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
無 回 答	70歳以上	1	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0		
		100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		

図9-14 (7)家計の管理 2 既婚(事実婚含む)、3 以前結婚していた
(理想・現実)

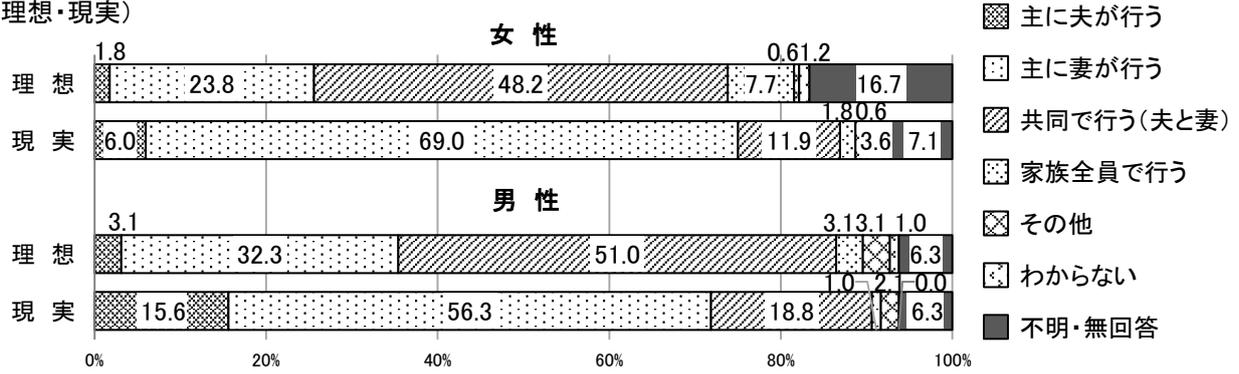
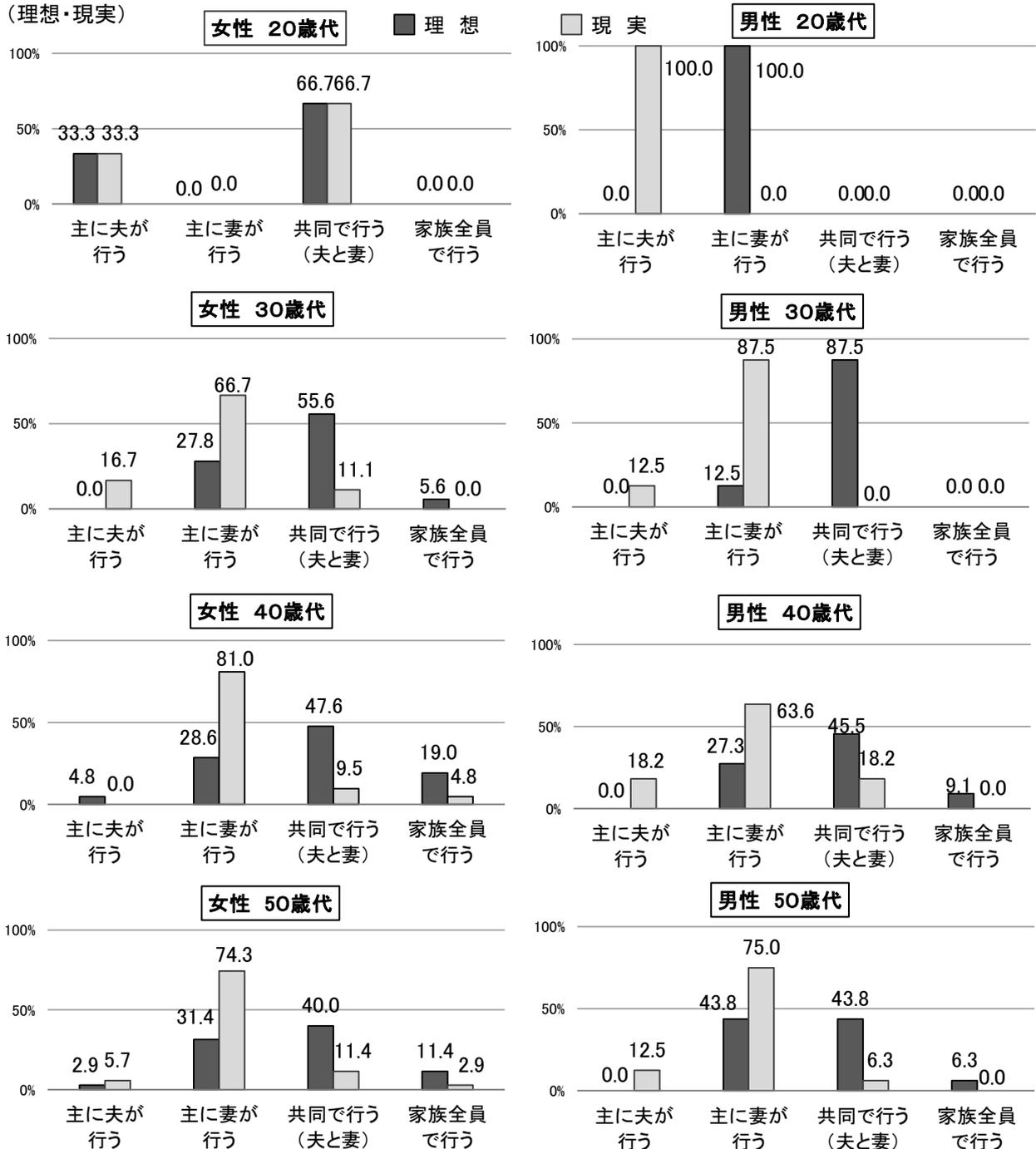
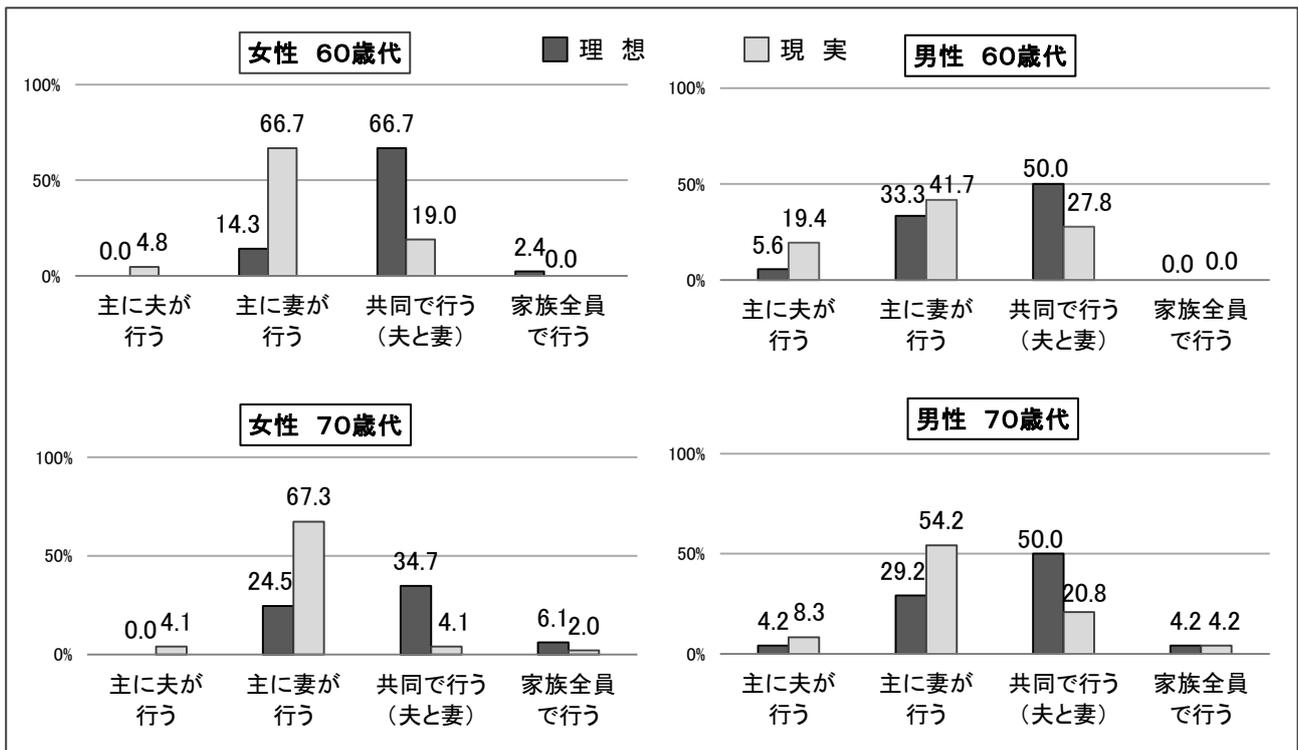


図9-15 (7)家計の管理 2 既婚(事実婚含む)、3 以前結婚していた
(理想・現実)





「家計の管理」についても、「理想」は性別・年齢層別どちらも「共同で行う（夫と妻）」の割合は高い。特に、30歳代男性は87.5%と特に高い数値であるが、「現実」では他の項目と同じく「主に妻が行う」という割合が高くなっており、家計の管理も女性が行っている現実が見える。

第3章 人権について

問10 DV（ドメスティックバイオレンス）を受けた経験

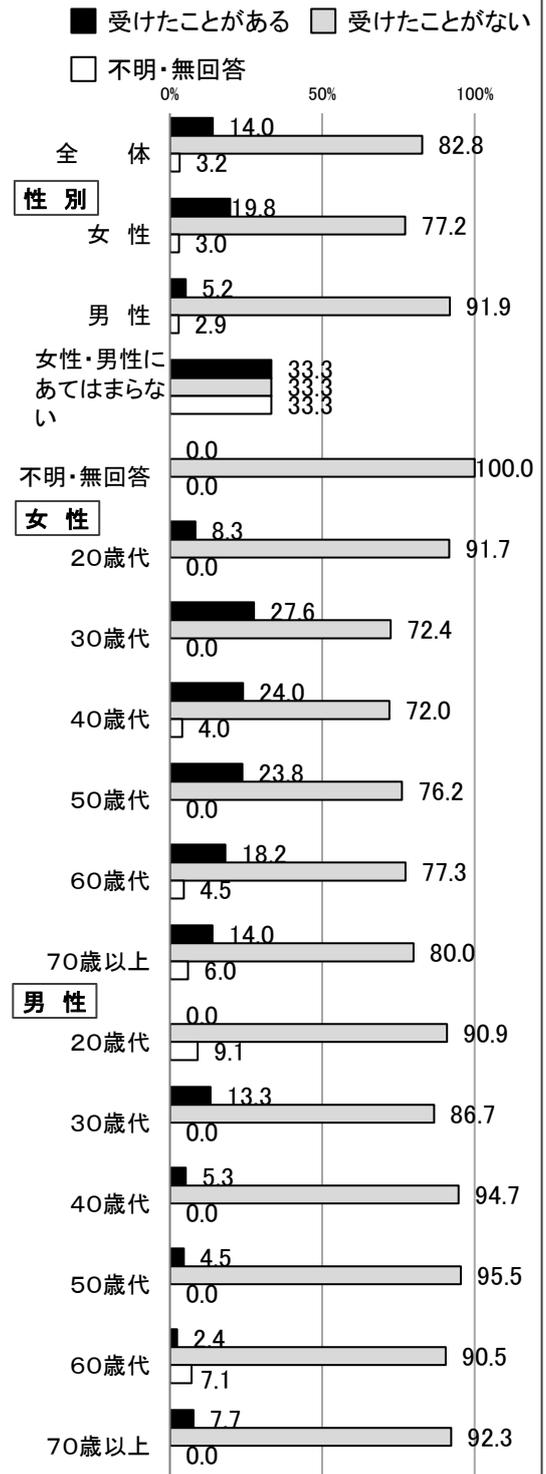
あなたはDV（ドメスティックバイオレンス）を受けたことはありますか。（○は1つ）

1) 全体、性別及び年齢層別特徴

表10-1 上段:実数(人) 下段:割合(%)

問10 DV(ドメスティック バイオレンス)を 受けた経験	回 答 数	あ 受 る け た こ と が	な 受 い け た こ と が	不 明 ・ 無 回 答	
全 体	342	48	283	11	
	100.0	14.0	82.8	3.2	
性 別	女 性	202	40	156	6
		100.0	19.8	77.2	3.0
	男 性	135	7	124	4
		100.0	5.2	91.9	2.9
	女性・男性に あてはまらない	3	1	1	1
	100.0	33.3	33.3	33.3	
不明・無回答	2	0	2	0	
	100.0	0.0	100.0	0.0	
性 別 (女 性) ・ 年 齢	20歳代	12	1	11	0
		100.0	8.3	91.7	0.0
	30歳代	29	8	21	0
		100.0	27.6	72.4	0.0
	40歳代	25	6	18	1
		100.0	24.0	72.0	4.0
	50歳代	42	10	32	0
	100.0	23.8	76.2	0.0	
60歳代	44	8	34	2	
	100.0	18.2	77.3	4.5	
70歳以上	50	7	40	3	
	100.0	14.0	80.0	6.0	
性 別 (男 性) ・ 年 齢	20歳代	11	0	10	1
		100.0	0.0	90.9	9.1
	30歳代	15	2	13	0
		100.0	13.3	86.7	0.0
	40歳代	19	1	18	0
		100.0	5.3	94.7	0.0
	50歳代	22	1	21	0
	100.0	4.5	95.5	0.0	
60歳代	42	1	38	3	
	100.0	2.4	90.5	7.1	
70歳以上	26	2	24	0	
	100.0	7.7	92.3	0.0	
不 明 ・ 無 回 答	50歳代	2	0	1	1
		100.0	0.0	50.0	50.0
	70歳以上	1	1	0	0
	100.0	100.0	0.0	0.0	
不 明 ・ 無 回 答	60歳代	1	0	1	0
		100.0	0.0	100.0	0.0
	70歳以上	1	0	1	0
	100.0	0.0	100.0	0.0	

図10-1 DVを受けた経験
(全体・性別・年齢層別)



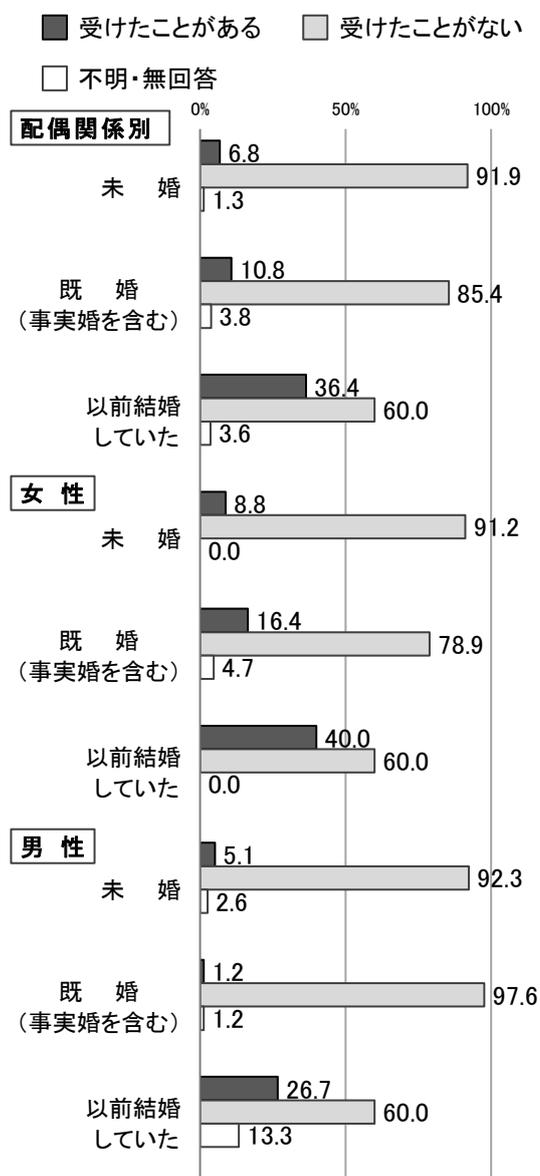
「DVを受けた経験」については、「受けたことがある」の割合は全体で14.0%（342名中48名）、女性は19.8%（202名中40名）、男性は5.2%（135名中7名）である。男性もDV経験があることは、少数であっても見過ごせない数値である。また、「DVを受けた経験」がある女性は各年齢層にわたっていることも問題で、女性に対する価値観（所有物であるという意識）も影響しているのかもしれないと思われる。

2) 配偶関係別特徴

表10-2 上段:実数(人) 下段:割合(%)

問10 DV(ドメスティック バイオレンス)を 受けた経験		回 答 数	あ 受 け た こ と が	な 受 け た こ と が	不 明 ・ 無 回 答
全 体		342 100.0	48 14.0	283 82.8	11 3.2
配 偶 関 係	未 婚	74 100.0	5 6.8	68 91.9	1 1.3
	既 婚 (事実婚を含む)	213 100.0	23 10.8	182 85.4	8 3.8
	以前結婚 していた	55 100.0	20 36.4	33 60.0	2 3.6
女性全体		202 100.0	40 19.8	156 77.2	6 3.0
配 偶 関 係 (女 性)	未 婚	34 100.0	3 8.8	31 91.2	0 0.0
	既 婚 (事実婚を含む)	128 100.0	21 16.4	101 78.9	6 4.7
	以前結婚 していた	40 100.0	16 40.0	24 60.0	0 0.0
男性全体		135 100.0	7 5.2	124 91.9	4 2.9
配 偶 関 係 (男 性)	未 婚	39 100.0	2 5.1	36 92.3	1 2.6
	既 婚 (事実婚を含む)	81 100.0	1 1.2	79 97.6	1 1.2
	以前結婚 していた	15 100.0	4 26.7	9 60.0	2 13.3
女性・男性に あてはまらない全体		3 100.0	1 33.3	1 33.3	1 33.3
配 偶 関 係	既 婚 (事実婚を含む)	3 100.0	1 33.3	1 33.3	1 33.3
不明・無回答		2 100.0	0 0.0	2 100.0	0 0.0
配 偶 関 係	未 婚	1 100.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0
	既 婚 (事実婚を含む)	1 100.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0

図10-2 DVを受けた経験
(配偶関係別)



「配偶関係別」で見ると、「未婚」で6.8%（74人中5人）、「既婚」で10.8%（213人中23人）、「以前結婚していた」で36.4%（55人中20人）である。

「性別」と「配偶関係別」との関係で見ると、「未婚」の女性で8.8%（34人中3人）、男性で5.1%（39人中2人）がDVを受けた経験がある。また、「以前結婚していた」で女性は40.0%（40人中16人）、男性は26.7%（15人中4人）と高い数値を示している。DVが離婚の引き金になるケースが非常に多いことからこのような割合が出たのではないかと思われる。

問11 DVを受けたときの対処の仕方

DVを受けた後、誰かに相談しましたか。あてはまるものすべてに○をつけてください。
(○は1つ) 問10で「1 受けたことがある」と回答した方のみ回答

1) 全体、性別及び年齢層別特徴

表11-1

上段:実数(人) 下段:割合(%)

問11 DVを受けたときの 対処の仕方 (受けたことがある)	回 答 数	家 族 ・ 親 戚 に	友 人 ・ 知 人 に	警 察 に 相 談 し た	市 町 村 な ど 行 政 に	法 務 局 ・ 民 生 委 員 に	人 権 擁 護 委 員 ・ 弁 護 士 に	相 談 し た カ ウ ン セ ラ ー に	医 師 ・ 看 護 師 に	相 談 し な か っ た	そ の 他	不 明 ・ 無 回 答
全 体 (受けたことがある)	48	19	7	4	2	0	2	0	25	0	0	0
	100.0	39.6	14.6	8.3	4.2	0.0	4.2	0.0	52.1	0.0	0.0	0.0
性 別	女 性	40	17	7	4	2	0	1	0	19	0	0
		100.0	42.5	17.5	10.0	5.0	0.0	2.5	0.0	47.5	0.0	0.0
	男 性	7	2	0	0	0	0	1	0	5	0	0
		100.0	28.6	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	0.0	71.4	0.0	0.0
女性・男性に あてはまらない	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	
	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	
性 別 (女 性) ・ 年 齢	20歳代	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	30歳代	8	2	3	1	1	0	0	0	5	0	0
		100.0	25.0	37.5	12.5	12.5	0.0	0.0	0.0	62.5	0.0	0.0
	40歳代	6	4	0	1	0	0	1	0	1	0	0
		100.0	66.7	0.0	16.7	0.0	0.0	16.7	0.0	16.7	0.0	0.0
	50歳代	10	4	4	1	1	0	0	0	4	0	0
	100.0	40.0	40.0	10.0	10.0	0.0	0.0	0.0	40.0	0.0	0.0	
60歳代	8	3	0	1	0	0	0	0	5	0	0	
	100.0	37.5	0.0	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	62.5	0.0	0.0	
70歳以上	7	3	0	0	0	0	0	0	4	0	0	
	100.0	42.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	57.1	0.0	0.0	
性 別 (男 性) ・ 年 齢	20歳代	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	30歳代	2	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0
		100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
	40歳代	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
		100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
	50歳代	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	
60歳代	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	
	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	
70歳以上	2	2	0	0	0	0	1	0	0	0	0	
	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	

図11-1 DVを受けたときの対処の仕方(DVを受けた経験がある)(全体)

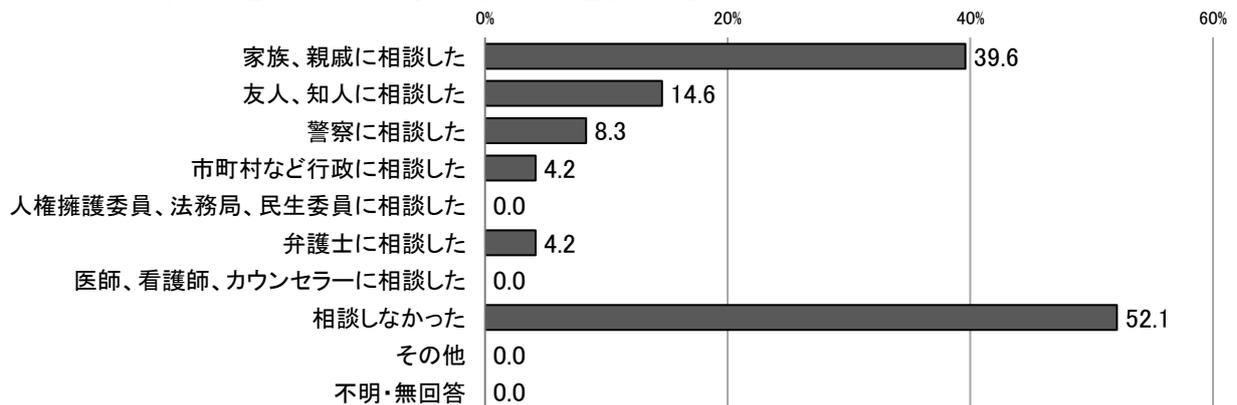
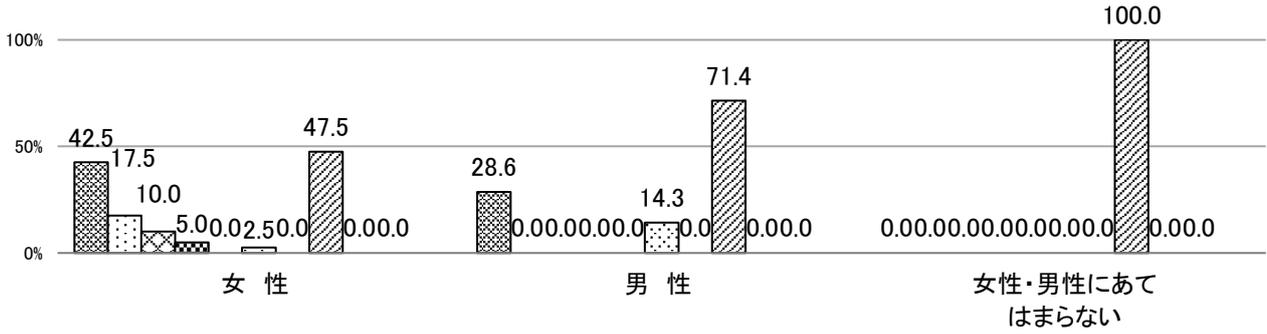
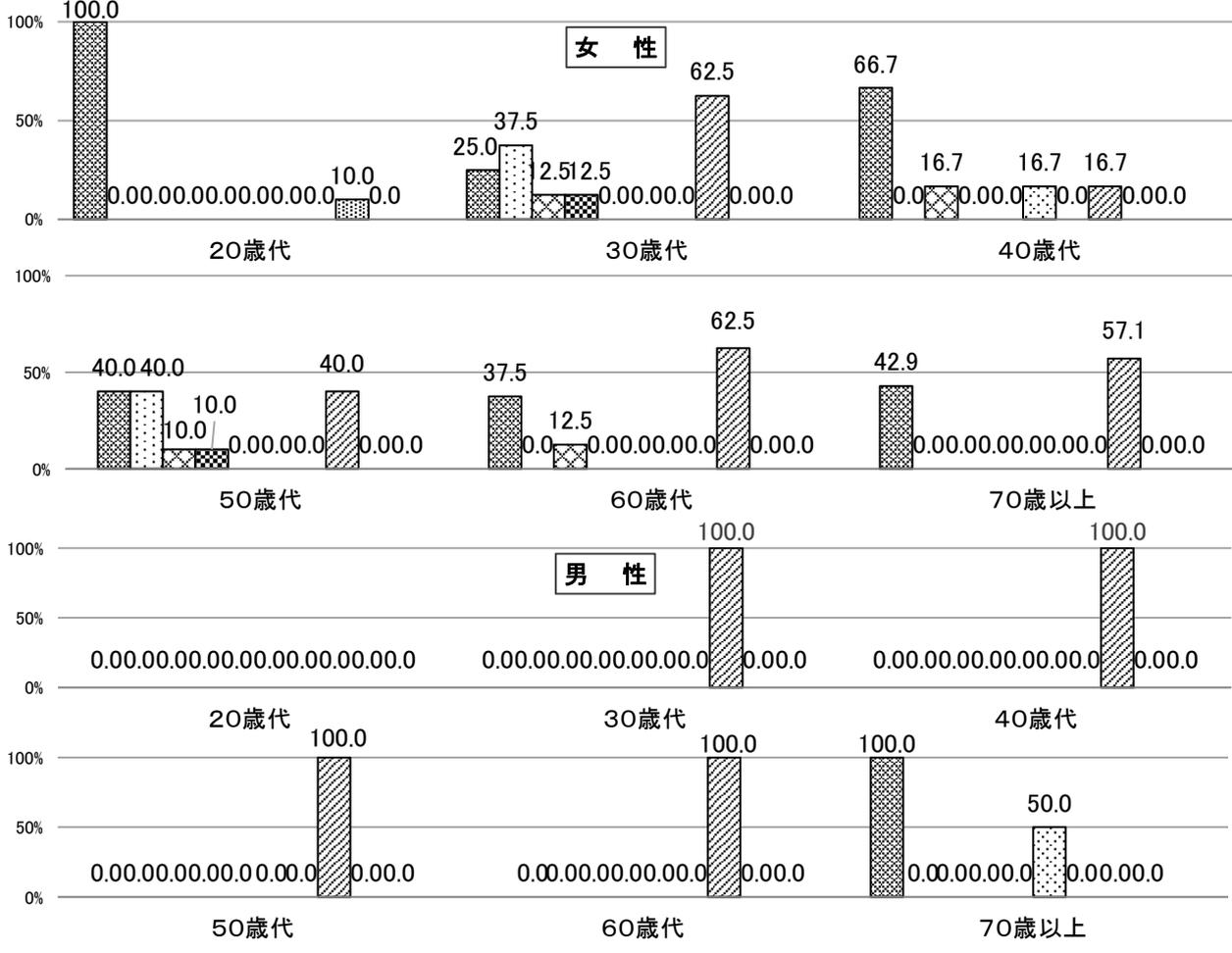


図11-2 DVを受けたときの対処の仕方(DVを受けた経験がある)(性別)



- 家族、親戚に相談した
- 友人、知人に相談した
- 警察に相談した
- 市町村など行政に相談した
- 人権擁護委員、法務局、民生委員に相談した
- 弁護士に相談した
- 医師、看護師、カウンセラーに相談した
- 相談しなかった
- その他
- 不明・無回答

(性別) × (年齢層別)



「DVを受けたときの対処の仕方」については、女性では「家族、親族に相談した」が20歳代・40歳代・60歳代・70歳以上で多く、30歳代・50歳代では「友人、知人に相談した」の数値が高くなっている。このことから身近で自分のことを心配してくれる人に相談するケースが多いと思われる。また、30歳代～60歳代において「警察に相談した」の数値は少ないが、「ある」ことも見逃せない。ただし、相談したことでどういう結果が出たのかも問題である。特に留意しなければならないことは、「相談しなかった」が女性で47.5%（40人中19人）、男性で71.4%（7人中5人）とともに割合が高いことである。DVを受けている本人が相談することがどれだけ勇気のいることなのかを表していると思われる。このことがDVを深刻化させる要因にもなっている可能性がある。

男性の場合、ほとんど自分で抱え込んでおり容易に言えないという実態は、逆に男性として「恥ずかしい」という意識がそうさせているのかもしれないと思われる。

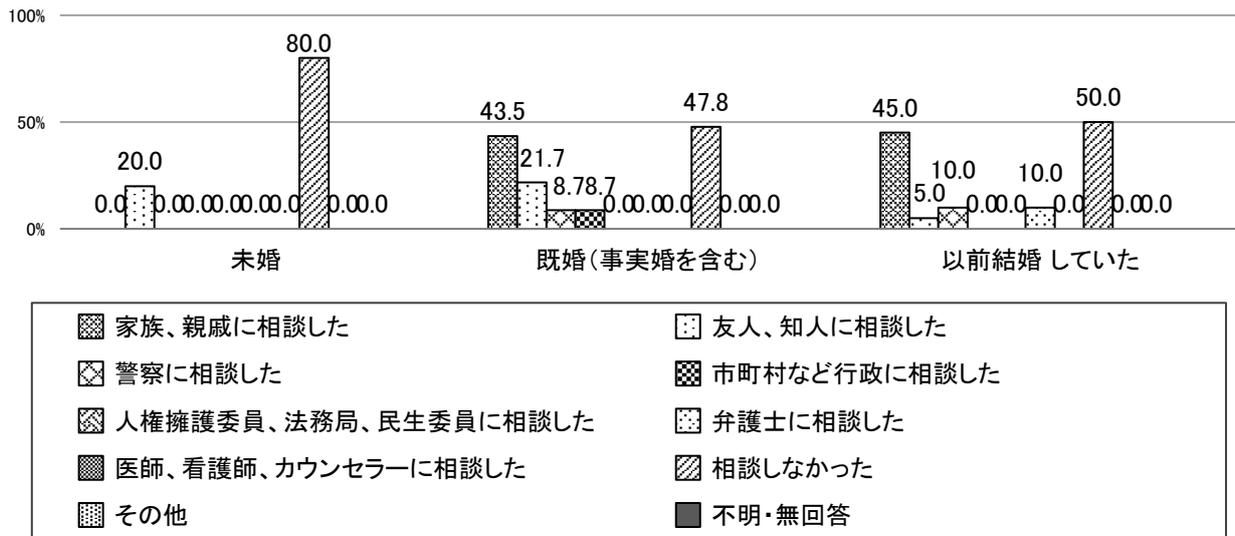
2) 配偶関係別特徴

表11-2

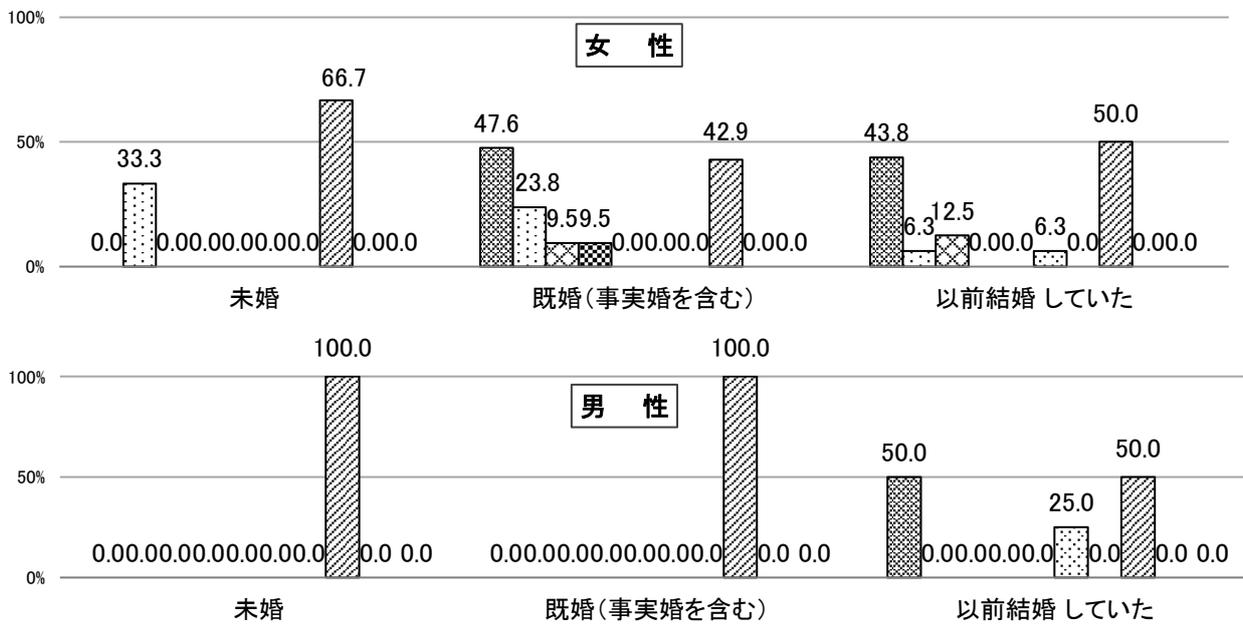
上段:実数(人) 下段:割合(%)

問11 DVを受けたときの対処 の仕方 (受けたことがある)	回答 数	相 家 談 し 、 た 親 戚 に	相 友 談 し 、 た 知 人 に	警 察 に 相 談 し た	相 市 談 町 し 村 な ど 行 政 に	に 法 務 局 相 談 し 、 民 生 委 員 、 委員	弁 護 士 に 相 談 し た	相 カ 談 ウ シ ン 、 セ ラ 護 師 に 、	相 談 し な か っ た	そ の 他	不 明 ・ 無 回 答
全 体 (受けたことがある)	48 100.0	19 39.6	7 14.6	4 8.3	2 4.2	0 0.0	2 4.2	0 0.0	25 52.1	0 0.0	0 0.0
配 偶 関 係	未 婚	5 100.0	0 0.0	1 20.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4 80.0	0 0.0	0 0.0
	既 婚 (事実婚を含む)	23 100.0	10 43.5	5 21.7	2 8.7	2 8.7	0 0.0	0 0.0	11 47.8	0 0.0	0 0.0
	以前結婚 していた	20 100.0	9 45.0	1 5.0	2 10.0	0 0.0	0 0.0	2 10.0	10 50.0	0 0.0	0 0.0
女性全体 (受けたことがある)	40 100.0	17 42.5	7 17.5	4 10.0	2 5.0	0 0.0	1 2.5	0 0.0	19 47.5	0 0.0	0 0.0
配 性 偶 別 関 係 (女 性)	未 婚	3 100.0	0 0.0	1 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 66.7	0 0.0	0 0.0
	既 婚 (事実婚を含む)	21 100.0	10 47.6	5 23.8	2 9.5	2 9.5	0 0.0	0 0.0	9 42.9	0 0.0	0 0.0
	以前結婚 していた	16 100.0	7 43.8	1 6.3	2 12.5	0 0.0	0 0.0	1 6.3	8 50.0	0 0.0	0 0.0
男性全体 (受けたことがある)	7 100.0	2 28.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 14.3	0 0.0	5 71.4	0 0.0	0 0.0
配 性 偶 別 関 係 (男 性)	未 婚	2 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 100.0	0 0.0	0 0.0
	既 婚 (事実婚を含む)	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0
	以前結婚 していた	4 100.0	2 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 25.0	2 50.0	0 0.0	0 0.0
女性・男性に あてはまらない全体	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0
配 性 偶 別 関 係	既 婚 (事実婚を含む)	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0

図 11-3 DVを受けたときの対処の仕方(DVを受けた経験がある)
(配偶関係別)



(性別) × (配偶関係別)



「配偶関係別」で見ると、未婚は「相談しなかった」(未婚の人数は5人少ないが)が80%(5人中4人)で、既婚は最も多いのが「相談しなかった」で47.8%(23人中11人)、次に「家族、親戚に相談した」で43.5%(23人中10人)、三番目は「友人、知人に相談した」で21.7%(23人中5人)である。やはり、相談した後の経過がどうなったのかが問題であると思われる。「以前結婚していた」についても、「相談しなかった」が50%(20人中10人)、「家族、親戚に相談した」が45.0%(20人中9人)で、やはり解決せず離婚に至ったというケースが多いのではないかと考えられる。

男性では、前の項目と同じく相談しなかったという割合が多く、自分だけで抱え込むという事で「男性として、こんなことは恥ずかしくて言えない」という意識(周りの意識も含む)があるのではないかと考えられる。

問12 DVを受けたとき相談しなかった理由

相談しなかった理由は何ですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

問11で「8 相談しなかった」と回答した方のみ回答

1) 全体、性別特徴

表12

上段:実数(人) 下段:割合(%)

問12 DVを受けたとき相談 しなかった理由	回答 数	かどこ	か人	思相	思と	相談	思何	自自	世	な他	が自	と相	そ	不
		わこ	人	相	談	返	と	間	間	人	自	相	他	明
全体 (相談しなかった)	25	2	4	9	4	5	1	3	3	6	2	0		
	100.0	8.0	16.0	36.0	16.0	20.0	4.0	12.0	12.0	24.0	8.0	0.0		
性	女性	19	1	4	7	3	4	1	2	2	3	2	0	
		100.0	5.3	21.1	36.8	15.8	21.1	5.3	10.5	10.5	15.8	10.5	0.0	
別	男性	5	1	0	2	1	1	0	1	1	2	0	0	
		100.0	20.0	0.0	40.0	20.0	20.0	0.0	20.0	20.0	40.0	0.0	0.0	
女性・男性に あてはまらない	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	
	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	

図12-1 DVを受けたとき相談しなかった理由(全体)

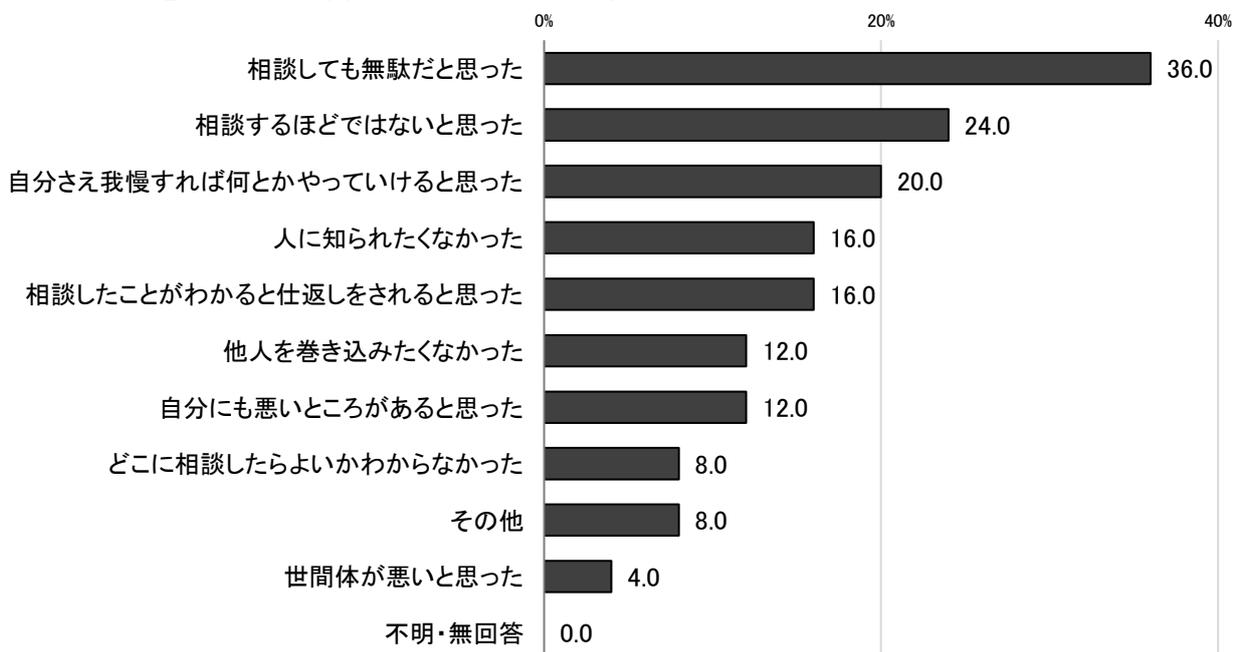
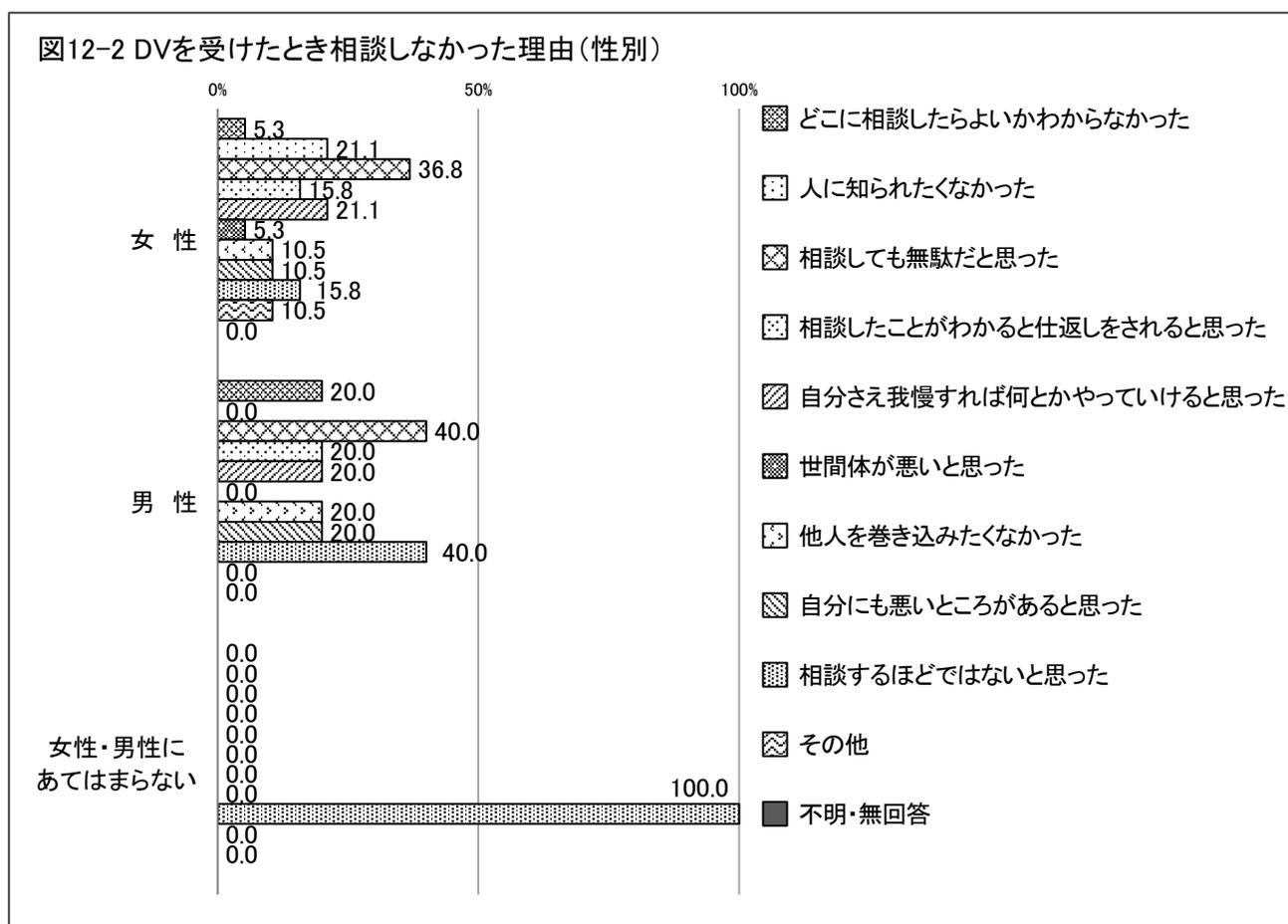


図12-2 DVを受けたとき相談しなかった理由(性別)



「DVを受けたとき相談しなかった理由」については、全体では「相談しても無駄だと思った」が36.0%で非常に多い。また、「自分さえ我慢すれば何とかやっていけると思った」(20.0%)・「人に知られたくなかった」(16.0%)・「相談したことがわかると仕返しされると思った」(16.0%)の項目の割合が高いのは、その背景に「相談して聞いてもらっても、適切なアドバイスがあるとは思えない。(どうやったら解決できるのか、その道筋をきちんと示してもらえないだろう)」や「相手にもやさしいところがある。(DVを行う人は、感情の起伏が激しく、暴力をふるった後、泣いたり謝ったりして、急にやさしくなるという傾向もみられる)」という考えに加え、「相談したことがわかると一層激しくなったりする」という不安も重なって相談しなかったという事も考えられる。

「どこに相談したらよいかわからなかった」というケースでは、「相談室などがあっても行きにくい、住民に対応の仕方の啓発が行きわたっていない」などが考えられる。DVについては、まず地元で相談というケースは非常に少ない。

対応の仕方について、分かりやすい講座などを地道に積み上げ、「伝える」啓発とともにDV被害を受けている人に確実に「伝わる」手立てを考える必要がある。

問13 男女共同参画に関連することばの認知度

次の単語の認知状況について教えてください。(○は1つ)

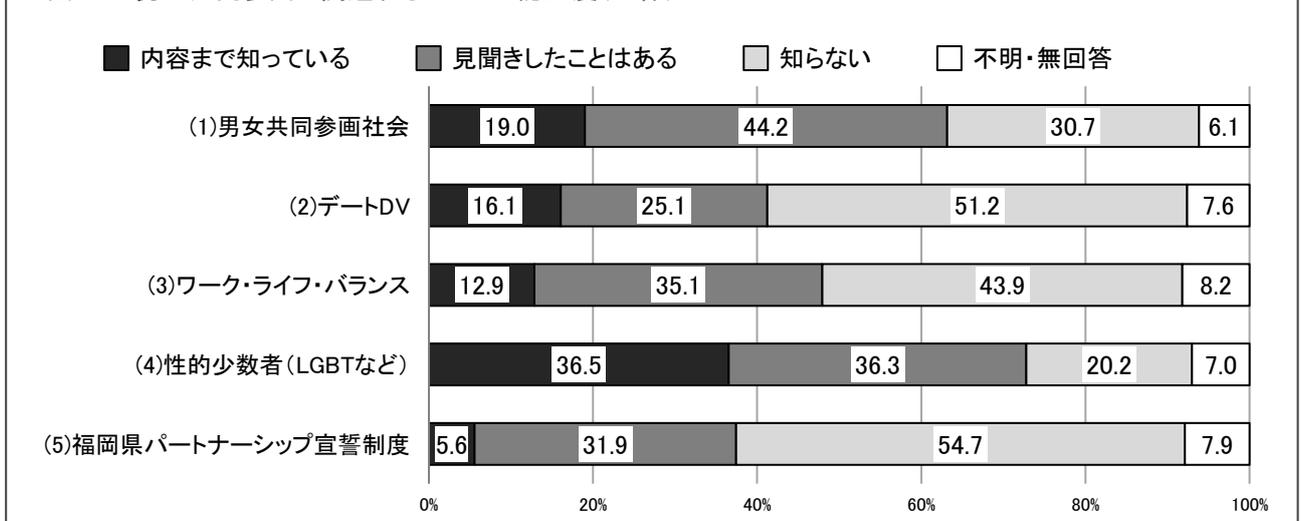
1 全体の特徴（男女共同参画社会～福岡県パートナーシップ宣言制度）

表13-1

上段:実数(人) 下段:割合(%)

問13 男女共同参画に関連することばの 認知度		回 答 数	内 容 ま で 知 っ て	見 聞 き し た こ と	知 ら な い	不 明 ・ 無 回 答
全 体	(1)男女共同参画社会	342	65	151	105	21
		100.0	19.0	44.2	30.7	6.1
	(2)デートDV	342	55	86	175	26
		100.0	16.1	25.1	51.2	7.6
	(3)ワーク・ライフ・バランス	342	44	120	150	28
		100.0	12.9	35.1	43.9	8.2
	(4)性的少数者(LGBTなど)	342	125	124	69	24
		100.0	36.5	36.3	20.2	7.0
	(5)福岡県パートナーシップ宣誓制度	342	19	109	187	27
		100.0	5.6	31.9	54.7	7.9

図13-1 男女共同参画に関連することばの認知度(全体)



「男女共同参画に関連することばの認知度」は低い。

日本でのこの分野の取組が進んでこなかったこともあり、男女共同参画ということばのイメージが全くわからない、使われることばも英語で分かりにくいなどがあげられるのではないと思われる。

男女共同参画社会とは、全ての人が暮らしやすい世の中になることであり(男性、女性だけではない)、そのためには、自治体としてはまず今年度このような取り組みを考えているというビジョンを具体的に示し、身近に感じてもらう取組が必要なのではないかと思う。

性的少数者の問題については、マスコミなどもよく取り上げるようになってかなり浸透してきているように思われる。しかし、あくまで他人事であって身近にいると思っていない。また、身近にいた場合否定的イメージをもつことがあり、教育・啓発により意識を変えていく必要がある。

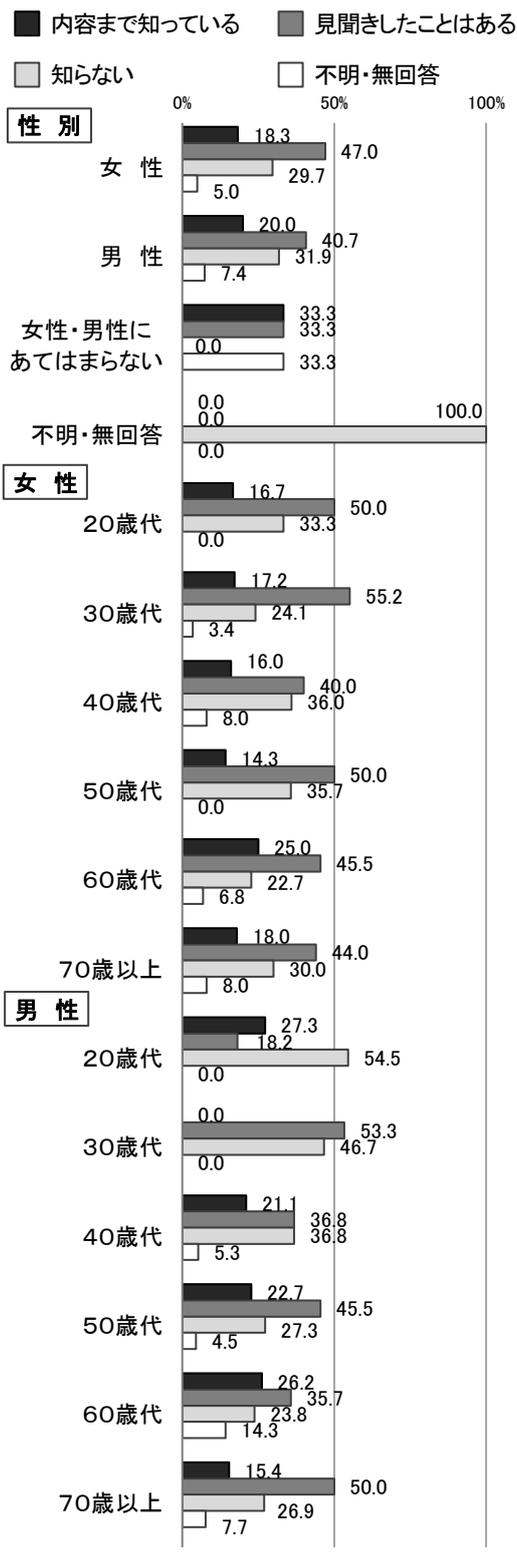
1) 男女共同参画社会

表13-2

上段:実数(人) 下段:割合(%)

問13 男女共同参画に関連 することばの認知度		(1)男女共同参画社会				
		回答 数	内容 まで 知っ て	見 聞 き し た こ と	知 ら な い	不 明 ・ 無 回 答
全 体		342	65	151	105	21
		100.0	19.0	44.2	30.7	6.1
性 別	女 性	202	37	95	60	10
		100.0	18.3	47.0	29.7	5.0
	男 性	135	27	55	43	10
		100.0	20.0	40.7	31.9	7.4
	女性・男性に あてはまらない	3	1	1	0	1
	100.0	33.3	33.3	0.0	33.3	
	不明・無回答	2	0	0	2	0
		100.0	0.0	0.0	100.0	0.0
性 別 (女 性) ・ 年 齢	20歳代	12	2	6	4	0
		100.0	16.7	50.0	33.3	0.0
	30歳代	29	5	16	7	1
		100.0	17.2	55.2	24.1	3.4
	40歳代	25	4	10	9	2
		100.0	16.0	40.0	36.0	8.0
	50歳代	42	6	21	15	0
	100.0	14.3	50.0	35.7	0.0	
60歳代	44	11	20	10	3	
	100.0	25.0	45.5	22.7	6.8	
70歳以上	50	9	22	15	4	
	100.0	18.0	44.0	30.0	8.0	
性 別 (男 性) ・ 年 齢	20歳代	11	3	2	6	0
		100.0	27.3	18.2	54.5	0.0
	30歳代	15	0	8	7	0
		100.0	0.0	53.3	46.7	0.0
	40歳代	19	4	7	7	1
		100.0	21.1	36.8	36.8	5.3
	50歳代	22	5	10	6	1
	100.0	22.7	45.5	27.3	4.5	
60歳代	42	11	15	10	6	
	100.0	26.2	35.7	23.8	14.3	
70歳以上	26	4	13	7	2	
	100.0	15.4	50.0	26.9	7.7	
年 齢 不 明 ・ 無 回 答	50歳代	2	0	1	0	1
		100.0	0.0	50.0	0.0	50.0
	70歳以上	1	1	0	0	0
	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	
年 齢 不 明 ・ 無 回 答	60歳代	1	0	0	1	0
		100.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	70歳以上	1	0	0	1	0
	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0	

図13-2 (1)男女共同参画社会



「男女共同参画社会」の認知度は、「性別」では「見聞きしたことはある」が女性で47.0%・男性は40.7%と最も高い割合を示している。

「性別」と「年齢層別」の関係では、どの年代層も「見聞きしたことはある」が最も多い。女性の60歳代・70歳以上、男性の50歳代～70歳以上で「内容まで知っている」と20%前後の割合を占めている。このことは、現役時代の職場研修との関係があるのではないかとと思われる。

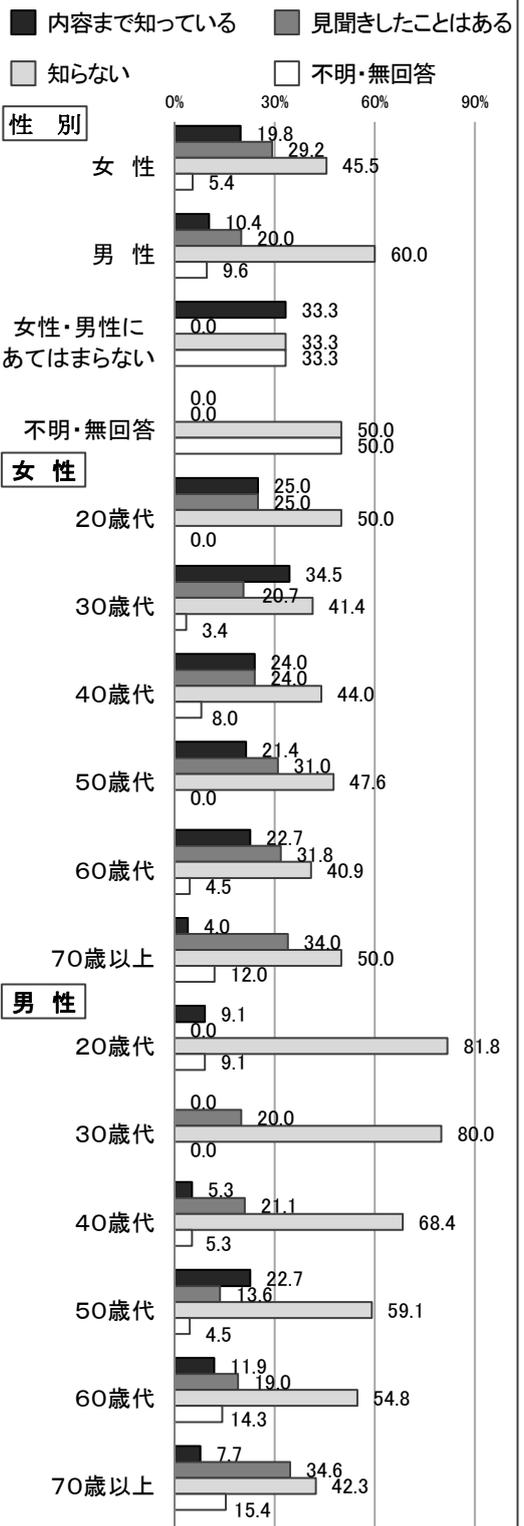
(2) デートDV

表13-3

上段:実数(人) 下段:割合(%)

		(2)デートDV				
		回答数	内容まで知っている	見聞きしたことがある	知らない	不明・無回答
問13 男女共同参画に関連することばの認知度						
全体		342	55	86	175	26
		100.0	16.1	25.1	51.2	7.6
性別	女性	202	40	59	92	11
		100.0	19.8	29.2	45.5	5.4
	男性	135	14	27	81	13
		100.0	10.4	20.0	60.0	9.6
	女性・男性にあてはまらない	3	1	0	1	1
	100.0	33.3	0.0	33.3	33.3	
	不明・無回答	2	0	0	1	1
	100.0	0.0	0.0	50.0	50.0	
性別(女性)・年齢	20歳代	12	3	3	6	0
		100.0	25.0	25.0	50.0	0.0
	30歳代	29	10	6	12	1
		100.0	34.5	20.7	41.4	3.4
	40歳代	25	6	6	11	2
		100.0	24.0	24.0	44.0	8.0
	50歳代	42	9	13	20	0
	100.0	21.4	31.0	47.6	0.0	
性別(男性)・年齢	20歳代	11	1	0	9	1
		100.0	9.1	0.0	81.8	9.1
	30歳代	15	0	3	12	0
		100.0	0.0	20.0	80.0	0.0
	40歳代	19	1	4	13	1
		100.0	5.3	21.1	68.4	5.3
年齢不明・無回答	50歳代	2	1	0	0	1
		100.0	50.0	0.0	0.0	50.0
	70歳以上	1	0	0	1	0
		100.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	60歳代	1	0	0	0	1
		100.0	0.0	0.0	0.0	100.0
70歳以上	1	0	0	1	0	
	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0	

図13-3 (2)デートDV



「デートDV」については、「内容まで知っている」は一定の割合があるが「知らない」の割合は高く、特に男性に多くみられるという結果である。その反面、女性は「内容まで知っている」は70歳以上を除いてどの年代層も20%以上あり、当事者としての意識から生じている結果ではないかと思われる。問10の結果より、DVは男性から女性へ行われることが多く、職場研修やDVDなどを活用しDVを行う側への啓発が必要ではないかと思われる。

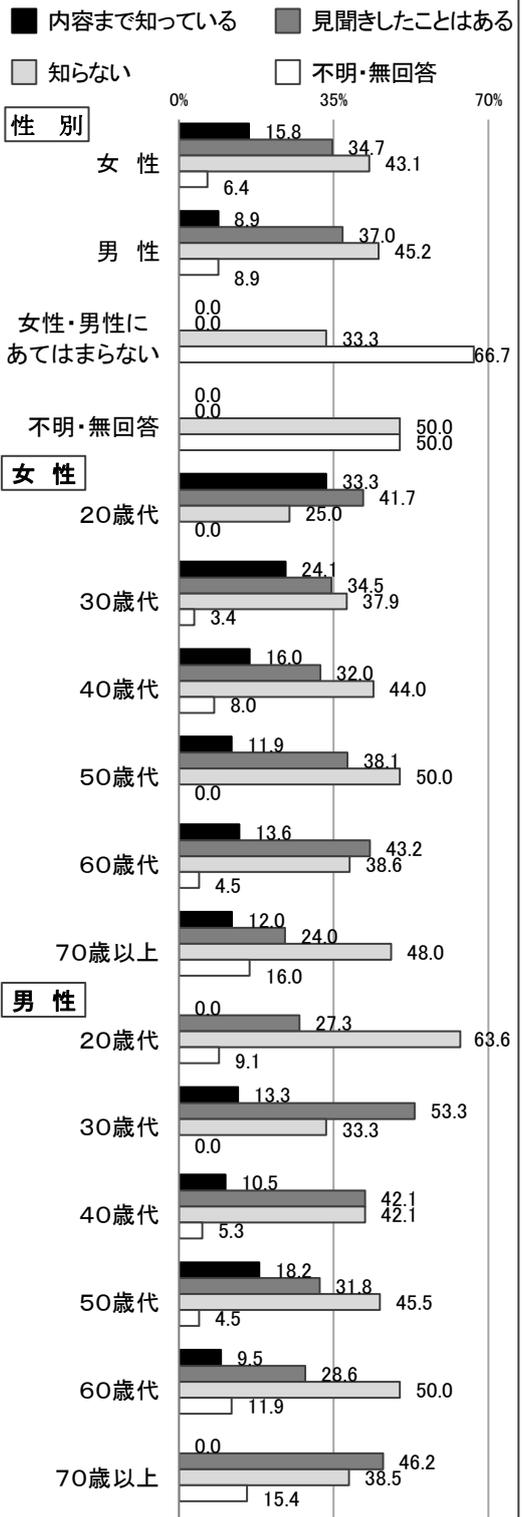
(3) ワーク・ライフ・バランス

表13-4

上段:実数(人) 下段:割合(%)

問13 男女共同参画に関連 することばの認知度		(3)ワーク・ライフ・バランス				
		回答 数	い る 内 容 ま で 知 っ て	は 見 聞 き し た こ と	知 ら な い	不 明 ・ 無 回 答
全 体		342	44	120	150	28
		100.0	12.9	35.1	43.9	8.2
性 別	女 性	202	32	70	87	13
		100.0	15.8	34.7	43.1	6.4
	男 性	135	12	50	61	12
		100.0	8.9	37.0	45.2	8.9
	女性・男性に あてはまらない	3	0	0	1	2
	100.0	0.0	0.0	33.3	66.7	
	不明・無回答	2	0	0	1	1
	100.0	0.0	0.0	50.0	50.0	
性 別 (女 性) ・ 年 齢	20歳代	12	4	5	3	0
		100.0	33.3	41.7	25.0	0.0
	30歳代	29	7	10	11	1
		100.0	24.1	34.5	37.9	3.4
	40歳代	25	4	8	11	2
		100.0	16.0	32.0	44.0	8.0
	50歳代	42	5	16	21	0
	100.0	11.9	38.1	50.0	0.0	
性 別 (男 性) ・ 年 齢	60歳代	44	6	19	17	2
		100.0	13.6	43.2	38.6	4.5
	70歳以上	50	6	12	24	8
		100.0	12.0	24.0	48.0	16.0
	20歳代	11	0	3	7	1
		100.0	0.0	27.3	63.6	9.1
年 齢 不 明 ・ 無 回 答	30歳代	15	2	8	5	0
		100.0	13.3	53.3	33.3	0.0
	40歳代	19	2	8	8	1
		100.0	10.5	42.1	42.1	5.3
	50歳代	22	4	7	10	1
		100.0	18.2	31.8	45.5	4.5
年 齢 不 明 ・ 無 回 答	60歳代	42	4	12	21	5
		100.0	9.5	28.6	50.0	11.9
	70歳以上	26	0	12	10	4
	100.0	0.0	46.2	38.5	15.4	
年 齢 不 明 ・ 無 回 答	50歳代	2	0	0	1	1
		100.0	0.0	0.0	50.0	50.0
	70歳以上	1	0	0	0	1
	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0	
年 齢 不 明 ・ 無 回 答	60歳代	1	0	0	0	1
		100.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	70歳以上	1	0	0	1	0
	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0	

図13-4 (3)ワーク・ライフ・バランス



「ワーク・ライフ・バランス」については、女性は「内容まで知っている」が15.8%であるが、女性男性ともに「見聞きしたことはある」「知らない」を合わせて約80%である。

「仕事と生活を両立させ充実した生活を送るには」について考えると、取組が進んでいるところを具体的に事例で紹介するなど啓発としての選択肢になるのではないと思われる。

(4) 性的少数者 (LGBT など)

表13-5

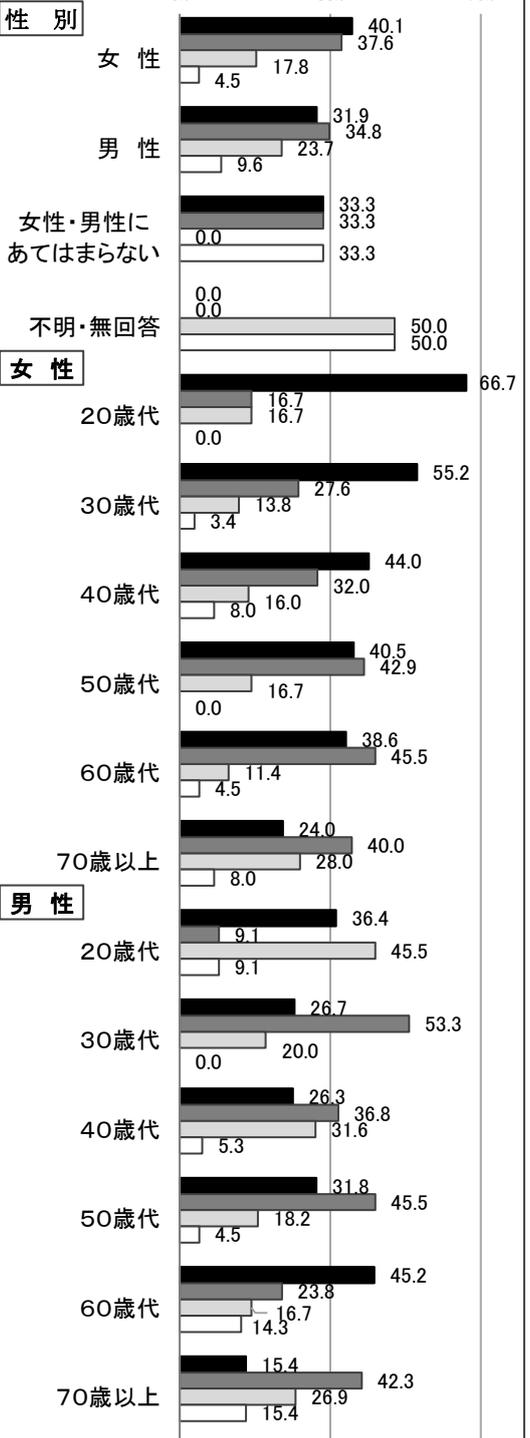
上段:実数(人) 下段:割合(%)

問13 男女共同参画に関連 することばの認知度		(4)性的少数者(LGBTなど)				
		回答 数	内容 まで 知っ て	見 聞 き し た こ と	知 ら な い	不 明 ・ 無 回 答
全 体		342	125	124	69	24
		100.0	36.5	36.3	20.2	7.0
性 別	女 性	202	81	76	36	9
		100.0	40.1	37.6	17.8	4.5
	男 性	135	43	47	32	13
		100.0	31.9	34.8	23.7	9.6
	女性・男性に あてはまらない	3	1	1	0	1
	100.0	33.3	33.3	0.0	33.3	
	不明・無回答	2	0	0	1	1
		100.0	0.0	0.0	50.0	50.0
性 別 (女 性) ・ 年 齢	20歳代	12	8	2	2	0
		100.0	66.7	16.7	16.7	0.0
	30歳代	29	16	8	4	1
		100.0	55.2	27.6	13.8	3.4
	40歳代	25	11	8	4	2
		100.0	44.0	32.0	16.0	8.0
	50歳代	42	17	18	7	0
	100.0	40.5	42.9	16.7	0.0	
性 別 (男 性) ・ 年 齢	60歳代	44	17	20	5	2
		100.0	38.6	45.5	11.4	4.5
	70歳以上	50	12	20	14	4
		100.0	24.0	40.0	28.0	8.0
	20歳代	11	4	1	5	1
		100.0	36.4	9.1	45.5	9.1
性 別 (男 性) ・ 年 齢	30歳代	15	4	8	3	0
		100.0	26.7	53.3	20.0	0.0
	40歳代	19	5	7	6	1
		100.0	26.3	36.8	31.6	5.3
	50歳代	22	7	10	4	1
		100.0	31.8	45.5	18.2	4.5
性 別 (男 性) ・ 年 齢	60歳代	42	19	10	7	6
		100.0	45.2	23.8	16.7	14.3
年 齢 不 明 ・ 無 回 答	70歳以上	26	4	11	7	4
		100.0	15.4	42.3	26.9	15.4
年 齢 不 明 ・ 無 回 答	50歳代	2	0	1	0	1
		100.0	0.0	50.0	0.0	50.0
年 齢 不 明 ・ 無 回 答	70歳以上	1	1	0	0	0
		100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
年 齢 不 明 ・ 無 回 答	60歳代	1	0	0	0	1
		100.0	0.0	0.0	0.0	100.0
年 齢 不 明 ・ 無 回 答	70歳以上	1	0	0	1	0
		100.0	0.0	0.0	100.0	0.0

図13-5 (4)性的少数者(LGBTなど)

■ 内容まで知っている ■ 見聞きしたことはある

□ 知らない □ 不明・無回答



「性的少数者 (LGBT など)」については、「内容まで知っている」の割合は女性が40.1%・男性が31.9%と他の男女共同参画に関連することばの認知度よりは進んでいると言える。しかし、「現実に自分の身近に感じているのか」「身近にいると知った時どうなのか」について、この認知度の進んでいる状況から考えると「具体的になにを啓発すれば本当の意味で理解が進むのか」という大事な段階にあると思われる。

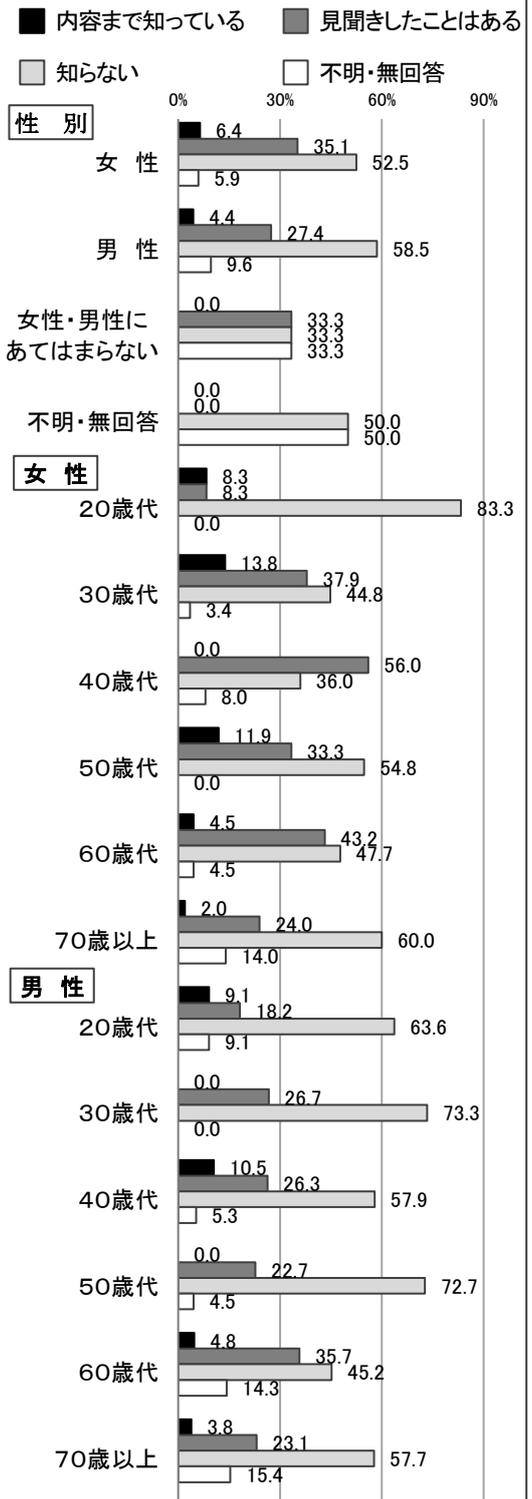
(5) 福岡県パートナーシップ宣誓制度

表13-6

上段:実数(人) 下段:割合(%)

問13 男女共同参画に関連 することばの認知度		(5)福岡県パートナーシップ宣誓制度				
		回答数	内容 まで 知っ て	見 聞 き し た こ と	知 ら な い	不 明 ・ 無 回 答
全 体		342	19	109	187	27
		100.0	5.6	31.9	54.7	7.9
性 別	女 性	202	13	71	106	12
		100.0	6.4	35.1	52.5	5.9
	男 性	135	6	37	79	13
		100.0	4.4	27.4	58.5	9.6
	女性・男性に あてはまらない	3	0	1	1	1
	100.0	0.0	33.3	33.3	33.3	
	不明・無回答	2	0	0	1	1
		100.0	0.0	0.0	50.0	50.0
性別 (女性) ・ 年齢	20歳代	12	1	1	10	0
		100.0	8.3	8.3	83.3	0.0
	30歳代	29	4	11	13	1
		100.0	13.8	37.9	44.8	3.4
	40歳代	25	0	14	9	2
		100.0	0.0	56.0	36.0	8.0
	50歳代	42	5	14	23	0
	100.0	11.9	33.3	54.8	0.0	
性別 (男性) ・ 年齢	20歳代	11	1	2	7	1
		100.0	9.1	18.2	63.6	9.1
	30歳代	15	0	4	11	0
		100.0	0.0	26.7	73.3	0.0
	40歳代	19	2	5	11	1
		100.0	10.5	26.3	57.9	5.3
不明・ 無回答・ 年齢	50歳代	2	0	1	0	1
		100.0	0.0	50.0	0.0	50.0
	70歳以上	1	0	0	1	0
		100.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	60歳代	1	0	0	0	1
		100.0	0.0	0.0	0.0	100.0
70歳以上	1	0	0	1	0	
	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0	

図13-6 (5)福岡県パートナーシップ宣誓制度



「福岡県パートナーシップ宣言制度」は、男女ともに「知らない」割合が50%以上、女性・男性にあてはまらないで33.3%であり、「内容まで知っている」は10%以下である。2022（令和4）年度から始まった制度のためまだ啓発は始まったばかりだと思うが、認知度を上げる取組と同時に当事者の意見を聴き、誰もが暮らしやすい社会づくりに向けての取組が必要であると思う。

問14 男女共同参画社会を実現するために、今後、行政が力を入れるべきと思うこと

糸田町が男女共同参画社会を実現するために、今後、行政は何に力を入れるべきだと思いますか。
(複数選択○)

1) 全体、性別及び年齢層別特徴

表14

上段:実数(人) 下段:割合(%)

問14 男女共同参画社会を実現するために今後 行政が力を入れるべきと思うこと		回答数	広報の啓発を進め ることや見直し、	男女平等の視点か ら、教育や学習を 進めること	全ての人気が軽 くできる場を つくること	その他	不明・無回答
全 体		342	139	171	220	15	20
		100.0	40.6	50.0	64.3	4.4	5.8
性別	女 性	202	78	104	128	10	9
		100.0	38.6	51.5	63.4	5.0	4.5
	男 性	135	58	66	90	5	9
		100.0	43.0	48.9	66.7	3.7	6.7
	女性・男性に あてはまらない	3	3	1	2	0	0
	100.0	100.0	33.3	66.7	0.0	0.0	
	不明・無回答	2	0	0	0	0	2
		100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
性別 (女性) ・ 年齢	20歳代	12	4	7	8	0	0
		100.0	33.3	58.3	66.7	0.0	0.0
	30歳代	29	16	17	20	3	1
		100.0	55.2	58.6	69.0	10.3	3.4
	40歳代	25	7	16	12	2	1
		100.0	28.0	64.0	48.0	8.0	4.0
	50歳代	42	15	22	26	2	1
	100.0	35.7	52.4	61.9	4.8	2.4	
60歳代	44	19	21	26	2	3	
	100.0	43.2	47.7	59.1	4.5	6.8	
70歳以上	50	17	21	36	1	3	
	100.0	34.0	42.0	72.0	2.0	6.0	
性別 (男性) ・ 年齢	20歳代	11	6	3	9	0	0
		100.0	54.5	27.3	81.8	0.0	0.0
	30歳代	15	5	8	9	1	0
		100.0	33.3	53.3	60.0	6.7	0.0
	40歳代	19	8	10	13	2	0
		100.0	42.1	52.6	68.4	10.5	0.0
	50歳代	22	8	11	15	2	2
	100.0	36.4	50.0	68.2	9.1	9.1	
60歳代	42	23	20	28	0	5	
	100.0	54.8	47.6	66.7	0.0	11.9	
70歳以上	26	8	14	16	0	2	
	100.0	30.8	53.8	61.5	0.0	7.7	
年 齢 は 性 別 に あ ら ず	50歳代	2	2	0	1	0	0
		100.0	100.0	0.0	50.0	0.0	0.0
	70歳以上	1	1	1	1	0	0
		100.0	100.0	100.0	100.0	0.0	0.0
年 齢 不 明 ・ 無 回 答	60歳代	1	0	0	0	0	1
		100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	70歳以上	1	0	0	0	0	1
		100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

図14-1 男女共同参画社会を実現するために、今後、行政が力を入れるべきと思うこと
(全体)

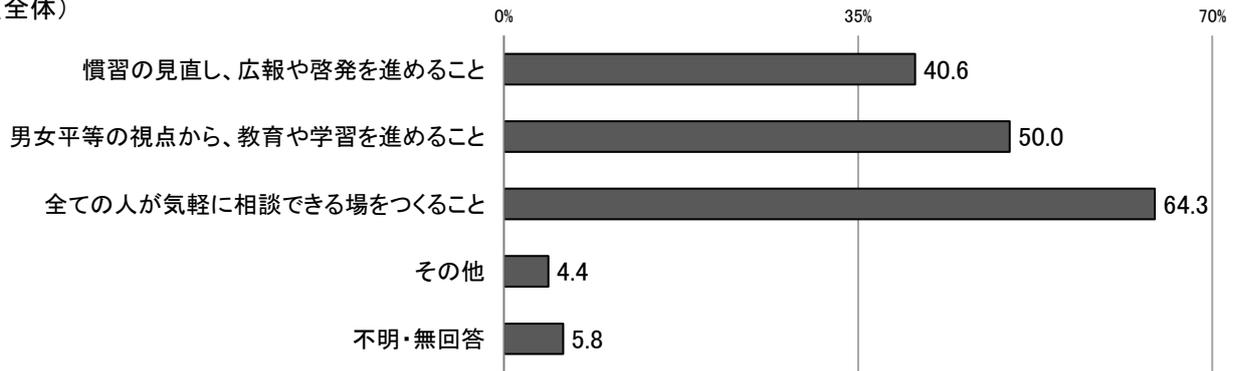
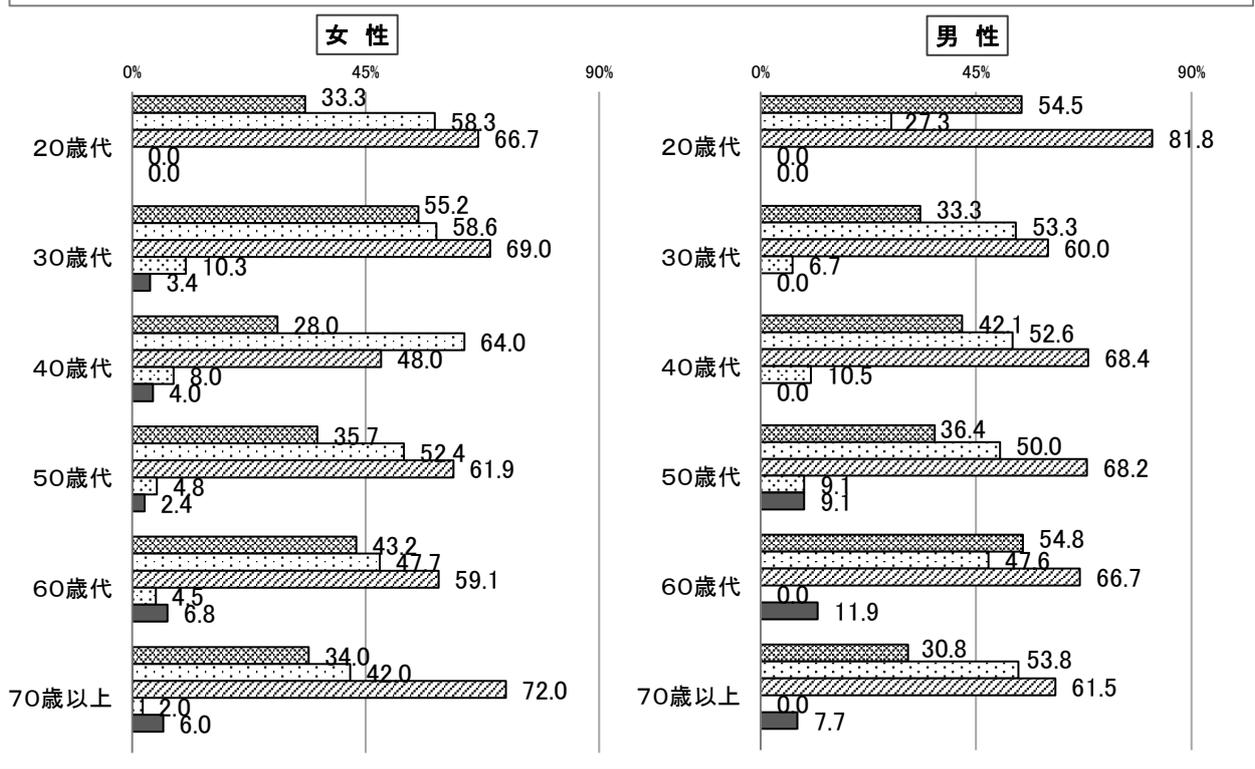
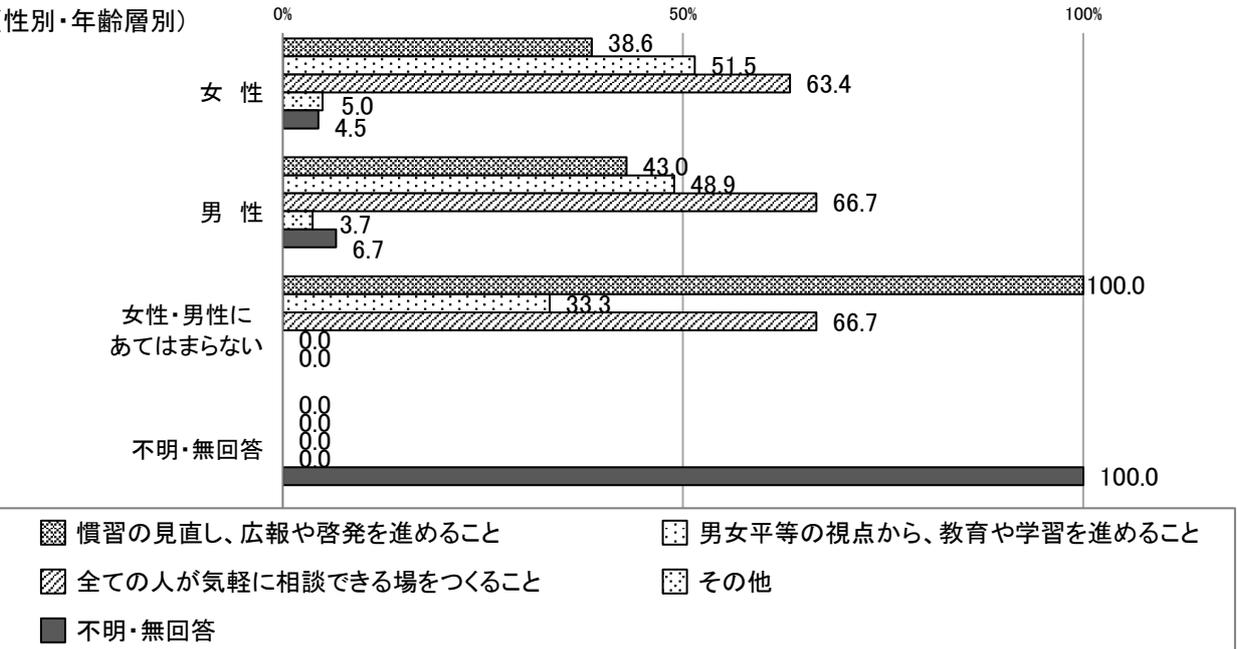


図14-2 男女共同参画社会を実現するために、今後、行政が力を入れるべきと思うこと
(性別・年齢層別)



「男女共同参画社会を実現するために、今後、行政が力を入れるべきと思うこと」について、全体(64.3%)・性別(女性63.4%、男性66.7%、女性・男性にあてはまらない66.7%)・年齢層別(女性40歳代以外のどの年齢層も約60%)にみると、「全ての人が気軽に相談できる場をつくること」への要望が非常に多い。また、女性の40歳代は「男女平等の視点から、教育や学習をすすめること」が64.0%となっている。

これらの意見を受け止めて、各業務でどのようなことが実現可能であるかを具体的に話し合い、取組をすすめていくことが必要とされている。

第4章 自由意見の記載内容について

問15 男女共同参画や糸田町の行政などに関する自由記載

男女共同参画に関して、最近気になるニュースや新聞などについて教えてください。
その他、ご意見・ご要望がありましたら自由にお書きください。

1 自由記載欄の記載状況

表15-1

問15 男女共同参画や糸田町の 行政などに関する自由記載		回答数 (人)	記載者数 (人)	性別 記載率 (%)	性別 記載割合 (%)
全 体		342	37	10.8	100.0
性 別	女 性	202	17	8.4	45.9
	男 性	135	20	14.8	54.1
	女性・男性にあてはまらない	3	0	0.0	0.0
	不明・無回答	2	0	0.0	0.0

表15-2

問15 男女共同参画や糸田町の 行政などに関する自由記載	20歳代		30歳代		40歳代		50歳代		60歳代		70歳以上	
	女性	男性	女性	男性								
記 載 者 数(人)	0	0	2	4	2	3	4	4	3	5	6	4

男女共同参画や糸田町の行政などに関する自由記載は、回答数 342 名に対して、記載者 37 名、記載率 10.8%で、10 人に 1 人が意見を記入している。

性別で見ると、女性は 8.4%、男性は 14.8%となっている。

性別と年齢層別の関係で見ると、20 歳代の記載は女性・男性ともに 0 で、年齢が高くなるに従って自由意見の記載は多くなっている。

2 記載内容について

男女共同参画推進の参考とするために、記載内容を「男女共同参画」に対しての意見のものを挙げている。

男女共同参画に対する意見

- *女性がもっと強く(?)ならないと・・・自分の意見をきちんと持つこと。男の人の云われるまま、云われると同調する人が多いと思われる。まだまだ田舎なのだろうか。
- *政治家、学校の先生等は男女の人数を均等にするのが理想であり、達成できた時、初めて男女共同参画という言葉の意味を皆が理解し、協力し合える世の中になると思います。
- *海外より日本はおくれている。特に地方はついて行けない。教育、習慣から進めるしかない。
- *東京や関東地域、関西など他県に数年住み仕事をした経験があります。東京や関東地域では男性優位な社会とはほとんど感じずにいました。しかし、九州の地元に戻って来て、とても男性優位

な社会だと思います。文化的、地域的にそういう社会だと思い受け入れて仕事をしています。積極的に活動してもらえたらうれしいです。

*LGBT 理解増進法の施行

*男女性別による差別的なあつかいはあってはいけないと思うが、男は仕事、女は育児、家庭を守るといような慣習、しきたりなど未だ根強い。昔からのならわしをなくすのは容易な事ではないと思う。まずは、自分たちの子ども、孫に伝え、話をする事で少しずつでも変わるかな？と私は思う。

*女性だからダメと言う人が多いと思います。そんな人の教育をした方が良いのでは？

*子育て、教育の現場で意識改革を進める。次世代につなぐ事が必要

*議員の半数を女性に!!

*LGBT、日本の古すぎる教育、医療、人、日本は本当の古き良き時代と先進の考えを入れ、即行動に移っていただければ幸いです。

*男女平等ですが、性差はあります。

*働いて給料をもらって生活をするという基本的な形を実現できる町になる事、又、その職場が働きやすいという事等が男女参画にとどまらず、老人・子どもすべての人が幸せになるのではないかとと思う。

*70 以降の男性はとてめ扱いにくい。今さら別れるのも面倒だからガマンしているが、今の若い方達は男性女性に関わらず、協力している方が多いです。

*糸田町の女性、特に 50~70 才の方はむかしからの慣習のようで、なかなかいろいろな事への参加に躊躇しているように思えます。糸田町役場は女性の幹部への登用はなされていますか。

*我が家は家の事は嫁がやるって意識は変わらないので、子供には男女関係なく何でも出来るようになってほしいし、どんな人がいても同じ目線でいてほしいから教育の場でもどんどん周知していくべきと思います。

*問9 理想に対しての現実だと思い「わからない」に○をつけました。実際に現在の様子はわかりませんが、今の若い人の生活は理想に近いのではないのでしょうか。

*性別で判断することはよくない。人（個人）の能力、実践、経験が一番

*副大臣、政務官は女性起用ゼロ。もっと女性の能力をきちんと認めて、活用すべきだと思う

*皇室、内閣、国会議員、相撲協会など男性優遇の印象が強く、且つ、国民への影響力のある団体の方針が変われば、国民の古い意識は一機に変わるだろうけど、それまでは徐々にしか変わらないと思う

*トイレは女性用、男子用、LGBT 用にしてほしい。女性用と LGBT 用は一緒にしないでほしい

三 調査結果からみえる 現状と課題

三 調査結果からみえる現状と課題

第1章 男女平等に関する考え方や男女共同参画について

1) 分野別にみた男女の地位の平等感

全体を通して、どの項目も「男性が優遇されている」（「男性が優遇されている」と「どちらかといえば男性が優遇されている」の合計）の割合が高い。

「家庭生活」については、「男性が優遇されている」の割合が高いが、20歳代・30歳代女性は「平等である」の割合が高い。40歳代女性は「男性が優遇されている」が52.0%であるのに対し、40歳代男性は「平等である」が47.4%と男女間の意識に差が見られる。

配偶関係別では、「未婚」では男女ともに「男性が優遇されている」割合が高い。これは、育ってきた環境や現在の職場の在り方が影響しているのではないかとと思われる。「既婚」でも、男女ともに「男性が優遇されている」という考えが多い。特に女性は「男性が優遇されている」が57.8%と半数以上がそう感じていることになる。しかし、男性は「男性が優遇されている」が48.1%、「平等である」が43.2%で男性と女性とでは意識のずれがあるが、「女性が優遇されている」は双方4%以下である。

共働きの有無別では、女性は共働きであるなしにかかわらず「男性が優遇されている」割合が高い。問9「家庭内の役割分担（理想・現実）」で、主に妻が行う割合の高い項目が「食事のしたく」「食事の片づけ、食器洗い」「掃除」「洗濯」「子育て」で、このことが「男性が優遇されている」と感じる要因になっているのではないかと考えられる。家庭内で家事一つひとつの工程を明らかにして、どの部分をそれぞれが分担するかなど話し合うことも必要であると思う。

子どもの有無別では、特に女性で「子どもがいる」場合「男性が優遇されている」が55.1%、「平等である」が27.9%であるのに対し、男性で「子どもがいる」場合「男性が優遇されている」が45.4%、「平等である」が44.3%となっている。どちらにしても「女性が優遇されている」割合は5%以下であり、このことは子育てと関係していると思われる。

職場の中では、20歳代の女性を除いた女性のすべての年代で、約半数が「男性が優遇されている」と感じている。「女性活躍推進法」（2016年）以前に施行された「男女雇用機会均等法」（1986年）のころから、女性が「男性が優遇されている」と感じていることは何なのかを具体的に把握し、解消するための取組を職場において小さなことから始めることが大切であると思われる。

政治の面では、「男性が優遇されている」が72.5%で、「平等である」が11.7%で、その差は約60ポイントと高い数値を示している。

2023年の「ジェンダーギャップ指数」・「政治面」では、日本は146ヶ国中138位と、政治の場に女性の声が反映されていないと実感できる数値である。これは、アンコンシャス・バイアス（無意識の偏見）により、「男性でないといけない」仕事や「女性に向いている」仕事などの潜在的意識の問題が未だ解決せず女性が政治の場に参加する機会を与えられなかった結果であると思われる。女性が参加することで気づく大切なことがあるはずである。若年層のうちから、いや、幼少期から公平にチャンスを与えられる社会であることも男女の格差問題を考える上で重要であると思う。

「学校教育の面」では、男女ともに平等の割合が高い。以前から学校教育の中では、技術・家庭科の男女共修や男女混合名簿など男女共同参画の取組がなされている。単なる家事関係のスキルの習得ではなく、共修化によって伝統的な性別役割分担意識に変化がもたらされてきているのではな

いかと考えられる。実際、「ジェンダー」・「ワーク・ライフ・バランス」などは教科書でも学んでいる。また、問14「男女共同参画社会実現のために、今後、行政が力を入れるべきだと思うこと」で「男女平等の視点から、教育や学習を進めること」の割合が50%を占めている結果から、学校教育における人権学習も大きな影響を及ぼしていると思われる。

「社会通念、しきたり」の分野においては、依然「男性が優遇されている」割合がかなり高い。例えば、祭の神輿を担がせない、山車に乗せない等生活の節目である行事にも色濃く残っており、特に神事にかかわることに多い。

また、男性が基本的に世帯主であるべきだというような家制度の下で続いてきた考えがまだ根強くあるように思われる。

地域において高齢化が進行しつつある現在、神事に関わり方も考え直さなければならない。神社総代など神事にかかわることは以前男性のみであったが、現在では女性の神社総代が活躍している地域もある。

そのほか、地域の自治会（組織）の会合後に食事をとることが多いが、その際女性が接待するということが当たり前のように行われ、女性は男性が食事の席についてある程度時間が立たないと自分たちの食事ができないという実態があるところもあった。こういう面を改善し、弁当や飲み物を各自が適宜取りに行くという方式を導入することにより意識も変わりつつある地域もある。このように自分の身の回りのことから具体的に始めていくことが大事だと思う。

地域活動の場では、「男性が優遇されている」割合が高い。今までそのような場は男性であるという意識が当たり前のように働き、女性が出ないことがほとんどである。また、家庭内の反対や協力が得られないことも反映していると思われる。地域活動などにおいて、仕事内容などをきちんと記録し、次にていねいに引き継ぎ「これだけをすればよい」という内容をみんなで確認し、協力する体制を作ることが大切である。家庭内では、どういう協力ができるのか家族で話し合っ決めてなど、このような努力なしには改善されないし、改善されない限り毎回同じ人が担当するという、一部に負担がかかる悪循環が続くと思われる。

問2 性別役割分担意識について

『男は仕事、女は家庭』という性別役割分担意識については、全体・性別・年齢層別からみても「そう思わない」の割合は高い。知識としての理解がすすんでいることは教育・啓発の成果であると思われるが、実生活においてどうなのか、意識して改善する努力をすることでこのギャップを縮めていかなければならないと思う。

問3 地域の役職や、まちの審議会などの委員就任依頼への対応

「断る」割合は全体で70.8%（女性75.8%・男性63.0%）でどの年代も「断る」割合は高い。

問4 地域の役職や、まちの審議会などの委員就任依頼を断る理由

「地域の役職やまちの審議会などの委員就任依頼を断る理由」としては、「家事や育児、介護に支障が出るから」「仕事に支障が出るから」「役職につく知識や経験がないから」の割合が高い。

性別では、女性は「役職につく知識や経験がないから」が37.9%と最も多く、次に「家事、育児、介護の支障がでるから」が17.6%となっている。男性は「仕事に支障がでるから」が36.5%と最も

多く、次いで「役職につく知識や経験がないから」が34.1%となっている。

特に女性の場合は、今まで地域の役職やまちの審議会に参加する機会が少なかったこと、また、引き受ける条件が整っていないこと（周りの人の協力、家庭内での協力、職場での条件整備がない）によって、自信がない・責任が重いという意識や、依頼を受けた場合の本人に過重な負担がかかってくることから、引き受けられないと判断していると思われる。

地域での協力体制づくり（仕事内容を明確化して必ず引継ぎ事務を行うなど）、家庭内での協力（家事を家族で分担する等）、職場での条件整備を現実に行わないと役職に就く人は限られてくる。その結果、同じ人が毎度も選ばれるという弊害も生じている。

問5 災害時の避難所運営について必要だと思うこと

「プライバシーや安全の確保」が男女ともに多い。この件については、避難所で家族ごとの仕切りを作る、入り口にはできればカーテンを付けるなど工夫が必要であると思われる。次に「それぞれの必要に応じた物資の供給」の割合は、女性65.3%・男性73.3%を占めている。避難所に来た方のニーズを記録する係を置く（避難が数日、あるいは長期にわたる場合には、定期的に個別のニーズを聞き、記録する）などの措置が必要である。そのため避難者からも活動できる人を出してもらうなどの工夫が必要であると思われる。阪神・淡路大震災の時は、避難所に避難した人たち自身で食事の配布の世話など避難所生活に必要なことを行ったという所もあった。

東日本大震災のときやウクライナ避難民の支援の際には、生理用品の不足などが言われた。また、見た目で生理用品と分からないように入れ物を工夫するなど、災害時のニーズの違い等男女双方の視点を持った配慮をする必要がある。

問6 自分の性によって、負担感や生きづらさを感じる時

全体では「仕事と家事・育児・介護を両立する負担が大きい」（36.5%）・『男だから、女だから』『男のくせに、女のくせに』と言われる」（21.1%）・「仕事の責任が大きい、仕事できて当たり前と言われる」（21.1%）が主な回答である。また、「負担感や生きづらさを感じたことはない」は男女ともに20%程度いるが、約80%は何らかの生きづらさを感じていることになる。

これは、「男性」「女性」「女性・男性にあてはまらない」を含め、社会的意識として未だこうあるべきだというものが残っているからである。「自分のやりたい仕事が自由に選べない」「家事や育児ができて当たり前」も、男女ともに生きづらい社会が形成され、それがなかなか変わらないという面からきている。「何がこうあるべきなのか」「何が当たり前なのか」について啓発を通して考え、生活のなかで変えていかなければならないと思う。

性別に基づく無意識の「決めつけ」は、女性だけでなく男性に対しても起きている。また、私たちが何を「当たり前」だと思って暮らしているのか次第で、問題や格差は見えたり見えなかったりする。「知る」ことから始め、周りの人と話をするこゝで考えを深め、他者を個人として尊重しているかどうか、自らに問うことが大切だと思う。

2章 ワーク・ライフ・バランスについて

問7 女性が職業をもつことについての考え方

全体的に「結婚や出産にかかわらず、ずっと職業を続ける方がよいという」の割合は50.9%（女性53.0%・男性47.4%）と高い数値を占めている。しかし、「子どもができたなら職業を辞め、大きくなったらフルタイム又はパートタイムの職業をもつ方がよい」は、女性22.8%・男性13.3%とどちらにも一定の割合があることも無視できない。

さらに「性別」と「共働きの有無別」で見たところ、「女性」で「共働きである」場合は「結婚や出産にかかわらず、ずっと職業を続ける方がよい」が55.7%、「子どもができたなら職業を辞め、大きくなったらフルタイム又はパートタイムの職業をもつ方がよい」が21.3%であり、「男性」で「共働きである」場合は「結婚や出産にかかわらず、ずっと職業を続ける方がよい」が44.7%、「子どもができたなら職業を辞め、大きくなったらフルタイム又はパートタイムの職業をもつ方がよい」が13.2%である。

「結婚や出産にかかわらず、ずっと職業を続ける方がよい」について、性別で比較した場合、「共働きの有無別」を含まない場合の男女差は5.6ポイント（女性53.0%・男性47.4%）であるが、「共働きである」場合を含むと男女差が11ポイント（女性55.7%・男性44.7%）と大きくなる。さらに、「子どもができたなら職業を辞め、大きくなったらフルタイム又はパートタイムの職業をもつ方がよい」では、「共働きの有無別」に関わらず女性のほうが約10ポイント高くなっている。これは、女性が「仕事」と「子育て」に負担がかかり、仕事を継続していく困難さを感じていることを表しているのではないかと思う。

女性が結婚・出産にかかわらず、ずっと職業を続けるほう良いと考えている人は多いが、女性が「一時職場を離れ、その後戻る」というM字型曲線の傾向もあり、「子育ては、女性に」という意識はまだ残っていると思われる。

「性別役割分担意識（男は仕事、女は家庭）」に否定的意見の町民は、「結婚や出産にかかわらず、ずっと職業を続ける方がよい」が60%近くあり、肯定的意見の町民は約20%~30%となっている。これは「女性が職業をもつこと」と「性別役割分担意識」とは関連があることを表しているのではないかと思う。

仕事と家庭の両立ができる環境・制度の整備・意識改革がおこなわれなければ、現実では女性に負担がかかり、男女共同参画が目指す社会を実感できない状況が続くのではないかと思われる。

問8 男性が育児休暇・介護休暇を取得することについての考え方

全体では「男性も取得すべきだと思う」は78.7%（「男性も取得すべきだと思う」と「どちらかといえば男性も取得すべきだと思う」の合計）で、女性80.2%・男性76.3%と割合は高くその点は評価できるが、現実にはそれを実現していく道筋がなければ実態は変わらない。まず、育児休暇・介護休暇を取りやすい職場体制に変えていくことである。例えば、仕事の分担の明確化（小さい部署だと、節目ごとに分担していくこと）など具体的に考えていく必要がある。

本調査では、「取得が難しい理由」についての設問がないため詳しい分析はできないが、内閣府の調査によると、「職場に迷惑をかけたくない」「職場が男性の育児休暇取得を認めない雰囲気」「収入の減少」「周囲からの評価に影響」「妻が育児休暇取得で必要ない」などが挙げられている。

本来、育児休暇・介護休暇の取得は労働者の権利として法律で認められていることである。休暇

を取る人に対して「休まれると迷惑」などというマイナスイメージが生じないように、男性の育児休暇や介護休暇を必要としている家庭が「取得したいが、できない」から「取得したいから、行使する」へ、そして「取得することが特別なことではない」職場にするため、管理する立場にある人がまず周知徹底することとともに、育児・介護休暇中の経済的支援など制度の充実や意識改革をすすめなければならないと思う。

問9 家庭内の役割分担（理想・現実）

問9は、属性を「未婚」と「既婚（事実婚を含む）、以前結婚していた」の2つに分け、「未婚」は「理想」のみ、「既婚（事実婚を含む）」「以前結婚していた」は「理想と現実」を回答している。

「未婚」は、女性男性ともにすべての項目で「共同で行う（夫と妻）」の割合が高く、次いで「家族全員で行う」になっているが、食事のしたくのみが男女ともに「主に妻が行う」が2番目に高い割合を示している。

「既婚（事実婚を含む）」「以前結婚していた」では、「理想」が「共同で行う（夫と妻）」の割合が高く、次に「家族全員で行う」と「未婚」と一致している。

「現実」は、「以前結婚していた」（全体20%、268人中55人）が自分の性の選択肢を選ぶことを考慮しても、全体として、「主に妻が行う」が高い割合を占めている。

「子育て」に関しては「共同で行う（夫と妻）」が、女性では26.8%、男性では37.5%となっているが、「食事の片づけ、食器洗い」「掃除」では、「共同で行う（夫と妻）」で女性と男性とでは感じ方に差が出ている。これは家事を「手伝っている」か「シェアしている」かの違いから生まれているのではないかと思われる。

「性別」と「年齢層別」との関係で「子育て」と「看護・介護」をみると、「子育て」では、30歳代～50歳代女性は、「主に妻が行う」が50%～60%代と高い数値になっているが、30歳代・40歳代男性（全体数は少ないが）は、「共同で行う（夫と妻）」が50%台を占め、若い年代層で「共同して子育てをする」意識が徐々にではあるが育ってきているのではないかと思われる。

「看護・介護」は、50歳代・60歳代女性で「主に妻が行う」の割合は50%～60%代で、同世代の男性は「共同で行う（夫と妻）」が20%～30%代である。

知識（理想）としては理解しているが、自分のこと（現実）としてはまだ、女性に負担がかかっているのが現状である。

第3章 人権について

問10 DV（ドメスティックバイオレンス）を受けた経験

「受けたことがある」女性は19.8%・男性は5.2%である。また、「受けたことがある」女性は各年齢層にわたっている。「性別」と「配偶関係別」の関係でみると、「以前結婚していた」女性は40.0%・男性は26.7%と割合は高く、離婚の原因のひとつではないかと思われる。

問11 DVを受けたときの対処の仕方

女性では「相談しなかった家族、親戚に相談した」「友人・知人に相談した」が主な回答になっている。DVを受けた経験がある男性も少人数ではあるが存在しているが、男女ともに身近な人に相談するよりは誰にも「相談しなかった」ほうが多く、自分で抱え込んでいる現状がある。

問12 DVを受けたとき相談しなかった理由

「相談しても無駄だと思った」が男女ともに最も多く、無力感を感じているのではないかと思われる。その他、全体として「相談するほどではないと思った」「自分さえ我慢すれば何とかやっていけるといった」「人に知られたくなかった」「相談したことがわかると仕返しをされると思った」などがあがっている。

特に注意しなければいけないことは、「どこに相談したらよいかわからなかった」が全体で8%と数値としては小さいが、男女ともに存在している。DVは命に関わる緊急性のあることが多いため、「相談したい」と思ったらどうすればいいのか、今まで行っている広報活動や小単位での講座などでの「伝える」啓発も大切にしながら、被害を受けている人に確実に「伝わる」手立てを考える必要があると思う。

問13 男女共同参画に関連することばの認知度

全体で「知らない」が50%以上を占めるのは、「デートDV」と「福岡県パートナーシップ宣誓制度」である。「デートDV」について、それぞれの選択項目別に見ると、女性と男性とでは約10%~15%の格差があり、問10の結果よりDV被害者は女性のほうが多いため、当事者としての意識の違いから生じている格差であると思われる。

「福岡県パートナーシップ宣誓制度」は、2022（令和4）年に開始された制度のためまだ認知度は低いが、啓発を行うときは言葉の認知度を上げるのではなく、まず当事者の気持ちに耳を傾け、当事者の思いを受け止めた啓発を行うことが大切である。

「内容まで知っている」は、「男女共同参画社会」が全体で19.0%（女性18.3%・男性20.0%）、「ワーク・ライフ・バランス」が全体で12.9%（女性15.8%・男性8.9%）、「性的少数者（LGBTなど）」は全体で36.5%（女性40.1%・男性31.9%）である。

「男女共同参画社会」は、特に1999（平成11）年に「男女共同参画社会基本法」が施行された当時30歳代~50歳代であった、現在の50歳代~70歳以上の認知度は男女ともに高い。これは職場研修との関係があるのではないかと思われる。

「ワーク・ライフ・バランス」の認知度は、女性の20歳・30歳代が高く、「仕事」と「家事・育児」との関係より身近に感じている結果ではないかと思われる。

「性的少数者（LGBTなど）」の認知度は高く、これは、マスコミがかなり影響しているように思わ

れる。しかし、当事者はすぐ近くにいる可能性はあるのだが、身近な問題にはなりにくいという現実があるため、パートナーシップ宣誓制度とともに啓発を進める必要がある。

問 14 男女共同参画社会を実現させるために、今後、行政が力を入れるべきと思うこと

全体として「全ての人々が気軽に相談できる場をつくる」ことが最も多く、次が「男女平等の視点から、教育や学習をすすめること」となっている。

これらの意見を真摯に受け止め、各業務でなにができるのかを具体的に話し合い、取組を進めていくことが必要とされている。

自由意見の中に次のような内容の記載があった。

※我が家は家の事は嫁がやるって意識は変わらないので、子供には男女関係なく何でも出来るようになってほしいし、どんな人がいても同じ目線でいてほしいから教育の場でもどんどん周知していくべきと思います。(30歳代女性)

男女共同参画社会とは、男女共同参画社会基本法第二条に、「男女が、社会の対等な構成員として、自らの意志によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、もって男女が均等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を享受することができ、かつ、共に責任を担うべき社会」と明記されている。「糸田町男女共同参画に関する町民意識調査」の結果はこの法律と照らし合わせてどうであったのか、それぞれ一人ひとりが自分の答えを出す必要があると思う。

私たちが子どもたちに、次世代に引き継ぐ社会とはどんな社会なのか、それは現代の大人たちに委ねられているということの重要性を感じ、「今、ここで、自分事」として考え、日常生活の何気ないことから行動し始めることが第1歩であり、そして、それが将来への大きな1歩へとつながるのではないかと思う。

資料

◆あなたご自身についてお聞きします

ア. あなたが自認する性別を教えてください。(〇は1つ)

1 女性	2 男性	3 女性・男性にあてはまらない
------	------	-----------------

イ. あなたの年齢はおいくつですか。(〇は1つ)

1 20歳代	2 30歳代	3 40歳代
4 50歳代	5 60歳代	6 70歳以上

ウ. あなたは結婚(事実婚を含む)をされていますか。(〇は1つ)

1 未婚	2 既婚(事実婚含む)	3 以前結婚していた
------	-------------	------------

< ウで「2 既婚(事実婚含む)」を回答した方のみ回答 >

エ. あなたは共働きですか。(パート・アルバイトを含む)(〇は1つ)

1 共働きである	2 共働きでない
----------	----------

オ. あなたにはお子さんがいらっしゃいますか。(別居を含む)(〇は1つ)

1 いる	2 いない
------	-------

◆男女平等に関する考え方や男女共同参画についてお聞きします。

問1 次の分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。

(1つの項目につき、〇は1つ)

	男性が優遇 されている	どちらかといえば 男性が優遇されて いる	平等である	どちらかといえば 女性が優遇されて いる	女性が優遇 されている	わからない
(1)家庭生活では	1	2	3	4	5	6
(2)職場の中では	1	2	3	4	5	6
(3)政治の場では	1	2	3	4	5	6
(4)学校教育の場では	1	2	3	4	5	6
(5)社会通念・慣習 しきたりなどでは	1	2	3	4	5	6
(6)地域活動の場では (PTA や町内会等)	1	2	3	4	5	6

問2 「男は仕事、女は家庭」という考え方について、あなたはどのように思いますか。
(○は1つ)

- | | |
|------------------|----------------|
| 1 そう思う | 2 どちらかといえばそう思う |
| 3 どちらかといえばそう思わない | 4 そう思わない |

問3 自治会(区長・組長)、PTA 会長など地域の役職や、まちの審議会や委員会の委員について、あなたが就任を依頼されたら引き受けますか。(○は1つ)

- | |
|-------------|
| 1 引き受ける |
| 2 なるべく引き受ける |
| 3 なるべく断る |
| 4 断る |

< 問3で「3 なるべく断る」「4 断る」を回答した方のみ回答 >

問4 その理由は何ですか。(○は1つ)

- | |
|------------------------------|
| 1 家族の協力・理解が得られないから |
| 2 女性が役職につくことを快く思わない社会通念があるから |
| 3 家事や育児、介護に支障がでるから |
| 4 仕事に支障がでるから |
| 5 役職につく知識や経験がないから |
| 6 周りの見る目が気になるから |
| 7 その他(具体的に) |

問5 地域の防災についてお聞きします。災害時の避難所運営について、あなたはどのようなことが必要だと思えますか。(○はいくつでも)

- | |
|--------------------|
| 1 プライバシーや安全の確保 |
| 2 それぞれの必要に応じた物資の供給 |
| 3 避難所の防犯対策 |
| 4 その他(具体的に) |

問6 あなたの性によって、負担感や生きづらさを感じるとしたらそれはどんなときですか。
(〇はいくつでも)

- 1 「男だから、女だから」「男のくせに、女のくせに」と言われる
- 2 自分のやりたい仕事を自由に選べないことがある
- 3 仕事と家事・育児・介護を両立する負担が大きい
- 4 仕事の責任が大きい、仕事ができても当たり前と言われる
- 5 責任のある仕事を任せてもらえない、決定権のある役職につけない
- 6 家事や育児ができても当たり前と言われる
- 7 負担感や生きづらさを感じたことはない
- 8 その他（具体的に)

家庭、仕事についてお聞きします

問7 一般的に女性が職業をもつことについて、あなたの考えに最も近いものはどれですか。
(〇は1つ)

- 1 女性は職業をもたない方が良い
- 2 結婚するまでは職業をもつ方が良い
- 3 子どもができるまでは、職業をもつ方が良い
- 4 子どもができたら職業を辞め、大きくなったらフルタイム又はパートタイムの職業をもつ方が良い
- 5 結婚や出産にかかわらず、ずっと職業を続ける方が良い
- 6 わからない
- 7 その他（具体的に)

問8 男性が育児休暇・介護休暇を取得することについて、あなたの考えを教えてください。
(〇は1つ)

- 1 男性も取得するべきだと思う
- 2 どちらかといえば男性も取得するべきだと思う
- 3 どちらかといえば男性は取得するべきではないと思う
- 4 男性は取得するべきではないと思う
- 5 わからない
- 6 その他（具体的に)

問9 家庭での仕事について、理想と現実を教えてください。

(1つの項目につき、○は1つ)

1ページ目で、「1 未婚」を選択した方は理想のみ回答

1ページ目で、「2 既婚(事実婚含む)」、「3 以前結婚していた」を選択した方は理想と現実を回答

理想	理想					
	主に夫が行う	主に妻が行う	共同で行う (夫と妻)	家族全員で行う	その他	わからない
(1) 食事のしたく	1	2	3	4	5	6
(2) 食事の片づけ、食器洗い	1	2	3	4	5	6
(3) 掃除	1	2	3	4	5	6
(4) 洗濯	1	2	3	4	5	6
(5) 子育て	1	2	3	4	5	6
(6) 看護・介護	1	2	3	4	5	6
(7) 家計の管理	1	2	3	4	5	6

現実	現実					
	主に夫が行っている	主に妻が行っている	共同で行っている (夫と妻)	家族全員で行っている	その他	わからない
(1) 食事のしたく	1	2	3	4	5	6
(2) 食事の片づけ、食器洗い	1	2	3	4	5	6
(3) 掃除	1	2	3	4	5	6
(4) 洗濯	1	2	3	4	5	6
(5) 子育て	1	2	3	4	5	6
(6) 看護・介護	1	2	3	4	5	6
(7) 家計の管理	1	2	3	4	5	6

人権についてお聞きします

問10 あなたはDV（ドメスティックバイオレンス）を受けたことはありますか。

（○は1つ）

※DVとは、配偶者や恋人など親密な関係にある（あった）者から振るわれる暴力のこと

- | | |
|------------|------------|
| 1 受けたことがある | 2 受けたことがない |
|------------|------------|

< 問10で「1 受けたことがある」と回答した方のみ回答 >

問11 DVを受けた後、誰かに相談しましたか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

- | | |
|------------------------|----------------|
| 1 家族、親戚に相談した | 2 友人、知人に相談した |
| 3 警察に相談した | 4 市町村など行政に相談した |
| 5 人権擁護委員、法務局、民生委員に相談した | |
| 6 弁護士に相談した | |
| 7 医師、看護師、カウンセラーに相談した | |
| 8 相談しなかった | |
| 9 その他（具体的に _____） | |

< 問11で「8 相談しなかった」と回答した方のみ回答 >

問12 相談しなかった理由は何ですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

- | |
|--------------------------|
| 1 どこに相談したらよいかわからなかった |
| 2 人に知られたくなかった |
| 3 相談しても無駄だと思った |
| 4 相談したことがわかると仕返しをされると思った |
| 5 自分さえ我慢すれば何とかやっていけると思った |
| 6 世間体が悪いと思った |
| 7 他人を巻き込みたくなかった |
| 8 自分にも悪いところがあると思った |
| 9 相談するほどではないと思った |
| 10 その他（具体的に _____） |

問13 次の単語の認知状況について教えてください。(○は1つ)

	知っている	内容まで 見聞きした ことはある	知らない
(1) 男女共同参画社会	1	2	3
(2) デートDV	1	2	3
(3) ワーク・ライフ・バランス	1	2	3
(4) 性的少数者 (LGBT など)	1	2	3
(5) 福岡県パートナーシップ宣誓制度	1	2	3

問14 糸田町が男女共同参画社会を実現するために、今後、行政は何に力を入れるべきだと思いますか。(複数選択○)

- 1 慣習の見直し、広報や啓発を進めること
- 2 男女平等の視点から、教育や学習を進めること
- 3 全ての人気が気軽に相談できる場をつくること
- 4 その他(具体的に)

問15 男女共同参画に関して、最近気になるニュースや新聞などについて教えてください。その他、ご意見・ご要望がありましたら自由にお書きください。

アンケートへのご協力、ありがとうございました。

ご記入いただいた調査票は、9月22日(金)までに同封の返信用封筒に入れてご返送ください。(切手不要)



**男女共同参画に関する町民意識調査
結果報告書**

令和6年3月 発行
編集・発行者 糸田町 人権推進課
〒822-1392
福岡県田川郡糸田町1975番地1
TEL: 0947-26-1231(代表)
FAX: 0947-26-1651